

教養・文化論集

第5巻 第1号 (通巻第8号)

講演

テレビドラマに見る生病老死

小説『エイジハラメント』を題材に内 館 牧 子

映画よもやま話岡 田 裕 介

2009年の政局展望と壊れてゆく日本福 岡 政 行

地方自治と現場力.....福 岡 政 行

論文

日本の平和構築と開発援助努力

国際権力政治の観点から阿 曾 村 邦 昭

利根川下流氾濫原における植物相と保全上重要な維管束植物の分布

.....村 中 孝 司

『春日清祓記』の基礎的考察渡 邊 俊

2010年1月

ノースアジア大学総合研究センター教養・文化研究所

目 次

講 演

テレビドラマに見る生病老死

- 小説『エイジハラメント』を題材に 内 館 牧 子 (1)
- 映画よもやま話 岡 田 裕 介 (19)
- 2009年の政局展望と壊れてゆく日本 福 岡 政 行 (33)
- 地方自治と現場力 福 岡 政 行 (51)

論 文

日本の平和構築と開発援助努力

- 国際権力政治の観点から 阿 曾 村 邦 昭 (69)
- 利根川下流氾濫原における植物相と保全上重要な維管束植物の分布
..... 村 中 孝 司 (97)
- 『春日清祓記』の基礎的考察 渡 邊 俊 (111)

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「テレビドラマに見る生老病死」 小説『エイジハラメント』を題材に

講師	脚本家・ノースアジア大学総合研究センター客員教授	内館 牧子
司会	ノースアジア大学経済学部長 本学総合研究センター長	藤本 剛
日時	平成20年10月1日 午後1時～2時30分	
会場	ノースアジア大学 40周年記念館 271番教場	

藤本 皆様、こんにちは。今年度、後期公開講座の初日ということでございまして、本日は当センター客員教授の内館牧子先生よりご講演をいただきます。内館先生は申し上げるまでもなく、著名な脚本家でいらっしゃるしまして、また大相撲横綱審議委員会、あるいは東京都教育委員会等でもご活躍されていることは、皆様ご存知のことだと思います。

今年度、内館先生には前期4月と7月に「エッセイの書き方」というテーマで2度ご講演いただいております。当センターが企画いたしました「第1回ノースアジア大学文学賞」の後押しと申しますか、全面的にバックアップをしていただきました。この文学賞につきましては、200編を超える応募をいただきまして、内館先生にはその選考審査をお願いしております。

本日のご講演テーマは、ここにございます「テレビドラマに見る生病死 小説『エイジハラメント』を題材に」となっております。昨年10月に「男と女の生病死 テレビドラマに見る生き方、死に方」と題して、先生がお書きになったテレビドラマ『白虎隊』のお話を伺ったことが思い出されます。本日は加齢という視点から、男の生き様、女の生き様について鋭い切り口でお話をいただきます。それでは、内館先生よろしくお願いたします。

内館 内館でございます。たくさんお集まりいただきまして、ありがとうございます。ノースアジア大学文学賞の選考会があって、昨日、秋田に来ました。それで、秋田駅でも、どこでも、色々な人が声を掛けて下さるんですが、「内館さん、相撲が大変な時に、秋田にいていいんですか」と言われるんです。本当にどこに行っても「相撲、大変ですね」「相撲いいんですか」って声を掛けられるので、私も困っちゃいました。今、脚本家というよりは、横綱審議委員の方ばかりになっているんですけども、本職は脚本家です。ちゃんと『エイジハラメント』という小説も出したのですが、それよりも、今は「若ノ鵬どうなっちゃうんでしょうか」そっちなんですね。

相撲界は確かに大きく揺れています。ただ、今度、新しい理事長になった三重ノ海さん（武蔵川親方）ですけども、非常に怖い方なんです。ものすごい怖い方なので、今までのように楽なやり方は出来ないと思います。北の湖さんは、温かい人でした。ビシッとやるよりは、人の気持ちを押し量って温かく包むタイプで、週刊誌に書かれているように決断力がないとか、そうではないんです。ただ、物事の接し方が北の湖さんと武蔵川さんでは違うということで、今度はかなり怖いと思います。朝青龍が2場所連続で休みまして、左の肘が悪いということなんです。稽古不足がかなり大きく影響していることは事実です。それで、朝青龍は肘を日本で通院しながら治し、花相撲の土俵入りは「やる」と言っているんです。前は、ちょっと怪我をするとすぐにモンゴルに帰って、土俵入りも全部やらなかったんです。だから、さっそく武蔵川効果が出てきたのかなと私は思っているのです。

ところで、今日は相撲の話ではなくて、たいへん恐ろしいテーマなのですが「エイジハラメント」という話です。これは、この夏に私が書き下ろしで出しました小説のタイトルですけども、こういう言葉は現実には、まだ世の中では使われていないんです。「セクシャルハラメント」という言葉は、十分に使われています。それから、「ドクターハラメント」という言葉もあります。これは、ドクターが優位な立場から患者さんに対する嫌がらせ、暴力的な言葉を吐くということです。また、「パワーハラメント」という言葉もあります。これは上位にいる、会社だったら社長とか上位の人が、下位のポジションにいる人間に対して行う嫌がらせ、暴力的な言葉というハラメントです。それを考えたときにエイジ、つまり年齢による

嫌がらせが日本社会では横行しているんじゃないか、ということで書き下ろしたのがこの小説なんです。400字詰め原稿用紙で大体350枚書きました。

小説にしたいと思った、最初のきっかけは、パリに住んでいる友達が日本に帰ってきて、私と一緒に食事をした時のことです。彼女は58歳で、フランス人と結婚しているんです。20歳の時にパリに渡ってそのままパリ暮らしで、何かあったときには、日本語よりもフランス語が出てくるくらい向こうに馴染んでいる人なんです。その彼女が私に「私は本当にパリに引っ越しして良かった」と言うんです。「どうして」と聞くと、「日本は大好きだし、こんなにいい国はないと思っている。ただし、1点だけいけないことは、女の人を年齢で判断することだ。これは圧倒的にいけないことだ」と答えた。また、彼女が知っている24歳の女の子が、彼女を訪ねてパリに遊びに行った時に「ああ、私はここにいると本当に楽だ」と言ったそうなんです。「どうして」と彼女が聞いたならば、「日本に帰ると、ほら、私も年じゃない」と言ったそうです。彼女は58歳で、その女の子は24歳ですよ。彼女が「何が年なんだ」と怒ったら、「いや、日本だと24(歳)くらいになってくると、18(歳)の子に負けるじゃない」と言ったそうです。18歳のガキと何の勝負をするんだと彼女は思ったらしいんですけれど、その24歳の女の子はいたって真剣であったというんです。それで、その話を私にしたわけです。本当に向こうに行つて良かった、実に楽だと。「日本は全てにおいて素晴らしく、いい国だけと、その1点がいけないね」というわけなんです。「24歳の子が年って言っちゃあ、文化っていうのはどうなっているんだ」と言って、日本人のくせにすごく怒るんです。

その時、私が言ったんですけれども、もっとすごい話があると。ある時、NHKで、打ち合わせがあった時に局のお手洗いに入ったら、洗面台のところに制服を着た女の子が2人いたんですね。高校1年生か2年生か、ともかく高校生という感じの制服姿でしたけれども、その2人が話をしているんです。「うちら年だからさ、役つかないよね」と言っているんです。びっくりして、チラッと見たら、どう見ても16、17歳なんです。「しょうがないよ。だってさあ、若い子どんどん出てくるからさ」と答えている。若い子って、どのくらいの年なんだろうと考えたら、12、13歳なんです。12、13歳の子に役を取られて、もう役が来ないから「しょうがないよね。結婚するっきゃないよね」と。結婚するっきゃないって16、17歳で言うんじゃないと思いますけど、現実にはそういう話があったんです。それが私の気持ちの中はかなり残っていたんです。物を書くときは、何か1つだけきっかけがあればいいんです。日本という国では女は若くなければ価値がないんだなという、このきっかけが1つあって、そのきっかけを心の中に留めておいて、それを転がしながらあたためていくわけですね。そうすると色々な物が目についてきます。

「オバサン」という言葉があります。これは、隣のオバサンとかそういうことではないんです。オバサンって、カタカナで書くことが多いんですが、この呼び方に女の人が異常なまでに敏感に反応する。そして、男の人は異常なまでに無神経にその言葉を使う。このことに気が付きました。例えば、お友達と2人で洋服を買いに行つて、私が「これ、どう？」って見せたとすると、友達が「きれいな色だけど、何かオバサンっぽい」と、パーンと言い捨てる。そう言われたら、絶対にこれは買わないと思います。また、ものすごく仕事が出来ている人で、バリバリの有能な女性上司の噂を聞いたとする。その人のことを知らなくて、「今度来る女の上司ってすごいらしいけど、どんな人」って聞いたとする。すると、「仕事は出来るし、英語はペラペラよ。酒は強い、カラオケは上手い。でも、見た目オバサン」それだけで「あっ、恐れ

るに足らずだわ。どうでもいいや、オバサンなんて」

もう1つ、例えば不倫をしているとします。彼女は不倫相手の男の人と結婚したくて、一生懸命になっていたとする。当然、彼女は奥さんのことが気になるわけです。「奥さんって、どんな人」って、誰かに聞いてみたとする。「うーん、なんつうかオバサン」と言われると、「何だ、それかア」となる。それなら、いよいよ、その夫を奪えるぞと思うかというところ、女心は不思議でそっちにはいかないんです。「あっ、そういうオバサンを選んだ男なんだ。冷めちゃった」となる。だから、この中で不倫をしている男の方がいたら、奥さんは見せない方がいいですよ。冷めちゃいますので。結局、「そんなオバサンと毎日ご飯を食べたり、法事に行ったり並んだり、結婚式で仲人したりしているんだ。へえ、それを良しとしている程度の美意識の男か」となるわけです。ところが、奥さんが岸恵子さんみたいだったと言われると「え……。ショック」となって、ますますこだわりたいところが出てくる。それ程までにオバサンという呼び方は、女の人達が大きく根に持つ言葉であるということです。

それから、男の人はオバサンと呼ぶことに悪気がないんです。割と簡単に、無防備に使うんです。「あっ、ちょっと、ちょっと、そこのオバサン」「そこのお母さん」とか、お魚屋さんが「お母さん、サンマ安いよ」とか言うわけです、でも、お母さんとかオバサンと言うのは非常に失礼な話で、女の人には過剰に反応するんですけど、男の人は悪気がないことが多い。だから、女の人の方が怒ると「えっ、何で怒っているの」と、その理由が分からない。

今、日本の女の人には年齢に関係なく、絶対にきれいでいようということを考えています。夫にきれいにさせるよりかは、むしろ不特定多数に見せるためにきれいでいようとする。特に、女友達にやせたねとか、すごくきれいになったと言われると、夫に言われるよりも100倍くらい嬉しいわけです。というのは、女の人の方がシビアですから。このように、女の人の方がきれいになろうとしている状態であるのに、オバサンとかお母さんと言われるのは傷つきますし、悪気がないでは済まなくなっているんです。

それで、またしばらくこのテーマをあたためていましたら、あることに気が付いたんです。それは、小説『エイジハラメント』の中でも書きましたけれども、私の59歳のお友達が西麻布のなかなか予約の取れない、とても有名なレストランに行ったそうです。それで、そこはコースで出てきて、最後の食事はカレーライスとオムライスとパスタと、3種類の中から選べて、彼女はすぐにオムライスを頼んだそうです。そして、オーナーが注文を取りに来た時に「やっぱり、オムライスが、一番人気があるんじゃないですか」って聞いたらしいんです。そうしたら、そのオーナーが真面目に「はい。お宅様のようなご年配の方には、非常に人気があります」と答えた。それで彼女は頭に来た。私に電話が掛かってきて「冗談じゃないわよ。何がご年配よ。あんな奴に言われる筋合いはない。あんな、あのお店に行っちゃ駄目よ」と言うんです。でも、考えてみたら、ご年配というのはいくつから言うのが分かりませんし、悪意のない言葉でしょうが、やはり言わない方がいいでしょうね。

今日、後ろの席に若い方がおりますけれども、そういった人達はいいいんですが、年齢と共にオバサン、お母さん、ご年配になり、その上にご高齢というのがあります。そこで気が付いたことですが、世の中の人達は「ご」さえ付けばいいと思っているふしがある。だから「どうぞ、ご高齢の方はお先に」とか言うんです。でも、「ご」さえ付けばいいというものじゃなくて、そもそも、人に向かってご高齢だの、ご年配だのと言うことが失礼なんです。何が失礼なのかということを考えてみますと、まず、本人にはオバサンという意識がない。ちゃんと磨

いているし、三段腹にならないように努力しているし、メイクもしている。私はオバサンじゃない、オバサンになりたくないって一生懸命努力をしている。でも、勝手にオバサンって言われてしまう。それから、階段だってどんどん昇り降り出来るし、電車だって1人で乗って、色々なところに行けるのにご年配と言われ、ご高齢って言われてしまう。かつては老女とさえ言ったんです。

今、ふっと思い出したんですが、私が横綱審議委員になったのは51歳の時でした。私が横綱審議委員になった時より40年くらい前に、横綱審議委員ではないんですけども、協会の揉め事を常にまとめてくれる待合いの女将がいたんです。その人は52歳だったそうです。その待合いの女将が、女性で初めて「木戸御免」というのを貰ったんです。木戸御免というのはフリーパスです。チケットが無くても入れるんです。相撲協会では、その待合いの女将が面倒なことを全部やってくれたので木戸御免を差上げた。そうしたら、それが大々的に新聞に載ったんです。私が、東北大学の修士論文で相撲のことを書いた時に、当時の新聞を取り寄せて見てみたら、木村富枝さんという女将さんなんですが、「富枝婆さん、木戸御免」とあった。これ、見出しですよ。びっくりしました。もしも「牧子ばあさん、横審」と書かれたら、ただじゃおかないと思ったんですが、さすがに今の時代、それはなかったですね。

40年前は52歳の人に対して、堂々と「富枝婆さん」という見出しが付くような時代だったんです。それに比べればだいぶ良くなりましたけれども、「お母さん」「オバサン」「ご年配」「ご高齢」は今も生きている。先ほども申し上げた通り、本人に意識がないのに年齢によって、勝手に周囲が女の立ち位置を決めちゃうんですね。これも事実の話なんですけど、25歳で本人は全然若いし、もう生き生きとやっているにもかかわらず、会社の飲み会なんかで、会社の男の人がこっそり耳打ちしたそうです。「もうさあ、オバサンなんだからさあ、そのミニ苦しいよ」って。そうやって、勝手に周囲が立ち位置を決めちゃうんです。これは女の側としては非常に腹が立つ。男の側に悪気がないにしても、やっぱり、これは大きな嫌がらせである。ということは、ハラメントだろうということで、年齢によるハラメント（エイジハラメント）というテーマを取りあげたわけなんです。

今まで女の人の例ばかりを挙げてきましたけれども、では、男の人はどうなのか。色々と探してみたんですけども、男の人はまだマシな目に遭っているんです。女の人が「オバサン」って呼ばれるよりかは、男の人が「オジサン」「オヤジ」って言われても、それほど嫌な印象は受けていない。それは、男の人は年を取るごとに魅力が出てくるということ、一般的に思われているわけなんです。実は、全然出ていない人も多いんですけども、やっぱり、男は加齢と共に魅力が出ると思う社会通念があって、それは「ナイスミドル」なんていう言葉にも表わされています。ナイスミドルという言葉は、男の人にしか当てはまらないですよ。例えば、20歳の大学生と45歳のナイスミドルが戦ったときに、20歳の学生が勝つとは一概に言えないというのが男の社会にはある。これが20歳と45歳での女同士であったとすると、45歳はよっぽど気合いを入れないと勝てないかもしれないという社会通念。

(板書して説明) 男の場合は、ナイスミドルという言葉はずっと前からありましたが、それに加えて最近「チョイ不良」というのが出てきました。これは「チョイワル」と読むんですが、若い男には使わない言葉で、中年専用です。何かイタリア風のファッションをしたり、ちょっとキザっぽく女を落とすための手練手管をマスターしていたりする。中年男で、軽いといえど軽いですけどこの言葉はほめ言葉です。さらに、もっと上の年代を褒める言葉が出てきたん

です。ご存知ですか「枯れ専」これ「カレセン」と読むんです。つまり、枯れた男の人を専門に好きということだそうです。今の若い子達にいます。枯れ専という言葉にいささかの揶揄はあるにせよ、マスコミは男の加齢をプラスとして伝えています。つまり、髪の毛が無からうが、白髪であろうが、贅肉がいっぱい付いていようが、脂ぎらないで美しくちょっと枯れてきた雰囲気の人の方がもて現実もあるわけです。それも若い女の人にもてている。

私が小説を書く上で枯れ専の話は入っていないんですが、若い女子大生や高校生の女の子達に聞いてみたんです。「あなた達、枯れ専の趣味ある？」と聞いてみたら「結構好き」とか言うんです。それで「どういうのが枯れ専なの」と聞いてみたら、1人がとても分かりやすい答えだったんです。「私は小泉孝太郎より小泉純一郎が好き」「ああ、なるほど。あっちが枯れ専か。何か、ちょっといやらしさも残しているし」ということなんですね。他にどういう人が枯れ専かと聞いたら「藤村俊二さん」「児玉清さん」と返ってきた。「なんかハンサムばかりね」と言ったんですけれども、上手に枯れてくる男の人は、若い男にはない良さがある。ということで、ついには、男の人には枯れ専という言葉が出てきてしまった。枯れた人が専門に好きな女の人。それで、私のことはその高校生の子達が「内館さんは枯れ専じゃないよね」と言うから、「私、枯れた男の人って、今まで本気で見てなかったな」と言ったら、「内館さんは、デブ専だよな」って。デブ専という言葉もあるんだそうです。私は決してデブ専ではなくて、お相撲さんって、ああ見えても体脂肪率は結構低いんです。6%とか、7%とか。単なる、そこら辺のデブと一緒にされちゃあ困るんですけれども、私はとにかく「デカ専」です。大きい人、ドーンとぶつかっても土俵の外に飛び出ないような男の人を好きは好きですけども、滅多には会えないですね。ともかく、今の世の中では、男の人はかなりいい目に遭っている。女の人ほど大変ではない。

その一方で、女の人が男の人を嫌いになる言葉で、「アブラ（脂）ギッシュ」という言葉があるんですけども、これはエネルギーではなくて、アブラギッシュなんです。つまり、テカテカ脂っぽくて、何となく傍に来られたらちょっと臭そうというので人気がないですね。けれども、それはちゃんと自分であぶらとり紙を使って、男の人にも注意して、チョイ不良を目指せばいいだけなんです。その意味では、女の人の方が大変なんです。実際に、夫からオバサンって呼ばれて実家に帰っちゃった女が私の周りにいます。ですから、この中にいる夫達はゆめゆめ、気軽に「あっ、ちょっとオバサン」なんて呼ばないようにして下さい。これは本当に重たい言葉なんです。

日本では、実際に悪気がないにしても、女の人達のことをそうやって非常に年齢に絡めて考えることがある。これにすごく驚いていたのが、フランスの大女優のカトリーヌ・ドヌーヴです。彼女はたぶん60歳をいくつも超えていると思うんですけども、そのカトリーヌ・ドヌーヴが日本に来た時、談話を発表しています。「日本に来たら、年のことばかり聞かれた。もうびっくりした。嫌な国だ」と言っていたと雑誌に出ていた。それで、フランスに住んでいる友達に聞いてみたら、フランス語にはいわゆる日本語で使うオバサンという言葉はないそうです。「ああ、そうか、そういう国なんだな」って思ったんですけども、日本の若好みは、『源氏物語』まで遡る1つの文化なのかもしれません。でも、最近は随分変わってきましたし、男の人達もオバサンって不用意に言っただけは、血を見るんだということが分かってきた。彼らも学習して、言わなくはなっています。言わなくはなっていますけれども、やっぱり気持ちの中には「若いほどいいよな」という人たちが多いのは十分に感じる。

今回、私の友達で向こうに住んでいる人ばかりに取材したんです。ニューヨークに住んでいる人、パリに住んでいる人、シンガポールに住んでいる人、香港に住んでいる人。韓国に住んでいる人は、やっぱり日本と同じで、ややエイジハラスメントがあるというようなことを言っていましたけれども、ロンドンの人やドイツの人にも聞きましたら、欧米、特にヨーロッパは「若い子が好みなという男性は、成熟していない」とバカにされると言っていました。私は今回の小説に、「これでもかっ」というくらい、日本におけるエイジハラスメントを書いています。

主人公は蜜という、34歳の女なんです。普通に結婚して子供もいる。34歳って、これ全く年じゃありません。彼女は、大衆トンカツチェーン店でトンカツを揚げるパートをしています。そのトンカツ屋さんが、ある時に、チェーン店がみんな集まって、大きなホテルで創立10周年のパーティーをやることになった。こういうところから小説は入るんです。彼女はとてもきれいなお母さんであり、オバサンになりたくないということに、一生懸命努力している女なわけです。夫も、彼女が美しく若い妻であろうと努力していることを認めていたわけです。そして、そのパーティーでは来賓と役員の人達に1人ずつ説明役というか、お世話役が付くことになった。その世話役には、各店舗から一番いい女を出すことにした。「うちの店舗では蜜さん、あなたがいいから、蜜さん付いてね」って、前もって店長から言われるんです。それも、社長に付くということになったんです。それで、蜜は「やったー」とものすごく張り切りまして、美容院でちゃんと髪の毛もまとめて、そして、自分の顔が一番きれいに見える訪問着を着ます。その訪問着の着物を着て、パーティー会場に行ったわけです。

大きなホテルのパーティー会場に行ったら、みんなが「うわぁ、きれい」とか言うんです。若い10代後半から20代の女の子を見るとその子達はみんな洋服で、ビスチェといって肩を丸出しにしたようなものとか、倅田來未みたいな、ああいう格好をして来ている。彼女がそれを一目見たときに「勝った」と思うわけです。また、和服で来ている20代もいたわけです。それも説明役で各店舗から来ている人なんです。彼女はそれを見ても、やっぱり勝ったと思うわけです。「若い子が着物を着たって、売れない演歌歌手よね」と思うわけです。彼女は自分がいかに美しい30代であるかということ、鏡でチラチラッと見ながら自信を持って、前もって社長に説明することも全部準備していたんです。

すると、店長に「ちょっと」と呼ばれた。まだパーティーが始まる前ですから、店長が屏風の陰に彼女を呼んだ。その店長の横には、倅田來未みたいな格好をした女の子が立っていた。何かなと思ったら「悪いけどさあ、この子と説明役を代わってくれって本社が言うんだよな。他の店舗からはみんな10代や20代の子が出ているのに、うちだけ年増を出すわけにはいかないって言われてさ」彼女としては、ギョッとするんですけども店長は「やっぱさ、社長にだけ年増を宛てがうわけにいかないだろう。君も他が10代20代なのに、1人だけ30代の説明役って嫌だよな」と言われる。それで、彼女はすごい恥ずかしいわけです。だって、着物を着て来たんですから。これが、自分も普段着だったら恥ずかしくないけれども、着物を着たっていうことで、すごい気合いが入っているというのが分かっちゃう。すると、その横で半分裸みたいな、倅田來未みたいな女の子が「えー、でも蜜さんにイ悪いってかぁー。蜜さん、気合いとか入っててえー、自分的には必死いー、じゃないですかぁ」もう、私は原稿を書きながら段々、腹が立ってきたんです。その子はマヤっていう名前だったんですけれども「マヤ的にはぁー、やっぱぁー、社長とかお父さんより年上ってかぁー。だからぁー、やっぱぁ、マヤ的には御辞退か

なぁー、みたいなぁー」とか言うわけなんです。

その時に、30代の蜜はさっと態勢を立て直します。それで「この訪問着を着て来たのは、実は、今日この後、主人と主人の上司夫妻と食事をする事になっているの。だから、これを着て来たんで、本当は途中で抜けなきゃいけないから、社長には本当に申し訳ないなと思っていたんだけど、マヤちゃんがやってくれるんなら、私としては本当にすごく助かります。だから、マヤちゃん、しっかりやってね」って言うんだけど、店長はそんなの嘘だって見抜いているんですよ。こういう時、馬鹿な男ほど謝るんです。「いやぁ、ごめん。本当に気にしないでくれよなー」男の人はここぞという時は、あまりベタベタ謝らない方がいいですね。「いやぁ、蜜さん本当にごめんよ。悪気はないんだけどさ、やっぱ、他と年って並べなきゃ、まずいじゃないかよ」とか、言えば言うほど、墓穴を掘る馬鹿な店長っていうのを私はこっぴどく書きました。それで、蜜はとてもじゃないけど、こんなパーティにいられない。ちょっと途中で出ちゃおうと思うんです。

乾杯だけして、出る時に一応、店長には挨拶をして「これから、主人と主人の上司と食事に出ますので、ここで失礼します」と言うと、店長はお酒が弱いくせに飲んでるんです。その横に取引先の偉い人が一緒にいる。取引先の偉い人が蜜に向かって、「ああ、いいですね、女の人の和服っていうのは、よくお似合いですよ」と、本気で言うんです。そうしたら、その馬鹿な店長が「いやぁ、蜜さん、褒められて良かったなあ。もうちょっと若けりゃ、こちらの会社の受付にでも雇ってもらえるのになあ」って叫ぶわけです。蜜はすごくショックで、トボトボと家に帰りながら「よし、私はこのトンカツ屋を辞めて、転職してもっといい仕事に絶対に就いてみせる」って思うんですけれども、スキルも資格も何もない34歳で、6歳の子供がいる主婦が転職出来るかといったら、これはこれで難しく、非常に大変なことなんです。

それで、今は色々なところで世の中が変わっているから、私はエイジハラスメントも減っているのかなと思ったんですが、聞いてみると、やっぱり笑っちゃうくらい、日常的にあるんです。それはふんだんに、小説に取り入れえました。これも現実に聞いた話で、小説に取り入れましたが、何人かの職場の男の人達とで、あるバーに行ったんだそうです。そうしたら、バーのママさんやホステスさんが喜んで「ああ、よく来てくれた。こっちは今日、暇で困ってたのよ」と言って、急いで席を作ってくれた。すると、そこのバーに行きつけの何人かが店内を見て「今日は××ちゃんや　　ちゃんはいないの」と聞いた。××と　　は若い2人なんです。その男の人が何と言ったかという、「えー、今日はお化け屋敷かよー」と言ったんだそうです。それでママは客商売のプロですから、お化け屋敷なんて言われたくらいで全然動じない。「まあ失礼ね、ひどいわ。その代わりに、ボトル1本入れて」みたいなことを言った。それで、ボトルで乾杯すると「まいったなあ、今日若い子いないのかー。俺はお化け屋敷で生き霊と乾杯する趣味ねえよ」って、言うんだそうです。

そういう話がいっぱいあって、使えるものはだいぶ使ったんです。例えば、私なんかでも見ていると思うのですが、男の人はエイジハラスメントとか、何か酷いことを言った後に「あっ、冗談、冗談」って言うんです。「なーんてね」とか「冗談、冗談」とか言うと、それまでに言ったことが全部取り消されると思っている頭の悪さがあるんです。それで、よく考えて欲しいんですが、「冗談」というのは半分「本気」なんです。だから、酔った勢いで「このデブがさあ」とか言った後に「冗談、冗談、ごめんね」と言うと、実際に太っていて気にしている人だった

ら、ずっと根に持ちますよね。私は現実に、根に持っている人を知っているんですが、冗談って言われても許さなかった。彼女はOLですが、その課長のコーヒーだけは、常にボールペンでかき混ぜていたそうです。そのくらい女は恐いんです。ボールペンでかき混ぜるといのは出てきませんけれども、小説の中にはそういったものがいっぱい出てくる。

小説では、トンカツ屋のパーティーで帰る彼女に「もうちょっと若けりゃなあ」と店長が言った。そうしたならば、取引先の偉い人は「いやあ、そんな。こんなきれいな人に何を言いますか」と言うと、馬鹿な店長は「いやあ、この人はうちのパートのオバちゃんね。色々としっかりやってくれちゃって」店長は「しっかりやってくれちゃって」と言えば何でも許されると思っているんです。「しっかりやってくれちゃって、こっちはオバちゃんパワーには敵いませんよ」と言うわけです。「オバちゃんパワーには敵いません」と簡単に、無神経に言うんです。けれども、オバちゃんパワーと言われた蜜にしてみると、ムカツとくる。パートは何人かいて、上は52歳からで、それで一番若いのが蜜で34歳。その間に40代、50代が何人かいる。でも、男の人達の目から見たときには、52歳も34歳も一括してオバちゃんになっちゃう。この現実に蜜が気付く。「私は、ここではもう駄目だ。こんなことして、人生無駄にしたくない。退職して何とかしよう」と思うんだけど、何とも出来ない。

それというのも、蜜の設定としては、元々は看護師になろうと思って看護大学に入ったことになっているんです。それで、蜜のお母さんは、とにかく何かあったときに、自分でちゃんと子供ぐらいは育てていける力を、娘に付けて欲しいと思って看護大学に入れたわけです。蜜もそのつもりで、看護師という仕事は一生出来るし、頑張ろうと思っていたのですが、そこで好きな人が出来ちゃって、大恋愛しちゃった。そうしたら、大変な看護師になるより、好きな人と結婚しちゃった方がいいなと思ったわけです。それで、中退して結婚しちゃうんです。だから、看護大学に入ったものの中退しているために資格はないわけです。お母さんはすごくショックを受けたんです。お母さんの本来の教育方針というのは、私に娘がいたらそういう教育方針そのままだったと思うんですけれども、何かあったら亭主を叩き出せる女になれっていう教育方針で、叩き出すためには何か資格が必要だということで、お母さんは看護師にしたかったんですが、結局中退、結婚してしまったということです。蜜は「ああ、社会っていうのはこうだったのか」と、やっと気づいた時は34歳になっていたわけですね。こういうところから小説が始まっていくわけなんです。

これは小説の中だけの話ではなくて、週刊誌なんかを読んでいるとよく分かると思います。私はあまりゴルフを知らないんですけれども、例えばプロゴルファーで、桃子ちゃんとか藍ちゃんとか、ああいう若い19歳や20歳のきれいな女の子達がいっぱい出てくる。そういう中で、彼女達より年上の女子プロゴルファーがある時に優勝したんです。25歳の女の子だったんですけれども、その人のコメントが新聞に出ていて「私を年扱いしないで下さいね。まだまだ、やりますから」と書いてある。また、週刊誌には、オリンピック選手で何かの種目から引退する25、26歳の女子選手の話は、「失礼ながら、お年らしい」と書いてある。さすがに、新聞はここまで書きませんが、週刊誌は平気で書いてしまうんです。大変な世の中だなと思います。

現実には、パリの話を友人にこっそり聞いたら非常に面白かったのですが、フランス人は何かというと「美味しいジャムを作るには、古い鍋で煮た方がいい」と言うんだそうです。使い込んだ鍋で煮た方が美味しいということだそうです。ところが、アメリカ辺りだと、まだ若干あるんです。ヒラリー・クリントンが予備選挙に出ていた時に、色々書かれていたものを丁

寧に読んでみると、やっぱり彼女の年齢とか、お尻の大きさとか、ああいうことを揶揄する文章が結構あった。黒人系のオバマと女性のヒラリー、同じような差別があったということは報道されていましたけれども、フランスというのは全くないそうです。「本当にないのか」としつつ聞くんですが、「ない」と。

それで、これは小説には入れなかったんですが、その彼女がとんでもない話を1つしてくれたんです。彼女のパリの家にはお手伝いさんがいたんですが、そのお手伝いさんは62歳だか63歳くらいで、お家のことを一切やってくれていたそうです。ところが、風邪をひいたと言って3日間休んだそうです。それで「それは大事にしてくれ」と、彼女と夫が言ったらしいんですけども、3日目の夜にピンポンと玄関のチャイムが鳴った。そうしたら、見知らぬおじいさんが立っていたそうです。「どなたでしょうか」と聞いたら、お手伝いさんの夫だったそうです。「妻が全然帰ってこない。こちらで泊まっているんでしょうか」と聞かれて、彼女と夫はびっくりして「風邪って聞いていますが・・・」なんて言うてはいけない、ということが瞬時にして分かったらしいです。「いや、ちょっとうちの方の仕事でお願いしていて、ちゃんと書いてなくてすみません」みたいなことで誤魔化したらしいんです。

翌日、お手伝いさんが「風邪が治りました」と言うてきた。それで、夫と2人で問い詰めた。「あなた、一体何があったんだ」と。そうしたらワッと泣き出して、お手伝いさんを辞めさせて欲しいと言ったそうです。「辞めるのはいいけれども、夫にはちゃんと説明したのか」と言ったら、「恋をしている」と泣きながら答えたんだそうです。彼女の話だと、そのお手伝いさんは全然きれいではなく、太ったオバサンだと言うんです。とても恋とはセットで考えられないタイプらしいんですけども、休んだ3日間で彼と、これから2人で生活を始める暮らしの場所を見に行き決めてきたと言う。そして、「彼と逃げますから」ということを言われた。驚いて「一体どういう男なんだ」と聞いたら、相手は27歳だった。日本だったら、遺産ねらいだとか、騙されているとか考えられるんですが、お手伝いさんは全く遺産があるタイプではなかったようです。それで、私の友人夫婦はその27歳の男に会って、話を聞いてみたら「僕はとにかく彼女がすごく好きだ。話をしても合うし、とても安らぐし、好きなんだ」と言われた。「まあ、よくある話よ」と彼女は言ったんだけど、私はそんな話を書いても誰も信じないと思って書かなかったんです。けれども、そういうことが現実にくらでもあって言うんです。

例えば、1人で映画を見に行き、終わって帰ろうと映画館を出ると、男の人が声を掛けてくるというのが当たり前だと言うんです。「今の映画の　　のシーンって、どう思いましたか」というようなことを聞いてくるんだそうです。女の人はパッと見て、趣味じゃないと分かるーツーンとして帰るんだそうです。こいつは趣味だと分かったら、「あのね」とそこで話になる。そこから恋に行く場合もあれば、行かない場合もあるけれども、そういうことは日常なことであって、パリの女の人は年を取れば取るほど素敵になると言われるのは、常に女の人は男の人に見られているからだと言っていましたね。実際、その私のお友達は58歳ですが、すごく素敵な人なんですね。やっぱり、常に夫以外の男の人も含めて見ている、見られている。それで、男の人達はすぐに寝る。だから、気が抜けないということを言っていました。その後でオバサンの問題を書くというのも何だか、私はすごく古いというか、遅れている気もしたんですが、ここは、パリではありませんので、まず、日本の現状を書いたわけです。

そして、もう1つ、見た目や年齢で女の人を判断するのが、実は男ばかりじゃないということです。残酷ですが、若い女の人達の目がむごいんです。私もそうですし、皆さんもそうだと

思いますけれども、若い時には、自分が40歳や50歳になると思わないわけです。ずっと18歳かもしれない。確固たる理由はないんだけど、ずっと若い気である。18歳や19歳の子に、50歳や60歳になったときのことを考えると、言っちゃって無理ですし、気が付いたら「どうしよう、こんな年になっていた」ということなんですけれども、実際に若い女の人っていうのは、取材をしていても残酷なんです。後ろの席にいらっしゃる若い人達もそうですけれども、あっという間に若くなくなります。本当に「あっ」と言っているうちに年を取ってしまうんですけれども、気が付きませんか。それは、やっぱり実体験しないと分かりません。気が付かなかったです。もう20歳、21歳の頃は、40歳や50歳になるなんて、ましてや70歳や80歳になるというのは、とてもじゃないけれども考えられない。そう考えてみると、無理はないんですけれども、若い女の子の残酷さというのにはものすごいものがあるんです。

一番有名な話では、歌手の倅田来未さんがラジオで「35歳過ぎたら羊水が腐るから、早く子供を作るべき」と言っちゃって、あれは彼女の命取りになってしまった。でも、よく考えると彼女にとって、ちょっと気の毒に思うところがあるんです。1つには、倅田さんが今25歳ですから、10年先に自分が35歳になるということが考えつかなかったと思うんです。それともう1つは、ちょっと洒落たことを言いたかったんでしょうね。やっぱり、ラジオの番組に出た時に「うん」とか「ウソー！」ぱっかりじゃなくて、ちょっと洒落たことを言いたくて、あるサービス精神で「35歳過ぎたら羊水腐っちゃうから、早く子供を作った方がいいですよ」と言っちゃってしまった。ワアッと笑うということで済めば良かったんですけれども、今はそういうことで済む世の中じゃなくなってしまったから、謹慎ということになってしまった。ただ、これは35歳を過ぎて、子供が欲しくても出来ない人にしてみれば、ものすごいエイジハラスメントなわけです。そういう風なことで、現実に取材を試みたら、若い女の子達の残酷な部分が見えてきたんです。

高校や大学出たての若い女の子達がいっぱいいる、ある会社でこれは聞いたんですが、そこにバリバリのキャリアウーマンの40代の人が出たそうです。それで、若い女の子は結構上手いんですから「憧れちゃいますよ、さんみたいな生き方。仕事は出来るし、格好良いし」これは本気なんです。40代の彼女としては「えっ、そう」とすごく嬉しくなった。でも、「だからといって、そうはなりたくないけど」と言われてしまった。その40代はガクッときて、その人とお酒を飲んだ私の知人は、その人が荒れて訴えていたって言っていましたが、そういう話もあるんです。

それから、これはある女の人に秋田駅でちょっと前に声を掛けられた時の話です。彼女は自分で40歳をいっぱい過ぎていたって言っていましたが、小さい幼稚園ぐらいの女の子の手を引いて「内館さん、『エイジハラスメント』読みました」と言って声を掛けてきたんです。「そうですか。どうもありがとうございます」と言ったら、「私は結婚が遅くて、子供はまだ幼稚園で、私は40をいっぱい過ぎていて、あの話は身に染みました」と言うんです。それで、幼稚園の父兄会、保護者会みたいなところで地域の人とか議員さんも集まったりするケースがあるらしいんですけれども、ちょっとお酒が入ったお食事会があったりして、彼女が隣に座ったりすると、「ええっ、もうちょっと若い子に隣に来て欲しかったなあ、なんてね。冗談、冗談、ごめんね」みたいなことを言われるそうです。それから、運動会やバザーなんかでお客さんにお茶を出したりすると、「ええっ、こんな年のお母さんいたんだ。おっと、失礼、ごめんなさい」みたいなことがあると。「本当に嫌になっちゃいます。でも頑張ります」と言っていたから、

「頑張ってください」と励まして、秋田駅で別れたんです。やっぱり、そういうことってあるんですね。

これもある大企業での話ですが、お客さんに女の人がお茶を出した。35、6の彼女に向かい、客は冗談めかして「へえ、若い子はいないんですか」と聞いたんだそうです。それだけでもすごい失礼なのに、その部長が「いやあ、うちは若い子は箱に入れて、大事にしまっているんです」と言ったそうです。そういう無神経なことがすごくあるんです。

こういう状況の中で、女の方は自分を磨いているにもかかわらず、不愉快な状況の中で、どう生きていくかということを見ると、女の方は結局叫ぶんです。「女の価値は若さじゃないわ」「今の私が一番きれい」とか、それから「今の私が一番輝いているわ」とか。これは周囲が言うことであって、自分から叫ぶと痛いんです。後ろに座っている若い女の子達は、そういうことを叫んでいる女の人達を見ると、痛いと思っていると思うんです。けれども、周りが言ってくれないから、自分で叫ぶしかない。「女はシワも美しい」とか言って。ものすごく叫ぶ「女は年輪よ」と。私の周りでは、女性心理を学習しているドラマのプロデューサー達は「年取った」とは絶対言いません。「年を重ねた」と言うんです。

よく聞く女の方の言葉に「私って、好奇心が強いから」というのがあるんですけども、私は大嫌いな言葉なんです。「好奇心が強い」と自分から言うのは、好奇心が強いというのは、若さとどこかで重なるからなんだと思う。それで、周りで言ってくれないから自分で言ってしまうんです。「君って、好奇心強いよね」と言われればいいんですけども、誰も言ってくれないから、「私って、好奇心が強いから」と自分で言ってしまう。それと同じで「女の価値は若さじゃないわ」と言う。若い子が好きな男の人に向かって「あの人は馬鹿で、若い子しか相手に出来ないのよ。大人の女とは付き合えないタイプなの」と言うのも常套句なんです。でも、私が見ている限りでは、たいていの男の方は年を取った人とでも上手に付き合えます。でも、若い子が好きなんです。これは趣味嗜好の問題ですからしょうがない。だから、その時に「若い子としか付き合えない男なのよ。情けない男なのよ」と呼ぶのはみっともないんですけども、やっぱり叫んじゃう。叫ぶと若い子は「あの、痛いよねー」と必ず裏で言っています。若い子に痛いところなんか、ゆめゆめ見せてはなりません。

今、そういう状況の中で女性誌をご覧になれば分かる通り、40代や50代の女磨きにターゲットを絞った企画がいっぱい出ています。40代、50代向けの女性誌もいっぱい出ています。もちろん、そういう文化になりつつあるということは1つの要素ではありますが、もっと残酷な言い方をしちゃうと、中年の女磨きはビジネスになるんです。現実には、女の方は一生懸命に磨こう、磨こうとしている。ビジネスになるものに食らいつくということと私は思っています。そこであまり乗せられてもいけないし、呼んで痛がられてもいけないし、女の人生は大変なんです。

小説の中に21歳の女子大生が出てきます。残酷な若い女の象徴として書いたんです。蜜の夫の直哉は36歳ですが、その夫の一番下の妹が15歳も離れているんです。それが21歳の英美里という女子大生なんです。ある時に、蜜の夫婦が住んでいる同じマンションに、1年間だけということで引っ越してきたんです。そうすると、英美里と義理の姉、つまり蜜は、今までは離れていたから会わずに済んだのが、しょっちゅう会うようになるわけです。34歳の蜜は、21歳の英美里がいかにきれいかということを感じて日常的に感じるわけです。1つには二の腕がタプタプしていない。二の腕の肉がタプタプと振れるっていうのは「振り袖」と言うんですよね。それ

で、振り袖という言い方は悪いということで、私の知っている男の人は「天使の翼」と言っていたんですけども、結局は振れているということなんです。ところが、21歳くらいだと振れません。そして、二重顎でもないし、ウエストもちゃんとある。すっぴんで、メイクをしていなくてもきれい。34歳の彼女は、それを毎日見せられているわけです。34歳、十分若くてきれいなんですけども、現実には目の前に21歳がいると、これはやっぱり辛いものがあるだろう。彼女はどんどん、どんどん追いつめられてくるんです。

そういう時、すごく真面目だった夫が21歳の子と恋愛しちゃうんです。「これでもかっ」というくらい、意地の悪い小説です。英美里は、やっぱり、かなり冷静な目でお義姉さんを見ているんです。実際、私も、大学生だとか女子大生とか若い人と会ったりするんですけども、彼女達というのはクールに女の人のことを、そして男の人のことを見えています。それは私の年代が21歳だった時よりも、遙かにクールできちっと冷静に、ある意味では冷徹に見ているところがある。この英美里という義妹も、自慢のお兄ちゃんの妻のことを冷静に見ているんです。やっぱり、心の中でこうはなりたくないと思っているんです。「お兄ちゃんに結婚してもらって、やっと生きてるんじゃないの」というのがどこかである。「3年前に会った時よりも老けたわ」というのも感じている。「退屈な女ね」というのもある。これは、21歳の女の子が冷静に見ているわけです。

そういう例を幾つか挙げていますが、その中で残酷な話を1つ紹介します。主人公の夫というのは化粧品会社に勤めていますが、そこは色々な物を作っていますから、彼は大学の理学部で繊維を専攻して、紙おむつの開発に関わっているという人なんです。ある時に今度売り出す化粧品、ファンデーションをもらってきた。34歳の蜜と21歳の妹に同じものをあげるんです。2人とも「うわぁ」と言って、すごく喜んで次の日から顔に塗り始めた。それで、しばらくしてから、夫が蜜はこのところ少し色が黒くなったなって思うんです。日に焼けたかなって思ったけど、そんなことを口に出したら、また大喧嘩になるから言わないんです。そうすると英美里が「あれ、なんかお義姉さん、日に焼けたみたい」と聞くんです。蜜は焦って「うそっ。サンスクリーン塗って、日に焼けないようにしているんだけど、日に焼けちゃったかなあ」と言った時に、英美里が気が付くんです。「あっ、分かった。お義姉さん、ファンデーションのせいですよ」と言う。「ファンデーションって、夫がくれた、あれのこと？」と蜜が聞くと「そうですよ、ファンデーションのせいですよ。あれはですね、薄付きのファンデーションで、お義姉さん達の年には無理です。若い人じゃないと透明感が出ない。あれは透明感が出るものだから、お義姉さんの年だともろ、地肌が出ちゃって駄目なんですよ。もっとマットなの使わないと。ついでに教えときますね。マスカラも年と共に睫毛に力が無くなるから、力のあるマスカラを使った方がいいですよ。会社の方がいいですよ。生協のオバちゃん達、みんなそれがいいって言ってる」みたいなことを言う。その時に彼女はショックを受けるんです。「ああ、化粧品ひとつにしても年と共に違ってくるんだな」と。

それで、蜜には37歳のお兄さんがいます。そのお兄さんに7つ年上の妻がいるんです。その妻は可愛い陽気な妻でユカリといいますが、彼女はものすごく若作りをするタイプなんです。若さを失った時にどうするか、エイジハラスメントの中でどう生きていくか、といったことを考えた時に、若作りの方向に走る人が結構いるっていうのを、私はある時に気が付いたんです。これは、テレビなんかを見ていると分かりますけど、有名なタレントさん達で40歳を過ぎていても、舌足らずで喋ることってありますよね。みっともないだけだと思うんですけども、ユ

カリはそっちに行ってしまうんです。「おいしい」と喜ぶ時に、「おいてい」いう口調です。コーヒーなんかも「トーチー」なんて舌足らずを演じる。

さあ、こういう中で若くはない女はどう生きていけばいいんだろうか。つまり、「生病老死」の「老」とどうやって向かい合っていくかということなんですが、この場合の「老」というのは、介護だとか老後の諸問題とか、そういうことではないんです。男の人も女の人もつまり「若い」と言われなくなった年齢から、どうやったら元気に楽しく生きていけるだろうか、ということが一番の問題だろうと思います。結局、20代前半でも、10代後半でも、さっき申し上げてみたように「年だ」と思う人は年なわけですし、80代でも90代でも「年じゃない」という人は年じゃないんです。だから、他人に勝手にご高齢だと言われるのも腹が立つわけです。どうやったらいいのかっていうのを、小説の着地点を考えるとときに色々考えてみたんですけども、ある結論に達したんです。

(板書して説明) それは、年齢というのは「俗域の問題」だということです。以前、私がここで相撲史をお話しした時に聞いて下さった方はお分かりだと思いますけれども、相撲というのは20俵の俵を丸く詰め込んで、それで土俵の内と外を区切っています。つまり、20俵の俵で結界しているわけです。結界というのは界で結ぶわけですから、区切ることで2つに分けている。区切ると、土俵の中は「聖域」になるんです。客席とか外側は俗域です。例えば、朝青龍が左手で懸賞金を取った時に私は怒った。それは左利きを怒ったわけではないんです。私達が普段生活している、俗域の中では左利きは何も問題はないわけです。ただ、この聖域の中には「聖域のルール」というものがあって、女の人が土俵に上がっちゃいけないとか、物は右手で取るとかということがある。つまり、聖域というのは俗域と違うルールが発生する、区切られた場所ということなんです。

そう考えると、私は個人個人が自分の気持ちの中に1つ聖域を持つということが、ものすごく大事じゃないかと思う。聖域というのは俗域(俗界)のルールだとか、嫌がらせだとか、俗域の通念だとか一切通用しないものなんです。だから、それを心の中に1つ持つということが大事ではないか。例えば、俗域でいじめに遭おうが、エイジハラスメントに遭おうが、夫に女が出来ようが、友達に村八分にされようが、「私にはこれ(聖域)があるから結構平気よ」という何かがあることが、これからはものすごく大事になるんじゃないかと思ったんです。それが具体的に何かと考えた時には、もちろん仕事というのもあります。「私にはこの仕事があるから、外で何を言われても全然平気」だとか、それから、趣味というのもあるかもしれません。例えば、個展を開けるぐらいに一生懸命に絵を描いていて「この趣味があって、この趣味の仲間がいる限り、私は外で年のことを言われようが、村八分になろうが全然へっちゃら」と。また、ボランティア活動というの、他人から必要とされるという意味ではあると思います。

それから、世の中の人はずごく馬鹿にするんですけども、誰かの追っかけ。追っかけというのもの、彼女達にとっては他の人からは影響されない聖域なんです。私は氷川きよし君と仕事をして以来、年末はいつも氷川君のコンサートに行くんですけども、氷川君の追っかけはすごいです。もう本当にすごいです。6000人入る国際フォーラムの一番大きい会場が超満員ですから。それで、90代の人が1人で来ていたり、みんな、きよし君のイラストを描いたTシャツを着ていたりとか、「若様 命」と書いた半纏を着たりして、全国から来ているんですね。去年のことですが、その中のある1人が私のところに来て「内館さんでしょ」と聞いてくるから「はい」と答えると、突然ポンッと私の前にお腹を突き出して「触ってみて」と言うんです。

それこそオバサン年齢の人で、何ごとかと思っていれば、「いいから触って」とまた言うんです。それで触ってみたら、ものすごく固いんです。「固いですね」と言ったら、「そう、コルセットなの」と。その人はものすごく大きい病気をして、ずうっと手術とか辛い闘病で大変だったそうなんです。その間、ずっと彼女を支えていたものが、治ったらまた若様の追っかけをしようという望みと全国の追っかけ仲間から「頑張れ、頑張れ」とメールや電話や手紙が来たこと。それから、いつも手術の前とかに聴いていた若様の音楽だったと言うんです。ですから、たぶん「箱根八里の半次郎」とか聴いて、手術室に行ったと思うんですけれども、それが自分にとっては生きるバネになったと言うんです。今はコルセットを付ければ地方都市から東京の会場まで、きよし君を聴きに来ることが出来るところまで治ったそうです。また、北海道から来たという別の女の人は、きよし君人形を抱いているんですよ、大事に。そっくりなんですよ、きよし君と。それで「このきよし君人形、やっと手に入れたの」と私に見せに来たんです。全然知らない人なんですけれども、「かわいいですね」と言ったら「そうですね、かわいいの。これやっと手に入れたの。仲間で手に入れたのは私だけなの」と言うんです。コンサートが終わったら、北海道から九州までの仲間が集まって、ご飯を食べるということで「楽しいわよー」と嬉しそうでした。

私、ヨン様の追っかけもそういうことなんだなと思うんです。それを考えた時に、世の中ではみっともないとか、恥さらしだとか、男の人に構われなくなったオバさんが若い子を追っかけているだけだとか言いますけれども、自分のお金でチケットを買ってコンサートに行ったり、映画を見たり、韓国に行ったりするのに、何で他から文句を付けられなきゃいけないのかと思います。それよりも、「自分の中にきよし君がいる限り、もう誰に何と言われようと平気」という、その聖域というのを持っている強さというのを、私はやっぱり学ぶべきではないかと思う。これがあるから、世の中で嫌な目にあっても頑張れるっていうものを1つ持てば、エイジハラスメントなんて、かなりどうでも良くなると思いますね。

それで、蜜の夫が好きになった女性というのは女子大生なんですけど、単にチャラチャラした若いだけの女ではないんです。21歳なのに、自分の中にきちりと聖域を持っている。彼女は、競走馬の獣医になりたくて獣医大生です。それで、私は日高まで取材に行ってきたんですけれども、獣医は非常に責任の重い仕事です。馬の病気、怪我、出産、育成と仕事は山ほどある。でも彼女はとにかく競走馬の医者になりたい、彼女の中には馬の医者になるんだという1本の芯が通っている。そのついでと言っては何ですけれども、恋愛もあるし、色々なことがあるんですけれども、彼女は芯が絶対にぶれない。何があろうと、必ず聖域に立ち帰る。蜜は自分の芯のなさに気づく。今まで聖域を持とうと思った。オバサンになりたくないとかバタバタしていたけれども、結局これは違うんじゃないかと自分を見つめ直す部分があるんです。

結局、色々な問題というのは、何とかして充実した人生を送りたいと願う男や女の思いというところに行き着くだろうと思うんです。女の人が人生で大事なものはというと、家族や健康、経済とか色々なことを言うんですが、この浮気をしてしまった夫は、男の生きる上での一番充実した人生というのはどういうことだろうと考えた時に、それは「死に場所」を持っていることではないかと気が付くんです。

例えば、私はすごくプロレスが好きでしょっちゅう見ているんですけれども、小橋建太というプロレスラーがいます。小橋は41歳で、ひたすらプロレスに励んでいるすごくいいレスラーなんですけれども、彼は2年前に腎臓に癌が見つかったんです。それで、腎臓を1個取っちゃっ

たんです。お医者さんをはじめ、みんなから二度とプロレスをやっちゃいけないと言われたんです。とにかく再発も恐いし、プロレスなんかをやったら1個しかない腎臓まで腎不全になっちゃう。そうすると人工透析をやらなければならなくなる。今のままであれば、転移もしていないから、大丈夫だから、プロレスは辞めて生きなさいとみんなから言われたんです。それでも小橋はリングに復帰しちゃったんです。私は「建太 命」とノートに書くくらい好きだったので、小橋さんと雑誌で対談をさせてもらったんですけれども、その時に聞いたんです。今、タッグ戦ばかりで、1対1ではやっていませんけれども、ものすごい勢いで殴られたり、お腹の上に乗られたりするわけですから「あなたは、ドクターストップを振り切ってまでも、何故にプロレスをやるかと、復帰しようと思ったのか」と聞いた。彼は非常に言葉少ない人なんですけれども、キリッと「僕にとっては、プロレスをやるということが生きることなんです。生きるということと、ただ息を吸っているということは違いますから」と答たんです。その時に「ああ、この人にとってプロレスのリングというのは死に場所なんだな。すごい幸せな人だな」と思いました。

それともう1つ、これはテレビを見て衝撃を受けたんですが、岩城宏之さんという亡くなった指揮者がいます。日本を代表する指揮者だったんですが、あの人も全身病魔に見舞われて大変だった。常に車椅子で動くくらい、晩年は大変だったんです。ベートーベン9つのシンフォニー（交響曲）を作っていますけれども、岩城さんは体が最悪の状況の中で、その第1から第9までを1日でタクトを振った。これは快挙と言うよりも暴挙でさえありますけれども、やり通した。いつ死んでもおかしくないということと言われて、控え室には奥さんと医師がいて、点滴の準備をしているような状況の中、岩城さんは指揮台に立って第1から第9まで1人で棒を振った。ほどなく亡くなるんですけれども、そのドキュメンタリーを見ていた時に「ああ、この人はやっぱりタクトを振ることが、世の中から何を言われても揺るぎない聖域であり、小橋さんの場合はリングに上がることが聖域であり、つまりは命と取り替えるというようなレベルの問題ではないんだな、命を軽く考えているということではなくて、唯一無二の死に場所なんだな」と思いました。

もう1人、ピューマ渡久地というプロボクサーがいます。私はプロボクシングも大好きなんですけれども、彼は悲劇のボクサーだったんです。というのは、世界戦がついに目の前に来て、調印もして、日にちも決まったんですが、脳に腫瘍があることが分かっちゃったんです。当然、殴られたりしたら死につながりますから、ジムもボクシングコミッションも世界戦の中止を決めた。彼には家族も子供もいましたから。その時にピューマはどうしたかという、これはこの小説を書く前に記事で読んだのですが、泣きながら訴えたそうです。「命はいらないから世界戦に立たせてくれ」と言った。結果的には絶対に駄目ということになって、彼は世界のリングに立たずに引退しました。それで、今はジムを開いています。とても素敵なボクサーで、結局、この人もちゃんと死に場所を持っていたんです。ボクシングのリングが死に場所だった。そう考えると、女の人でも男の人でも、エイジハラスメントや色々なことがあるうとも、怖がらずに自由に生きていくためには、死に場所つまり聖域を1つ持っているということが、ものすごく大事なんじゃないかと思っています。

もっともっと話したいんですが、時間の問題ではなくて、あまり詳しく話すと読んでもらえなくなるので話しません。ぜひ自分の中に聖域というものを持って頂きたいなと、小説を書きながら思いました。それと今、ピューマ渡久地さんの話が出ましたが、秋田が誇るプロボク

サーの榎洋之君がいよいよ10月24日世界に挑戦します。私はこう見えても榎君の後援会長なんです。彼はクリス・ジョンというものすごく強い選手と戦うんですが、間違いなくチャンピオンベルトを秋田に持ってくると思います。榎君自身がチャーミングなボクサーで、すごく気が強く、いい男なんですけれども、世界戦の記者会見の時に思わず涙ぐんだんです。それぐらい、世界をやるというのは選ばれた男なんです。ピューマが「命はいらない」とまで言った思いを、私はとてもよくわかる。榎君もすごくいいチャンスに恵まれたし、彼も死に場所を持っているので、秋田にチャンピオンベルトを持ってくると思います。それで、榎君の秋田での同級生の中に豪風がいるんです。隣り合って勉強していたと豪風が言っていましたけれども、榎君がよく私に「内館さん、俺が世界獲ると、豪風が大関になると、どっちが早いかな」と言うから、「あなたが世界獲るのが早いね」と言ったんですけれど、今度、豪風に会ったら「ちょっと、あなたもそろそろ大関にならないと。榎君、ベルト巻いちゃったよ」と言おうと思っています。ぜひ榎君のことも応援して下さいよう、最後に後援会長としてお願い申し上げます。本当に長い時間ありがとうございました。

藤本 内館先生、本当にどうもありがとうございました。
会場からご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。どうぞ。

柴田 ちょっとお尋ねします。この聖域については、その人その人で色々あるでしょうが、あまり強くこれを持つと自己顕示欲というような感じがしますので、注意に注意をしなければならぬと思います。私は、学問の頂点、人智の頂点、こういうものを自分なりに見極めておるといような自負心があるわけです。ですから、誰にでも分かるように説明してすぐ応用できる。こういうのも聖域になるかというのを聞きたいんです。

内館 もちろん、なると思います。そのテーマはもっともっと深いところまで行けるはずですし、そういったものがあると、やっぱり何をやられようが動じませんよね。学問や人智を極めようとする思いは、大変な「聖域」だと思います。それは決して嫌らしい自己顕示欲にはならないと思います。自己顕示欲に繋がるのは、要は人間性の問題です。「俺って、今こんなにすげえんだよ、すげえんだよ」とみんなに言って歩くとか、それさえなければ何の問題もないと思います。

藤本 他にどなたかいらっしゃいますか。

広谷 先生と大学にお願いです。昨日、内館先生は秋田に来られて、文学賞の選考会をやられたと先程お伺いしました。先生の前回の講義の時に、常套句は使わないようにとか色々あったんですけれども、選考をして良かった点とか悪かった点とか、そういうところをもう1回先生からお話を聞きたいなと思いました。後期の講座には1回しか予定されていないんですけれども、もう1回あったらいいなと思うんです。

内館 ありがとうございます。私のこのような人気は秋田だけだろうと思うんですが、小泉理事長とも相談しまして、また来たいと思います。それで、お話に出ましたように、昨日、文学賞の

エッセイの選考会がありまして、大変に白熱しました。たとえば、ものすごい面白い話を書いているのに、あまりにも書くテクニックがなくて損をしている人も少なくありませんでした。かと思うと、自分の才能におぼれて「どうだ、者ども。面白いだらう」と思いながら書いたような、それこそ自己顕示欲が行間から滲み出しているものとか、色々あってすごく面白かったです。レベルとしても良かったです。ですから、改めてもう1回カリキュラムを相談しまして、文学賞受賞者の発表の後で、どうだったのかという話をやりたいと思います。ぜひ、いらして下さい。辞めると言われるまでこの大学に来ますから。どうもありがとうございました。

藤 本 それでは、改めまして感謝の拍手を先生にお願い致します。
 これで、本日の講演会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。
 (拍手)

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「映画よもやま話」

講師	東映株式会社代表取締役社長 ノースアジア大学総合研究センター客員教授	岡田 裕介
挨拶	ノースアジア大学総合研究センター長・経済学部教授	藤本 剛
司会	ノースアジア大学総合研究センター参与・教養部准教授	橋元 志保
日時	平成21年5月29日 午後1時30分～2時40分 (午後2時55分～5時15分まで 映画上映会)	
会場	秋田市文化会館	

橋 元 本日は、岡田裕介氏ご講演会及び東映映画「劔岳 点の記」の先行上映会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座シティカレッジは、お蔭様で5年目を迎えました。東映株式会社代表取締役社長、本学総合研究センター客員教授、岡田裕介氏をお迎えしてのご講演会、映画上映会も今年で5周年となります。

「劔岳 点の記」は、それにふさわしく、悠久の自然と真摯に生きる人々の営みを描いた素晴らしい映画です。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

藤 本 皆様 こんにちは。ノースアジア大学総合研究センター長の藤本でございます。本日は当センターのシティカレッジ2009の企画と致しまして、東映株式会社社長 岡田裕介氏のご講演会そして「劔岳 点の記」の上映会を開催致しましたところ、多くの皆様にお越しいただきました。誠にありがとうございます。本学総合研究センター主催の公開講座は、今年で5年目を迎えますが、皆様方のご支援により順調に発展してまいりました。

本日、ご講演をいただきます岡田社長は本学がシティカレッジを始めました、その年から、客員教授としてお力添えをいただいております。これまでに、4回のご講演と4回の東映映画の上映を実現させて下さいました。2005年に「北の零年」、2006年に「バルトの楽園」、2007年に「俺は君のためにこそ死にに行く」、そして、2008年には「まぼろしの邪馬台国」の上映にご協力いただきました。

岡田社長からは、それぞれの映画の製作秘話であるとか、映画界のさまざまな興味深いお話を毎回伺っております。本当にお忙しい中を毎年来ていただきまして、貴重な話を聞かせていただいております。皆様とともに、感謝申し上げたいと思います。

本日上映の「劔岳 点の記」につきまして、私もその製作の記録を観させていただきました。壮大で厳しい自然の佇まい、その自然に向かう真摯で苛烈ともいえる人間の生き方、本当に素晴らしい映画でございます。岡田社長のお話と共にじっくりご鑑賞いただきたいと思います。

また、本日は、明桜高等学校の生徒さんが見えております。この映画の製作に、命をかけたとおっしゃっている木村大作監督が、若い方たちにこそ、この映画を観てほしいんだということをおっしゃっています。監督からは、これからの人生において、「劔岳 点の記」から何かを感じて生きていってほしいというお言葉をいただいております。きっと明日からのパワーになると信じております。どうぞ最後まで、しっかりご覧ください。それでは、岡田社長、どうぞよろしくお願い致します。

岡 田 ただいまご紹介に預かりました、東映の岡田裕介でございます。今回で、5回目ということになります。先ほど、前の記録を読ませていただいたら、今日話そうと思っていたことを半年前に既に話しており、私自身、何ひとつ成長していないことを気づかされました。急遽、話題を変えて、一体、何を話したらいいのか、すぐには思いつきませんので、取り留めのない話になるかと思いますが、ご容赦願って聞いていただければと思います。

先般、「劔岳 点の記」という映画を、若者に観ていただきたいという思いから、木村大作という、わが業界でもかなりの変わり者の監督が、ある大学で講演していたところ、途中で学生が寝てしまったので怒ってしまい、「帰る」といって暴れたらしいのですが、今日は疲れましたら、どうぞ寝てください。私は、全然かまいません。

今日は、沢山のお時間をいただいております。私は、皆様に講義をしたりする立場ではございませんが、後ほどその理由をお話いたします。ここでの私の役目は、東京で今何が起きているか、東京で進んでいる情報やその他の情報をご披露することがひとつの役目だと思っております。政治に関する問題や経済に関する問題のような、きな臭い話は措いておきまして、これからお話しすることを聞いていただきたいと思っております。

私は、映画人ですので、映画の話をお話させていただきます。3年前あたりから、極端な変化が映画に見られました。アメリカ映画をほとんど観なくなってきたんです。我々は、アメリカ映画をこそ、お手本にしていたのですが、一般の人たちがアメリカ映画を観なくなってしまったんです。急激に観なくなりました。これには、いろんな理由があると思っております。基本的に今、映画は大きく変わってきています。それで、以前から政治とか経済を見ると、「映画の状況をよく観てください」ということを、私は経済界の方にも政界の方にも申し上げています。たかだか売り上げは知れてるのですが、非常に、その予兆といえますか、そういうものが起こっています。

つまり、我々の中で、アメリカに頼ってはいけません。急に銀行がつぶれた、車屋が倒産しそう。いろんなことがこの1年に起こりました。それ以前に、実際には、我々は潜在的に今まで通り、アメリカに付いて行っていいのかわかっているかを感じていたんです。アメリカ映画を観なくなりました。「アメリカ映画」は、憧れだったり、「アメリカ映画」を通して文化を吸収したり、「今、アメリカはどうなっているのだろうか」というような思いから、映画を観ていたと思っております。しかし、アメリカの映画を日本人が観なくなった頃、我々の心はアメリカから離れていたんです。その後、韓国の映画を観るようになりました。今でもそれは続いております。ここにいらっしゃる方の中でも、まだ、ヨン様にはまったままの人も、冷めた人も、いろんな人がいらっしゃると思っておりますけど、韓国旅行もブームでした。ウォンが安く、韓国旅行だけが、このゴールデンウィークも満杯でした。しかし、韓国映画は下火になってきました。

今、ほとんどの人が、日本映画に戻ってきています。でも、本当に日本映画に戻ってきてくれたのかは、まだ分かりません。どうやって日本映画は生きていけばいいのか、迷っているのではないかと思います。我々はどこか他国を頼ってきたんですね。それで、中国、ソビエトでは駄目だという話になりました。共産主義から離れ、そして、資本主義のアメリカに付いて行っていいのか、日本はどうやって生きていけばいいのか。しかし、今、日本映画を観て、そのことを我々の中でまだ決めてはいけませんということ、潜在的に意識しているのではないかと私は見ております。日本映画に人が戻って来ている訳ではないのです。言い方を変えればそんなに日本映画を面白いと思っていないということです。今は日本映画がブームになっているだけなのです。ですから、我々は、日本映画を頑張る、このブームを本物にしていかねばならないのです。

実は、私の親が東映に勤めておりました、2代目の社長をやっておりました。私は4代目になるんです。実際、子供の時、時代劇が隆盛を極めた時期に京都撮影所におりました、俳優さんたちにすごくかわいがってもらいました。そのような環境にいて、本当に子供のころから日本映画に接してきて、その状況がどうであったかはよく分かっています。

映画ではいろんな革命がありました。戦争中にも映画を観られた方はおられると思っております。最初は弁士による活動写真（無声映画）でした。徳川夢声さんという弁士で有名な方がおりました、このころの映画には音がありませんでした。いわゆる無声映画です。そうしたら、「えっ、

映画から音が出る。本当にこの俳優の音が聞こえているよ。「トーキー」、いわゆる映画から音がする時代になりました。そして急速に発達していきます。

それから、1951年は「総天然色」映画が始まります。映画に色が付きました。そのことに皆がびっくりしまして、「本当に色が付いてる。赤は赤だよ」という話になって、それにまた飛躍的な進歩を遂げます。テレビがカラー化されたのは、東京オリンピックの少し前です。昭和38年でした。しばらくの間、映画の方は色が付いていました。しかし、テレビは付かないという時代がずっとありまして、その間、日本映画は異常な発達をしてきます。

映画の中で面白いことがあります。映画は「映画の嘘」というものがすごくありまして、そこにもわれわれの感覚がすごく出ています。昔の時代劇などでもよくあるのですが、主人公が、悪者の子分を生け捕りにして、「お前、吐け。首謀者は誰なんだ。このカラクリは何なんだ」と言って首を絞めたりすると、必ず吐こうとした瞬間に他から矢が飛んできて、この人は死ぬんです。「待て」と言って、そっちの方を追っかけて行く。しかし、取り逃がしたということになるんです。

よく考えると、悪者は、その主人公を狙った方がいいわけです。これは、決まっています、必ずやられるのは、吐こうとしている人間がやられるんです。主人公が死んでしまうと話が進まないで、必ず矢が飛んできたときは、味方でも、要するに悪者でも仲間当たるんです。これは、ひとつの鉄則としてわれわれの中にあつたんです。

映画にとっては、日常とは全然違う。これから拳銃を抜くということは、昔の日活映画においても、東映もですが、拳銃を抜いて、悪者が主人公に向かって構えているときに、「冥土の土産に教えてやる」と言って、教えなくていいカラクリを全部教えるんです。「実際、あいつを殺したのは俺だったんだ」「実際には、こういうふうにかうやって殺したんだ」と、言わなくていいことを言っている間に、はめられて捕まる。

つまり、どういうことかと申しますと、長い間、歴史の中で日本人は、「拳銃」とは、非常に卑怯な武器であるというふうに思っていたのです。拳銃は、主人公の素手に勝てなかったのです。絶対に、拳銃は負けるものだったのです。悪者しか持っていなかったのです。これは、「不思議な映画」、「独特の嘘」というものがありまして、皆が観ていて皆が許してくれるんです。皆さんも、これが映画の中に出てくると、「それはしょうがない」と言って観てくれるんです。

もっと補足しますと、実は私、おととい誕生日を迎えまして、とうとう還暦になってしまいました。それで、赤いネクタイばかり貰ったので、今日はその一本をしてきたのですが、あまりにも派手すぎて、嫌だなと思いながら、この一週間、貰ったネクタイの「赤」だけで通すようにしております。「歳をとったな」と思うのですが、こういう歴史を話させてくれるのも、歳を取ったからなので、こういう話をしてもいいのかなと思うんです。

この業界に私を導いてくれた人がいます。スカウトしてくれた人がいます。実は、私は40年位前まで俳優をしていました。「俳優にならないか」とスカウトしてくれた人は、実際にはもう亡くなられたのですが、その人は「水戸黄門」をプロデュースしていた方でした。今のテレビの「水戸黄門」です。

私は、このプロデューサーから「水戸黄門」の作り方というのを、徹底的に教わりました。こういう具合にテレビを作って、こういう具合にする。東映の時代劇は当たらなくなって「水戸黄門」が、何故、テレビで人気を博しているのか。それは、「水戸黄門」をそのままテレビ

へ持ち込んだからだったのです。

昔、東映の映画は、時代劇が皆さんの好評を博して、大変な人が入ったんです。片岡千恵蔵、市川歌右衛門、中村錦之助、大川橋蔵という大スターを迎えて、その大スターたちのおかげで大変なヒットを飛ばし続けました。でも、それらが入らなくなった時に、テレビにそれをそのまま持ってきたんです。

これはおもしろい話なのですが、「水戸黄門」の提供は、今、パナソニックになりましたが、俗に言う昔のナショナルです。ナショナルの1社提供です。明るいナショナルです。水戸黄門は暗いと困るわけです。この水戸黄門という時代劇を、今度、注意してみてください。他の時代劇の番組とは全然違うことがあります。それは何かというと、人は誰も死んでないのです。助さん、格さんは必ず峰打ちです。それで、全部叩きだけです。それで、どの人も悪者も1人も死なないのです。これは不思議なことに終わった後、変な暗さがないんです。潜在的に誰も気が付かないのですが、絶対に死んでいないのです。だから、僕は、助さん、格さんは刀を持たないで、普通の木刀のほうがいいのではないかと思います。いつも峰打ちで、本物を使ったことがないので。変ですよ、全部ひっくり返して使っているのですから。これは「不思議な嘘」なのですが、誰も死んでいない。それと、もともと助けられる人も、誰か悲劇になって死んだことがない。黄門様に救われるのですから「ありがとうございました」という話に、最後はならないといけないのです。これは、実は殺人事件のない「不思議な水戸黄門様」なのです。全国を歩いています、よくもこれだけ悪代官と越後屋がいるな」と思うくらい、各箇所すべて必ずいるのです。悪代官がいて、「おぬしも悪よの」と言わなければいけないのです。我々は、剣豪者と言われる武術を極めた宮本武蔵的な人間を出してきてその話をやったり、水戸黄門もいろいろなものを試してみたのですが、視聴率がいつも悪いのです。

結局、越後屋が備前屋になるか、名前が違っただけで変わりばえのしない話なのです。これは、今この世の中においてもどこか許さないとか、不思議に日本人の「悪」というのは、同じ感覚を持ってまして、この間の岩手の某先生も、「やはり、どっかみんな、そりゃいけないよ」という話になるわけです。私は、政党とかそのようなことに主義主張がありませんので、やはり、日本人のどこか、ああいうのは許せないのです。

アメリカでは、このパターンは全くありません。なぜかというと、アメリカは賄賂を取っていいのです。中国などは賄賂だらけです。実の話、中国政府の高官さんなどは、全部賄賂です。リベートという言い方をしますが、アメリカもそれを受け取るのは当たり前になっています。「悪い」と思っていないのです。日本人だけが「悪い」と思っている道徳観なのです。ですから、このパターンは、日本でしか通用しない「悪の成り立ち」なのです。

でも、面白いことに、日本では永遠に生き続けて、常に皆さんの前で、水戸黄門先生は、毎週、悪代官を捕まえるのです。ここで面白いのは、大体、法則が決まっております。最初のシーンは、必ず、その地方の名産の食べ物のお話をします。名産の食べ物がないときは、おむすびになるんです。うっかり八平さんは、ここで「何か食べたい、団子が食べたい」と言って、八平が必ず名産のお話をするといいところから、実は台本が決まっているんです。15分の時に、必ず、由美かおるさんはお風呂に入ります。これは、実は、台本に書くように決まっています。42分になった時に、決まって、必ず印籠が出るのです。これは、実は時間を計っていただければ分かるのですが、全部決まっているんです。皆さんに「この辺かな？」ということを植え付けていく。毎週、これを見た時に「最後だけ見たい人は、最後だけ見てください」と言うため

に、「もう、終わってたよ。大体この時間だと思ってたら」。そういう期待を裏切らないために、実はもうマニュアル化されていて、きちっと42分になると、「控えよ。この印籠が目に入らぬか」という言葉が出るのです。

おもしろい作り方をされていて、それが延々と今もまだ皆さんに愛され続けています。京都撮影所で800回を過ぎまして、何とか1000回まで向かっていこうとしています。水戸黄門さんもたくさんの方に代わりまして、今は里見浩太郎先生にやっていただいております。

昔からスターというのは、「水戸黄門」をやっているグループでは片岡千恵蔵さんです。初代は、実は東野英治郎さんがおやりになりました。この水戸黄門先生を片岡千恵蔵先生に皆でお願いしに行ったのですが、「おいおい、水戸黄門は、まだ俺の歳にしては早いんじゃないか」「もうちょっと経ってからにするよ」と言ってから早死にされまして、水戸黄門をやる時期がなかったのです。

僕が子供の頃に片岡先生は、片岡千恵蔵先生御大と言われる程、東映を支えた第一人者でした。大好きだったんです。何故かと言いますと、正月に千円いただいたのです。お年玉で千円もくれたからなんです。市川歌右衛門先生は特に好きではありませんでした。何もくれなかったんです。1番前に行って、なんとなくお年玉を要求している顔をしているにもかかわらず、彼は知ってて知らんぷりしているのです。だからあまり好きじゃなかったのです。この片岡千恵蔵先生には、「忠臣蔵」の大石内蔵助を後々観せてもらいました。非常に良い作品でした。この間、我々は一つも進歩してないことを感じながら観ていました。

昔、子供の時に、遠山の金さん「ご存じいれずみ判官」を観て、意味がよく分からなかったんです。どういうことかといったら、桜吹雪で半分の肩を出したところで初めて見るので「おおー」と驚くのですけれど、あの片岡先生の大きい顔が、金さんの時も遠山金四郎の時も変わらないのに、どうして、あの顔を見てわからずに刺青を見て分かるのか、その意味がわからず、僕は素朴に「先生、これはどうして分からないのか、よく分からないんだ」と聞いたら、それについて先生は、あの当時、私は剛という名前だったので、「つーちゃん、これはね、御存じいれずみ判官、遠山の金四郎だからだよ」と言われたのですが、子供ながらに分からず、未だによく分からない回答だったんですけれど、とにかくいい先生でございました。

市川歌右衛門先生も含めて当時の昔の俳優さんというのは、何に1番拘ったかと言いますと、主役でありたい、主役であることが1番だったのです。それから2番目には必ず脇役の女性にはモテたい、モテる役じゃないと嫌だ。それなのに映画のことはよく分からなかったんです。馬鹿とかそういう意味ではないのですよ。これは、やはり情報の入り方に問題がかなりあったと思います。情報がなかった時もありました。それで、時々トンチンカンなこともあったりしました。

今、必殺で松竹でおやりになっております中村主水（もんど）という「主水」という名前の人がおります。「主水」という名前は昔どこかにあったと思うのですが、誰かが考えた名前じゃないかと思うのです。早乙女主水之介というこれも「主水」なんです。

実際に紐解いてますと、「旗本退屈男 早乙女主水之介」の前に「天下の豪傑男」というのがありまして、彼が主役をしたときの名前が、姓は「だいや」名は「もんど」だったんです。誰かが考えて、それでひょっとしたら、これはわかりませんが、「主水」という名前は昔からあったような、どこかで僕らは今、「主水」というのをそういう時昔の名前で使うんです。ひょっとしたら、これはダイヤモンドの「もんど」だったかもしれません。不思議で、でたらめな名

前が、いつの間にかやっている、それが昔あったかのようになってくるんです。楽しいのがやっぱり江戸時代の時代劇です。

前にもお話をしたことがあったかと思うのですが、大友柳太朗先生というのがいらっしまして、大友柳太朗先生は馬が非常に好きで、馬に乗って嵐山を散歩するのが好きだったんです。馬上から皆さんに「大友だ、大友だ、大友だ。あっ、大友だ」と言われて、当時も馬に乗っている人なんかいません。昭和30年代には、もう車も走っていました。馬に乗っていると皆が見ますから、やはり、皆「大友だ、大友だ」と言って「ワー」と寄ってきたりして、それがすごく好きだったんです。そのためにはお供を連れて行かないといけないので、私をよくお供に連れて行ってくれたんです。なぜかというと子供だし、自分が大きい馬に乗るからその付き人は小さくなければ困るから、私をよくずーっと連れて歩いてくれました。お小姓みたいな役だったんです。

この人の面白い話で、この大友柳太朗先生は、私が、丁度春の嵐山を歩いている時に「つーちゃん、この木にはきれいな花びらがあるだろう。これ何だかわかるか」と言われ、その時僕は小学校4年でした。「はい、ソメイヨシノと聞いております」もちろん大先生ですから、きちんと敬語を使っておりました。先生は「ソメイヨシノと聞いております」と言ったら、突如、バァーンと怒るんです。「小学校4年にもなってこれを知らんのかね。これは桜だよ」。私からすれば大先生ですから「失礼しました」と言って、そこで頭を下げたんです。なかなか面白い先生でございました。

この先生はテレビ時代になって、早いテンポになった時について来れなくなったんです。台詞を沢山覚えなければならない。どんなドラマでも台詞がよく分からなくなってしまいました。立ち回りも「こうでこう、このようにですね」なんて言ったら、切られる方がどんどん死んでしまって、それでもまだやってたりしまして、徐々に、時代の流れに付いていけなくなってしまったんです。実際には、私はこの先生、大好きだったんですが、伊丹十三先生の「たんぼぼ」という映画で、最後は何の役もなく、ただラーメンを食べるだけの役で出て、すごく満足されたんです。

映画人として、映画に本当に十何年ぶりに出られました。台詞なんかどうでもいい。とにかく映画に出られた。その日、実は、自殺されたんです。最後、映画人として空しいというか、半分は映画人として死にたかったことがすごく分かりました。でも、新聞には「精神異常」ということになっているんです。僕は、「こういうのが精神異常だったのかな」と、つくづくその時思いまして、ご冥福をお祈りしたのを覚えております。

その後、中村錦之助さん、大川橋蔵さんが出られまして、少し、古い人とは違った感覚で出てきました。ここでも、中村錦之助さんが考え出したのが、今までの主人公にはないヒーロー像でした。

つまり、宮本武蔵を途中からやり出します。そして、「二刀流開眼」というやつなんです、主人公が何故か「二刀流」で戦うんです。沢山の相手と戦う時は、それまで「二刀流」というのはなかったんです。「二刀流」にしたところで初めて戦うということをやりにまして、それから以降しばらくの間、東映は、必ず主人公は「二刀流」でした。

片岡千恵蔵先生が、「七つの顔を持つ男」という現代劇で初めておやりになった、多羅尾伴内という役柄が役に立ちました。これは、最後のシーンで初めて「君らをやっつける」と言った時に、初めて二丁拳銃を使うんです。「二丁拳銃」というのは普通に撃てばいいと思うので

すが、目立つために、必ず互いにしか撃たない。右のは右、左は左というようなスタイルで。こちらのサイドはこっち。左は左。それで相手からの弾を受けた時にどうやって避けるのか。これをうまい具合に避けるのです。ヒーローならばこそ許されるスタイルがあって、こうして、素晴らしきヒーロー像を作っていくのです。

これもよく分からないのですが、追っかけて行って、角を曲がると片目の運転手になってたりするんですが、それがどう見ても片岡先生の顔なんですね。「今、ここにこういう人がいなかったか」と言うんですが「そこにいるんじゃないか」と見ている方がハラハラしているような映画がずっと続きました。

このようなヒーローの後、次に生まれてきたのが東映の高倉 健さんをはじめとする方々で、他社では渥美 清さんなどが次の大スターとして、この映画界へ出てきたんです。東宝では森繁久彌さんでした。この辺の俳優さんたちは、実は、前の俳優さんたちと大きく違うんです。

それは何かと言いますと、人格者というか、大変に我々に教えてくれた大先輩、そして人間として、正しい道として、そして「映画とは何か」ということをかなり教えてくれた人たちです。「でした」という人もいますし、「です」という人もいます。

これはスター像が本当に変わってきたんですね。これからはやはり人間としても大変な人格が備わっている人でなければいけない。そして、それを受け継いでいるのが、今の吉永小百合さんなどではないかと思っています。

高倉 健さんが言った言葉の中で「拍手されるより、拍手するほうが心豊かになる」という言葉がありました。彼が常に言うのは、「自分はいつも拍手されてた。だけど、どこか空しい。自分は人に拍手を送る時、本当に気持ちが悪くなる」ということを言っていました。自分もとても謙虚にしなければいけない。だから「お前なんかあまり講演するな」と言われています。今日は講演をしていますので、あんまり聞かえないようにしておかなければならないですね。

吉永小百合さんは、絶対に講演はされません。それは、彼女の中に「一生、生徒」というのがモットーにあるんです。「先生」になるということはない。「自分は一生誰かに学び続けて、生徒である。自分が人前で絶対に教えるということはない。だから講演はしない」と常に決めていらっしゃる方です。

渥美 清さんという方も、あのような「寅さん」ばかりおやりになっていたけれども、「寅さん」とは違って、大変に頭の良い方です。あれほど勉強された方はいません。空いている時間には、すべての取材とあらゆる映画を観て、研究をして、それでお客さんと一緒に隠れて観て、どういうときに「笑い」、どういうときに「悲しくなるのか」ということを、物凄く研究された方です。私にもよく言っていました。私、実は結婚していません。彼は「結婚はしないほうがいい。結局、人間はひとりだよ」と変な言葉を残して、私を励ましてくれたこともありました。

これ以外に、俳優さんの映画の中における次のスターは、逆に言ったら、私が今やれることは高倉 健さんや吉永小百合さんの映画を作り続けること。そこへ新しい俳優さんたちと一緒にやっていただき、その雰囲気を感じ取ってもらい、その人たちに説教をしたり、教えることもなく、ただ観てもらうだけ。それによって大きく人は変わっていき、次の映画俳優を目指してもらおう。後輩を育ててもらおう。育てるというのは、「ただ同じようにしていてくれたら、いいんです」ということを言っているのです。

「北の零年」の上映会で、皆さんにも初めてお会いしたのですが、「北の零年」では、渡辺

謙さんとか豊川悦司君とか次のスターたちも、本当に「映画」というものを「こういうものなんだ、こういうことをしなければいけないんだ」ということをすごく感じとってくれて、現在に至り、次へ伝えていこうとしてくれています。

今、私は東映において前半の仕事というか、一つの役割は終わった。今後、やっていくことは「何か」と言った時は、時代劇における「殺陣」を残していく。これは不思議なことなのですが、東映の「殺陣」と松竹の「殺陣」とは全然違うんです。東映の「殺陣」というのを残していく。悪方が必ず目立つために、顔を必ず画面の方に向けて死ぬのが東映の時代劇なんです。少しでも目立ちたい。これは面白いことなんですけれど、斬られた時は必ずカメラの方に行く。だから、前に斬られた奴はこれと同じように死ぬ練習ばかりしている連中がいるんです。こういう「殺陣」の軍団は斬る役より、斬られ役の方が実は難しいのです。斬るのは、斬ってあげればいいのです。相手から斬られる方が大変なんです。どう斬られたかで斬られ具合が分かりません。これを今から、私が後世に残していくために、このような役者を何人か育てていくこと。やはり、そういうことが今の時代劇を残していくことではないかと思っています。

「バイプレーヤー」という言い方はすごく失礼なんですけど、脇を固める人。東映の映画のスタイルは、月形龍之介さんという人とか、進藤英太郎さんという人とか、薄田研二さんという人とか。いろんな他の映画を観ましても、松竹に行きましても、笠 智衆さんとか上田吉二郎さんなどもやっていることはいつも一緒に、演技は全然変わらないんです。どの役をやっても同じなんです。すごく特徴のある脇役の人がいる。今はそれがちょっとドラマでは面白くないですね。だから、今から研修で、いい顔の人間ばかり育てるのではなく、特徴のある俳優を次の世に送り出していくことが、東映における私の次の役目だと思っています。

全然話は違うのですが、前から、私は小泉内閣時代の竹中さんが言い出して「放送」と「通信」の融合をして、いろんな改革をやろうとしている時に、「何を言っているのか分からない、1つも分からない」ということを再三申し上げていた訳です。

「通信」、つまり、1番簡単なのは電話ですね。電話とテレビと放送は、どうして融合する意味があるのか、何故このようなことをする意味があるのか、大変疑問に思っていて、NHK の話をここでさせていただいたことがあります。そのことについて、最近ようやく分かったのですが、結局、アナログという皆さんのご家庭のテレビも、だいぶデジタルに切り替えられところもあると思うのですが、「アナログ」という文字が、画面の上はまだ出るテレビを観ておられる方も結構いらっしゃると思います。最近「アナログ」って、何故か出るんですね。

「デジタル」になると出てこない。まだ、三十数%しか「デジタル」になっていません。大半まだ昔のテレビだと思います。これは、実際にはアンテナからそれを引いて見ていらっしゃるんです。これにはお金がかかってないんです。

今度、実際デジタルになるとどうなるかと言った時に、今、フレッツ光を使っているいろいろ宣伝してましたね。SMAP を使ってフレッツ光の宣伝をしています。これに入りますと実際にアンテナから引かなくてもいいし、今度、デジタルにするにはそれでいいんです。それでいいんですけれど、多分月6千円近いお金を取られるんですね。月々6千円です。これを12ヶ月にするとお分かりですね。テレビは、結構なお金を取って今度は何をやろうとしていたのか。これは言葉に問題があるのですが、「詐欺じゃないの、国の」ということを言い出しているんです。

実際に、無料でテレビが観れていたのに、いつの間にか有料にしていこうとしているんです。

こうやってお金を取ろうとしていることは、今はデジタル化なんですかと僕は言っているのですが、「あまり言わないでくださいよ」と言うんです。まさしく、本当は知っている人がいらしたら、私は「ここでは公言してください」と言って、得な話を1つぐらいは聞いていきたいです。

自分でUというアンテナを立ててもらって、そのUを取れば今までもアンテナを替えて画面を設定すれば無料なんです。そこで「お金を取ろうと、そこで、NHKが乗っかってきてNHKの受信料を乗せて、一緒に皆さんからいただくということが、『通信』と『放送』の融合ということの意味だったのですか」と私は言うのですが「そんな意味じゃない」と言われても、それ以外ないじゃないですか。誰も望んでないですよ。製作側がテレビの中でデジタル化を望んでいるかということ、実は誰も望んでないんです。放送局では誰も望んでないんです。総務省が勝手にやってしまったんです。皆さんの中でアナログが、今のテレビではすごい不満ならばデジタルにすべきだけど、本当にいいテレビで見ると、どれがアナログでどれがデジタルが正直わからないです。「全然変わってないじゃないですか。ただ変わるのこれは一体何なのですか」と言ったときに、お金をうまく取ろうと思って知らない人から、そういうフレッツ光とか使って、ケーブルテレビも一緒になって「ケーブルテレビに入ればそういうのは全部出来ますよ」「マンションはケーブルテレビが入ってますから繋ぎましょうよ」と皆にそう言うんですね。でも「自分でやりますよ」と言ったら、1番最初はアンテナだけで、実際には安いところへ行くと5千円で売っています。立てるお金があったら立てておけばそれでいいはずなんです。

「あらゆるものが、観れなくなりますよ」というけれど本当に見たいものって少ないものです。家では商売上、全部入れています、400チャンネルあっても本当に観たいものは1つもないです。結局は、NHKのニュースを観たり、野球を観るときはスポーツチャンネルを合わせるだけで、ソフトが不足しているんです。そのようなアンテナばかり増えて、チャンネル数ばかり増えて、実際にはデジタルとアナログの大きな違いは何かと言ったら、線を送っていくうちの3分の1で済むんです。だから、他は余ってしまうんです。その余っている線を国としては後でいろんなところに売ってるんですね。

でも、今に電波障害というのがあって、何かの後遺症が起こるんじゃないのかと、私は相当心配しているんです。本当に、あらゆるものに電磁波というものがあまして、昔はなかったわけですから、本当に文明が進むと同時に、何か人間は変わってきたり、例えば、人間だって昔、尾っぽがあったわけです。多分、それが段々いらなくなる。退化してきたのか、いらなくなったのかは別にして、人間というのは進歩しているところも退化しているところもすごくあるわけですね。この間、アフリカのニカルさんという現地の人が、よくこっちに来ていました。上からコーラ瓶で落ちていくCMで有名な方でしたが、お亡くなりになりました。けれど、彼はもともと原住民としてアフリカへ戻って生活してたんですが、彼の視力は6.0だったんですよ。日本で測ると我々は1.2が正常ですね。「1.5見える人は凄いとされているのに、6.0というのはどういうことなのですか」と言うと、カメラで写しても、テレビで写しても、誰が見ても見えないのに、ずっと先の4キロ先のキリンが1匹いるの見える。物凄い目をしている。

つまり、生きていくために目が良くないと、昔は襲われた訳です。ライオンがいたりして、襲われたわけです。人間は目がもともと良かったんです。目が見えなくても襲われないし、い

らなくなるからどんどん退化している。我々なんか成長しているだけかもしれないけど、すごく後退しているところもあり、やはりこの電磁波を含めて、我々も、やはり変わっていけばどうなるのか、検証していかなければいけない時期に、かなり入っているのではないかと思います。

それとは別に、自分で電気屋さんをご相談してやった方が私は得だと思っんですね。私の家ではそうやったんです。私は、よく研究して知っていますから、家で1本アンテナを立てて、ご近所の人にそこから分けてあげたんです。これは犯罪じゃないですから。ここにあまり法律がないんです。でも、その方が周りの人たちにはいいかなと思っんです。

先ほど映画のことをちょっと話しましたが、最近、若者の映画を観ていますと、若者がテレビの方がいい、映画を観たくないんだという若者が、実は、増えているんです。観客がすごく戻ってきてくれたのは、皆様方のような壮年の人に映画を観ていただけるようになったんです。それで観客も増えてきたのですが、若者自体は、実はあまり増えてないんです。増えてない理由は、1番最初は携帯にお金がかかるからと、他にいろんなことがあるからだと言っていたんですが、実際はそうではないんです。彼らには、これだけメールにお金を使っているんだから映画に使うくらい屁でもないですと言っんですね。

何がいちばん問題なのかと言いますと、2時間メールをしないていることの苦痛感から、もう耐えられないって言っんです。仲間とメールをやっていて、すぐ返事を返さないと仲間はずれになってしまうんです。2時間メールを切っていると、イラついてどうしようもないということなんです。

私は、実は、1年半前にタバコをやめたんです。それまで物凄く吸ってた男なんです。3ヶ月ぐらい自分で喉をかきむしって我慢したんです。ある日突然、気にならなくなったんです。中毒ってこういうものなんだと自分ですごく感じたのですが、今、若者は、ほとんどがメール中毒に入っているんです。このメール中毒って奴は、かなり集中力とかいろいろなことを奪って、人間は15分間テレビを観て、CMになるとメールを送ることが流行ってしまっんです。15分間の集中力はあるんですけど、30分、1時間の集中力は自分達にないのだと思っんです。それで、ストーリーを追っていくのが大変で、物凄く簡単なもの以外嫌になってしまっんです。それで、私の世代は安保だったり、正直な話、アメリカに付いて行っていいのか、かなり反米主義的な思想をどこかに持っていた世代だったんです。次の世代には、全く親米の世代になりました。今、次の世代でも学校ですべて英語が大事だということで、かなり学校で英語を教え、塾に行っても英語を教える。すごい勢いで英語をやっています。

映画を観ていて面白いことがあるんですが、字幕版といって英語でやって、画面の下に日本の翻訳が出るのがほとんどの外国映画で、皆さん、外国映画を観る時はそのように観られたと思っんです。それが、最近吹き替え版といって、日本人が日本語で訳した方が、若者の間では観る人が圧倒的に多いです。何故かと言ったら、どこに行ってもここに行っても「英語、英語」と言われて、遊ぶ時ぐらい英語から離れたいと言っんです。もう、英語が嫌だっんです。日本語は永久に残ります。日本人もその若者も、英語に変わりたいと思っないです。それでいて英語、英語って言うのはちょっと考えものの、時代に入っています。映画から観ているとです。

これだけ若者の間で言われてみると、テレビで今、皆さん達、外国の映画もテレビで時々ご覧になると思っんですが、英語のままやっていて、下に字幕が出ているテレビは1個もないで

す。全部吹き替えています。全部日本人が日本の言葉で言っています。「何故、テレビ局はそのまま流さないんですか」と言ったら、「圧倒的に、お年寄りの人たちはこっちの方を喜ぶからです」と言うんですね。ということは、向こうのスターの声でやっていたり、英語でやっていたりするの、もう誰も望んでないのかなという具合に、今、私は考えていまして、今後大きく変えていきたいと思います。やはり、世代と共に、私は「おかしい」と思うことは絶対考え方として持たないんです。

映画をやっていてつくづく思うのは、今、「若者はこうだよ」「世代が違うよ」「そんなことしちゃいけないんだよ」「携帯でメール中毒になってちゃいけないんだよ」と、そういうことは全然思わないところ。あの中毒になった人たちが、映画を観るためにはどうしたらいいのかということしか考えないんです。皆さんたちの考え方を常に肯定するんです。

我々が今、計画しているのは、15分で終わる映画です。いわゆる何でも私たちの考え方が正しいんだということではなく、次がこうなってしまったら、それにあわせていく。皆が思っている方に合わせていくのが、我々の主義なのです。

ですから、我々の業界は面白いのですが、自民党がいいと思っている人もいなければ何もありません。次、民主党の方がいいならば皆、民主党の方に行っちゃう。あまり思想がないんですね。やはり、大衆の望んでいるものが「何か」というものを我々は考えていきたいと思うんです。

私のところでは、映画でいろんなことをやっております。その中で「仮面ライダー」という映画をやってます。仮面ライダーが我が社の大きな収入源で、皆さんに大変愛されています。それで、2年前にある特別な、ちょっと変わったプロデューサーが「仮面ライダー」をやってこれが大ヒットしました。これは「電王」と言って、「仮面ライダー電王」というのですが、実際に観てすごくびっくりしたんです。「仮面ライダー」なのに、オートバイに乗らないで電車で出かけて行くんです。これは、皆さん観た事がないとわからない。僕はびっくりしちゃって、「こりゃなんなんだ。おまえ、仮面ライダーじゃないのか」「違う、今からはこれだ」と言うので「勝手にやれ」と言って「こんなもの、承知できないよ」と言ったら、これが大ヒットしてしまいました。

今、若者の中で車はいらぬ、電車で行くんだというのが東京なんかでは流行りになって、どっちが先かはわからないんですが、大衆が望む方向に向かうって言うのは、我々映画人としては媚びてるわけではなくて正しいと思うんです。「大衆が何を望んでいるか」ということは非常に難しい。それはなぜかというは何も望んでないからです。たまたまあったものを面白いと思えば来るし、面白くなければ選ばないだけだからです。

今ここにいらしている方では、ご父兄の方が多いと思うのですが、子供さんたちに「君たちは何をやるべきか」「どういうものをやるべきか」「今、君は何を本当にやりたいのか」「どこに就職をしたいのか」「どういう専門でやりたいんだ」といろいろ説教される方もおられると思います。

「やっぱり、やりたいことをやりなさい」これは簡単なのですが、やりたいことがないのが若者なんです。決まらないのが若者なんです。公はこっちに向いているんだということを言って、おだててやって、そっちへ向けていく方法しかないんですね。自分でも分からないんです。自分で何に向いているのか、自分のことが一番分からないんですね。ただ、陸上やっている人間なんかはわかりやすい。水泳やってる人間はわかりやすいですね。だってどんなことがあっ

ても12秒で泳げる人と、15秒でしか泳げない人、これには差があるわけですね。

こういうメーターが出る奴はすごく分かり易いんですが、「君はね、営業に向いているよ」とか、「君は経理に向いている」とか、「いや君はもっと別の作る方に向いているよ」と言われても結局わからないんですよ。今、若者は少し後ろにいるみたいだけれども、わかっている人は誰もいないんだと思います。あんまり心配することはないです。

私も今、我が社の就職試験がほぼ終わりました。おおよそ採用を決めたところですよ。大抵、「映画作りたから来ました」と皆、言います。我が社にも採用されるのは大変なんです。「映画、本当に作りたいの」と聞くと「作りたいです」と言うのに、「じゃあ、おまえ、他の部にまわされたら辞めるか」と言ったら「やります」と言うんです。「何のために、ここへ来てるんだ」「何、うちは給料が少しはましかからやるのか」という話になると、「いや、よくわかんないんです」よくわかんないのは、それは僕は落とさないといいですね。よくわかんないんだと思うんですよ。でも見ていて明るければいいか、とかそういうことで決めるんです。

だから、最終的にいつも思うのですが、わが社でも3千人近くの人が応募してくれて、10人が15人くらいしか採らないので、大変な激戦区なんです。選ばれた人は幸運で、落ちた人はいい加減だなと。選んでいる方はその場の雰囲気を選んでいっているんです。だから、本当にテストの点で採るのは学校かもしれませんが、テストの点の良い人がイコール会社ではすべて有能の人とは限らないです。それは確かです。

そんなことはさておいて、少しは今日の映画のことも話さないと、時間がなくなってきました。

今日、「劔岳 点の記」の映画をやりますが、この映画はどういうところに位置しているかといいますと、今日はデジタルの話は止めましたが、映画において、先ほど言いましたが日本映画が大きく伸びたのはデジタルを採用できたからなんです。デジタルでいろんなものをやれるようになったんですね。人と人がぶつかったり、車と車がぶつかったりすることも、今、全部どんなものでもデジタルで出来るようになりました。

実際、怖いことしなくても駅に何か突っ込むということも全部データで出来るようになりました。古い建物も全部データで作れる。それ以外にデジタルの効果というのは全部この映画に「革命」を起こそうとしております。明らかに「革命」が起こっています。その中で、この「劔岳 点の記」というのは最後だと思っておりますが、デジタルを1つも使っていない。本当に、自分達で山に登って、頂上まで行くのですが、今の技術では、頂上まで行かなくてもいいんです。それ以外に、先程言いましたように、デジタルでやれるんですね。人をごまかしていくぐらいなら、何とか上手く出来るんです。

この木村大作というカメラマンは、それを一切せずに、全部頂上まで大勢の部隊を率いて登って、そこに行ってワンカットだけ撮って帰ってくる。雪がありますから、もう進む距離は限られていますよね。それで香川照之という役者が出ていますが、香川君が朝4時に起きて、6時間歩いて、10時になって、そこが天気が悪くてこのまま帰ろうかという話になった時に「今日、私たちって何してるんですかね」と一言いいたら、周りの人間、疲れちゃって皆、大笑いになって、時々あるでしょ、疲れてキレちゃうということ。皆、笑いだして笑いが止まらなくなっちゃって「こんな馬鹿々々しいこと、皆よくやってるね」という感じなんですね。そうやって作った映画なんです。本当に苦労したんです。

実際には、木村大作はあまり言いたがらないのですが、かなりの大怪我した人間、つまり落

石などいろんなことがありました。大変に苦労して2年半かけて山に登って、1日撮れる量って限られているんですね。山の上に登るだけでも大変なことで、大変な山の撮影だったから、ものすごく大変だったんですね。簡単に山に登れたら、別に地図を作るのに、明治38年まで誰も登らなかったということはない訳ですから。実際には、この話の最後はどんでん返しになりますが、それは、観ていただいた方がいいと思うので、ここでは言いませんが、苦労して作った映画です。

何で苦労かと言いますと、これは69歳の監督が本当に1人で山に登って一生懸命やってきたんです。「アナログ」という言い方は変なのですが、全部フィルムで、本当にそういうデジタル機器を使わなかったんです。先程のニカワさんの話と同じように、本当に、昔の人間の最後の作品だと思って観てやってください。エネルギーがすごく出ています。「本当に苦労して撮った作品」というのが、すごくよく出ている映画だと思います。

「映画」というのは人の熱を伝えます。「テレビ」というのは、作っている人の熱を絶対に伝えないんですね。これは不思議なことです。映画に接していると、これを作っている人間たちがどこまでやる気だったか、どこまで頭が狂っていたか、どこまで一生懸命やったかということが意外に出るんです。私は、「一生懸命やる」という言葉はおざなりですが、すごく大事なことだと思います。

この映画から、そこだけを観てやっていただければ、木村大作に成り代わって、大変に厚く御礼申し上げたいと思います。

今後も皆様にお会い出来る機会があって、沢山のいい映画、そして面白い映画を、私がおこに来てお話をさせていただいて、観ていただく以上、映画とは何かって、それは、勉強するためにあるものではなく、皆さんに楽しんでもらうためにあるんだよ、ということをお伝えしておきます。

難しいことはあまり言いたくないのですが、少し文化に触れるとか、少しでも何か熱があったものとか、歴史的なものとかそういうものをお届けしたいと思います。

この映画は、富山県の山の映画であります。秋田県で「釣りキチ三平」で何か出来たら、またやらせていただきたいと思います。その時は、また応援よろしく願いいたします。

こういう映画を観て、少しは映画を観ていただきたい。やはりビデオとは違う、DVDとは違う、テレビとは違う、何かを感じていただければ、映画人として大変にうれしい限りです。

どうも長い時間、くだらん話ばかりですみませんでした。(拍手)

橋 元 岡田裕介先生、素晴らしいご講演を、誠にありがとうございました。

休憩を挟みまして、「劔岳 点の記」の上映となります。どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみください。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「2009年の政局展望と壊れてゆく日本」

講師 白鷗大学法学部・立命館大学客員教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福岡 政行

司会 ノースアジア大学総合研究センター長・経済学部教授 藤本 剛

日時 平成21年5月8日 午後1時～2時30分

会場 明德館ビル2階 カレッジプラザ講堂

藤 本 皆様、本日はノースアジア大学総合研究センター主催のシティカレッジにおいて下さいます、誠にありがとうございます。本日、司会役を務めさせていただきます、総合研究センター長の藤本でございます。どうぞよろしくお願いたします。

国政選挙を間近に控えましたこの時期に、まさにタイムリーなご講演をお願いいたしております。本学総合研究センター客員教授として、これまで数々の示唆に富むお話をご教授いただいております、福岡政行先生より「2009年の政局展望と壊れてゆく日本」と題するご講演をいただきます。

先生のご紹介は申し上げるまでもないと存じますが、政治学者としてご高名でいらっしゃるばかりではなく、現場を踏まえました具体的な方向をお示し下さる点でも、また、若者の国内外のボランティア活動や自主ゼミナールなどのご指導を下さる実践活動の面でも、意欲的に取り組んでいらっしゃる、本当に素晴らしい先生でございます。

5年目を迎えました本学のシティカレッジでございますが、本当に皆様のご支援と、また、福岡先生のお力をお借りして育てまいりました。この場をお借りいたしまして、改めて感謝申し上げます。本日のご講演では、政局と我が国の社会の今後について、私どもが判断する上で、貴重なお話が伺えるものと楽しみにしております。どうぞご静聴いただきたいと思います。それでは福岡先生、よろしくお願いたします。

福 岡 まず、この数ヶ月の話をしますが、前回触れたように筑紫哲也先輩が亡くなりまして、全国各地で追悼の偲ぶ会をやりました。仙台までやりまして、あと大分県、青森大学、富山県の魚津社の夢、早稲田大学、そして立命館大学等でやりました。それにほとんど参加をして参りました。最後のメッセージは、最後の「ニュース23」の多事争論の中にある、「最近の論は浅い、いわゆる議論というものが非常に浅い」というその言葉が、遺影の脇にずーっとありました。そのことをまずお話すると同時に、もう1つは、最近、この胸につけているバッジをテレビに出る時も付けておりましたところ、みんなから「なあに？」と聞かれるので一応コメントするのですが、レスキュー犬とセラピー犬でありまして、このレスキュー犬とセラピー犬の1ヶ月の食事代が6万円位かかります。全部で50頭位います。その食事代を、なんとか私たちのボランティア団体が、バックアップしたいという風に思っています。

それから、3月に、エイズで生まれた子供達が、捨て子になっているというカンボジアの方に、学生達を連れてボランティアに行っていました。筑紫哲也さんと難民を助ける会の会長で日本のボランティア団体の草分けである相馬雪香先生、相馬藩に嫁がれましたが、尾崎雪香という尾崎号堂の三女で、日本のボランティア団体の草分け的な方です。旧姓尾崎雪香、この方も実は筑紫哲也さんが亡くなった翌日に、私たちのアシストジャパンという団体の代表と副代表が立て続けに亡くなりました。代表には特捜地検特捜部長の河上和雄先生になっていただき、副代表は私と駒澤大学野球部元監督の太田誠監督、中畑 清の3人です。私は事務局長をやっておりますが、私の事務局がスタッフをしています。昨年ちょっとお話ししましたが、吉永小百合さんの着物がまだ1着100万円もします。日本生命の講演が来週仙台でありますので、そこに持って行って、1円でも高く買って頂こうと思っています。一応、ニトリの社長が100万円で買うということになってはいますが、100万円では足りないので、ノースアジア大学の学生を採用してほしい、という風に条件を出しています。

本論に入ります。まず、序論、昨日の夜、着きましてニュースを見ていたら、近々秋田県の

人口が110万人を切るらしい。ですから、子供が生まれるのも少ないですけれども、これも時間の問題で、いわゆる県外へ出られる TDK を含めて、様々な問題があるかと思います。ノースアジア大学の客員教授を引き受けて、今年で5年目になりますので、何とかこの問題について、集中的に今年の秋、やっていきたいと思っています。

もう一つ、今年の国の税収は43兆円位だという風に思います。ところが、去年は1番良い時でしたが、53兆円もありました。今年はまだ分かりません。おそらく、43兆円まで、去年の年度末には45兆円位まで減ったのですが、さらに43兆円になってしまいました。国債の発行がおそらく44兆円の補正予算が通りますと、つまり借金の方が税収よりも多い、これが2009年の政治であるということでもあります。

公務員の6月ボーナスは、昨年12月のボーナスよりも1ヶ月減というか、そういう風になるそうです。だけど、どう考えたって50何兆円あったのが43兆円ですから20%近い減収です。借金の国債を発行すれば済むことですが。日本という国の人口が減ってきたという問題と同時に、とにかく大変な借金大国であるという、こういう時代を迎えて2009年が始まったということです。

1番目、froth、この英語はちょっと難しいです。同意語はバブルです。このfrothという言葉は、ビールの注いだ時に出てくる小さな泡をfrothといいます。このfrothという言葉は、たまたま3ヶ月くらい位前に読んでいた本の中に、2005年6月9日、グリーンズパンとは、当時アメリカの連銀というかアメリカ銀行の総裁、日銀総裁みたいな人ですが、このグリーンズパンが、「全国各地の経済金融情勢をみるとfrothが見られる」小さな泡が、あぶくがバブルではないのですが「小さな泡が浮かび始めている」というコメントを議会証言の中でしています。これは、これからどういうふうに先を読むかという問題です。

そして、この講座で何度もお話したNHKドラマ『はげたか』、2年前の2月、3月頃にDVD発売と、この連休に、NHK総合テレビで朝3日間に渡り、柴田恭兵さん主演で6時間のドラマを放送していました。2年前に、この映画は大変な映画ですよという話をしました。当時、森田実さんや高木先生や何人もの政治評論家や経済学者が小泉内閣の本当に最後でしたが、実を言うと郵政民営化に反対をする人達や、アメリカの手先の、いわゆるお先棒を担ぐような小泉や竹中や中谷巖先生の本はジュンク堂に行ってみてきましたが、山のように積んでありました。ついに20万部出ました。なぜ資本主義は自壊したのか、自ら壊れたのか、中谷巖先生は、はしりがきという序文の中で、懺悔の書である、私が新自由主義経済構造改革を推進してきたことは、間違っていた。格差を生むだけだった、世界を幸せにしなかった、と述べておられます。そして、3月に発売された月刊『文藝春秋』の中で、竹中君、僕は間違っていた、一橋大学大学院の竹中の先生だと思いますが、それだけの人達が、ここに来て反省をしたのは、全て昨年触れているリーマン・ブラザーズ、中身のない、もう無くなった、投資銀行というのは証券会社みたいなものです。その実を言うと、frothが浮かび始めていると2005年6月9日のアメリカの議会でグリーンズパン議長が証言をしている。当時、私も聞いていませんでしたが、そういうように予言をされている。この人が100年に1度の危機であると、この1年くらいから言い出した。そして、こんなに苦しいこれが今の状態です。

昨日、新潟から電車で秋田に入り、最初のかほ駅で停まったが、駅前の静けさはTDKを含めて、やっぱり事態が極めて深刻であるということを感じます。名古屋で4月中旬に講演をしました。トヨタの執行役員をやっている後輩が来て、本来ならば先輩を夜の町にお誘いしな

ければいけないのですが、こういうご時世ですので、と言って2人で味噌煮込うどんだけを食べました。それでも4千円もするのですが、稲庭うどん位は安いと思っています。

このような状況が全国津々浦々で起こっています。株は昨日上がりました。だけど、どう考えてもアメリカの銀行の不良債権、自己資本の減少、そして、今日密かに出ている日立の7千何百億円というこの赤字はやはり大きいです。なんだかんだ言っても結論は、シュリンクします。おそらく、去年の今頃の七掛けか八掛けにしない限り、企業、秋田県、秋田市では、多くはこの半年以上、苦しい状況になります。

例えば、セブンイレブンさんもコンビニ弁当を夜、賞味期限が切れるのは何時かわからないけれども、売りに出す事を決めた。夜の8時まで晩飯を遅らしても、その時間まで待てばコロッケが少し安くなるか、弁当が200円になるかは分かりませんということです。

スターバックスコーヒージャパン（株）が大変だというニュースが、昨日流れました。スターバックスのコーヒーは、おそらく300円以上だと思います。だけど、マクドナルドでコーヒーは0円でハンバーグ百何十円だったら、300円でコーヒーとハンバーガーが出てきたら、どう考えたってマクドナルドに行きます。

アメリカがいろいろ良くなったというようなことを言っていますが、1点だけ触れます。この間、金融関係の後輩とホテルのロビーで会って、ちょっとお茶をしました。「先生、アカデミー賞を見ましたか」と聞かれました。見ていませんでしたが、スラムドックミリオネアという映画が賞を取ったらしいです。そういう話をしました。あのミリオネアというゲームは、みのもんたが司会をやっていますが、日本で始まったわけじゃないんです。あの映画というか番組では、最後に「ファイナルアンサー」と言います。いいですか、もう最後の答えですよ、ファイナルアンサー、「先生、今の金融危機はファイナルアンサー・イズ・ノーアンサーです。答えはない。どこまで広がっているかわからない」と後輩が言うのです。

今、平沼赳夫先生と大蔵官僚数人は、赤字覚悟でもやらなければいけないことがあるはずで。これは、私の自主ゼミナールの時間に、ある社会人の学生が「先生、赤字覚悟だってやらなければいけない教育や医療や介護というものは、計算上できなくなるとやるしかない」と言う。授業やゼミナールの時は、私は社会人であろうと大学のゼミ生のコメントであろうと、その言葉が非常に印象的だったので、勿論メモをとりました。

その時に東大法学部、麻布高校出身の大蔵官僚が、「先生どうして金融工学って生まれたか知っていますか」こういうふうを書いてある。だから、金融論と工学というか、なんか数学系が一緒になったのだろうという程度の認識。簡単に言えばロケット工学なのです。

1990年代に入って、アポロ計画というのは一度大失敗をして、なくなった栄華がありました。18号でしたか、今も宇宙ステーションに日本人のどなたかがいますけれども、ほぼ牛咳に完了している。アメリカの軍事産業と宇宙ロケットですから、宇宙工学です。もう軍事も限界にきているので、理科系マサチューセッツやいろんな優秀な大学の理科系工学部の連中達は、就職口が半減した。そこで、優秀な奴らはみんな背中にリュックを担いで、ヒッチハイクでニューヨークに行き、先輩達を尋ねるわけです。「おまえら、ロケットが飛ぶような、儲かる金融商品でも考えたらどう？」実を言うとこんな話が出てきて、金融工学というものが生まれた。

ロケット工学、レパレッジというのはテコですよ。その東大法学部出身、日本有数の麻布高校から現役で来て、東大を出て大蔵官僚になった後輩が、「しかし、先生、日本人でサブプライムのあの中身の全てが理解できる、いわゆるそのファンドの中身ですね、デリバリーとい

うやつですが、それを理解するには100ページ以上の数式を解けないと全部わからない。これが解ける人間は世界に一桁しかいない。

一桁と言うのは9人以下、日本人はいない。中国人が1人、ハーバード、MBAを出た人、インド人が2人、あとはウォールストリート周辺に居住している人達」こういう風に言う。「えー、お前でも解けないのか」文化系の数学ではもう3ページ位でだめなんです。Ex + 3y 2zか、分からないけれども、そんな程度じゃもう全然だめで、日本で解けるとしたら、おそらく高橋洋一だけかもしれない。最近、お風呂屋さんで時計と何かを盗んだとかいう人ですが、温泉の脱衣所に防犯カメラはないでしょ。あるわけないですよ、男はどうでもいいけれども、女の人は困ります。しかし、なぜ彼が犯人だと特定されたのか、お金には全然困りません。彼が書いた『さらば財務省！』という本は15万部売れました。東洋大学の教授です。講演も相当していますということで、分かりません。

だけれども『さらば財務省！』といった本、中谷 徹達と一緒に日本を悪くしたのは、霞ヶ関であり、大蔵省であるという本がバカ売れした。植草の事件とは別ですが、何となく裏があるのかなと思いつつ、本人は、意気消沈で家から出られないらしい。勿論、悪いことは悪いですから、それは後から、警察と検察の話をしますということで、金融工学は、そうやって生まれて100ページの数式、高橋洋一は東京大学の数学科を出た後に、経済学部で学士入学をして、大蔵省に入り竹中平蔵の手先になってあの改革をした人間です。小泉さんの後任の人達に嫌われ、揚げ足で民間に天下って、あの本を書いたということです。今日、それはもうそれだけにしておきます。

それで、そう言うようにわからない。だから、今のところ残っているけれども、正月の講演でふれたように、やっぱりピックスリーが1つにならない限り、アメリカという国はおそらく残れないというのが、今日のGMの赤字の問題、あれだけやってもまだ赤字です。だったら、クライスラーも殆ど終わった。GMももう時間の問題かもしれない。あと、残るのはフォードだって内容は良くない。今日のニュースで、アメリカの金融機関がいっぱい借金があると書いてある中に、GMなんとかという金融機関が入っています。これはGMの金融機関なのです。ですから、みんなでそういう風に、いいようにやってアメリカという国から発したグローバリズムが世界をでたらめにやってきた。

100ページ以上の数式、レバレッジは、最後100倍近い金額を100万円捨ててもいいという人があったら、1億円の勝負ができることです。もう負けたら、その時逃げちゃえばいい。けれども、ゴールドマン・サックスの原油は必ず100ドルの時代が来るというのを、30ドルでみていたら1億円で勝負してみる。それが、去年お話した4月の環境サミット、洞爺湖サミットの時に原油1バレルは152ドルをつけていた。30ドルで買って、そこで売っていれば5倍だから、100万円で1億円の勝負をして、5倍ですから5億円です。1億円は元金ですから、返して4億円になるという話です。

そういうようなことが、利益率リターン30%ということで4千億円の退職金、ボーナスを貰ったリーマンの社長達がみんな辞めていったという中で、日本が苦しんでいるということでもあります。これがいわゆる、frothが見られると4年前のこの段階で、もうアメリカの連銀のMRDのグリーンSPANが語っていて、今頃、100年に一度の危機だとかふざけんじゃない、お前がやったんだろう、それは水をかけるぐらいはしたほうがいいのではないか、ということでもあります。

最後にもう1点、ニューヨークにMBA、大学院の経営学修士ですね。ハーバードや、ニューヨーク大学の大学院の経営学修士号をもった人間しか入れないクラブやレストランがあるということ、証券会社の専務の後輩に言った。「そりゃあ先輩、して筋ですよ」、そこに、秋田のノースアジア大学のMBA、何とか先生、ゼミ生のOBが集まる。モルガンスタンレーが、メリルリンチが、いっぱいある。ゴールドマンだ。「今度はおまえんとこ、何をやる気なの?」「わかんないけどさ、サブプライムはもう終わっているから、次はまあ原油先物かな」と言って、「うん、そうかもしれないね」って言ったら、して筋って、そうでしょう。どこで勝負する。それがいろんな金融機関で、みんなあうんの呼吸でやりだす。そういう人間しか入れない。

2番目、日本の政治ですが、コメントのしようがないくらいにうんざり。そりゃあ麻生さんも言にくいけれども、はしゃぐ理由は全くない。何でそんな偉そうに喋っていきやいけないのか、「そうでしょう?」昨日だって、子供を産むのが義務だとか言って、誰かがあわてて注意して、あわててそれを直す必要があるとかないとかは言わないけれども、それはさまざまな健康上、肉体上、言ってもいいのは2人何とか産みました。この程度の問題だと思えます。

で、小沢一郎、私は先日、1ヶ月ちょっと位前にかなり激しく小沢一郎を演技でもって、本気ではありませんが、たまたまいた民主党議員が、3人後輩と教え子だったということもあり、「お前らふざけるな!」と、かなり激しくやりました。五十何通も、なんでこんな奴を教授にしておくんだと書かれた抗議書が白鷗大学に来ました。立命館にも来しました。ノースアジア大学には来ないと思えますが、来ていたらお許しをいただきたい。うちの事務所にもせっかくここまで来て政権交代になろうと思っているのに、と言う抗議の電話です。本当は民主党系じゃないんです。あの座る位置が阿川さんの左だから野党系だと思われているけれども違います。そう思っていたのに、ここまで来て小沢がそんな悪い事をしていたかどうかなんて、昔から私は分かっていますよ。分かっていたって、やっぱりここはけじめをつけるというべき論を、私は意図的に怒ったふりをして、正論で4分位喋った。しかし、抗議が来た。テレビってそういうものです。

だけど、3億円も同じ企業から貰っていたら、それは、やっぱり何かあるだろうと思うのが人情だし、言いにくいけど、政治資金で十幾つもの不動産を持っている政治家が政治家を辞めた時は、政治資金で買った不動産は全部個人所有になる。今まで、彼はそれを留学生の為に、中国人留学生の為に寄与すると言っているが、それは勿論、分かりません。だけど、それだったら、けじめをつけて議員バッチはともかく、代表を辞めるべきという論を言った。そうしたら、これだけの相当な反発です。それを見た時、私は後で触れますが、政権交代は起きる。やっぱり国民の中に1度、とにかく替えなきゃいけないという意識が強いことを感じた。裏切ったわけじゃないのですが「福岡はなんでこの期に及んで、そんなことを言うんだ」と言われたわけです。

私からみると、代表を岡田克也にして、長妻 昭を幹事長にして、枝野だとか他の人間を何とか政調会長にして、世代交代をして、ゼロから始めますと言ったら、それの方が遙かに民主党にとってはいいだろうという風に関係者には言っている。たまたま、教え子と後輩だったから怒鳴り上げた。ちょっとかわいそうだったけれど。

それは、麻生も麻生だが、小沢も小沢です。しかし、自民党に、変わるべき人間がいない。今、もう政治家の国会議員のポスターが6ヶ月前なのでツーショットじゃないといけない。と、誰かと2人でやる。なんだか自民党は舛添要一氏とか、ねえ、新潟でも舛添要一と誰か候補者、

民主党は分かんないけれども、小沢一郎なのかもわかりません。というようなことになる。じゃあ、今更、舛添要一なのかということもわかりません。それは、薬害関係の方々もお手伝いしている。草の根分けても、最後の1本まで、探し出して、薬害肝炎患者と疑われる人のことはやりますと言って、途中でなんとなく放り投げている。『やるやる詐欺師』みたいな、年金だってそうですよ、というようなことです。そんなにすごいかなあという感じもするし、民主党だって小沢以外に誰ができる？できないと思います。

岡田克也は、所詮ジャスコ・イオンの御曹司だから、東大を出て、通産官僚出身だけれども身は綺麗です。ジャスコの前で演説しないのだから、偉いでしょ。それで、誰か、例えば「ジャスコを紹介して下さい」と言うじゃないですか、「そういうこと、僕はできないんです」と話します。嘘でも、自分はできなくても誰か関係者がちょっと言うとか、せめて、はじっこで演説するとか位はやってもらいたいと思うが、そういうようにはっきりしている。とても日本国のリーダーにはなれないが、そういう人がなったほうがいいかな、なんて思ったことがあるということです。

大学の後輩で、ミッチーさんの秘書であった渡辺喜美も、1月に私の事務所に突然来た。「先生、10分後に江田憲司が来ます」2人で自民党を出て、新しい政党を作りたい。なんかよく分からない、ナビゲーターとかになってくれという話で来ていた。どっかに出たら、また自民党から抗議が来た。何となく「自民党もだめだが民主党もだめで、もう1つ何か気の利いた政党ができないのかなあ」という人がいる。「次の総理大臣に誰がいいですか？」「ふさわしい人がいますか？」と言ったら、69%の人が「いない」と言う。つまり国民の半分以上は自民党、民主党以外でと思っている。じゃあ「先生、誰がいいのですか？」と聞かないで下さい。いないのだから。私は、オバマかサッチャーがいいと思うのですがけれども、日本国籍が無いらしいです。そうするといない。でも、消去法で決めるしかないという風に思っていますが、それ以上コメントしません。

私は、公平普遍不平等を一応貫いて来たので、お気づきのように『週刊朝日』と『週刊ポスト』に前回の参院選以降、1回だけ出しましたが、去年の夏以降は出していません。年末年始、このゴールデンウィークと5回頼まれました。1回あのようにやれば、何十万円のお金をくれますが、そんなことはやめて、天皇賞できちんと取りました。

そういうようなことをやらないと日本の国は政界再編だと思いますが、次の総選挙で変わらない。やっぱり、もうだめかもしれない。自民党にもいい奴はいる。民主党にもいい奴がいる。無所属にもいっぱいいる。この連中の大同団結で、平沼赳夫先生の本のある行に、自分は平成の坂本龍馬になりたい。自民党、民主党云々と書いてある。そこで、そういうことができるかどうかですが、誰かが私に、黙って10億円をくれたらできるかもしれません。やっぱり新しい政党を作るには、恐らく鳩山兄弟はお母様の株券を担保に、銀行から借りなくても貸してくれますが、恐らく民主党結党の時はバックアップした。だけど、それも、政党になって補助金が出たから回収はしていると思います。そういう事を含めて自民党も民主党も、後で議論になるかどうかわかりませんが、世襲はイギリスでは廃止され、チャーチルは違う所から出ました、ということです。やっぱり同じ選挙区で同じ名前の何親等以内の人は出られない。賛否はいろいろありますが、いいのではないのでしょうか。一応、秋田県以外ということです。

そこで、企業献金として金額はわかりませんが、10万円以上貰うとちょっと義理があるかな。5万円位なら何とかすぐ返そうと思えば返せるから、だったら10万円以上の企業献金は無しと

か、個人献金はオバマのように千円からだといいと思います。1円以上は10万以下でも名前を公表するというようなことを含めて、世襲議員をどうする、企業献金もどうする、後期高齢医療をどうする、障害者自立支援法をどうする、みんなで決めて、そういう議論をするのが恐らく1番いいだろうという風に思っています。

3点目、日本の検察と警察についてちょっと言います。小沢スキャンダルの時に3月3日、東京は雪でした。あの建物に東京地検の奴が、キャメルのオーバーを着た、カッコつけた奴がいて、どうでもいいのですが、まだ覚えていると思います。まあ、4、50万円でしょう。あれは、あの野郎、何をやってるんだろうと思いますが、一応あれが主任だそうです。あの建物が黒川紀章の設計で、若尾文子さんがpenthouseにいます。小沢一郎の事務所は、4階か5階ですが実を言うと、彼の事務所に行ったこともあります。私も一時期住もうかなと思ったのですが、住人の名前を見たら変な人ばかりだったので、こんなところに来たら大変だと思ってやめました。

あの日、家宅捜査が行われたとほぼ同時に、東京地検が小沢一郎の秘書を逮捕した。普通は時間差でしょう。ところが、あの秘書のことを知っている私たちは、彼は小沢命、入れ墨は入っていないとは思いますが、その位の人です。それは政治家として鏡のような人物である。まず喋る訳はない。そしたら、東京地検周辺からリークがあった。彼をその前に呼んだのです。呼んで必ず、お茶を出すのです。指紋を採るのかは別にしても、お茶を出した時、そのお茶を持った手が震えたとか言って、だから、万が一のことがあったらいけないので、逮捕したという話も流れた。これには前段があります。今日、時間の関係で端折ります。

2月の下旬、長野県知事の秘書が元々国会議員の方で、県庁の参事になっていた人ですが、秘書を辞めてそのまま私設秘書みたいに入った。秘書が朝11時、飯を食いに出ると言って、出かけて行って4時頃、県立長野何とか高校野球部の選手が裏山のグラウンドに走って行く時、電柱で自殺をされている元秘書を発見した。県庁を出て3、4時間です。この人が、やはり西松スキャンダル事件で長野県のダム建設の関係で東京地検に呼び出されていたのが、2月の中旬でした。その数日前に東京から戻って、昼間、電柱でというのは難しいですが、されていた。判らないがそういうことなのです。

こういう経緯があって、3月3日に強制捜査と同時に逮捕。そうしたら、漆間とかいう官房副長官、前警察庁長官、前警察庁長官、日本の警察のトップです。新聞記者は13人ですから、NHK、共同、庁内より全部いるのです。一応、官邸内記者だからエリート中のエリートで、みんなそこそこの大学を出ている。もちろん、オフレコだから録音はしないけれども、中には録音テープをオンにして、ポケットに入れて置くだけでも、機能のいいやつは録れている。13人中、複数の2、3社を除いて間違いなく、自民党に捜査は及ばないと彼は発言した。それは、そう発言した記者に私の教え子の記者が確認をしていた。

小沢一郎次期総理大臣かなんかは判らない人の秘書を逮捕し、西松スキャンダルをやるんだしたら、検察は絶対的な確証があつてのことである。当然のことながら、検事総長以下、東京地検特捜部長を呼んで、首脳会議を開いている。漆間官房副長官は定期的に検事総長や警察庁長官とは、ホテルのスイートルームで懇談をしています。昔は、検察側の法務省の5階でやっていましたが、目立つから今はやりません。それは、官房機密費で1人2万、3万かかったってやってもいいです。で、結局、連休明けの来週月曜日、火曜日、何にもなければ、西松スキャンダルは終わりました。まだちょっと残っていますが、終わったと思います。

あとはリーク合戦です。あのままいったら、なんか岩手県が斡旋収賄罪でみたいな話になった。検察は1人ずつNHKを呼ぶ、朝日を呼ぶ、読売を呼ぶ、呼んで何をするのか、これはオフレコだから書くな。リークするのです。それを書いた奴は、二度と娑婆に出られなくなります。選別しているのです。それは、検察担当記者は全部言われていた。書けるのと書けないのがある。これは、1対1だったら書けないでしょう。分かっちゃう訳だから、きっと2対1なら私も書きます。流したのは向こうじゃないですかって言います。それは、そういうような事を含めて、この検察のリークと今回の1件がこういうような形で終わるのか。だったら、政権交代でこの背景に何があったのかは、ちょっと終わった後みてみたい。

ところが、民主党サイドにも、元検事の弁護士はいる。何人もの人間が、これは国策捜査でおかしいと言った。はっきり言って、元検事の弁護士なんて何百人いますか。私の先生も元東京地検特捜部部長の河上和雄です。そんなこと言ったら、きりが無いぞということですが、全くないという事ではないということも事実です。これは、今の日本の検察がかなり踏み込んだのか、常套手段としてやってきたのかは、今後分かる。

ニュースや新聞を見ると、東京新聞が向いているのですが、愛知県感江町でおばあちゃん、おかあさんが殺され、弟か誰かが殺され、次男坊が大けがを負った。警察が入った時に、実はもう1人男の人がうずくまっていた。「大丈夫ですか」と声をかけたら、顔をちょっと上げて、「えー」とか言って、救急無線で知らせる為に2、3分パトカーか自転車かは分からないけれども、戻っていた間に、この人物がいなくなった。

それを今まで、愛知県警は黙っていたことを、中日新聞ある記者がスクープをして書いたらしい。それは、職務執行上、いわゆる正しい行動だったと副所長は言っているが、その時に1人怪我をして、うーんとうなっているのと、もう1人顔だけ伏せているのと、怪我は若干していたかもしれないが、お前だったらどうする？おまわりさんは携帯って持てないのかな？その時、出口か入口を確認しながら、顔だけをみるとか、警察官のとった行動は果たして正しかったのかどうか。その時の冷静な判断を二十何歳の警察官ができるだろうか。残念ながら、毎年何十人もの警察官を出しているが、そこまで冷静な判断ができるようになるには、普段からこういうケースの時はどうするという訓練を積み重ねなければできないということです。秋田ではやりませんが、毎週行うゼミナールの時にはそういうケースを幾つかやりますが、この問題です。

残念ながら、その程度の警察なのですが、舞鶴の女子中学生か高校生を殺した犯人は、全部状況証拠です。昨日起訴されました。あの防犯カメラの映像に映っているのは間違いなく彼だろうと思うが確認は出来ないし、1年くらい前のゴールデンウィークですが、女の子が発見されるまで雨が降っていて、DNAの鑑定も体液の鑑定もできない。何も無い。

和歌山カレー事件の林真澄美の時も状況証拠です。密かに昼間の30分の間に2分間隔で町内会の人何十人も判断ができています。しかし、今回は真夜中の2時だったか1時だったかわからない。目撃者も1人か2人、歩いていたのは男の人と女の子、それだったらまず特定はできないでしょうということです。

この問題、ひとつリークがありました。京都新聞の中に、これは秋田の新聞にも掲載されたと思いますが、この犯人には前がありました。そんなこと、本当は書いてはいけないのに新聞に掲載された。テレビは、その前の事件の2人の内縁の妻に別れ話をしていたら、その女性のお兄さんか弟と一緒にいて、2人を殺したという事件を取材しちゃったのです。そんなのいく

ら犯人だって、前の事を喋ってもいいのか、今は、箝口令をひいて全部使わないようにしていますが、その時もやはり同じように顔面を殴打していた。ぐちゃぐちゃにしていた。舞鶴の方もそうだった。手口が似ていると、2分の2で似ているって言えるでしょうか。これも状況証拠です。それは、私は間違いなく彼が犯人だと思うが4月に無理矢理起訴して、この段階で逮捕して起訴した。もちろん他の犯罪で、わいせつ罪かなんかですーっと捕まえていたのです。しかし、状況証拠で何とかでも可哀相だが、こいつものすごく悪い奴でとなれば、皆さんが裁判員に選ばれた時は困るでしょう。そういうような事です。

これも警察が徹底的にリークをした。前があるのだ。そんなの、いくら犯人だって、まだ正確にはこの事件です。前のことは罪を背負って、全部刑期を終えて出てきたのですから、前科ものにだって人権がある。今回も前と同じように顔をぐちゃぐちゃにした。それをいうためにリークしたのか。検察のリーク、警察のリーク、これもちょっと考えていただいて、小沢スキャンダルの問題からもこの問題。いろいろやっぱりあるだろう、検事だってやっぱり辞めた後、いろんな弁護士になるというケースがある。それは東京地検いろんな人達がいるという事を含めて、いろんなサイドからの話になるということです。

次、ここまでは政治経済、ちょっと悲しい話をします。おそらく、今、本当に日本で楽だと思っている人は100人に1人、この部屋で1人が2人くらいは、まあ結構楽ですという人がいるかもしれません。例えば、ロトが当たったとか、天皇賞が当たったという人はいます。だけど、7割位の人は大変です。そして、その7割の内の半分位の方は精一杯やっています。その位まで日本の経済はシュリンクし、前年対比、残業などを含めてもマイナスで、今年の6月のボーナスは相当下がってきている。以前、講演でお話をした時、三井物産とか日本の総合商社のボーナスは1千万円位だった。去年の夏までは、もちろん去年の秋も冬もだめです。もう、がくんと下がりましたということです。もうこれからは恐らく底ばいです。このまま、底のままですーっと、少し良くなったとしても、ちょっとよくなるだけで、これからはもっと厳しいと思う。

そういうような時に、それでも勝ち続けている企業には共通点がある。22年増収、増益のニトリの社長とはカラオケ友達ですし、100円ショップの社長とも友人です。同じグループでカラオケを歌っている。でも、ニトリのあのコマースシャルをやっているのを見て、何かソファアが電動ですれるやつ5万何千何百円、自慢じゃないけど家にも同じようなのがあって、40何万円です。何とかの会社のそれは、もう何年も前に買った。だけど、来客も多いし、取材もあるから、その位高価な物を置こうと思い、見栄を張って買った。だけど、5万何千何百円、もうニトリの社長を蹴飛ばしたくなった。早く作れよ、この野郎とは言えない。そういう事です。

だけど、飲んで話している時「まだ、先生やりますから、円高還元はまた戻ったからどうこうじゃないけれども、もっと考える」と言う。そんな彼が、新潟中越地震の際に1億円をぼんと出した。出すのなら俺にくれよ、ねえ、県庁とか赤十字に出したって、事務経費で3割位執るのですからしょうがないけど。うちに出してくれたら、1億円を直接、山古志村に持って行きます。インドシナの津波災害があった時も、2億円出しました。今、夕張の復興のために相当な金額を使ってくれています。儲かっているんだし、株の半分は自分で持っているような人ですから、いいんじゃないの。元々、ニトリという名前だそうです。漢字で書いているそうですけれども、ということです。

さっき言ったマクドナルド、これも100円でコーヒーを飲んで、ハンバーガーが百何十円、

私は病気をしたので、ハンバーガーはなるべく食べないようにとされているけれども、時々、学生のを盗んで食べている。「半分よこせ」とか言って。なんとなくうれしいチーズがのっけていて、とてもおいしい。そう考えたら、もうコーヒー屋にきつと入らない。400円か350円かわからないが、東京だったら500円ですから。2人で1,000円のコーヒーだったら、コンビニ弁当や赤坂で売っている弁当は450円です。おそらくそういう段階になる。100円ショップダイソーも、一時ちょっと経営が厳しかったのですが、この不況の中で売り上げは上がっている。みんな、生活防衛だということです。

ユニクロ、殆ど1人勝ちです。デパートがこれだけ苦しんでいる。西武池袋に先日行って来た。閉店セール、とにかく長蛇の列です。これもああいう結果になった。創業51年、開業51年、お別れ何とかセール。あの三越が、天下の三越ですよ、そういうようになる。それは、ニトリ1人勝ちです。

そして、今日、駅前の本屋さんをちょっと覗いてから、女性の洋服の値段を見た。大学の職員が変な顔をしていましたが、痴漢でも何でもありません。値札を見たら7千何百円とか書いていた。あの原宿に出来たフォーエバーという会社は、女の子が上から下まで揃えて1万円である。つまり、3千円とか何千円なのですよ。それはユニクロと同じですから。上下で1万円になる。あれで7千何百円だったら、上で着るものだけで7千何百円、下を穿けば7千何百円だから1万5千円になっちゃうかもしれない。ちょっと金額がわからない。そこが、フォーエバーというのは、お手頃の値段を全部計算して、これなら売れるというのを作って、アメリカで成功し、日本へ入って来た。H&Mですね、スウェーデンのも同じです。原宿で隣のビルです。そこには関東の女子中、高校生が何ヶ月もお小遣いをためて、やって来るというようなものだと思います。仙台までいくかどうかはわかりませんが、そういう問題になる。

勝ち組はほんの1%とか2%、恐らく何とかやっていけるのは3分の1、7割位の人達の3分の2は結構大変、その中でも下の3分の1というのは本当に大変、それが現状です。その時に政治がどのようなことをすべきなのかというのが、恐らく今年の最大のテーマであろうという風に思っています。

悲しい話をちょっとします。最近セラピー犬を連れて介護施設やボランティアのお手伝いに行っている。行ったって何もできないんですけども、セラピー犬が頑張って輪投げをして、皆さんに喜んでもらう。或いは、添い寝犬がずーっと黙って側で寝ているだけです。日本では、年間20万頭の犬が薬殺処分です。捨て犬です。たまたま、ここのルルちゃんというセラピー犬、大阪のホームレスの人が飼っていた犬で、ホームレスの方が亡くなったため、栄養失調になって倒れかかっているところを保健所に収容された。今はもう、数日で引き取り手がない場合は、殺されちゃうのだと思いますが、それを私の知り合いが引き取って、セラピー犬にした。まあ、餌をくれたので元気になって、感謝しているのか判りませんが、一生懸命ジューツ吠えないで我慢をしている。そういうセラピー犬のエサ代だから、なんとか頑張るしかないかと、今は、時間がある時一緒に募金活動に行っている。レスキュー犬も同じで、ラブラドルの大きいのが20頭位いて、地震の時に海外に連れて行く。そういうようなことを、実をいうとやっている。

そんな矢先の2、3週間前かはわからないが、清水由貴子さんが自殺をされた。私も、清水由貴子さんをみた事がありました。40何歳、50歳手前だと思いが、小学生の頃からお母さんの介護をしていた。ちょっと言いにくいけれども、かわいい顔だったけど、太って丸くなってい

た。その、彼女の心が折れてしまった。最近、いやだけども流行の言葉になった言葉を言って、お父さんが眠られている富士山のそばにある富士霊園で、硫化水素だったか、ビニール袋みたいなものを被って自殺をされた。お母さんも被っていたらしいが、風でビニール袋がはねたので、認知症のお母さんは助かって、収容された。ご兄弟がいるので、ご兄弟が引き取ったのかもしれませんが、細かい事は判らない。小学生から40年近くお母さんを介護して、本当に一生懸命やってきたらしい。だけど、やっぱり介護はなかなか1人じゃ出来ない。

私は5人兄弟で、姉さんがずっと実家にいて母親をみているが、うちの奥さんにしか爪を切らせない。私の女房は介護のプロなので、1ヶ月に2回切りに行きます。対応が全然違うので、介護ヘルパーの人が来てもだめなんです。そうやってあげて、これだけ幸せに暮らして、恵まれているのに、それでも愚痴を言う。年金だって、親父は東京都庁だったから、11万何千円も毎月入っていますし、私も一応、献金しています。毎月、母親の所に持って行きます。でも、毎回お金を数えます。兄貴も3人いるから、ボーナスの時やなんかみんなそれぞれやっています。何一つ不自由がない。

子供が5人いて、娘がいて、私の女房が介護のプロですし、ほとんどの旅行には全部連れて行きます。JAL や ANA には悪いが、車椅子でもって飛行機にも乗ります。しょうがないなと思っても、さすがに、もうハワイには行きませんが、熱海の温泉までは行きます。それでも、おばあちゃん1人の介護です。まだ元気で車椅子を使う時もあるけれども、歩くところもある。デパートへ行ったら20分ちゃんと1人で歩いていますから。だけど、清水由貴子さんのケースは、おそらく、家の中で2人っきりでやっていたということ、うちの女房は分かっています。

今、ゼミのOBが、介護施設に勤めているのでゼミ生を連れて行く。認知症のおじいちゃんが突然、ズボンを降ろしてうんちをする。下はじゅうたん、瞬間そのゼミのOBが、「おまえら、うんちを手で押さえられるか?」と言った。私は恐らく、ひるむと思う。後で拭けばいいかなと思うかも知れない。だめだ、下はじゅうたんなのだから、これで付いたらもうじゅうたんは使い物にならない。そこだけ、切り貼りするわけにもいかない。そう言ったら、学生はやっぱりうーんって考える。「覚悟がないのだったら、ボランティアは辞める」それはもう現場にいる方々、ご家族は3人に1人は経験者ですから。

私は、親父が半年寝た時に1回病院に付き添った。まだ兄弟も多いし、病院にいた時1回だけ、「政行、悪いけどおしっこ採ってくれ」と言われた。小便をさせた。いやだなと思った。それは親父だからしょうがない。自分が大腸ガンで腹を切って、動けなくてしょうがない時に、女房の方がうまいかもしれないけれども、いない時もあるさと思い、若い13歳の看護婦さんにおしっこを採ってもらった。女房は見て見ないふりをしていたが、そういうのを考えたら清水由貴子さんの死、これは日本人として考えなければならない問題だと思う。

群馬県の渋川に、たまゆらという名の施設がある。まだ、骨の引き取り手が2人いない。東京の生活保護でもらえるのが最低で8万円前後です。東京では8万円で施設には入れません。家賃が高いとか、場所代が高いとか、だから群馬県渋川の無認可のあそこは、8万円ならば1万円位のお小遣いを貰った残りだけで、24時間介護をしてくれるので、墨田区役所は10人中10人送った。それで3カ所の入口のうち1カ所は鍵がかかっている、火事で10名焼け死んだということです。しかし、墨田区役所の間人は視察に行った時、「適正な施設であると思った」と言っているが、介護のプロに言わせれば、施設を見れば、廊下に荷物があるとかないとかなんていうことは、状況を見なくたって分かる。適正ではないのです。だけど、7万円で、

もう行く所がないといったら、群馬県渋川まで行けば、みんな生活保護で暮らせる。家族からというか、親戚からというか、近親者も殆どいない。甥っ子とか姪っ子とか、その程度だったら、もう面倒くさい。そういう方法もあるけど、おめえが悪いのだ、親戚が、なんて言えない。

こういう事件が立て続いたそんな時に、たまたまセラピー犬と一緒に行動しています。だけど、やっぱり政治はここから始めなきゃいけないなあという風に思って、大阪で、ある夜、ふっと目が覚めたので、テレビで日経 CNBC の株の動きを見ようかと思った。秋田県のドキュメンタリードラマをやっている。ソックモンキーという人形を秋田県の施設の女性が作って、1ヶ月1万5千円位の給料を貰う。だけど、実際に作業所に行く為には、今、大益分担で行くと1日、食費とかで千円位かかる。1ヶ月頑張って働いて、勿論、ハンディがありますし、作業が遅いということもあるけれども、1万5千円稼ぐ人から、1日行ったら千円です。だから、今、通所といって、作業所に通う人の比率がどんどん下がっています。

それが、そんなところのお金を、何百億円か何千億円かをカットするため、後期高齢医療というものをカットするための障害者自立支援法という障害者切り捨ての法律です。そこで、それを調べてみた。現場の人は、「先生、それだって2005年の9月11日の郵政民営のあの選挙の直後の10月に、厚生労働省は障害者に自立支援法と後期高齢医療のあの改革を始めて、翌2006年6月に強行採決で決まって、云々」と言う。そういうようなものなのか、議席数を3百何十取って、衆議院の3分の2があれば、参議院がどうしても、いけいけだということを、霞ヶ関の官僚は瞬間判断するということです。

それが赤字覚悟でもやらなきゃいけない行政、政治があるということと、いや、切り捨てるのだったら、文句の少ないところを切るしかないだろうという大蔵官僚と霞ヶ関の厚生官僚達の発想です。憲法15条、公務員が国民全体の奉仕者である。そう考えていくと、税金というのは何のためにあるのか。

私が山古志村のボランティアになぜ通い続けているかというのは、私が初めて山古志村に入った時、今から40年前、早稲田大学大学院の学生の時、塩谷隧道というトンネルが手彫りであった。地元の人達が、今から70年も前の戦前のある日、犠牲者を出しながら、冬の間、本当に孤立する村から何とか脱出するために、手掘りの隧道を2百何十メートル掘った。それを、戦後、田中角栄がやって来て、車の通れるような立派な道路を150何億円かけて作ってくれた。その山古志村のある集落です。

この村の有権者は280万集落なのですが、2百何十人の有権者の内、1人の共産党の人を除いて、全員、田中角栄と名前を書き続けるというのを私は、37歳の時『中央公論』に書いた。その時、田中角栄が地元の長老に言った言葉は、「政治は光の当たらないところに光を与える税金という光」この田中角栄のヒューマニズムというのは、正しいでしょう。それで、裏金を使っているというのは別です。

それは田中角栄、金丸 新、竹下 登、その親戚筋で新潟県最大の土木建築業、福田組のお嬢さんが小沢の奥さんで、その妹さんが竹下 亘という竹下 登の弟の奥さんでというのは、私はもう昔から知っているということです。戦後の昭和20何年ですから、私が大学院に残って政治学をやろうかと思ったのは、若き田中角栄のヒューマニズムの研究です。だけど公共事業で裏目に出るでしょう。

税金も言いにくいですが、いっぱい払っている。自分の税金を何かの目的に使って下さいと言えるのだったら、悪いけれども裏金に使わないでくれとか、できれば米軍基地に使わないでくれ

とか、そういう気持ちはあります。それはもう全部福祉介護の方に、そうになったら消費税は全額目的税で10%、いやだけどもそれだったらいいよね、日本人は覚悟を決められるかということです。いいですよ、10%になったら消費税だけで、大体25兆円位ある。それだけあれば介護保険は、向こう20年間この金額で止めるとか、年々ちょっと増えるでしょ？そういうのがやっぱり決められた年金から介護保険だ、後期高齢者保険だ、何百円でも増えていくというのがそれは大変ですから。だって、78歳とか80歳になったら、おばあちゃんには悪いけれどバイトできないいのだもの、年齢制限だからって言われちゃうでしょ。

今日、西武デパートを職員と歩いていたら、腰の曲がったおばあちゃんが一生懸命歩いていて、係りの人がズート案内していた。それを見ていてちょっとほろっとしました。「おばあちゃん、何とかですよ」と指だけさしたら、その女を蹴飛ばしてやろうと思って、その時は、職員に「殴ってこい」と言って、準備をしていたんですが、係りの人がちゃんと案内をしていた。まあ、当然のことですけれどもそういうようなものだ。

だけど、政治はやっぱり取れるところから取る。だったらおまえら、もう、天下り官僚達がぼこぼこやってというのは止めると言いたい。これが清水由貴子さんのケース、たまゆらというケースの背景は墨田区役所の人間にもう少し心があつたら、やっぱりあそこはまずいが、他にそういう作業所はないというのであれば、公設民営でグループホームや介護施設を作って、2年、3年は補助をする。保険といろんな制度を使って、後は何とか、誰か頼むからやってくれというようなことができないのだろうか。足りない分は赤字覚悟でも、じゃあ秋田市が、秋田県がなんとかうまく利用して、と言う部分もあるかもしれない。それもきりがないのでそれで終わり。

政治の話をちょっとだけします。第3局は先程言ったのですが、ちょっと言い忘れたので、近々、渡辺喜美と江田憲司のところから1人、加わるかもしれません。すると3人です。このグループと平沼赳夫先生のグループとは、勿論、接点がありません。無いけれども、たまたま私が両方と今、飯を食べています。「うーんミッチーさんとは久しぶりだけど、喜美君とは話をあまりしたことがない」と平沼先生はさりげなく言います。渡辺喜美は、やっぱり平沼先生とはちょっと違うのではないですかと言います。私はその時に『小異を捨て大同につけ』と言う。

明治維新以降もいろんな民権運動党等の中に敵を作るよりは、小異を捨て、小さな異なる部分は捨て、大きな同じ方向に行け、政界再編、急告日本、チャーチルが挙国一致内閣を10年間率いた、ドイツに勝つためにです。この間、10年間選挙をして勝った。あの議会の国でも選挙をしなかった。戦争をしているんだから、選挙なんかやってない。それでも大連立という挙国一致、ナショナルガバメントと言ったのは、ドイツに戦って勝つためだ。ファシズムに戦って勝つためだと言って、みんなが協力をした。だけどイギリス人は白状ですよ。戦争で勝ったヒトラーが死ぬのは1945年の5月位でしたか、その前にドイツはほぼ降伏していますが、それからしばらくして半年だったか10カ月だったか忘れたが、イギリスの総選挙でチャーチルがもの見事に破れた。その後に戻るのですけれども、労働党の政権ができた。どこかで切り替えるには、その位の大胆な覚悟が政治の側になければならない。今回は、そういう選挙かもしれないと思います。

だけど、残念ながら人が足りない、で、もう1人渡辺喜美が捕まえたら、5人で政党ができるのです。5人いないと政党ができないのです。5人と、あと比例だけでもいいのです。比例だけなら勝つという人が全国で20人位います。比例で一番にのるといふ人はね、だけど、1人

立つのに6百万円もかかるから、私もお金が欲しいが街頭募金はできません。もう1人來たら、私にはある政党のこいつを脅かせば、きっと入るかもしれないという心当たりがある。今はちょっと言えないのですが、などなどを含め、第3局ができれば国民有権者の1割くらいは、小選挙区はともかく、比例でこの何とかの新しい政党を選んでみたい。と言う人がいたら、比例の定数180、18人位受かります。換算すると、2、30人位受かる。小選挙区で10人位は受かるでしょう。渡辺喜美、平沼赳夫は受かりますから。ただ、30人の議席をとったら民主党は、単独過半数はいかない。自民党もいかない。だったらこの指止まれで、政界再編ができるかもしれないが、残念ながらそういう金は今のところまだない。

で、このまま選挙に突入をするのが、5月、6月の選挙はまずないだろうというふうに思うのは、麻生太郎さんの本音が、イタリアサミットに行きたい。阿部も福田も1年近くやったのだから、俺だって1年近くやる。絶対勝てるという自信はない。総理になる前に、総理になることよりも、なって何をやりたいかと尋ねたら、この景気の低迷、溝などの事を言いながら、とにかく1人の政治家として、日本の経済危機を克服したいということであった。彼が私に「この状況で選挙はどうなると思う？」と聞いたので、一応専門家として、「どう転んでも、あの前回の参院選の結果を見たら、自民党は農村部でも東北地方でも苦戦、秋田県はコメントしませんが苦戦です。比較第1党は民主党になり、小沢一郎はどんなことをしてでも非自民、非共産の連立政権を社民党にも頭を下げ、国民新党にも頭を下げ、へたをすれば公明党も抱き込んで政権を作る。そうしたら、総理になって去年の9月ですが、直後に解散の話があったが、もしかしたら、恐らく選挙管理内閣で1ヶ月内閣になる可能性がある」というコメントをした。彼はメモをとらなかった。勿論、『文藝春秋』にあれだけのことを書いても、選挙をためらいながら、今日まで来た。それは早くて7月12日です。公明党が嫌っていると言われている、東京都議会議員選挙とのダブリだけれども、その数日前がイタリアサミットです。戻ってきて金曜、土曜、わっとテレビでやるか、秋田駅前に来るか、格差を是正し元気になる秋田を作るとか、無理だろうとは言わないですけれども、そうするのか。

でも8月のお盆明けに4月、6月のGDP速報値がでる。150何兆円もの補正予算がちょっとどうなるのかはわかりませんが成立をした。14兆何千億円、なんだかわけの判らない、何に使うかわからない金まであるらしいがそれでもやる。けれども、それだけやれば、GDPはちょっとよくなるのではないのというようなことになる。彼はそこに期待をして、お盆明けに解散をして、9月総選挙かなという感じが今のところはしている。もう1回、7月の上旬に授業がありますけども、おそらくまだ選挙は行われてないか、真っ最中です。真っ最中の時でも文化祭は中止しないのでやりますが、そういうような結果に恐らくはなるが、流れはまず政権交代です。

ただし、第3局の政党ができれば、政界再編という可能性は10万円じゃだめですが、10億円位ちょっと準備資金ができれば、言うようなこともあるかもしれませんが、命がけで政界再編をやりたいと渡辺喜美も江田憲司も平沼赳夫も思っている。もう1人入って、誰かが肩をおせば、状況は変わる。日本の中でもかなり著名な、日本で5本指の中の2人位は、「先生、今度だけはやらないといけないかなあ」という人がいる。私はその時、ちょっと頭を下げてお願いをしようかと思うが、とにかく流れを一度変えてみて、その理由は政治が壊れる。自民党はもう賞味期限が切れたと思うが、民主党の若い国会議員には、議員バッジをつけた瞬間に何にも見えない。

ついにこの間、松下政経塾の秘蔵っ子の国会議員も怒鳴った。「いい加減にしろ、松下幸之助がおまえらの為に、何で私財百億を投じたのだ」昭和になって、松下電機、松下商店は自転車のライトを作ったのです。当時、蝋燭で乗っていたんだそうです。それを聞いた松下幸之助が何かできないのか、そこで、漕ぐと電気がつくあれを考えた。その次に、何かスーパーアイロンというアイロンを作った。これがバカ売れした時に昭和恐慌、1929年の翌年ですね1930年に日本は昭和恐慌にあった。社員600人でした。全員を中庭に集めた松下幸之助は、「今日から半ドンでいい、働いて貰って、物を作っても入れる倉庫がない。半ドンでいい。幸い、みんなが考えてくれた自転車のライトとスーパーアイロンでうちは今、1年間やっていく分は十分ある。全額給料を出す。」そう言った時、みんな喜んだ。しかし、このままでいいのかと、あのナショナルストアという販売店網を作った。

そういうのが、『はげたか』というドラマの大空電気の、あのモデルは松下幸之助だから、サインを代印して云々というのは、『はげたか』からみればダメだと言って、最後はもちろん、逆転します。だけど、今だからやはり『はげたか』というドラマの凄さ、あの様子に竹中がやってきた。小泉がやってきた。あのホリエモンがやってきた部分は違う。それが、まだやっぱり総理大臣には誰がいいですかと聞くと、2番か3番に小泉純一郎が出てくる。まあ、日本の国民はのんきで、自分達がハンディキャップを背負ったら、何かあったら真っ先に苦しむ、それはアメリカ流で日本流じゃない。みんなで分かち合うという気持ちがあるのかどうかというのが恐らく大事なのだろうという風に思っています。

ちょっと、子供の話まで行きませんがあと1分だけ許してもらって、とにかく今の子供はダメで、携帯電話も首から下げている。ウォークマンとかアイホンとか付けている。ある時、電車の優先席にどかっと高校生が4人座っていた。おばあちゃんが乗ってきたので、うちの奥さんはけんかっ早いから、ついにこの間注意した。すると、おばさんも座ってとか言われて、私はいいわよと見栄を張って立っていたけれども、私も立っていましたということです。

そして、任天堂が市場最高益、任天堂のDS、「ポケモン何匹いるの?」「何匹?名前知ってるの?」ポケモンって1匹じゃないのですよ、300匹位いるらしいよ、今。それを立命館のサブゼミ長は3時間やっている。優秀な子ですよ、何がおまえおもしろいの、ポケモンの名前覚えて。「ファイナルファンタジーやってるの?」ここでやっていたら、ぶっ飛ばすぞ。などなど含めて、何にもしゃべんでも今の大学生は、何とか生きられると思っている。この間1年生を50人続けて面接した。「座って自己紹介して、自分のPR 言ってみて!」その学生、自己紹介の意味がわかんない。3分しゃべらない。「自分の事、出身はどこで、自分はこういうのだったら人に負けないと思うようなこと言ってよ!」ぼそぼそ、「名前は何か、出身は秋田県湯沢、別に得意なのはないけど、ポケモンが300匹・・・」、そしたらゼミ長が「おまえ300匹覚えているのか、俺は151匹だぞ!」そんなことで盛り上がるな。と言うような事は次回お話をするというので、ちょっと時間が来たので、質疑応答の時間にします。ご静聴ありがとうございました。

藤 本 ご講演、ありがとうございました。もう少し時間をとりますので、どうぞご自由にご質問がございましたら、挙手をお願いいたします。お名前をおっしゃって、発言をしていただきたいと思います。

中 田 秋田市の中田と申します。先程の先生のお話の中で、消費税10%と言いましたけれども、私は10%でもいいと思いますけれども、先生のお考えをちょっと聞きたいのですが、私は食料品に関しては無税にして欲しいと思います。先生はどうお考えですか。

福 岡 お腹に、胃に入るものは松阪牛であろうと、高級ワインであろうと300円の焼酎であろうと全部ゼロ、ゼロ税率をかける。基礎食料品と医療、介護、福祉、教育まではゼロにしてもいいと思います。それで、家庭の必需品は5%のまま据え置きで、複数税率、0とか5とか10とか2種類、3種類あるのはダメだと大蔵省はかつて言いましたが、私は竹下 登先生に、日本の人間はそろばんができて、ヨーロッパの人よりもはるかに優秀だから、そんなものは簡単、消費税が10になった時に複数税率なんていうことは大蔵官僚は頭から考えているので、心配しなくていいと言っていた。

ただし、基礎食料品をゼロにするというのには税収が減りますから、その時は、これを条件に10にしていっていいという運動を、署名を全国で2千万人位集めたら、きっと簡単になる。その代わりに、全額介護、福祉を目的税にする、大蔵官僚は手を出さない。それはもう全部介護、福祉の方に回してやることです。

私もあと1年で高齢者ですけども、どうでしょうね、年を取ってきて、収入が年金で限られて、保険料が600円、800円と人によって違うそうですが、上がってくるのはかなり心配な部分があるので、そこだけは、もうしばらく手を付けないという方向がいいのかもしれない。

生活保護の方が国民年金よりもちょっと多いんですね、ここの部分を統一しないと、大阪なんかというと怒られるんですが、貰う破産、39歳の女の人が「7歳くらいの子供と4歳の子供を持って、スーパーでバイトしたって12万でしょ先生、子供2人いたら14万8千円貰えるから働かない」で、パチンコをやっているのを見ると水かけたくなるという気がします。

中 島 由利本荘市の中島と申します。今は大阪府知事、千葉県知事、非常に皆さんに顔ぶれの良く知れた人が出てきて、一騒ぎ二騒ぎ、憂慮しています。その中で地方分権という言葉が非常によく出てくるんですが、これはその前にかつて騒がれていた道州制というものへの移行というものを、先生、どういうふうにお考えでしょうか。

福 岡 はい、お騒がせな宮崎県とか千葉県とか大阪府、それを選ぶのも県民でありますので、秋田県についてもコメントはしません。地方がとにかく国の奴隷になっているような、地方の自己負担というのは、国が決めて勝手に大体33%位ですが、いろいろありますけれども、そういうのにやはり橋下という男は極めて優秀なプレーンを数人付けています。かなりいやな奴だなと思いますが、個人的には、そこは言葉がうまい。地方は国の奴隷ではないというのはやっぱりみんな思っていて、地方分権の問題があると思います。

ご質問の本論の部分ですが、道州制は霞ヶ関段階と国の中央のレベルでみると、ほぼ消えていると思います。話はまだお化けのように出てきますけれども、今、道州制をやろうというよりも、もう、やる1つとして北海道や東北を東北州にして仙台、その前に青森、岩手、秋田ですか、これを1つにまとめるという話もあるかもしれない。

だけど、そんなパワーをもってやるよりも、もっと先を行っている連中達は、中間自治体である青森県や秋田県の県庁はいらない。警察行政や教育行政は、勿論、教員と警察、消防は残

すけども、知事部局というのは殆どいないから、その権限を全部自治体の由利本荘や秋田市に任せる。それから、雪の中で孤立する何とか村を含めてですが、そういう風にして、もう自主財源で限界村が恐らく近々秋田も出ます。限界集落を超えて限界村がでたら、それはもう国の直轄地にして、バックアップ出来る所はバックアップできるような体制にして、県がどうこうと言ってもどうでしょう？

秋田県庁についてはコメントしませんが、北川正恭が10年前に三重県知事を辞めて、東京に戻る時に、「福岡、県庁はいらないかもしれんなあ」、それは、そこにいる優秀な人間を地方に配置して、国の総務省の中に地方分権庁みたいなものを作って、そうやったらいいかもしれない。

つまり、国があって、後は自治体全部でやればいい。そういうような雰囲気にしたほうがいいんじゃないか、なんかコーディネーター的に県庁があるけれども、警察や教育は県庁職員でいいとして、一般行政職の知事部局という部分はいらないし、もっと削減出来ると思います。

まして、秋田県の中もおそらく、県の出張所は何カ所かあると思いますが、北海道なんかは明らかにいない。網走市長というのがありますが、そこに網走市の市があっても、いない。そこに200人いるんだったらそのお金をくれたほうがいい、というような感覚があって、道州制については言葉としては、今出てはきているし、何となく雰囲気はありますが、実態は、その前に鳥取と島根が合併するとかいう話も、日本のこの、いわゆる農耕民族の世界では、出来ないような気がします。もっとそれよりも中間自治体全部はずして、日本国秋田市というような形でやっていったほうがいいかなと思っている。

中 島 どうもありがとうございました。

福 岡 よろしいですか、あと7月の上旬でしたか、最悪選挙の真最中です。

藤 本 福岡先生、長時間どうもありがとうございました。本日のシティカレッジは、これで終了いたします。ご清聴、誠にありがとうございました。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「地方自治と現場力」

講 師	白鷗大学法学部・立命館大学客員教授 ノースアジア大学総合研究センター客員教授	福 岡 政 行
挨 拶	ノースアジア大学総合研究センター長・経済学部教授	藤 本 剛
司 会	ノースアジア大学総合研究センター参与・教養部准教授	橋 元 志 保
日 時	平成21年7月4日 午後2時～3時30分	
会 場	ノースアジア大学 40周年記念館2階 271番教場	

橋 元 ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座、シティカレッジにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。本日は、高杉祭が開催されておりますが、そのスペシャル・ゲストとして、白鷗大学教授、立命館大学客員教授、本学総合研究センター客員教授の福岡政行先生をお招きし、ご講演会を開催させていただきます。

皆様ご存じのように、著名な政治評論家でおられます福岡政行先生は、5月に行われました民主党代表選の際のディベートの司会を務められ、生の政治の現場に深く関わっていらっしゃる先生でございます。本日も、そうした政治の行方、日本の将来に関わるお話を、貴重なご意見と共に伺えるものと存じます。

それでは、ご講演に先立ちまして、本学の藤本 剛総合研究センター長より、ご挨拶がございます。どうぞご静聴下さいませ。

藤 本 本日は、大学祭と併せまして、福岡政行先生のご講演会を催しましたところ、このようにたくさんの方にご来場頂きまして、誠にありがとうございます。既に皆様をご承知のことと思いますが、福岡先生は本当に著名な政治学者で、またマスコミ等におかれまして、たいへんご活躍されておられる方です。先生は白鷗大学と、立命館大学で教鞭をお執りになり、同時に、アジアの国々の援助、そして、NPO 法人を組織致しまして、ボランティア活動にも熱心に取り組んでおられます。これらの活動を通じまして、先生は一貫して熱意をもって当たられ、教育者としても、本当に素晴らしいお手本を示して下さいませ。

本学総合研究センターの客員教授として、このシティカレッジ、そして、この後に予定されております、自主ゼミナールにおきまして、先生の薫陶を受けることが出来るということは、我々に取りましても、本当に幸せなことでございます。折から、政治の季節でございまして、本当にお忙しい中を、私共のために時間を割いて下さいました。

本日のテーマは「地方自治と現場力」ということで、政治の力が、秋田をどう方向付けていくのか、先生のご講演が楽しみでございます。どうぞ最後まで、しっかりとご静聴いただきたく存じます。それでは福岡先生、どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手)

福 岡 非常に情勢が流動的ですので、本日のタイトルについて、後半の20分くらいでお話を致します。その前に、今の情勢と宮崎県、大阪府について、この会場にマスコミは来ていないだろうと思いつつ、いろいろと厳しく、お話をさせていただきます。また、その話の中で、地方自治、地方分権と現場力についてのお話を、どうぞ行間からご理解いただきたいと思います。

冒頭、3点です。今日の朝8時過ぎ、羽田発秋田行きの便に乗ろうとして、羽田空港のロビーを歩いていましたら、ある社長さんと会いました。そして、いきなり「先生、日本の政治は、どうにかならないのでしょうか」と言われました。私は、申し訳ない気持ちになり、下を向きながら「はい、どうにもならないと思います」と声を小さくして答えました。そしたら、また「自民党、民主党はもう終わったんですか」と聞かれましたので、私は「はい、駄目です」と小さな声で答えました。150mくらい歩きながらの出来事で、ほとんど説教されながら、ずっと話を聞いていましたが、最近の1週間から10日間は、こういうケースが新幹線の駅等でありました。また、今日は、朝早く秋田に来ましたので、秋田駅前の西武デパートの地下で、何かを食べようと思い、いろいろな店を見ていましたら、ご婦人に「ちょっと、先生」と呼び止められまして、そこでも、短い時間だけでしたが、話をお聞きしました。本当に朝から、いろいろ

ありました。

結論。政治は脳死状態です。これはもう、皆さんの1票で変えるしかありません。秋田県と秋田市の首長さんが、新しい人になったということで、代わり映えしないという、ご意見も聞こえてきますが、それは、コメントしないことに致します。でも、間違いなく、宮崎県と大阪府より、状況は良いだろうと思います。

2点目。横須賀市の市長選挙についてです。昨晚、神奈川県のドンといわれる人と、一緒に飯を食べました。「敗因は何だか分かりますか」と聞かれたので、「世の中には、流れを変えた人達が、大勢いるからだと思います」と当たり障り無く、答えました。ところが「それは違う。小泉純一郎がそこに2回応援に行ったので、負けたんだ」というふうに話されました。横須賀市の市長選挙では、地元出身の元総理大臣が、応援に駆け付けた故に負けたということです。もう、彼の神通力は、消えたと思います。

横須賀駅前の37%の商店街は、残念ながら、毎日シャッターが閉まっています。三浦半島の先に位置し、東京駅から電車で1時間36分のところにあるんですが、その三浦半島と青森県下北半島には、在日アメリカ軍の海軍基地があります。そういった軍事関係は、いつまでも続かないということを、横須賀市の市民の皆さんは、察知していたんです。市長を1期4年をやり、もちろん任期中は何の問題もありませんでした。また、自民党、民主党、公明党、労働組合推薦の現職陣営は、楽勝ムードでした。しかも、霞ヶ関の高級官僚出身で、今64歳であれば、無難に当選するはずと考えていました。しかし結果は、母子家庭で育った、たいへん貧しい生活を経験してきた、33歳の若者が当選しました。この若者は、早稲田大学大学院を卒業し、過去の市議選では、トップ当選を2回しております。とは言いましても、普通、市議選はせいぜい3千票が、勝敗ラインと考えられています。

それが、人口42万人の横須賀市での市長選挙で、その若者は6万8千票を取って当選しました。現職は6万4千票で、4千票の差を現職に付けたということです。現職陣営は、自民党、民主党、公明党、労働組合の推薦を受けて、2期目の市長を目指していました。そして、小泉純一郎の地元ということもあり、彼の応援もあった訳ですが、これをひっくり返したんです。その時は、いくら何でも感じました。新しい市長は33歳で、なかなかの好青年と言われ、だいが苦勞をされてきた経験を持っている人です。けれど、勝敗ラインが3千票の市議選から、一気に20倍の6万8千票を取って、市長に当選したことは、本当に凄いことです。その背景にあるのは、やはり、小泉純一郎と、既成政党に対する不満が、実を言うと、そこに横たわっていたことが見て取れます。

前回の講義で触れたように、三重県松坂市の市長選挙でも、同じようなことがありました。

やはり、1番の組織力を持つと言われる、自民、公明、民主、労働組合、自治労、三重県教組から支持を得て、3期目を目指していた68歳の現職が、33歳の若者に敗れました。その若者というのは、私の教え子なんですが、医師の資格を取り、NPO法人の医療担当専門員として約1年間、アフリカのケニアで医療活動をしながら、現地で子供達の治療にも当たっていました。今回の横須賀市のケースを含めて考えると、やはり、劇的に変わっていくような、そんな雰囲気があります。後で総選挙のことを触れますが、その前哨戦として、大きな意味があると思います。

もう1点です。最近、気の合う仲間と付き合っている時、ロスト・ナインティンという時代について、よく話が出ます。霞ヶ関の官僚や大学の友人、そしてユニクロ、ニトリ、100円ショッ

プのダイソー、サンドラック等の経営者達と、1990年代のバブル後の10年間と、21世紀になってからの9年間について、実を言うと「何だったんだろう」ということになっているんです。時間があれば、後で詳しくご紹介致しますが、バブルの後遺症で、どうしていいか分からなかった、あの失われた時代を、ロスト・ナインティンと言っているんです。

小泉、竹中構造改革という名前で、三位一体改革という訳の分からない言葉を、皆さんが喜んでいた時の話です。改革、そして改革と言っていた2005年9月11日、前回の総選挙に関係するんですが、昨晚、平沼赳夫先生と食事をした時にも話が出ました。当時、外務省出身で、安倍晋三の弟子である静岡県浜松市の1年生議員の城内 実君は、安倍晋三の説得を振り切って、郵政国会で反対票を投じました。投票の前、安倍晋三が肩を抱いて、彼の耳元で「トイレに行け。欠席をしろ。トイレに行ったら、俺が救ってやる」等と言ったそうです。お腹が痛いからトイレに行くのであれば、それは生理現象だから理由が付くと、説得されたそうです。城内君は、志を持った1年生議員です。また彼は、日本の中山間地域のことも、とても良く考えている人です。今のアメリカ崇拜政治で動く、小泉、竹中の訳の分からない金融工学等を許しては、1人の政治家として、後で必ず後悔すると思ひ、郵政国会で反対票を投じました。投票は、五十音順、1年生議員ということもあり、2番目に投票しました。その時、彼は怖々と反対票を投じました。その勇気というのは、もの凄いものがあると思います。

その郵政本会議が始まる直前に、平沼赳夫先生は、私の膝の上を「すみません」と言って、スッと跨いで、同期の自民党の派閥領袖クラスが居る方に向かいました。国会の椅子と椅子の間は、結構狭いんですが、向かった先には、高村正彦と古賀 誠が居た訳です。名前はサツと言いましたから、皆さんはすぐ忘れて下さい。このことについて、講談社で出版した「7人の政治家と7つの大罪」という本の中では、匿名で書かれているんです。3万部ほど売れましたが、実を言うと、この人達、前日まで郵政民営化反対と言っていました。当日は、トイレに駆け込んだようで、結果は皆さんが知っているとおりです。平沼赳夫先生は、堂々と反対票を投じました。2006年12月に脳梗塞を発症し、当初は声が出ないほど、体調も悪かったのですが、今すごく頑張っています。そういったことを見たり、聞いたりしていると、信念や志に基づいて行動する政治家が、本当に少なくなった気が致します。

失われた90年代、そして、21世紀からのこの9年間を考えますと、今年の1年間は、どのようになっていくんでしょうか。右往左往、瞑想しながら小賢しい奴が生き残るような、そんな世の中になるんでしょうか。最近の報道番組は、口先だけの知事が出て、県民をどうのこうのと罷り通り、フジテレビ、日本テレビ系を中心に、放送されているのが現状です。毎週土曜日、朝8時からの「ウェークアップ!ぷらす」に出ている辛坊治郎は私の後輩で、その番組のプロデューサーは私のゼミ生です。後で殴ってやろうかと思っていますが、最近、政治家がどうのこうのと、報道番組をテレビジャックしているのを、本当に、多く見るようになりました。

昨日、夜11時過ぎの番組でも、残念ながら同じようなものが、流れていました。某番組に出るため、東国原宮崎県知事は、大阪に来ていたらしいのですが、その日、ついでに橋下大阪府知事と会ったそうです。そして、夜にちょっとお酒を飲もうかという話になって、夜、一緒になって付いて行ったメディアは、68人ということ。また、よせばいいのに、68人ものメディアと、ずっと一緒だったんです。そして、舛添要一を幹事長に、東国原を総務大臣に、という話をしていたらしいです。90%は、本当の話だと思います。もう日本の国は、本当にポピュリズム、大衆迎合主義なんです。それと同じような駄目なメディアは、たくさんあるんです。も

う4年前に、小池百合子からホリエモンまで、あのように大騒ぎをして、皆さんが反省したはずです。しかし実際は、地方は切り捨てられ、そして、中小企業も切り捨てられ、中山間地域は補助金交付税を減税されました。実質、障害者自立支援法も切り捨てという形です。そのドキュメンタリー番組を見ましたが、秋田朝日放送がドキュメンタリーの賞を取った「38年間の想いを伝える『命の授業』」という番組以来の、とても良い番組だと感じました。

後期高齢者医療制度、母子加算の生活保護制度についてです。厚生労働省は予算が無いから「弱いところと、文句を言われたいところから、全部の予算をカットしていこう」という取り組みをしました。75歳以上の方の医療費というのは、若い人と比べると、結構な費用がかかります。ご存じの通りです。それで、厚生労働省はいろいろと考えて、後期高齢者と言いはじめました。早くお亡くなりになってもらいたいという、思惑があるかどうか分かりませんが、ご高齢の方々は、後期高齢者医療制度に加入することになりました。分かっていることですが、ほとんどのご高齢の方々は、本当に質素な生活をされています。それにも関わらず、今の高額所得者の税率は、たった50%です。以前は65%でした。それを考えたら、やはり55%くらいにすべきです。私だったら、すぐに取り組みます。まったく、国というのは、やり方が違うんですね。そういうところから、失われた10年が何だったか、そして、21世紀になってからの9年が、どのようであったかを、皆さんは大切に考えていくべきです。

本文に入ります。この1週間、2人の駄目な知事は、話題になっています。この間の日曜日に、フジテレビのあるインタビューにだけ、嫌でしたが出ました。東国原知事に対するコメントがほしいという依頼でしたが、東国原知事がその番組に急遽出なかったので、違うコメントが放映されてしまいました。2人目は、石原慎太郎という東京都知事です。個人的には、あまり好きではありませんが、もしかしたら、今年の10月頃、進退を明らかにするかもしれません。また、その都知事は、2016年夏季オリンピックの誘致を目指していますが、間違いなく、アメリカのシカゴに決まるような感じがします。シカゴというと、オバマ大統領の地元になるんですが、東京都は、次点という結果に終わるような気がします。昨年の北京オリンピック、2010年バンクーバーオリンピック、2012年ロンドンオリンピック、2014年ソチオリンピック、そして、東京で開催するという事は、無いと思います。やはり、シカゴやブラジルで開催してから、やっと、東京で開催するようになります。

石原慎太郎は、東国原知事について「したたかな芸人である」と言っていました。私はハローワーク知事と呼んでいます。売れない三流タレントが、何となく大学院で勉強して、宮崎県で自民党、保守政党が分裂した理由もあって、知事選に出ました。投票率は39%でしたが、当選をしました。何となく、マンゴーと地鶏のセールスマンをやり、人気回復した感じを受けますが、それを見ていた、行列の出来る何とかという弁護士は、彼に出来るなら、司法試験を受かっている俺の方は、全然大丈夫ということで、知事になったようです。恥ずかしい話ですが、共に大学の後輩です。また、東国原知事の元奥様と私は、あるテレビ局の番組審議員をしている仲間なんです。4年前になりますが「先生、主人が政治家になりたいと言っているので、アドバイスをしていただきたいんですが」と言われました。美人の女優さんからの頼みだったので「どうぞ、私の赤坂の研究室に来て下さい」とお答えしました。その後、東国原知事、そのまんま何某は来たので、約1時間に渡り、いろいろとアドバイスをしました。

その話の内容を1点だけ、ここでご紹介します。もし議員になったら、何10人という組織の1人になる訳だから、教育、医療、介護、福祉等の中から1つだけでも特技を持てば、それで

十分なこと、市民、有権者もそれを見て、何らかの答えを出すことが出来ることを教えました。また、知事や市長は、大統領制と同様、直接、有権者から選ばれるから、中途半端な知識では、駄目なことも教えました。大学院で2年間くらい勉強したからといっても、たかだか、机上の空論であり、ある程度は、必ず勉強しなければならないことをアドバイスし、彼もその都度、メモを取っていました。それから半年後、宮崎県の知事選に出ました。何のためにアドバイスをしたのかと、今になると考えてしまいます。

そういったことを含めて考えると、今回のケースで、1番許せないと思うのは「知事では何も出来ないから」と言っている知事が居ることです。何処の県とは言いませんが、そうやって何も出来ない知事がいるから、何も出来ないだけなんです。実際、知事になれば、いろんなことが出来るはずなんです。地方財政が厳しくても、あるいは3割負担を求められても、やろうと思えば、何百億円という予算も上手く使うことが出来るはずなんです。それなのに、知事を3年も経験していない新米に、いろいろと言われたくないです。知事では何も出来ないから、トップダウンの方式で自民党の総裁になって、あるいは総理大臣になって、取り組んでいきたいと話しているんです。もう本当に、絶対、間違った考え方です。この段階で、私はキレました。顔を洗ってから、出て来いと言いたいです。もう、その話の最後には「私が自民党に入ったら、自民党は選挙で負けない」と言っているんです。今日の読売新聞を読んだ方はお分かりですが、東国原が総裁になれば良いと思った人は、18%でした。残りの70%以上の方は「何やっているんだ、自民党」というような結果が載っていました。もしかしたら、宮崎県では3割くらいの方が、総裁になれば良いと思っているかもしれませんが、その宮崎県でさえ「総理大臣だなんて、以てのほか」というような調査結果でした。宮崎県は、マンゴーと地鶏の売り上げと、観光客数が増えているようですが、公務員の給与は、若干減ったか、ほとんど変わらない状況で、今もとても厳しい財政です。

今から2年前、景気が良かった時のことですが、その時の国税収入は54兆円、地方税収入は41兆円くらいでした。2つ合わせて95兆円です。3日前の新聞に、昨年度末の国税収入は44兆円ということで、この1年半で10兆円も減りました。まだ公表されておりませんが、地方税収入も、41兆円から35兆円くらいまで減ると、予想されています。合計で79兆円です。消費税収入も段々と減ってきていますから、この2年足らずで、税収は16兆円も減っています。

今年の5月16日に行われた、民主党代表選の討論会で進行役を務めた時、私はわざと財務省の資料を持って「ここに書いてありますように、国と地方の公務員の給与は、32兆円です」と話しました。2年前の95兆円という収入の内、公務員の人件費が32兆円でした。その割合は3分の1です。今、把握している79兆円の収入の内、人件費支出が32兆円とすると、約4割が公務員の給与に当てられる訳です。国民の生活が苦しかったら、公務員の給与を、5%、10%、15%というふうにカットしていくべきです。例えば、2割をカットしたら、何と6兆円が削減されるんです。そういった浮いたお金を、母子加算の生活保護制度に係わる2百億円という経費に当てることが出来るし、障害者自立支援法を利用している、ハンディキャップを背負った子供達の食事代にすることも出来るんです。利用者は、1日に1,000円、10日で10,000円とか、結構なお金が必要になるんです。平均で13,600円という金額になるそうですが、子供達にとっては、本当に大きな負担なんです。そういう金額ですら、切り捨てるという法案を日本は作っています。そういう神経、考え方がいけない。このような社会を見ていると、私は、本当に心から悲しくなるんです。

結論。税収入が95兆円から79兆円になったら、税金が16兆円、約2割、減ったことになりませぬ。国は簡単に、税金が減ったと言っていますが、そのお金というのは、市民が、一生懸命、汗を流して稼いだお金です。それにも関わらず、税金で働いている公務員の給与の方が、汗を流しながら働いている人達よりも多いというのは、人間として考えてみても、本当におかしいことです。だから、鹿児島県阿久根市の市長さんのブログを、ぜひ、見て頂きたいです。彼は、防衛大学校出身の元自衛官なんです、そこには、平成20年度の阿久根市役所の職員（市長、副市長、教育長、正規職員）の件費が、ホームページ上で公開されています。市職員250人中、156番までの方が、年収600万円以上です。何と、その比率は62%となっています。阿久根市は、人口2万人、漁業と農業の街ですから、その平均給与は176万円です。市民の皆さんが、頑張っただけで176万円です。しかし、その市民の皆さんの貴重なお金から、700万円という給料を、貰っている職員が居るんです。それを知った瞬間、私は、何で神様は、黙って見逃しているんだと思ってしまいました。

東国原知事が出てきても、自民党は、もう少し、毅然とした態度を取れと言いたいです。そして、誇りを持ってほしいということも、伝えたいです。橋下何某は、東国原と自民党が手を組み、東国原に総理大臣席を用意されるようなことを聞いた瞬間、横浜に行きました。そして、たくさんのメディアを伴って、私の教え子でもある前横浜市長の中田 宏に、秘密だからと言いつつ、地方分権を目指す首長連合を立ち上げ、自民、民主のどちらかの政党を支持しよう、持ちかけたそうです。中田は「そんなことは通じませんから、いい加減にして下さい。大阪府民の代表である知事だったら、もっと慎重にやりなさい」と伝えたそうです。続けて「横浜市は360万人で、全国一人口の多い市だから、そんなことは出来ません。市民党ですから」と話したそうです。2人共、まだ40歳代で若い世代なのに、私は、何かが間違っていると感じています。またそれを、駄目なテレビ局が次から次へと、ニュースで垂れ流しているんです。そんなことをやっていたら、かつてのファシズム政治、ナチス運動、日本の軍国主義のように、なってしまうような気がします。もちろん、昔は戦争を美化して、取り組んでいました。そういうようなことに、ならないでほしいと、心からそう思っています。

天皇皇后両陛下はカナダ、アメリカ御訪問のため、昨日、東京を御出発されました。天皇陛下は何10年来のカナダ御訪問になり、皇后陛下は初めてのカナダ御訪問でございます。戦前の話ですが、カナダのバンクーバーに、朝日軍という日系人の野球チームがありました。私の友人が、そのバンクーバー朝日軍に関する本を書きましたが、天皇陛下もその本をお読みになられたとお聞きしました。カナダに移住された人々が、朝日軍という野球チームを作り、戦争による迫害を受けながらも、日本人としての誇りをみせたというような内容が書かれている本です。それは、メジャーリーグの下ぐらいのチームでした。

私の推測ですが、昭和天皇は御病氣された後も、御無理をされて、国事行為の御名御璽をされたことと思います。それは憲法上、天皇陛下がやらなければならないことであり、国事行為には、議会解散の詔書を書かれることや、来賓の御挨拶をされることも含まれますが、この国事行為は、今の新憲法ではかなり重要なんです。私達には知らないことが、たくさんあるんですが、かなり大きな仕事であることに、違いはありません。それを、昭和天皇は御病氣された後も、実を言うと、きちんとやり遂げられておられました。平成天皇も御病氣をされてからも、かなりご無理をされて、御挨拶をされておられます。しかし、最近の御体調の関係もあり、侍従達もそのことに気付いたので、夜の御挨拶は、お控え頂いている状況です。私が言うのも変

ですが、たいへん律儀というか、本当にまじめな方ですから、そういった行事の前は、必ず、一字一句、間違いが無いように、事前に御確認されておられます。きちんと御準備をされる方だからこそ、御負担がかかっているんです。

しかし、何処かの国の総理大臣や、前の総理大臣は、挨拶は3分くらいで良いという考え方だから、低迷（ていめい）を「ていまい」、未曾有（みぞう）を「みぞうゆう」と、簡単な漢字ですら、読めないし、読み間違っているんです。解散の詔書の御名をされることは、かなり重大な仕事です。法律上は、皇太子が代筆出来ることになっていますが、それを知ってかどうか分かりませんが、ある国の総理大臣は、解散の詔書の御名について、陛下が17日までカナダ、アメリカに御訪問されている間に、解散をするようなことになれば、皇太子の代筆でも良いと話されたそうです。

だけど、それは違うんじゃないかと、私は思います。国民としては、やはり、陛下がお帰りになってからでも、遅くないだろうと思うからです。そういうことを含めて考えると、解散というのは、後で詳しく触れますが、おそらく、今月の17日以降にならざるを得ないと思います。

先程の知事の問題は、本当に日本の地方自治というものを、小馬鹿にしているように思います。宮崎県と大阪府、それぞれの地元では人気があるようですが、もう、この程度の政治が続くようであれば、変えた方が良いでしょう。なぜならば、民主主義では、有権者自身に、必ず全ての負が跳ね返ってくるからです。

2点目。「トップダウンでやりたいから、総理大臣になる」と言った彼の言葉から、地方自治、政治の基礎的な知識が無いということが、明らかに分かります。総理大臣になっても、トップダウンで何も決められないでしょう。何かあれば、議会を解散することだって出来るんです。実際、それを阿久根市長はやりました。そして、彼は市民に選ばれ、再選されました。首長は大統領と同じで、知事も市長も、直接、私達が選んでいるんです。中学の時に学んだ議院内閣制のとおり、日本は、イギリスの議院内閣制を採用しています。要は、多数党のリーダーが、議会で選ばれて、総理大臣になるんです。

だから、森 喜朗は、麻生さんに対して「自由民主党の幹事長は、森派、町村派で、清和会に所属している人でないと駄目なんだ。昨年9月、お前が細田で良いと言ったから、幹事長に認めただ。細田を変えて誰にする気なんだ。選挙で人気のある舛添にしたい、なんて話が通るものか。それが通るんだったら、清和会86人全員が、麻生派から手を退く」と言われたそうです。つまり、自由民主党の総裁、総理大臣でも、トップダウンで何も決められないということです。麻生太郎は、ホテルオークラの中華料理屋で「党三役の人事はしません。閣僚の補充だけ、やらせて下さい」と言ったそうです。本当におかしいことです。大統領制だから、トップダウンで何か出来ることがあるはずです。そんなのは、中学の教科書にも書いています。これから、1ヵ月、2ヵ月後に、衆議院議員選挙が行われると思います。ぜひとも、声を上げて、この問題に異を唱えて下さい。絶対に言わないといけないんです。駄目なテレビは、変な出来事だけを、追いかけるんです。今のメディアは、本当におかしい。

日本はここまで疲弊して、本当に無駄な行政が行われています。代表的なのは、117億円という莫大な経費で、マンガ・アニメの殿堂館を造ろうとしました。何も決まって無いのに、皆さんの税金をポンと出して、フジテレビがあるお台場に造ろうとしたんです。私も付き合いがある方ですが、漫画家の里中満智子さんが、依頼を受けたそうです。そして、彼女は、今から造るものを、検討するようなことを話されていました。それを聞いて、もう、官僚に、バケツ

で水を掛けてやりたい気持ちになりました。こんなバカバカしいことを考えたのは、官僚ですよ。そういう暇があるんだったら、4万何千世帯の母子加算を必要とされている方々の、生活支援をバックアップするべきです。霞ヶ関の官僚という人達は、国民の目線を、まったく持っていないということが分かります。結局は、自分達の既得権益を守ることだけを考えています。しかも、それを長年に渡って、やってきたということです。おそらく、自由民主党はもう終わったと、私は思っています。

この2週間の動きを、掻い摘んでお話させていただきます。昨年は5回か6回、麻生さんと飯を食べましたが、最後にお会いしたのは9月でした。自由民主党の幹事長だった麻生さんは、福田さんから、総理をやれと言われたことを話してくれました。私は「いよいよ総理ですね」と言いましたら、麻生さんは「総理になることよりも、総理になって、何をやりたいかということが問題なんだ」というふうに言われました。さすが、吉田 茂の孫と思いました。続けて私から「それは1つですね」と言ったら、彼はコップ酒を置いて「景気対策だね」と話されました。その頃というのは、ちょうどアメリカで4番目に大きな投資銀行、リーマン・ブラザーズが、破綻した直後でした。確か、今年の9月14日に破綻したと、記憶しています。「そうですね。景気対策、雇用対策が必要ですね」と私が答えました。今はもう、総理になりました。携帯電話への連絡は、失礼だと思っていますので、止めています。

6月中旬、麻生さんの親しい財界人から、電話がありました。「福岡先生。今は、にっちもさっちもいかないので、何とかありませんか」という連絡でしたが、その時、すぐにはコメントしませんでした。今の政治情勢を分析したノートがあるので、それをあなたから直接、お渡し下さいと言って、書類十数枚をコピーして、その人に渡しました。私の字は特徴がありますから、関係のある人だったら、私が書いたものだと、すぐに分かります。その書類の中には、1人の政治家として素直に決断をしてほしいこと、解散権を持っているのは、総理大臣だけであること、今の日本の状況というのは、国民に信を問いてもらうことが、最優先であること等を書いていました。そして、後日、お礼状が届きました。

東京都議会選挙ですが、自民党と公明党で過半数に届くかどうかは、分からない状況です。頑張りようで、127議席の半数の64議席を、上回るかもしれないが、可能性は薄いです。投票日まで2週間もないんですが、今の状態では、公明党も含めて、かなり難しいと思います。民主党ムードで流れているんですね。第1党は民主党になるかもしれませんが、もしかしたら、自民党は力が落ちて、40議席に届くか、届かないかという状況です。

青梅市と文京区では、だいぶ苦戦しているようで、昨日、総理が応援に駆け付けました。たまたま、その場で取材をしていた教え子から「まったく反応がないんです、冷めています」という報告を受けました。その話を聞いた瞬間、私は、2年前の夏に行われた、秋田の参議員選挙を思い出しました。ちょうど、こちらで講義があったので、見ていたんですが、その時は、安倍晋三さんが駅前に来ていました。皆さんも、覚えていることと思いますが、あの時と、同じような感じを受けたんです。現職の総理大臣が側に居ながら、「これからは、景気が良くなります」と市民に対して、言っている最中に、殆どの方が下を向いて「お前の言っていることは、違うだろう」と呟いている状況なんです。

おそらく、全国的にも、そういうことになっていると思います。今日の読売新聞にも記載されていましたが、この1週間で、自由民主党の支持率は、更に下がっています。その後の予測も、同じような感じです。今日から明日にかけてですが、5社が世論調査をしています。読売

新聞では、支持率が23%から19%に下がりました。最悪、支持率が一桁という数字になるかもしれません。朝日新聞、毎日新聞、共同新聞は、共に17%です。7%下がれば、支持率は10%前後になることも予想されているようです。麻生さんは、来週、イタリアで開催される主要8か国（G8）首脳会議・ラクイラサミットに出席した後、内政懇の記者会見で「都議選後、衆議院を解散することを事前に予告する」というようなことを言っていました。実を言うと、予告解散という言葉は無いんです。それを聞いた時、残念ながら、私は何ともいえない気持ちになりました。

今月の12日夜、東京都議会議員選挙の結果で、自民党が惨敗すると、翌13日の朝からは、麻生降ろし、総裁選の前倒しが行われるようなことも、考えられます。自民党には、選挙に弱い人間が大勢集まっていますから、今度は、人気のある人を立てようとするはずです。おそらく、2週間程かけて、総々分離を行うのではないのでしょうか。私の推測では、新しい自由民主党の総裁に、5割以上の予想で舛添要一、2割から3割の予想で谷垣禎一、0.3%くらいで小池百合子、その3人が立候補すると思います。石原伸晃さんは出ません。しかし、どう転んでも、自民党は勝てないと思います。また、ある段階になると、東京ブロック自由民主党の比例1番、宮崎県前知事という名前が、出てくるかもしれません。しかし、このような状態では、もう止めたほうがいいんじゃないか、という気がします。

四面楚歌という四字熟語があります。今の麻生さんは四面楚歌どころか、八面か十面か、それ以上の楚歌で、孤立していて本当に仲間がいないです。側近の財界人が一言、ドス黒い程の孤独感を感じると言っていました。しかし、麻生さんは、そんなことを思うような人ではないです。友人や側近、アドバイザーの話を、どのくらい聞くことができるのか、ということに限るんです。国の行く末を、どう決断されるのか、ということに繋がるからです。

リーダーは、決断力だと思います。常に反論、反芻しながら国家、国民のため、正しい選択肢を選ぶことが大切です。今は解散するか、退陣するか、2つの選択肢しかありません。麻生太郎の手帳を、一度見たことがあります。大安の日だけ、大きな赤マルが付いているんです。ですから、投票は大安日にするはず。大安等の六曜は旧暦で決まっていますが、だいたい6日おきに来るんです。解散するんだったら、8月2日の日曜日、8月8日の土曜日という投票も考えられるんです。大安だからです。そして、8月30日の日曜日が、これがまた、大安なんです。彼の性格ですが、座して死は待たないということです。だから、選挙に打って出るタイプです。

ここまで来て、あの脂ぎった顔が枯れて、引きつっている笑顔を見ると、内閣を改造したと言っても、どうってことがないような気がします。都議選で過半数を取って勝てば、解散しても、何の心配もないと思っているんですが、おそらく、都議選の翌日の午前1時頃、勝敗が決まった段階で、何らかの記者会見を開くような感じがします。もし仮に、解散しなければ、今月の末を以て、総理大臣を辞する覚悟だと思います。その時は、舛添要一が出てきたり、小池百合子もやる気満々で出てきたり、私の友人の谷垣禎一は、俺がやらなければいけない気持ちになって、宏池会の代表として出てきそうです。

鳩山由紀夫の故人献金を含む虚偽記載疑惑について、少し触れたいと思います。約90人の故人や献金をしていない人が、献金をしていたと収支報告書に記載されていた問題です。彼の普通預金から、実務担当秘書が4年間で2千数百万円を引き出し、そういった方々の名前を、無断に使い、報告していたとのことです。その責任を取って、虚偽献金を報告していた秘書は、

解任されました。政治資金規正法では、年間5万円以下の献金は、名前を公表しなくてもいいんですが、そのことを自民党は、いろいろと言う訳です。また、自民党はその鳩山スキャンダルで、追い込みたいという考えになっているんですが、民主党は、そんなに大きな問題ではないと思っているんですね。ですから、鳩山由紀夫と岡田克也の党首代表選を、民主党は行いました。今、鳩山さんは、相当疲れが溜まっている頃だと思います。

松下政経塾の17人の教え子が、民主党に入っているんですが、あの党首代表選のコーディネーターを務める人は、結論を言えば、誰もいませんでした。たまたま、私は鳩山由紀夫と同門で、同じ先生の下で勉強をしました。岡田克也のお兄さんの元也さんは、イオン取締役兼代表執行役社長をしていますが、4期後輩になります。お互い、付き合いがあったので、一応やりました。前日の夜8時頃、私の赤坂の事務所に4、5人来て、両方を均等に見られる人は、他にはいないからとか言って、説得させられたというか、結果的にコーディネーターを務めました。会場の後の方に居たある記者が、小沢さんは鳩山、岡田、どちらでも良かったこと、岡田であれば人気がありすぎて、民主党が勝ち過ぎることを話していたことを、私に教えてくれました。2人とも、小沢一郎さんの3手先を見て、行動される方です。鳩山さんが、にっちもさっちもいなくなったら、サッと岡田克也が代表になるはずですよ。岡田は、裏金とは本当に無縁です。かまぼこが届いても、彼は着払いで返します。返された相手には、腐ったものが届くという話が、よく聞こえてきます。

岡田が代表になったら、おそらく、長妻 昭が幹事長です。岡田代表、長妻幹事長だったら、駄目もとても、選んでみたいという国民は、たくさんいるはずですよ。そこまで、小沢さんは考えているんですね。昨日から、自民党は、鳩山由紀夫の政治資金規正法の莫大な書類を、本気で洗っているようです。しっかりとやらなければいけないのは、分かるんですが、自民党は、鳩山由紀夫の献金をやっている場合じゃないでしょう。ゼネコンからの裏金とは、まったく意味が違うんです。もちろん、虚偽記載は、悪いことですが、今は、もっと他にやる必要があるはずですよ。どっちもどっちですが、自民党は、もっとしっかりと、考えた方がよいと思っています。

もう1点。今年の5月の連休明け、秋田での講義を終えてから東京に戻り、ある自民党の関係者のパーティーに出席しました。「先生、3分間挨拶をしてくれ」と言うので、舞台下に移動しましたら、鳩山邦夫総務大臣が先に挨拶をしていました。挨拶が終わり、彼が舞台を降りてきた時、私の顔をちょっと見たんです。彼が年少、私が年長ですが、一応大臣なので、頭を軽く下げました。そして、彼はサッと私に寄ってきて「先生、最初にオリックスありきです。かんぼの宿は一括売りで、最初からオリックスですから」と言って、スツといなくなりました。もちろん、近くに新聞記者もいます。これがいわゆる、かんぼの宿の背景で、それはもう最初から、オリックスの宮内なんです。だから、2千何百億円という金額が落ちて、109億円、実質4.9%で落札するようなことになるんです。このことは、とても重要です。

2002年11月のある日、アメリカ、ニューヨークの高級レストランで、2人の人物が食事をしました。1人は世界最大のファンド、ゴールドマン・サックスの人間です。リーマン・ブラザーズが破綻したのは、サブプライムローンの問題があったからですが、ゴールドマンは、途中から原油の先物取引をやってしまいました。前の講義でもお話ししましたが、その時、ゴールドマン・サックスの最高経営責任者（CEO）は、ポールソンが務めていました。のちの、アメリカ財務長官のヘンリー・ポールソンなんですけど、こういうところが、アメリカは凄いという

か、デタラメなんです。相手をしていたのが、前三井住友銀行頭取の西川善文です。

先々週の週刊朝日を読まれた方は、すでにご存じだと思いますが、1998年からの約10年間、拓銀、山一をはじめ、りそな銀行等、多くの金融機関が倒れたり、自己資本の不足を指摘されました。当時の三井住友銀行も、自己資本強化のために、お金を借りなければいけない状況になっていました。その時に、ゴールドマン・サックスがお金を貸したんです。国からも出たということですが、融資ということで、合わせて、何と5,000億円です。ファンドの方の金利は11%、年220億円です。日本の軸の三井住友がいろいろと言っても、ファンドは4年間で880億円という莫大なお金を、日本から抜いていったということになります。まあ、冗談になりますが、皆さんが1人1万円を寄付してくれたら、この会場は、300万円が集まると思います。それを運用して、金利11%、年33万円の利子収入は、私が貰うことにしたいですね。普通の人間だったら、そりゃあ、誰だってやりますよ。

ポールソン、ゴールドマン・サックス、三井住友の西川さんは、友人関係にありますから、だから、食事をしているんです。その席に遅れて入ってきたのは、当時の金融担当大臣の竹中平蔵です。メガバンクの頭取が、郵政民営化に賛成する訳がないでしょう。秋田の銀行のことは、何もコメントしませんが、易保、ゆうちょにある皆さんのお金は、360兆円くらいです。これが民営化されたら、メガバンクなんて、とても勝負にならないことを知っていたから、メガバンクはみんな、反対したんです。また、ポールソンは竹中を見て、財務長官になったそうです。そういう関係で、3人が飯を食っていたんです。それ以来、日本郵政の社長、竹中、西川の間には、オリックスの宮内が入ってくるんです。元々は全部これです。問題は、郵政民営化だけでは無いんです。

タクシーの規制緩和が行われました。タクシー会社に聞くと、すぐに分かるんですが、殆どの車はリースです。皆さん、日本最大のリース会社は、何処だと思いませんか。それは、もちろんオリックスです。皆さん、小泉政権時の規制緩和の座長は、誰だと思いませんか。それは、もちろん宮内さんです。村上世彰の村上ファンドの資金の約9割は、オリックスのお金です。振り回されたのが、2002年からの2年間です。最後は、2005年の郵政民営化の選挙です。こういう問題です。しかし今、有権者は気付き始めました。だから、横須賀の市民は、現職市長の応援に来た小泉さんを見ても、何とも思わなくなりました。そして、その現職は負けました。かんぽの宿の問題は、以上の通りです。すべて、それです。

鳩山邦夫のやっていることは、パフォーマンスが強すぎると思います。この間の郵政社長の再任会議の時です。大蔵官僚が前に座っていましたが、欠席した人は1人です。伊藤忠商事株式会社取締役会長の丹羽宇一郎さんだけです。西川さん共々、席に座っていました。また、読売新聞、日本経済新聞の両方を購読されている人は、お分かりだと思いますが、読売の渡邊恒雄さんはオリックスが嫌いですから、読売新聞は、徹底的に西川批判をしました。ところが、日本経済新聞は、それはもう凄い形で、西川をバックアップするんです。その背景というと、アメリカの損保の何とかアフラックとは言いませんが、保険会社は、年間数千億円というコマースシャルを依頼しているためです。もちろん、日本の限られたメディアにだけです。ファンドも含め、そういった会社というのは、日本から何10兆円というお金を稼いでいるから、出来ることなんです。だから、この1ヵ月くらい、鳩山邦夫を支える読売新聞と、西川善文を支える日本経済新聞の社説は、それぞれ全く違うんです。今、日本は厳しい状態だから、そう簡単にスポンサーが見つからないんです。そういう問題です。

郵政民営化に反対をした人達は、尽く、テレビに出られなくなっています。最近、慶應大学の金子さんを見かけないでしょう。大学の教授は、プライドがあるから、プロダクションには入らないようですが、森永卓郎さんは、某プロダクションに入っているから、出ているんです。数年前の郵政により、森田 実さん、明治大学の高木 勝教授等、非常に立派な見識を持っている方々は、テレビにまったく出なくなっています。見かけるのは、文書や本だけです。本で、今20万部も売れているのが、一橋大学の中谷 巖の『資本主義はなぜ自壊したのか～「日本」再生への提言』（集英社）です。興味がある方は、後で読んでみて下さい。しかし最近、少しずつ、テレビに出てきているようですが、野村総合研究所のリチャード・クーですら、一時テレビに出なかったでしょう。この後、私は総選挙があると思いますので、実を言うと、この1ヵ月間はテレビに出ません。植草何とかは、別の理由で出ていませんが、今でもこのような状態です。

ノースアジア大学の客員教授になったのは、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思い、秋田に来ています。秋田は中山間地域が多く、人口は著しく減少している県です。本当に厳しい状況です。今年の冬、雪が降る季節に、その中山間地域を、ぜひ見に行きたいというふうに思っています。私の課題です。

お金を持っていないアフリカの子供達は、食べる物すら買えない状況なのに、トウモロコシ、小麦をバイオエタノールにしようということで、その子の食べる分まで加工して、アルコールにしている状況です。食べる物がまったく無いから、多くの子供が亡くなっているんです。皆さんは、何で、栄養失調の子供のお腹が大きいのか、ご存じでしょうか。水が溜まっているから、お腹が大きいんじゃないんです。ケニアで医療活動をしていた教え子が言っていました。少ない食べ物から、いっぱい栄養を取るために、腸管が大きくなるんです。だから、食べた物から、少しでも栄養を取るために、お腹が膨れてくるそうです。そうですよね。水が溜まっているんじゃないです。人間で、悲しいですが、凄い動物なんですよ。

ファンドが原油の先物取引をしている時、プッシュと小泉がキャッチボールをして、環境を重視している時代だから、エタノールを作りましょうということで、子供達は小麦、トウモロコシを食べられなくなったんです。小泉さんの掛け声で、宮古島にその工場を作ったのですが、結局、その言葉は、世界の食糧価格を高くしてしまったんです。全部、そんな筋書きです。だから「もう、おかしいよ。小泉、竹中改革」と、みんなが気付きはじめたんです。

竹中平蔵が月1回、産経新聞に政党に関することを書いているんですが、ある人が、産経新聞の会長に「おかしい。あいつが今テレビに出て来て、また、新聞で偉そうなことを言えるのか」と苦言を呈したそうです。右寄りとは言いませんが、信念や哲学を持った人が、きちんと言わないといけない時代なんです。だから、東国原は本当におかしいですね。橋下は、何か口八丁、手八丁です。40歳代で、弁護士なのに、なりふり構わずテレビに出ています。そんなのは、どっかで止めなければいけないんです。

前倒し総裁選であれば、自民党の新リーダーは舂添か、谷垣です。良識があれば、谷垣です。ワンポイントで与謝野馨。良識が無ければ、舂添、小池百合子という感じがします。解散投票なら、8月2日か、8日か、30日です。最悪、任期満了ということもあるとは思いますが、可能性は少ないです。今の状況が続くのであれば、いい加減にしてくれと言いたくなります。

静岡県知事選についてです。今から2週間ほど前ですが、自民党系の女性候補がリードしていました。先週末の調査では、3勝4敗で対立候補にリードを許し、民主党推薦の元大学学長

が僅かに勝っているようでした。ほぼ、一線ということですが、詳しく調査している訳ではないのですが、投開票は明日です。今日が最後の1日です。明日の8時頃、NHKの天地人の音楽が始まった瞬間に、「静岡県知事選、民主推薦者当選」という選挙速報が流れると思います。選挙の前日なので、あまり言いませんが、おそらく、自由民主党には、厳しい結果が待ち構えているような気がします。

秋田県は宮崎、大阪のような形にならないように、知事さんに、いろいろと要求を突き付けて下さい。私も、知事や秋田市長に、いろいろと行っていきますので、どうぞ、県職員と市職員の給与を、2割カットする運動を皆さんでして下さい。秋田県の退職金は計算していませんが、岐阜県の知事は後輩ですので、この前、職員の退職金について、いろいろと聞きました。そして、過去5年間の金額を出してみると言ったところ、団塊の世代の退職者等も含めた、約300人分の退職金載っている書類を見たんですが、平均の退職金は2,997万円だったんです。18歳あるいは22歳から、約40年近く働いた公務員だと、退職時に、基本給に59.3ヵ月をかけるんです。57ヵ月をかける退職者も多いですが、分かり易いように、今日は、60ヵ月と考えて下さい。職員60歳の基本給は、普通なら45万円から50万円です。それに、かける60ヵ月です。何と退職金は、約3,000万円にもなるんです。

今週、立命館大学で地元出身の野中広務先生が、一緒に講義をしてくれました。その時、話をしてくれたんですが、霞ヶ関の官僚や局長クラス、いわゆる、霞ヶ関のエリート達の58歳、59歳の基本給は、何と128万円です。次官、局長クラスの基本給に60ヵ月かけると、7,000万円になるんです。だから、元航空幕僚長の田母神何某も、7,000万円を貰って、参謀何とかを解任されましたが、これが霞ヶ関の特権です。

いつも、全日空の飛行機に乗る時は、1番早く、乗り降り出来る席に座るんですが、その時は、出発前に少し時間があつたので、電話でいろいろと話をしていました。そうしたら、いつの間にか、誰かに座られてしまいました。隣が空いていたので、そちらに座りましたが、先に座った人物は、何処かで見たことがありました。それは、残念ながら田母神俊雄でした。彼は、私より若いですから「邪魔、退け」と言ってやろうかと思ってしまいました。実は、8月6日に広島で、彼は講演するんですが、絶対、講演しないほうが良いと思います。核武装をしろと言う人が、6日に広島で講演会を開催するのは、いかがですかね。単に6日を避ければ良いことでしょう。広島市民からの、その日だけは講演しないでくれというメッセージを、彼は分かっていないんです。霞ヶ関は、そのような人しかいないんです。どんなことがあっても、変わりません。私はそんな気がします。

地方自治なんて、やりようによって、いくらでも変わるんですが、現状は、そう簡単ではないんです。公務員の給与を2割カット、また退職金を3割カットしたって、結局は、2,000万円くらいを貰うんです。岐阜で1番儲かっている銀行は、大垣共立銀行ですが、これは本当に優秀な銀行です。そこで約40年間働いた、元支店長の退職金は2,000万円だったそうです。岐阜のナンバーワン銀行で、大卒後約40年働いてきた人が、その金額です。中小企業は、600万円から800万円くらいです。商店街の皆さんは、退職金が無いんです。公務員の問題は、何かが間違っていると思います。

私の父親は公務員でした。母親は現在95歳になり、毎月12万円の年金を頂いています。受け取りは、2ヵ月に1回らしいですが、8畳と6畳の住むところがあって、それはもう、有り余るほど、家族で感謝しております。私の妻が介護のヘルパーとして、月2回か3回、母親の爪

を切ります。それは、私の妻にしか、切らせないんです。なぜか、娘でも駄目なんです。私達、兄弟も毎月、上納金を渡しています。1人は社会保険労務士、もう1人はテレビ局の社長をやっていますが、まあ、それでもブツブツと文句を言っている母親ですが、元気で何よりです。

60歳の時、私にも年金の手続きに関する通知が届きました。毎月18万円という金額が、そこには書かれていましたが、一応、70歳まで辞退させて頂きました。年金がもっと少ない人達のことや、親父が死んでから、何もしない母親が、20数年間に渡り、年金を頂いている関係もあったからです。2年前ですが、62歳で大腸癌になった時は、これでもう終わり、年金は貰えないんだと、一瞬、考えましたが、何とか生きようと思った訳です。秘密ですが、私は私立大学に勤務していますから、共済年金になります。

今日は、いろいろと現場力のお話をしているのですが、もう1人、ご紹介いたします。それは、ヤオコーの会長さんです。彼とこの前、飯を食べました。八百屋さんの会長さんは、私の年上で65歳だったと思います。彼が学生だった頃に、父親が亡くなりました。当時は、年商2億円の八百屋さんでした。お母さんが店を切り盛りしましたが、彼に跡を継げと言わなかったらしいです。東京大学法学部に通って、司法試験の勉強をしていましたから、間違いなく合格する人だったと思います。その時、彼は凄く悩みました。結局、司法試験を諦めて、大学を卒業してから、ヤオコーを継いだというか、1から野菜を売る仕事をしました。45年経って、今の年商は2,000億円です。一部上場企業で、株価もなかなかのものです。もちろん、スーパーの中で生き残れるのは、ヤオコーだけだと業界では言われています。たまたま、そこに居合わせました100円ショップのダイソーの社長は、飯を食べている間、ずっと「凄い、凄い」の連発でした。メモを取りたかったらしいのですが、お酒の席で、ほとんどメモが出来なかったようです。その時の記録は、家に帰ってから書き残したということ、その社長から、後で聞きました。

「先生。ジャスコとイオン、イトーヨーカドーは別にして、地方のスーパーで頑張れるのは、野菜中心、食べ物中心のヤオコーさんと、マルナカさんくらいです」と、三菱商事のマネージャー兼課長が言っていました。以前、私の後輩のユニクロの柳井 正が、トマト栽培をしたことがあります。しかし、1年か2年でやめました。それが、現場力なんです。ヤオコーの会長さんから「生鮮食料品は難しいです。現場に行くと、美味しいトマトを確認しないといけないし、その年の気候にも左右されます。形も色も違うし、本当に難しいです」と聞いたユニクロの柳井は、あっという間に、トマト栽培をやめました。しかし、その切り替えの早さが、いわゆる、現場力です。

時間が少なくなりましたので、もう1人、お話してから、質疑応答に入ります。ニトリの社長は、いろいろな場所に店を出しています。彼は1歳年上の昭和19年生まれで、実は、私のカラオケ友達です。北海道の北海学園大学という、私立大学を卒業されました。樺太生まれで、実家は家具屋さんでした。彼が37歳の時、今から約30年前、アメリカへ渡りました。その時、安い家具がたくさん売られているのを見て、彼は企画、製造、小売業のすべてをやると思い、中国、インドネシアに入り、勉強され、今のお値段以上のニトリを確立しました。実際、ソファ1つ見ても、かなり安いですね。それは、本当に値段以上の価値があると思います。また、彼は次から次へ、あの商品、この商品といろいろと、常に考えているんです。社訓は1に安く、2に安く、3に安く、5に安全らしいです。それが、今の時代ですね。

しかし、ヤオコーの会長さんは、すでに安いから「うちは安売りしません」と言います。二

トリーは、徹底して割引していますが、23年間、増収増益です。どっちが伸びるかということを考えても、共に年商2千数百億円なので、判断は出来ません。言いにくいですが、昔とは、もうまったく、時代が違うんです。業界は、ガラッと変わりました。三菱商事のマネージャー兼課長の36歳の後輩が「先生。日本のコモディティはトヨタ、ホンダだけじゃないんです」と片言の英語を使って、話してくるんです。コモディティという言葉は、商品、物を意味するんです。私はニュアンスで、その言葉を理解出来たので「馬鹿やろう、日本人なら日本語を使え」と言って、彼に教えてやりました。

日本はトヨタ、ホンダだけじゃないんです。東南アジアから中東に至るまで、あの100円ショップの鉄（はさみ）が、10万挺くらい出回っているんです。また、種類も豊富で、左利きは7種類、右だと19種類もあり、次から次へと改良されているんですね。それを考えたら、日本の商品は、本当に安くて素晴らしいでしょう。これが、日本のもの作りの原点です。東南アジア、南米、東ヨーロッパへ、いろんな物がたくさん出ているんです。だから、日本の国は大丈夫です。

次の秋の講座にも、現場力の話をしたいと思っております。それでは講義を終わりますので、ご質問をお願い致します。ご静聴、ありがとうございました。（拍手）

成 田 成田と申します。1点だけお尋ねしたいのですが、官僚の天下りについてです。約4,500もの法人があると言われてます。また、2万5千人の天下り職員がいると聞きます。そして、年間12兆円の予算が、そういったところに流れていると聞いたことがあります。数字は定かではないんですが、4,500という法人は、果たして、本当に国民にとって必要なものなのか、また、12兆円という膨大なお金を使う必要があるのか、ということについてです。私は疑問に思っています。先生のお考えをお話し頂ければ、とても有り難いです。

福 岡 その法人というのは、正確には公益法人といいます。本当に、公益に役立っているかということについてのご質問ですが、霞ヶ関からの天下りは、約2万5千人です。随意契約も含めて、当てられている特別会計は、12兆円に上ります。霞ヶ関では「お金を渡すから、俺たちがOBになったら、全員を理事長や理事に」ということを、しているからです。ですから、128万円の基本給で退職し、退職金を7,000万円貰い、そして、公益法人の理事等に天下ります。ここでは、女性秘書が居て、専用車と個室を使用し、4年くらいやって1,800万円を貰い、また400万円の退職金を受け取っているんです。霞ヶ関の道路1本先の虎ノ門というところに、公益法人、独立行政法人、特殊法人のほとんどの本部があるからこそ、出来ることなんです。前にも触れましたが、渡辺喜美が私に「霞ヶ関じゃないんですよ、先生。虎ノ門なんです」ということを言っていました。

かつて、霞ヶ関に居た、官僚や政治家、次官クラス達が寄って集って、渡辺喜美行革大臣の人事局長のポストは、民間人では駄目だという文書にしまったんです。また、国土交通省は五月雨人事をやっていると、昨日、あるドンが私に教えてくれました。そして「今、すべてのエリートが地方に出しているようです。なぜ、地方に出しているか分かりますか。福岡先生」と言われましたが、分からないようにして、聞き返しました。そうしましたら、彼の口から、民主党政権になって、小沢に潰されたくないから、40歳くらいのエリートは、地方道路局に出ているんですよ。どうせ2年、3年で、民主党政権が潰れるだろうから、ということです。本

当に、こういう形でやっているんです。霞ヶ関のエリートにやられたら、地方は、仕事なんか出来ません。

国家公務員 種、かつての上級職には、毎年800人くらい受かっているんです。その内、69%は東京大学の法学部と経済学部です。もう、そこには厳然とした組織があるんですね。だから、お前とだったら随意契約するから、特別会計の何とかから3,000億円を出す、というふうなことになるんです。国交省系の公益法人だけで、60法人から70法人はあります。それが、この事実です。今、このことを、一生懸命、改革しようとしているのは、民主党の細野豪志です。某女性タレントとの噂がありましたが、本当にいい奴です。長妻 昭もいい奴ですが、そういった何人かは、全容解明のために、頑張っているんです。

そのことを一番知っているのが、元東洋大学教授の高橋洋一です。ある脱所の防犯カメラの記録が証拠になり、窃盗容疑で書類送検され、大学を辞めましたが、昨年、講談社から出版された「さらば財務省！ 官僚すべてを敵にした男の告白」は、15万部が売れました。彼はその本に、大蔵、財務省の悪口を書いたんです。大蔵省を辞めて1年、東洋大学に勤めはじめて6ヵ月でした。今は、自宅で待機されています。結局は、そう簡単ではないということが分かります。

それでは、もう1人の方、ご質問をお願い致します。

中 島 中島と申します。この間、高速道路の料金が一部を除いて、1,000円になりました。最近、どんどんとフェリーは無くなっています。一方、新幹線は線路を延ばし、国内航空は、静岡空港が完成し、増えています。これからの日本の交通体系というのは、どういうふうに考えていったら、良いんでしょうか。仮に、高速道路の料金を無料にすれば、新幹線、更には空港も、いらなくなるような気もするんですが、福岡先生は、その辺をどうお考えでしょうか。よろしくお願い致します。

福 岡 ご指摘のように、今後の5年先、10年先、20年先の高速道路を含めた日本の交通体系を、早急に考えなければいけないと思っています。民主党なら、高速道路は無料にして、ガソリン暫定税率を廃止するはずですが、そうなった時、遠心拡幅が進み、新幹線はどうかかなという気がします。また、フェリーは圧倒的に民間会社が多いんですが、最近、瀬戸内海で料金を安くし始めましたが、相当苦しいです。それにも関わらず、国土交通省や大学教授で、陸、海の交通体系をトータルで考えられる人というのは、ほとんどいない状況なんです。本来は、理想的なビジョンを持っている人達で、考えなければいけないのに、たまたま、道路を造れば物が動き、運輸会社だけでなく、人もお金も動くという、安易な発想から、このようなことになりました。

新幹線を遠心拡幅することは、ある程度必要だと思いますが、空港はどう考えても、とても厳しい状況です。静岡の搭乗率は、6割くらいなんです。昨日、ある雑誌を読みましたら、一流ホテルの稼働率は、7割から8割程度だったのが、今は54%にまで落ちているという記事を読みました。旅行業界も、それだけ厳しいということです。しかし、国は高速道路を無料にするとか、子供手当として月2万6千円支給するとか、まったく、財源を無視したやり方を考えているんです。そして、後になって、やっと考えるという感じです。こういうのが、ほとんどです。もう少し、別の考えで、効率良くやってほしいと思っています。

この会場に自衛隊の方が来ているかもしれませんが、無駄になった大砲の弾や、撃たなかった弾が、何10発もあって、それを全部廃棄したと聞きました。1発が1,000万円くらいです。財務省の調べでは、何億円というお金が無駄になったとの報告でした。撃てば良い、ということではないんですが、これは、すべて税金なんです。もっと、大切に考えるべきです。

大学の教員も、みんな同じです。学生の授業料で生活していることを、肝に銘じなければいけません。そういった気持ちがあるから、私達は、学生が居れば頑張れと応援し、死ぬまで闘い続けることが出来るんです。昨日、遂に白鷗大学の学生が胃痙攣で倒れて、病院に担ぎ込まれました。病院の先生が、適切に処置してくれましたが、昔のように、大勢の学生が胃痙攣で倒れるくらい、勉強してほしいと思っています。しかし、最近はあまり見かけませんし、残念ながら聞きません。だけど、私は教育の原点に戻り、厳しく叱って、優しく接していきたいと思っています。

霞ヶ関の連中で、高級メガネ、ブランド物を持っている人は、全体の3%くらいです。ゴマスリの東京大学法学部出身者だけが、みんな上がっていきます。しかし、私が付き合っている官僚は、70人くらいですが、だけどそれは、ほとんど窓際です。そういうような状況であります。

今年の秋も引き続き講義をしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。(拍手)

橋 元 素晴らしいご講演を、どうもありがとうございました。次回は、ぜひ美しい秋景色の秋田にいらしていただきたいと思います。ご来場の皆さま、ご清聴、誠にありがとうございました。

日本の平和構築と開発援助努力

国際権力政治の観点から

阿曾村 邦 昭

1. 現代の世界と紛争

第二次世界大戦後の国際社会は、米ソの冷戦時代、つまり、ハーヴァード大学のジョセフ・S・ナイ教授の言う「実際の戦争をともなわない、濃密な敵対時代」^(注1)が続いた時代と1989年のソ連帝国崩壊によって冷戦が終わったあとの時代に画然と分けられます。

冷戦が終わったあとでは、米ソ対立という重しがとれたこともあって、これまで表面化していなかった民族、部族、宗教、資源の支配権が複雑に絡み合った対立が暴力をともなう国内紛争として頻発することになりました。

しかも、こういった紛争は開発の遅れた貧しい国々に起こっているのが特徴です。冷戦後の国際政治におけるもう一つの特徴は、ソ連崩壊後圧倒的に優勢な武力を保持している米国が、産軍共同体を維持しつつ、イラン、イラク、北朝鮮を「ならず者国家」としてその脅威を自ら単独で認定し、これらの国々への軍事的干渉の可能性を追求してきたことです。

現在、米国オバマ政権の当面最大の課題となっているアフガニスタンへの派遣兵力の増強、社会インフラ、警察訓練など各種援助の強化、各国への協力要請もイラクへの軍事的関与の振り替え政策と考えるべきでありましょう。

米国の安全が根本的に打撃をうけるような本格的戦争に至らない範囲で、これは中国やロシアとて同じことですが、敵性国家なりグループを特定し、軍事力行使の対象としているということです。冷戦終結後も米国の軍事費は少しも減っていないのです。たとえば、イラクでの戦費は毎月120億ドルで、湾岸戦争のときに日本が負担した経費総額130億ドルに近いのです。これだけの戦費を払えば、軍需産業は潤ったでしょうが、この結果、米国経済は双子の赤字、すなわち、財政赤字と経常収支赤字が慢性化し、赤字国債を中国や日本に引き受けてもらって過剰消費を支えるという事態の原因のひとつとなってきたのです。

今般、オバマ大統領はブラーハで米国大統領として初めて「最初に核兵器を使用した国である米国は核の廃絶につき特別の責任を有する。」と述べ、「われわれは単独でその目的を達成することはできないが、行動し、主導権をとる事はできる (We can act. We can lead.)」として、将来的な核廃絶を提唱いたしました。当面、核軍縮、核不拡散についてどのように具体化するか、就中、本年12月に期限切れになるロシアとの間の第一次戦略兵器削減条約 (START) に代わる新核軍縮条約を結ばなくてはなりません、ロシアは米露の核均衡確保による抑止力維持を基本方針としており、今後の成り行きが注目されます^(注2)。

このほか、核兵器保有国である中国、フランス、英国を含む各国とどう折り合いをつけていくのか、

インド、パキスタン、イラン、北朝鮮、そして中近東で唯一実戦的核兵力を有するイスラエルとはどのように話を進めるのか、核拡散防止条約（NPT）における発展途上国側の「脱退する権利」要求をどう封じ込めるか、米国の核兵器による相対的な軍事力優位性が失われるのをどうやって補うのか、軍需産業と密接に結びついた議員や国内世論をどうやって説得するかなどまったくこれからの問題です。

米国経済は、住宅価格の値上がりを前提にして国民がろくに貯蓄せずに借金してお金を使ってきたのですが、今回の金融危機以降、住宅価格の値下がりにより借金が資産を上回る、つまり債務超過のバランスシートを持つ民間部門が数多く生まれ、みんなが貯蓄なり利益を借金返済にまわすようになります。銀行に入るこのようなお金の借り手も余りないのですから、当然、消費と投資は減少いたします。所得も減少しますし、失業が増加します。

米国経済に対する信用が揺らいでおりますから、赤字国債の引き受け手も中国、日本などをはじめ諸外国の対米輸出減少と重なって、これまでみたいにはすんなりといくはずもありません。オバマ政権は1月に発足して以来米国市場最大規模の7,870億ドル（約76兆円）の公共事業対策、金融機関安定化などの景気対策、国民皆医療保険政策の実施による民心安定化対策などを打ち出しておりますが、富裕層への課税引き上げを行うにしても、結果としては、多額の政府支出を必要といたします。ですから、軍事費の削減が経済再建のためにも必要になってきたように思われますし、それだけにジョセフ・ナイ教授の言う「強制することなく人々をわれわれの側に引き付ける能力」つまり軍事力以外の話し合い、文化的魅力、価値観の共有などを含むソフトパワーを通じ各国の協力（ハードパワー主体）を求めることとなりましょうが、具体的にはとりあえずアフガンにおける国際治安支援部隊の増強と各種経済・技術援助の増大を通ずる国際平和維持活動への各国への負担増加要請となって現れるのこととなるのでありましょう。

米国の軍事予算は、いずれにせよ経済の低成長がしばらくの間は続くでありましょうから、減少することはあっても大幅に伸びることは難しいのです。他方、中国経済は世銀とIMFの予測によれば今後も平均7～10%程度の成長を続けるとされています。中国の軍事予算は経済の伸びを上回るスピードで、つまり、毎年二桁台の伸びが過去20年間つづいており、09年度は22.1%の増加を決定いたしました。何でこんなに増えるのか、透明性がありませんので、よく分からないのです。

この調子でいけば、15年もしたら東アジアでの中国の軍事力が米国を上回るようになるであろうという予測もあります。それに、北朝鮮の核兵器開発とミサイル開発問題による脅威増大と来るのが、わが国憲法前文によれば平和を愛しているはずの二つの隣国の現実であります。

このような状況の中で、今日、我が国も自衛隊員を海外に派遣して国連PKOに参加するとか、ソマリア沖への海上自衛隊の護衛艦二隻派遣、ソマリアの治安・人道対策への支援（20億円超）、アフガニスタンやパキスタンへの開発援助協力実施を通じて国際的な平和構築に寄与する姿勢を明確に打ち出しておりますが、本稿に於いてはこのような政策が戦後の日本外交の中でどのような経過で打ち出されるようになったか、その成果はどのようなものであったか、そしてそれが国際政治の脈絡の中でどのような意味合いを持つのかを私自身のささやかな個人的体験をも含め考えてみたいと思います。

2. 日本 国際平和構築努力における傍観者

戦後の日本は、米国の占領下、日本の徹底的弱体化、軍事的無力化、米国の従属国化という敗戦直後の米国の方針を反映した現行憲法を事実上押しつけられ、米国による徹底的な洗脳政策と「進歩的文化人」、マスコミ、日教組、官公労などの影響の下に「極東裁判史観」といわゆる「平和憲法」信仰が根

強く広がり、政府も国会対策など内政上の考慮から国外の紛争にはなるべくかわりたくない、従って、紛争の平和的解決へのイニシアチブなどとならないという消極的な外交姿勢を大体のところ取り続けてきたのが大きな特徴です。

1960年の日米安全保障条約の片務性是正を目的とした正しい方向への岸内閣の条約改正努力が惹起した「安保騒動」以後、安全保障がらみの案件はなるべく避けて通ると言うのが歴代内閣の常道となってしまったのです。

「安保騒動」などがなくても、そもそも現行憲法は、その前文で「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」と述べているのでありますから、第9条の戦争放棄、戦力否認条項と関連して、米国が自国の場合には決して容認しないような、自国の安全保障を他国の「公正と信義」に委ねる、徹底した性善説的決意を謳っている以上、自国はもとより、世界の他の地域なり国で紛争により平和が破壊され、人々の安全と生存が脅かされる事態などそもそも想定していないのであって、ましてやこういう予想外の事態に積極的に武力なり経済力を用いて介入し、平和構築に貢献しようなどという政策はすんなりとは出て来にくいのです。

ソマリア沖の日本関係船舶を海賊から保護するために護衛艦二隻が現在出動していますが、こういう措置にたいし某政党の代表はTVインタビューで「こんなの金を払って守ってもらえやすむことだ」（筆者が聞いた発言のまま）と反対意見をのべていました。

自国民を海上の強盗である海賊から守るのは戦争でも何でもありません。これは警察行動です。

海賊は国際慣習法上どの国も軍艦、軍用航空機その他の政府の公務に従事する船舶または航空機（ただしその権限をあたえられたもの）による拿捕、逮捕、財産の押収などの警察権の行使が認められている他、自国の裁判所で起訴、処罰を行う権能を有するのでありまして、この点は既に「公海に関する条約」（第19条、第21条）及び「海洋法に関する国際連合条約」（第100条から第107条間での諸規定）によって成文の国際法典化されていることは周知の通りであります^(注3)。

ソマリア沖では、今年に入って既に87件（4月22日現在）の海賊事件が発生しており、一昨年の発生事件数44件、昨年の111件に比べて、状況が悪化しております。ソマリアでは1991年から内乱が起り、無政府状態の中で、仕事のない若者が海賊を生業として行っております。船員を人質にして身代金を取る訳です。小型高速艇に乗り込んで、機関銃、ロケット砲で武装しているのでなかなか手強い相手です。国連安全保障理事会も既に何度も海賊制圧決議をしています。

こういう中で、強力な武器を有する海賊にたいし自国民の安全を他国の軍艦に金を払って守ってもらえというのは国際的常識からしてまず通用しない議論というものでしょう。

現状では各国とも自国の船舶保護に手一杯で、金を払えば日本関係船舶2,600隻を守ってくれる国はまずありません。しかし、こんな議論が我が国ではまだ大手を振ってまかり通っているかと思うと、背筋が寒くなります。

3. ベトナム戦争と日本

私はは1960年に外務省に入りましたが、当時の大きな問題はベトナム戦争でした。留学先の米国の大学ではよるとさわると戦争の話でした。というのも、当時米国は徴兵制がしかれていたからです。「徴兵を逃れるには大学院に行くしかないな」とか「徴兵されて下士官なんか散々いじめられたあげく、ベトナムみたいな米国自体とは何の関係もないところで死ぬなんてまっぴらごめんだよ」というような

話が取り交わされていました。昨日のように思い起こします。

ベトナム戦争で、日本は片務的であるとはいえ、同盟の存在にもかかわらず、米国に目立った協力をする事は差し控えました。お隣の韓国が自国軍を派遣し戦闘に参加したのとは大違いです。

日本の行った南ベトナムへの支援は経済的、人道的なものです。具体的に申しますと、岸内閣の下で1959年に署名し、1960年に発効した南ベトナム政府に対する5年分割払いの賠償3,900万ドル、ダニム発電所借款750万ドル、開発借款910万ドルの賠償がらみ援助が最初で、これは、大東亜戦争中、日本軍がベトナム南部に殆ど被害を与えて居らず、せいぜい兵隊さんが鶏三羽を失敬したくらいだと言うので「鶏三羽賠償」といわれたものです。

このあと約10年の空白があって、無償援助は、70 - 74年のチョウライ病院建設・機材供与54億円、73年の医療品、難民住宅50億円がめばしいところで、寧ろ有償の借款のほうが多かったのですが、それも火力発電所、送電線、商品借款と合計しても269億円で留まっております。

ですから、賠償がらみの援助を除きますと、南ベトナムへの援助総額は373億円、その中でも無償援助は28%程度に過ぎません。可成りの手抜きであった事が明瞭です。

日本政府としては、ベトナム戦争の行方が必ずしもはっきりしない中で、南ベトナム政府の存続能力自体に可成りの疑念を持っていたのです。例えば、1960年代後半に外務省のUアジア局長が私的な会話で私に話したところでは、「ベトナムの歴史を見ると、大体は北から南へと勢力が拡大しているし、それに南ベトナムの腐敗は目に余るものがある。先行きは暗いね。」という見方でした。

この他、米国に積極的に加担する素振りを見せると国内世論から強い反発を受ける懸念があったので、米国の軍事的後背地としての役割を別とすれば、南ベトナムや米国にとっては煮え切らない「あてにならない国」に見えても仕方のない態度に終始していたといってもいいでしょう。

ベトナムを含むインドシナ戦後復興についての1969年バンコックで行われた東南アジア開発閣僚会議における（佐藤内閣）愛知外務大臣演説では「平和回復の暁にはわが国として積極的に経済協力を行いたい」と述べたのです。この会議には私も末席の随員として加わり、演説の起案にも参加致しましたので、よく覚えております。これ以後、歴代の外務大臣が同じ趣旨の発言を繰り返しましたので、日本の対インドシナ援助は「暁援助」だと皮肉られたものです。

つまり、この時点での日本のスタンスは、開発援助策定計画の上でインドシナ半島に平和をもたらすこと、すなわち、平和構築を目標とすることなどまったく念頭になかったといっているのです。

戦後の日本にとって、長い間、平和は「所与」(given)のものであって、「自らが創り出す」という考えは政府にも民間にも余り無かったのです。せいぜい、経済援助で受益国が経済発展を遂げれば、それは回り回って世界の繁栄と平和に繋がり、日本も受益する事になるだろうといった平和観念はあったでしょうが、経済援助を利用して和平を誘導しようとか、人権抑圧が甚だしい国には援助を制限するとかいった援助を梃子にして政治軍事目的の達成を試みるという「普通の国」のやる戦略的発想にかなりのところ欠けていたのが日本の対外援助の特徴と言えましょう。

4. スカルノの「マレーシャ連邦対決政策」への日本の仲介と失敗

日本が戦後初めて外国間の紛争の平和的解決に向けての外交を一応やってみたのは、ベトナム戦争中、1965年のインドネシアのスカルノ大統領による「マレーシャ連邦対決政策」に関する仲介工作でした。

マレーシャ連邦とは、マラヤ連邦のラーマン首相が英国の後押しを受けて、1963年9月、インドネシアやフィリピンの反対を押し切って、マラヤ連邦と英国の植民地であった北ボルネオ（サバ）とサラワ

ク、シンガポール（後に脱退）を統合して発足させたものです。インドネシアのスカルノ大統領は、これを以って英国の新植民地主義であるとして激しく反発し、英国、マレーシア両大使館の焼き討ち、英国企業の接收、北ボルネオ、サラワク国境地帯における武装ゲリラ活動を展開いたしました（もっとも、陸軍は共産党対策上一応対決政策に賛意を表しつつも、実際には、対決政策を推進して英米との本格的軍事衝突にいたる事態に至ることには反対でしたから軍事対決が成功するはずもなかったのでしょうか）。

事態の悪化を憂慮した池田首相は、1963年9月、インドネシアとフィリピンを訪問した際、両国大統領との会談で事態の平和的收拾を要望し、64年6月に東京でマレーシア、インドネシア、フィリピンの三カ国首脳会談が行われるよう斡旋し、その結果、会談が行われましたが、成果に見るべきものはありませんでした。

この間、スカルノと米国との関係は悪化し、米国の経済援助は停止され、IMFのスタンバイ・クレジット供与約束も撤回されます。国内経済では西イリアン奪回闘争に続くマレーシア連邦粉砕闘争の出費のためインフレが異常なまでに亢進し、1964年のジャカルタの生計費は対前年比2倍、65年には4倍という有様で、加えて、食料不足と外貨不足による生活必需品の不足により国民は困窮し、軍主流派のスカルノに対する不満が高まってきました。

こういう中で、スカルノは中国へ接近し、国連、世銀、IMFからも脱退いたします。

1965年1月佐藤首相はスカルノに直接電報を送り国連脱退を翻意させようとしたが、失敗。同年4月には川島正次郎特使を派遣して、東京でのスカルノ・ラーマン会談の実現を図ったが、スカルノは国内の反対を理由に来日せず、結局、日本のマスコミが当時「お座敷外交」と呼んで揶揄した日本の平和的解決への試みは、残念ながら成果を収めることが出来なかったのです。

スカルノは仲介を試みた日本から多額の資金提供を受けながら、対決政策中止を拒否し、インドネシア共産党と結びます。

こういう中で、同年8月4日、スカルノが発作を起こして昏倒するという事件がおこりますと、スカルノ亡き後、国軍による大弾圧を予想した共産党は先手を打って、国軍の中の共産党シンパと結び、1965年9月30日深夜、クーデターによりヤニ陸軍参謀長以下の国軍6将軍を惨殺いたしますが、難を免れた陸軍戦略予備軍司令官スハルト少将は陸軍特殊部隊を指揮して、逆にこのクーデターを粉砕し、共産党員及びそのシンパを徹底的に粛清いたします。

この粛清はすさまじいもので、政府発表では78,500人、実際には推定で20 - 30万人に上ったとも言われています（当時の米国Green駐インドネシア大使が1967年1月30日に行われた上院外交委員会の秘密聴問会で「50万人と推定」との証言をしたことは今日広く知られております）。逮捕、投獄され、島流しになったものは10万人前後でした。

スカルノは、この事件に直接関与した疑いはなかったとされていますが、事件関係者の非難、処罰を行わず、また、軍部、政党、各種団体の共産党解散要求に応じなかったため、急速に権威を失墜し、1966年3月にスハルト将軍が実権を握るに至って、1966年5月にインドネシアはマレーシアとの間に紛争終結協定に署名いたします。

この時の日本のアプローチは、インドネシアの資源確保と市場の維持、マラッカ海峡経由のシーレーン維持という主として経済的動機が大きかったように思います。この仲介工作に動いたのは前にも申しましたが、川島正次郎という大物政客です。

当時、インドネシアへの援助を巡るスカルノ一派と結ぶ日本の政治家グループ、某商社の阿漕な稼ぎぶりがしばしば噂されておりました。赤坂のコパカバーナのホステス出身で、今でも時折テレビでお目にかかるあの人がスカルノの第三夫人としてときめいていたのもこの頃です。

米国としては、ベトナムで可成り手一杯でしたが、ベトナムで仮に勝利したとしても、人口一億のインドネシアが共産化するような事態が起これば、ベトナムでの勝利も余り意味がなくなるとして、スカルノとインドネシア共産党の動向には大きな関心を寄せていました。その意味で、日本が自分のお資金で困りもののスカルノを抑えてくれるならば、それはそれでよし、反共、反中国のスハルト政権になればもっといい、ということであったのでしょう。インドネシア経済再建のために日本の経済力を利用し、スハルト政権の強化を図ったのも米国の意図に沿うものでもあったといっていいいでしょう。

米国のCIAが1963年11月に起こった南ベトナムのゴ・ディエン・デイエム政権の転覆に大きな役割を演じたことは広く知られております^(注4)。

9月30日のクーデターの真相はまだ必ずしもよく分かっていないのですが、スハルトはクーデターの起こることを事前に知っていながらわざとやらせ、一気に粉砕したとか、クーデターに加担するふりをしてクーデターそのものをスハルトが誘導したと言う人もおります(スハルトがなぜ殺害対象にならなかったのか、また、スハルトが握っていた陸軍戦略予備軍はなぜ無傷のまま温存されていたのかなどの疑問があるということです)。インドネシア政府の公的見解はインドネシア共産党が中国と結んで左翼軍人を動かしてクーデターを試みたと言うものです(例、1965年1月、スバンドリオ第一副首相兼外相訪中の際、周恩来はインドネシア共産党挺子入れのため、正規軍の枠外の「第五軍」創設を支持し、5,000万ドルの援助や一般大衆武装のための100,000挺の軽火器供与を約した)。他方、米国の研究者の中には9.30事件は基本的に軍内部の内紛によるものであって、共産党の関わりはマイナーであったとする者もいます^(注5)。しかし、当時、インドネシア共産党がスカルノ、中国と結んで急速に勢力を伸張していたことは明白であって、この説には疑問が残ります。

CIAは少しは関係していたようです。2001年に機密指定を解除された1965 - 66年の米国外交文書(FRUS, 1964 - 1968, Vol. XXVI, pp.338 - 380)などにより、9月30日以後に反共団体への資金供与を行ったことや米国大使館員がインドネシア共産党幹部名簿をスハルト側に渡したことが判明いたしております。しかし、クーデターの発生自体とその粉砕にCIAがどの程度かかわっていたのかについては、当時ジャカルタにいて情報収集に粉骨砕身していたインドネシア専門家N氏から筆者が聴取したところでは、米国の大使館、総領事館の活動はすでに大幅に制約されていたとして、9.30事件へのCIAの実質的な関与についてきわめて否定的でした^(注6)。

とにかく、日本のスカルノべったりからスハルトへの変わり身は実に早く、見事なものであったといっていいいかと思えます。1966年の3.11命令によりスハルト副首相権陸相が実権を掌握いたしますと、日本は他国に先駆けて米1万トン、綿糸5,000梱、合計250万ドル89億円相当)の緊急無償援助を実施しております。前(1960年9月)にはオランダの軍艦カレルドールマン号の日本訪問が決まっていたのに、スカルノが文句をつけると、ご機嫌を損じてはならぬというので日本はいったん合意したカレルドールマン号の来航を断っていたくらいなのですから……。

スハルト政権援助のための国際援助グループ(IGGI)の会議はまず1966年9月に東京で行われましたが、その後66年12月のパリでの債務救済会議を経て、67年2月に行われた旧宗主国オランダのアムステルダムでの会議で初めて対インドネシア援助2億ドルの分担を米国、日本、ヨーロッパなどその他の国々で各々三分の一ずつ持つ原則が決まりました。その当時、三分の一の負担は日本にとって容易ではなく、政府部内でも意見が必ずしも一致しておりませんでした。首席代表のM外務審議官(後に次官、駐英大使)が官邸との繋がりを生かして電話で官邸の了解をとりつけ、合意に持ち込んだように記憶しています。米国にしてみれば、日本はベトナムでろくに協力しないのだから、インドネシアではたっぷりお金を出させ、協力させようという気持ちもあったのではないのでしょうか。

私は、日本代表団の末席に連なって会議に出ていましたが、IMF とか世銀の代表が経済関係のペーパーを準備して読み上げ、ジョクジャカルタの回教藩王でもあるインドネシア代表のハメンク・プウォノ経済。財政大臣（副首相）は「その通りです。何とか助けて下さい。」を繰り返し、「国が破産すると、こうなるのか。惨めだ。こうはなりたくないものだ。」とつくづく感じたものです。

スカルノのマレーシア連邦対決政策への政治的な仲介外交はうまくいかなかったものの、9.30事件以後の日本は情勢判断もよく、動きも迅速でインドネシアの経済復興と反共政権の挺入れに大きな役割を果たしたとっていいでしょう。

このあと、IGGI 会議は67年10月のパリ会議、68年のロッテルダム会議を経て、69年にはハーグの北海に面した Scheveningen にある大きなホテルで行われたのですが、オランダ語では「スヘーヴェニンゲン」と発音されるのに、英語では「スケベニンゲン」と発音され、日本では「ニンゲン」を省いた形で「・・・会議」と短縮し、電報にもそう書いてくるので、当時オランダに在勤していた私としては余りいい気持ちはしませんでした。日本の IGGI 関係者の間ではこれまでほとんど誰も知らなかったハーグの海岸が一躍有名になったのでした。

このように、日本もインドネシアの経済再建のためには大きな役割を演じたのですが、当時から存在したアンボン人抑圧などインドネシア内部の内紛問題等に政治介入することなど論外でした。

5. 傍観者から参加者へ

日本はベトナム戦争中は煮え切らない態度に終始し、それはそれで日本の国益に資した面もあるのですが、しかし、政治的に観客席に座り込んでいる者に政治ゲームへのお呼びがかからないのは当たり前です。

1954年の第一次ベトナム休戦のためのジュネーブ会議にも、62年のラオス問題解決のためのジュネーブ会議にもお座敷がかからなかったのですが、日本が可成りの経済大国となっていた73年のベトナム戦争終結の米越間パリ協定を国際的に保障するための拡大パリ会議にも日本は招請されませんでした。

かのドゴールがベトナムで米国が泥沼に入り込んだ事態を觀て、ヨーロッパにおけるフランスの安全保障に不安を抱き、まず米国をこの泥沼から引き出す手段として南北ベトナムの再統一と中立化を唱え、ベトナムを足場にして、ハノイはもとより、中ソと密接な話し合いの関係を構築し、ついで、ソ連の脅威の低下を見極めると、ベトナム問題を利用して第三世界や共産圏の支持を獲得し、フランスの威信増大を計ろうとしたのですが、このような戦略的構想のもとでの駆け引きは残念ながら日本人には真似ができません^(注7)。

元来、日本は大陸から海で隔てられており、前近代の主要対外戦争は、白村江の戦い、元寇、秀吉の朝鮮出兵の三回だけです。主要国の中では稀にみる対外戦争の少ない国で、おまけに徳川250年の鎖国泰平で日本人には国際関係を戦略的に考える DNA が欠如しているのです。この点、秀吉の対明外交の拙劣さを徳富蘇峰は日本人の「因襲」によるとし、その因襲のよって来たれるところを次ぎのように述べております^(注8)。

(第一) 日本は歴史上殆ど無外交国であった。日本は鎖国ではなかった。併し島国として、外交上何れの国とも殆ど没交渉であった。朝鮮の如き、大陸の片端に位する小国は、開国以来、大国に圧迫せられ、余儀なくも、その接触を程善く保持するを以って、生存の一大要件とした。支那の如きは、春秋戦国より三国六朝の間、何れも其の大なる国土の分裂によりて、勢ひ互いに外交の掛引を専要とせざるを

得なかった。五代より宋末に至る迄、北方の勢力と南方の勢力とは、恒に対立して、互いに折衝を事とした。斯る歴史あるからには、支那も、朝鮮も、其の流儀は必ずしも一ならざる可きも、其の長技は各別なるも、外交の経験には、何れも富んで居た。経験を積めば、熟練は必然だ。故に、彼等は彼等相応の流儀に於て、即ち朝鮮は朝鮮流に、支那は支那流に、何れも外交掛引には堪能であった。而して殆ど無外交であった日本が、外交に無経験であり、従って不熟練であり、而して其の結果は拙劣であったのは、是亦止むを得ぬ次第だ。

これは、16世紀末の秀吉の外交を徳富蘇峰が大正時代に評した際の日本人の外交下手論であります、今日でも立派に通用するのではないのでしょうか。

もっとも、華々しい外交戦略を繰り広げ、訪仏した池田首相を「トランジスターラジオのセールスマン」と評したと伝えられるドゴールの遺髪を嗣ぐフランスと一向にさえなかった日本の今日におけるベトナムでの地位を見ますと、毎年約1,000億円の経済援助をベトナム側と密接に協議しつつ投入し、その上、中国以外に「もう一つ」拠点を作りたいというわが国産業界の要望からする直接投資（ベトナム側から観ると日本の直接投資は口先だけではなく、“実行”される確率が極めて高い点を評価）のお陰もあって、少なくとも現在の時点では、ベトナムが一番あてにしている国は 政治、軍事的に無害な日本のです。両国間の貿易額も2010年までの目標額であった150億ドルを2008年に2年繰り上げて達成していますし、2008年12月には日越経済連携協定（JVEPA）も署名を終えました。

日越は正に蜜月時代です。これは、現在のズン首相が首相就任直後、2006年10月に一番目の訪問先として同年10月に訪れたのが日本であることに象徴されております。同年11月、安倍首相訪越、2007年11月チェット国家主席訪日、2008年3月チョン国会議長訪日、2009年2月皇太子殿下御訪越、2009年4月19 - 22日マイン共産党書記長訪日と要人の往来が続き、2009年4月20日の日越共同コミュニケでは従来からの南北高速道路、南北高速鉄道、ホアラック・ハイテクパーク実現への両国協力に加え、原子力平和利用、宇宙開発、航空機という新分野に関する協力推進が謳われております。この4月には福岡にベトナムの総領事館が開館されました。

他方、フランス系的高级ホテルやブランド物の商品は結構目立つものの、日本語学習熱（米語学習熱はもっと高い）に比し、フランス語の影響は日に日に少なくなっているように見受けられるのは、誠に皮肉であります。

私がハノイに大使として赴任した1988年12月には前年12月以来のカンボジャのシアヌーク・フンセン会談が既に3回行われておりまして、やがてパリでカンボジャに関する国際会議が行われそうな気配が出ておりました。

当時の外務省の私に対する要望は、ただ一つ、「ベトナムの反対でパリ会議に出席できないとなったら、外務省の、いや日本の面目は丸つぶれだ。何としてもベトナムに日本の出席をうんと言わしてくれ」というものでした。

しかし、相手のグエン・コー・タック外相（政治局員・副首相）は日本嫌いで、最初の会談で「日本の占領のお陰で200万人死んだ^(注9)。日本はわが国に第二次大戦中に占領の形で敵対し、米国との戦争中に米国に味方し、今は米国の対ベトナム経済制裁に加担するなど、これまで3回敵対している」と非難し、諸外国大使のいる前で「日本は米国、中国と同じことを言うだけだから日本の大使などいなくてもいいのじゃないか」等と放言してはばからぬ有様でした。

わが大使館の扱いも悪く、チュントウと言う場所にある労働者用アパートに事務所を割り当てられておりました。朝出勤しますと、入り口のあたりには大きな鼠の群れが走り回っており、エレベーターも

なく、5階と6階にある事務所兼館員宿舎まで登って行くのはひどく蒸し暑い夏など結構大変でした。1991年6月に中山外相が視察されて「世界で最悪の大使館事務所」と判定されたのがこの事務所です。同じ場所の別棟6階にタイの大使公邸があり、夕食会などのおりには、入り口に館員が待機し、年寄りの多い各国大使連が階段を上るのを手伝っていました。

事務所の問題はさておき、ベトナム側との冷たい関係が好転したのは、89年の2月10日に竹下内閣の下で宇野外相が第114回国会における外交演説でカンボジアに触れ、「また、この地域（筆者注、インドシナ地域）の平和と安定にとって不可欠なのはカンボジア問題の解決であります。これにつきましては、最近、当事者間の対話が活潑になり、政治解決達成への気運が高まって来ております。同問題解決のためには、ヴィエトナム軍の完全撤退の確保と過去ポル・ポト政権が行ったような非人道的な政策の再来を阻止することが重要であります。我が国といたしましても、カンボディア人の真の民族自決の実現を目指した関係国の平和努力を支持しつつ、独立、中立、非同盟の新カンボディアの誕生に向けて、積極的な役割を果たしていく考えであります。」と述べ、ポル・ポト反対、「独立、中立、非同盟」というシハヌーク殿下支持の立場を鮮明に打ち出しました。

これをタック外相が好感して事態は急転、7月30日からのパリ会議への日本代表団出席に繋がったのです（この他、シハヌーク殿下の日本に対する好意と親日的インドネシアとともに共同議長を勤めたホスト国フランスの日本の経済力活用への期待からする前向きの姿勢も忘れてはならないでしょう）。

ベトナムとしては、頼みの綱のソ連は崩壊寸前で、援助も途絶し、中国とは中越戦争以来の冷たい関係が続き、米国はベトナム戦争での敗北の屈辱感と在郷軍人会の反ベトナム感情から国交も開かれておらず、経済断交状態でしたので、こういう孤立無援の状況を脱するために宇野演説を矜持を保ちつつ対日接近を図る大義名分としたのでしょう。

1990年10月にはタック外相夫妻が懸案であった日本公式訪問に応じ、ベトナムの日本に対する態度は大きく変化いたします。天長節のレセプションにもタック外相が初めて出席したのもこの年の暮れでした。

考えてみますと、この宇野演説に至るまで、日本政府はポル・ポト下のカンボジア人虐殺には一切非難がましいことは言わず、米中とともにベトナムの「カンボジア侵略」を非難しつづけていたのです。冷戦構造の中でソ連の支援するベトナムがカンボジアに出てきたのは、ソ連の東南アジア制覇を意味するように捉えられ、ベトナムのインドシナ半島制覇に反対に関する米中連合が成立し、これは、ソ連を主敵と考え、ニクソン訪中以降、中国がむしろ南ベトナムの存続を以て自国の利益と見なすようになったことから発しているのですが、日本もそれに追随したということです。

1989年6月4日未明の天安門事件では胡耀邦共産党元総書記の死（4月15日）を悼む集会在民主化要求のための大規模デモに発展したのを武力弾圧いたしました。無差別発砲により、2,000 - 3,000名の死者と1万人以上の負傷者が出たと伝えられ（中国側の公式発表に寄れば死者数319人。武力鎮圧を指示したのは8日に天安門広場制圧勝利宣言を行った保守派の李鵬首相であるともいわれているが真相は未だに不明。デモ、民主化に同情的であった趙紫陽総書記は失脚）、わが大使館員宿舎にも銃撃が加えられる有様でした。ハノイの中国大使は「天安門事件」そのものの発生を否定し、中国が如何にすばらしい国であるかという内容の広報映画を上映いたしました。本国からの指令であったのですが、以下にも拙劣なやり方だとの印象をうけました。

この後、中国のZ大使に「天安門事件で中国の国際的な評判がこんなに悪くなっているという中で、200万人も自国民を殺害したクメール・ルージュをよく支持できるね」と言ったところ、「いや、200万は殺していないよ」と答えたので、「それじゃあ、何万人かね」と聞くと、「only one million」とい

う返事で、内戦、反革命分子肅清、大躍進や文革で何千万も殺していれば“only one million”という感じにもなるのかなあと呆れたことを記憶いたしております。

ベトナムのカンボジャ侵略というのは、1977年4月30日以降78年12月までにクメール・ルージュが自国民の虐殺に加えてカンボジャ国内にいた何万人というベトナム人を虐殺した上、十数回にわたりベトナムに侵攻し、多数のベトナム人を殺害したためにベトナムが出兵し、ポル・ポト政権を打倒した、いわば今日言うところの人道的介入の色彩もある出兵なのですが、このお陰でクメール・ルージュの大虐殺は終わりを告げたのです。

クメール・ルージュは、クメール・ナショナリズム、すなわち、反ベトナムを売り物にしたので、ベトナム、特にソ連と結んだベトナムのインドシナ半島における勢力拡大を好まない中国にとっては歓迎すべき政権であったわけですが、イデオロギー的に文化大革命の影響を受けていたともいわれています。皮肉なことに文化大革命の犠牲者であった鄧小平の率いる中国が“to give a lesson”を名目として1979年2月にベトナムを攻撃したのです。

ベトナムではこの中越戦争は米国が中国と謀議して中国にやらせたのだと考えているようでもありました。ただ、今日、ベトナム政府は最大の軍事的脅威であるとともに経済的な繋がりのある中国に大変気を使っておりまして、中国の悪口になることなど書いてはいけないようであります。ことに、中越戦争を扱った著作など一種のタブーになっており、あえてそのような著書を出版したダナンの出版社は最近営業ができなくなった、とあるベトナムの知識人から直接聞いております。

こうなりますと、「ベトナムは、ある意味では中国に対する“周縁性”を認めながら、自分を東南アジアの中に位置付けようとしている」というベトナム研究者、古田元夫教授の指摘を想起しないわけには参りません^(注10)。

話をパリ会議に戻しますと、89年7月30日から開かれたパリ会議で日本は第三委員会（難民・復旧・復興問題担当）の共同議長国に選出され、この委員会は一定の成果を挙げました。しかし、軍事担当の第一委員会と国際保障担当の第二委員会ではクメール・ルージュとベトナムが烈しく対立し、「包括的解決」にはいたらず、会議は同年8月30日にいったん休会となり、結局、2年2ヵ月後の1991年10月21 - 23日に再開されたパリ会議でカンボジャ紛争の包括的政治解決に関する協定が署名されたのです。

89年の9月末にはベトナム軍がカンボジャから撤退したとベトナムが宣言し、12月には冷戦終結宣言が出され、カンボジャ平和に向けての雰囲気好転致します。このような中で、タイの示唆に乗った日本の斡旋によって90年6月4 - 5日に東京でシハヌーク・フンセン会談が行われました。シハヌーク殿下とともに「カンボジャ国民政府（NGC）を形成していたソンサンは出席しましたが、クメール・ルージュのキュウ・サンパンは来日はしたものの、会議への出席は拒否しました。

ともあれ、日本側の強い働きかけもあずかって、国連暫定統治が終了するまでの間、カンボジャの権威の源泉たる最高評議会（SNC）の構成につきついに合意が成立いたしました。これは、かつての対スカルノ工作と異なり、日本が二国間の経済的な関係とは必ずしも関係なく、国際政治場裡で平和構築に積極的な役割を演じ、しかも成功した初めての例として画期的な意味合いを有すると考えます。

私は、この東京会議がまとまらない場合、せめて一つくらい成果を残さないと、日本としても格好がつかないであろうと思い、クメール民族共通の文化遺産であるアンコール遺跡の非戦闘地域化と保全復旧についてはカンボジャ各派いずれも公然とは反対できないであろうから、これを組み入れてはどうかと意見具申いたしておきました。

6月5日のシハヌーク・フンセン共同コミュニケ第6項に「東京会議への代表である両者は、アンコール遺跡が非敵対的地域であることを宣言し、国際社会が人類の共通遺産であるアンコール遺跡の保存・

修復のための協力的な幅を拡大することを歓迎する。」とありました。「ああ、自分も少しはお役に立てたんだ」と胸が熱くなり、この文言を何回も読み返したことを覚えています。

この会議を通じ、シハヌーク・フンセン間に信頼関係が醸成され、シハヌーク殿下はポル・ポトとは距離を置いて、フンセン側と結ぶことにしたのがカンボジア問題解決の鍵となったのですが、カンボジアのことは、結局、シハヌーク殿下抜きでは片づかないと観て永年にわたりシハヌークと密接な連絡を絶やさなかった日本外務省の判断が正しかったということではないでしょうか。連絡の任にあった日本の外交官I氏がカンボジアの専門家で、能力、人柄も抜群、シハヌーク殿下の信頼を得た人物であったという人的な要因も無視し得ないでしょう。

他方、シハヌーク殿下を物心両面で支え、一方においてクメール・ルージュによる殺害から保護しながら、他方、ポル・ポトと手を握ることを要求してきた中国が、1989年6月4日の第二次天安門事件で国際社会の非難をあびた後、タイ領のいわゆる sanctuary に逃げ込んだ衰退勢力ポル・ポト派に対する支持を得策としなくなったことと、同年12月の冷戦終結により中国がカンボジア問題を単なる地域問題として扱い得る状況が成立したことが、シハヌークの動向と無関係ではなかったのではないかと考えられます。なお、1979年の時点でシハヌーク殿下はこうっております^(注11)が、まことに卓見であります。

中国については、〈シアヌーク解決案〉（筆者注：新たにカンボジアに関するジュネーブ会議によりカンボジア問題の国際的解決を図る構想）を前向きに取り上げることが出来るのは、カンボジアにおけるその同盟者（筆者注：ポル・ポト政権のこと）がベトナムによって勢力の挽回不可能なまでに負かれ、しかもソ連とベトナムがカンボジアからの撤兵でお互いに同意したときだけであろう。実をいえば、ベトナムに物判りのよさを示させるには、米国より中国のほうが幅広い〈説得法〉を発揮できる。事実、ベトナムは軍事同盟を云々することに対して、とくに〈敏感〉である。鄧小平副首相は、中国はソ連からの軍事介入を恐れていないと私に断言していたが、さらにもう一、二度、ベトナムに、懲罰を加えれば、中国はベトナムにこれ以上のカンボジア占領を放棄させることができるのだから。

東京での会議のあと、フンセン首相は夫人同伴で帰路まずハノイを訪れました。これまでのスポンサーであったベトナム側に仁義を切りにきたのでしょうか。

私も空港貴賓室でフンセン夫妻に会いましたが、夫人は派手に宝石を身につけ、立派な身なりで、ベトナム側要人の夫人連が質素な身なりでいるのとは大違いでした。文化の違いということでしょうか。

隣国タイの某高官が私に内話したところでは、「カンボジアでポル・ポトのやったことは確かに悪い。だがね、こういうことはこのインドシナ半島では時々起こることなんでね。われわれタイ人にとっては、どんな悪魔であろうが、とにかくあのベトナム人と戦ってくれる連中がいるのが大事なんだ。もちろん、援助しているよ。」ということでした。

シハヌーク殿下もポル・ポト派に対する中国の武器弾薬輸送に関し「この点について問題はない。というのは、タイが極めて効果的な方法でわれわれを助けてくれるからだ」という鄧小平の発言を記録に留めております^(注12)。

タイのなかでもチャチャイ首相（海南島出身華僑系）などはタイの経済的発展を背景に1988年8月9日に「インドシナ半島を戦場から市場に」などと唱え、その後でハノイにやってきましたが、出過ぎたことをすると鄧小平から北京で一喝されると、これまた正直に、「小国にはやはり限界がある」と記者会見で述べたものですが、その中国がベトナムとの国交改善に熱意を示し始めたのも天安門事件の後

からです。

9月末、ベトナムが26,000名にのぼる「義勇軍」のカンボジャ撤兵を宣言。これを見てオーストラリアがカンボジャ和平案を作成し、上院の承諾を得た上で公表いたしますが、これにはカンボジャ側から反発もなかった上に中国を含む五大国の受けもよく、わが方が、以前、課長レベルで作成した「カンボジャ和平試案」などがただの mental exercise に終わり、どこの国からも見向きもされなかったとは大違いでした。やはり、多数国にかかわる大掛かりな和平構想を国際的にぶち上げ、各国を納得させるにはそれなりの知恵と経験と実行力が要るわけです。日本は戦前の海外統治も場所が限られている上に、その経験ですら十分に蓄積継承されていると必ずしも言い難いことに加え、戦後経済に専心し、国際平和のために本格的に動くことがなかった 国内的な要因もあり、出来なかった 日本にとっては、無理な話であったと思います。

中国はソ連の力が衰えてベトナムにも援助が出来なくなり、ベトナムもあまりの経済困難のため、カンボジャ駐兵が難しくなるの見計らって、89年5月、天安門事件の直前に、バンコックにいた老練なZ大使をハノイに転勤させ、ベトナム生活17年だか19年というこれまでハノイにいたL大使をバンコックに移します。バンコックに出張した折にL大使を訪ねたら、「ハノイでは軟禁同様の生活だったが、ここでは私の知らないようなことはまずないね」と嘯いていました。

新任のZ大使は、1954年のディエンビエンフーの戦いに中国側連絡将校として参戦したという古強者で、ベトナム共産党のグエン・バン・リン書記長以下第一世代幹部とは戦友、昔からの顔なじみというわけで、昼間は大使館で准軟禁状態に甘んじ、おとなしくしているのですが、夜になると「老朋友」のところに外へ出て酒を酌み交わし、往時を懐かしむとともに、今後の両国のあり方について話し合いをしていると本人から聞きました。1990年9月3日にはグエン・バン・リン書記長が秘密裏に訪中し、関係正常化に関する交渉が本格的に行われるようになります。

90年には国連安保理の五大国が国連中心の和平をやるということになり、米国などは国連下の暫定的な駐兵、施政権の掌握を内容とする一種の国連暫定信託統治のためとりあえず50億ドルの費用見積もりを日本側に出してきましたので、日本側は金額の大きさに驚き、また、カンボジャ和平の大枠を定める枠組み文書作成作業が、先のシハヌーク・フンセン東京会談で合意された SNC の構成を国民政府 (NGC) 側とフンセンのプノンペン政府側と同数とすることを取り入れたものの、悲しいかな常任理事国ではない日本を蚊帳の外においたまま進行するのに憤りました。当初の5常任理事国間の議論では英国がすこぶる建設的な役割を果たし、老獪な手腕をみせつけました。

当時のT外務報道官が「代表なくして課税なし」(No taxation without representation.) と米国独立戦争前のパトリック・ヘンリーの名言を引用し、国連代表部が公電で「米国は日本がアジアで政治的な役割を演ずることなど欲していないかのようである」と慨嘆したのもこの頃です。

日本はどうせ兵隊など出せる訳がないから、金はたっぷり出させよう。しかし、口出しはさせないというのが当初の米国の考え方であり、これは中国の利益にも合致するものでした。

しかし、すったもんだしたあげく、結局、日本、タイ、オーストラリアの三か国が密接に協議に与ることになりました。

とにかく、このころの米国は貿易赤字1,100億ドル余の44%が対日赤字である(1989年)ことに示される日本の経済。技術的躍進が対日警戒心、日本たたきをあおったことを背景として、何とか日本の東南アジアにおける発言力を押さえつけようという方針があったようで、ベトナムにおきましても、米国がベトナムと経済断交している間に、西ヨーロッパ諸国はいざ知らず、日本がベトナムに貿易・投資、経済援助を通じてその地歩を固めるのは容認し得ないという態度でした。

米国で日本企業が企業や不動産を買収すると米国人は強い反感を示しました。西ヨーロッパの有力国企業の買収であれば何ともいわなくても、買収したのが日本の企業だとなるとプライドが傷つく、けしからんというわけです。ここには何がしかの人種的偏見と「従属国の癖に」という気持ちが根強くあるのを感じないわけにはいきませんでした。

ハノイに赴任する前に EC 代表部の公使として 4 年間勤務していましたが、このころ EC は米国との間にも巨額の貿易赤字を抱えていたのに、日本との関係は常に特別の緊張をつずけておりました。当時の EC 対外総局先進国担当局長はファン・バン・フィーといってベトナム系フランス人で、ENA 出身、頭のよく切れる人でした。あるとき、猛烈にやりあったあとで、彼は「EC はまだ“先進国”だと思っている。それなのに、今では日本が工作機械とか、自動車、VTR のような機械を売り、EC からは農畜産品とか香水、ぶどう酒なんかを買うだけだ。ここにプライドの問題がからむ。米国の場合には、相互に巨額の直接投資が行われており、人的な関係も密接で、貿易だけの日本とは話が違う。プライドの問題もない。だから、EC では日本に風あたりが強くなるのさ」と述懐したのですが、こうなると、欧米の国ではないのに目立ちすぎると、彼らがたたきにかかるという一般的傾向が少なくとも 80 - 90 年代には依然として存在したように思わざるを得ないのです。

米国議会をはじめとする日本脅威論 これは日本たたきにつながるわけですが が横行する中で、商社も日商岩井を除き大手各社はすべてベトナムとの取引にダミを使っていましたし、直接投資などちょっとでもやれば米国から報復されるというので何処の会社もあえて行おうとはしませんでした。

日本政府としても対米貿易摩擦問題を抱え、これ以上米国との摩擦の種を増やしたくなかったのでしょう、小規模な人道援助を除けば私の切なる要望に応じてフエの王宮の御門の修理のため文化無償 1 億円を供与するのが関の山で、政府借款、技術協力、経済開発のための無償資金供与など論外でした。

当時、日本インドネシア友好協会会長、日本インドネシア友好議員連盟会長としてインドネシアとの関係を取り仕切っているかの観があった自民党某派閥領袖が「東南アジアの国で日本の援助が出ていないのはベトナムだけだ。ここはひとつ私が頑張って援助が出るようにしたい」と申しましてベトナムにやってくるのですが、ジャカルタに駐在してこの政治家とインドネシア側との連絡にあったってたと観られていた人物が事前にハノイにやって来てすべてのお膳立てをしていたのです。

この政治家は、側近の代議士 3 人を引き連れて、昵懇の間柄であるインドネシア華僑 マダム 10% といわれていたスハルト大統領夫人側近 の自家用飛行機でその華僑本人と一緒に香港からハノイに來たり、帰国してから、ワシントンを訪問したりいたしました。米国側の対応はにべもないもので、援助供与は不発に終わりました。

いろいろと下心があるのではないかともし取りざたされていましたが、この試みが成功したらどうなっていたのか、いろいろ考えさせられます。

さて、国連のカンボジャ暫定統治機構 (UNTAC) に」について日本は多額の費用分担をしましたが、他方、その特別代表に日本人たる明石康さんが 92 年 1 月に任命されたことは日本にとって非常によかったのです。というのは、この UNTAC が成功しましたので、日本の「顔」が明石特別代表の顔とダブって、国際平和構築の面で前よりもよく見えるようになったからです。

日本がいわゆる第二世代の国連 PKO への施設部隊 600 名 (2 回) をはじめとして、文民警察要員 75 名、停戦監視要員 8 名 (2 回)、選挙要員 41 名の派遣に踏み切ったことも日本人が体を張ってカンボジャ和平のために働いていることを強く印象づけました。

しかし、UNTAC 軍事部門はピーク時に 16,000 名、文民部門は 6,000 名、合計 22,000 名に上ったことを考えますと、日本にとってはまことに画期的なオペレーションであったにせよ、国連 PKO の中できわ

めて大きな役割を果たしたとは必ずしも言い難いのではないのでしょうか。UNTAC の顔である特別代表が日本人明石康であったということが UNTAC の成功の象徴として日本なり日本人の役割を強く印象づけたようにおもいます。

国連 PKO の施設部隊として参加したわが自衛隊について、当時の今川幸雄駐カンボジャ大使は回顧録に次のように記しております^(注13)。

後日談であるが、PKO が終了した後、クメール・ルージュの幹部の一人であるコー・ブンヘンが私に、「日本は新聞工作をやって、いかにも小銃を数丁しかもっていないかのように発表していたが、高価な重車輜や工作機械を大量に持ち込んでおり、本当は武器も百丁から二百丁の機関銃くらいは持ち込んでいるはずだから、安易に日本の部隊を襲撃するようなことをしてはならない、日本軍はしっかりしていて、深夜にもきちんを見張りが立っているのだから、日本の宣伝にまどわされて無防備と言っている日本軍の基地を攻撃するようなことをしたらたいへんな損害をこうむる恐れがあると考えた」と言ったのには驚かされた。これは正に、ほとんど非武装で無防備に近い施設部隊であったにもかかわらず、十分な抑止力を発揮して、結果的には警備活動に立派な役割を果たしたと言うことである。

もっとも、自衛隊制服組の最高位にあった N 氏の見方では「そういうこともあるでしょうが、戦前の日本軍の余光のおかげで相手が我々を過大評価してくれるので攻撃されなかったと言う面もある。いつまでも続くという訳には行かないでしょう」（筆者への談話）となります。後でも申しますが、公明党の要求による「武器使用制限原則」によってわが自衛隊員の生命が薄氷の危うきにさらされていたのが現実の姿だったのです。

6. 小泉政権下での方針転換

日本はインドネシア、フィリピン、インド、パキスタン、スリランカなどの紛争を抱えている国々に対して「あたかも紛争がないかのように」多額の援助を提供してきた歴史があり、紛争不感症とでも呼ぶべき病状がわが国の援助供与政策に内在していたように思われます。

例えば、1991年の「政府開発援助大綱」を調べてみますと、平和構築とか紛争予防とかという文言は一切ありません。しかし、99年の「政府開発援助に関する中期計画」になりますと「人間の安全保障」に十分に留意すべき旨が述べられた他に、重点事項として「紛争・災害と開発」が特記されるようになりました。

この後、小泉内閣の下で、2000年12月に福田官房長官の私的諮問機関として設置された「国際平和協力懇談会」報告書を経て、2003年8月9日閣議決定をみた新「政府開発援助大綱」では、紛争発生以前の紛争予防、紛争下の緊急援助と紛争終結促進のための支援、紛争終結後の平和の定着（和平プロセス促進、人道、復旧支援、国内の安定と治安確保などの紛争再発予防）と国づくり（不安定な地域の政治的、経済的、社会的枠組みづくり）のために ODA（政府の公的開発援助）を活用すべき旨が定められるに至りました。

この新大綱は、第一に、開発援助に貧困削減や格差是正を行うことを通じ紛争予防効果を期待している点においてわが国のこれまでの援助政策には全くなかった発想が盛り込まれております。

第二に、紛争予防や紛争下の緊急人道支援とともに、紛争の終結を促進するための支援から紛争終結後の平和の定着や国づくりのための支援まで、状況の推移に即して平和の構築のための二国間および多

国間援助を継ぎ目なく機動的に行うとされており、紛争終結後の本格的復興にいたる前の援助のすべてが「平和構築」の概念中に包摂されたのです^(注14)。こうして、憲法第9条の枠内ではありますが、日本の「平和構築」は、国連の「平和構築」が紛争後に限定され、援助の対象も復旧開発援助を含まないものに比べ、大幅に拡大されているといえましょう。

第三に、新大綱は、従来の援助供与要請主義から一步踏み出して、要請を受ける前から政策協議を行い、わが国の開発援助が十分生かされるよう調整を図る旨明記し、従来よりもはるかに「物申す」姿勢が強く打ち出されておりますので、これを第一、第二の点とあわせ考えますと、平和構築のためにわが国が開発援助を梃子に積極的に取り組む姿勢がはっきりいたしました。

これまでは人道援助や平時を前提にした開発援助を念頭に置いていたのが、新大綱以降、紛争がらみの小型武器回収、対人地雷除去、平和の定着のための行政費用負担、武装解除、兵器管理と廃棄などにもODAを充当しうることになったのは、日本外交の幅と弾力性を強化するものとして高い評価に値すると思います。

最近の「外交青書」では、「平和構築への取り組み」という項目が設けられ、例えば2008年度版(付表を除く本文214ページ)におきましては第3章第1節「国際社会の平和と安定に向けた取り組み」(日米安全保障体制、テロ、国際組織犯罪対策、地域安全保障、国連、平和構築への取り組み、軍縮、不拡散)24ページ中の5ページ(2007年度版「外交青書」では本文208ページ中「国際社会の平和と安定に向けた取り組み」2008年度版と同様の項目関連分につき28ページ、「平和構築への取り組み」は4ページ余)を占めております。もともと比べれば、大きな前進といえましょう。

7. 自衛隊の海外派遣を通ずる平和構築への寄与

以上のような日本政府の方針転換は、1990年の湾岸戦争当時、多国籍軍への自衛隊協力をも含む「国連協力法案」が国会で廃案となり、その結果、130億ドルの資金を拠出したのに、「血も汗も流さず、小切手だけ切る」とバカにされた苦い経験^(注15)、カンボジャへの自衛隊派遣の成功、9.11同時多発テロとアフガン制圧、対イラク戦争(そして自衛隊のイラク派遣)、北朝鮮のテポドン発射などに直面してきた日本国民が今や国際秩序形成への積極的参加をかなりの程度当然のこととして抵抗感なく受け止めることとなった状況を反映しているといえましょう。

これは亦、保守政権の下での日本人の生活水準向上、国鉄、電電公社などの民営化に伴う官公労の弱体化、世代交代に伴う日教組の勢力減退傾向とも多かれ少なかれ関係があるのであります。

政党の面で見ますと、1994年6月に自民党は多年の宿敵社会党と手を結び、自社連立政権を樹立いたしました。社会党の村山党首が内閣総理大臣の座に着きました。

政権を運営する責任のある座に着いた村山社会党は、いともあっさりとこれまでの主張である日米安保条約反対をひっこめて逆に日米安保条約堅持を謳い(7月18日)、自衛隊は合憲であると述べ(7月20日)、冷戦構造崩壊の現時点では非武装中立は政策として意味をなさなくなった(7月21日)と断じたのであります^(注16)。

自衛隊の国連PKO協力の法的根拠であります「国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律」(国連平和協力法)は、元来、自衛隊の活動を「PKO後方活動支援」なり「人道的な国際救援活動」に限定しておりましたが、2003年3月にPKF本体業務、即ち、武装解除などの監視や地雷除去等が不可能ではなくなりました。

それでも、この法律の下での国際平和維持活動は(国連総会又は安全保障理事会の行う決議に基づき)、

「国連の総括の基に行われる活動」への参加（第3条）であることに加え、公明党の要求によるいわゆる国連PKO参加五原則のしぼりがかかっております。つまり、「紛争当事者の停戦の合意」、「紛争当事者の受け入れ合意」、「中立性」、「それに「以上の三原則が満たされないときは撤退」、「武器使用は要員の生命財産防護のために必要最小限に限定」というものです。

要するに、問題が生じたり、危険になったりすれば業務を中断して帰国する、大規模な攻撃を受けるなど軽武装だから自分が危険な状況に追い込まれた場合には他国部隊に救援を求めざるを得ないが、他国部隊が襲われても救援は出来ない、ということになり、これではまともな peace-keeping forces としての要件に欠けているといわれても仕方がないのです。

2003年7月26日に成立した「イラクにおける人道復興支援活動及び安全確保支援活動の実施に関する特別措置法」、いわゆる「イラク特措法」は、上述の国際平和協力法五原則のうちの「紛争当事者の受け入れ合意」がイラクの正統政府たるサダム・フセイン政権の米・英軍の攻撃による崩壊の結果存在し得ない状況下における特別時限立法でした^(注17)。

法文ではもちろん明記されておりませんが、政府の説明でもあまりはっきりとはされておられませんでしたが、このイラク特措法は形の上では国連諸決議を大義名分としているものの、実際には、北朝鮮情勢の緊迫化に伴い日米軍事同盟の実効性を確保する必要性とわが国の中近東に対するきわめて高度のエネルギー資源依存度の双方を考慮に入れて立法されたと考えられます。ちなみに、日本の原油の中近東依存度は86%で、フランスの28%、ドイツの11%、英国の6%とは大きく異なっています。

この法律では、自衛隊が広汎な人道復興支援を行い得るようにしているほか、他国への医療、輸送、補給等の兵站支援提供を可能とした点は、「国際平和協力法」に比べて大きな前進といえましょう。しかし、以上の二つの支援活動の実施は、「武力による威嚇又は武力の行使に当たるものではない」（第2条2項）ことから、「戦闘行為が行われることがないと認められる地域」のみにおいてなされる事となっております（第2条3項）。

いわば、他の国々は軍隊を出し、危険を冒して「安全、安定回復のための活動」に従事している時に、「日本だけは危ないところには行きません」というようなものです。つまり、「戦闘が行われることがないようにしよう」という積極的な意欲が、憲法第9条の政府解釈、もっと細かく言えば法制局解釈のしぼり（武力行使禁止、武力一体化禁止、集団的自衛権保持否定）によって完全に欠如しているように思われるのです。

こういう制約があっては、現地に赴く自衛隊員は全く気の毒というしかありません。イラクで活動した自衛隊員は陸海空の延べ約9,400人で、陸自は給水や公共施設費などに従事し、イラクの人々に好評でした。日本の国際的地位、なにかんずく、対米関係を円滑に維持する上で大きな力となったのです。

他方、今日、プッシュ前政権の対イラク開戦は、故意か不用意かは別として、いずれにせよ、あやまった情報を言いがかりにして行われたものであることがはっきりしております。小泉政権は、プッシュ大統領の言い分を鵜呑みにして自衛隊を派遣し、米国の好意を克ちうることには成功したわけで、日本国民の間に根強く存在する自衛隊海外派遣アレルギーを減少させる国内政治的効果もあったとはいえ、米国が決定し、日本が後からついて行くというパターンはここでも同じであったといえましょう。

7. 恒久法制定にかかわる当面の問題と海賊対処法案

防衛庁の防衛省への格上げと同時に自衛隊法を改正してこれまで雑則の中に入っていた自衛隊の国際協力を本務の一部にとりいれましたが、「国際平和協力法」に「テロ対策特別措置法」（アフガニスタン

からのテロリストの逃走を阻止、捕捉する活動を展開している米英軍などの艦艇に海上自衛隊がインド洋上でやっている燃料補給の根拠法)と「イラク特措法」の諸要素を統合して、自衛隊の海外派遣を含む国際貢献のための恒久法の検討が政府部内で行われていました。

しかし、恒久法となれば民主党など主要野党の賛成をも得て国会を通したいところですが、政局中心で、国連決議を自衛隊出動の条件とする小沢氏が牛耳る民主党相手では政府の考えているような案が通る訳もなく、下手に妥協して妙な「恒久法」が出来るよりは現状のほうがまだましだ、ということで、当分棚上げとなっているようです。

現在国会にかかっている海賊対処法案（海賊行為の処罰及び海賊行為への対処に関する法案）では、海上警備行動と同じく警察官職務執行法第7条を準用するほか、海賊行為を制止するための船体射撃を可能としております。もっとも、海賊対策に従事する他国艦船への給油や逃走する海賊船への射撃は、今回、見送られました。

マスコミの各種世論調査によれば、海賊対処法案への支持率は6割を超えているにもかかわらず、民主党は衆議院で反対投票を行い、衆議院での可決後、参議院でも同様の態度をとる旨明言しております^(注18)。

参議院で否決されても衆議院で三分の二以上で再可決されれば、法律として成立することになりますが、現行法下では自己防衛の場合の射撃を別とすれば、日本関係船舶を襲う海賊船への威嚇射撃しか行えないのであって、海賊船本体への射撃が出来ません。他国関係船舶が海賊に襲われても手出しは全く出来ません。黙って見ているしかないのです。

米英側は、日本はどうせたいしたことは出来ないから、威嚇射撃、船体射撃だけで結構、海賊の追跡、逮捕、撃滅など肝心のところはわれわれがやる、決定的な役割は自分たちが担当するから、日本は端役で参加さえしてくればそれで結構、という態度と聞いております。

この海賊対処法案の場合も、イラク特措法の場合と同じように、日本が平和構築のために何をなすべきかをまずはっきりさせ、そのために法的な枠組みを構築あるいは再構築しようというのではなく、逆に、一定の枠組みが前提になっていて、その中で、其の時々自衛隊に何が出来るかを考えるというさかさまの論理でありまして、日本の政治が自衛隊を本当の軍事力として扱っておらず、軍事力を平和構築 現在、国際警察行動の面が少なくありません にいかにか活用するかという発想においていまだにあまりにも遅れているのではないのでしょうか。

後でもう一度申しますが、「国際的平和構築協力」というのはお互いに連絡し、いざというときには助けあって平和構築をするのですが、集団的自衛権の行使を認められませんかと最低限の相互助け合いも困難です。

ODAを通ずる平和構築努力では小泉内閣以来大きな進歩がありました。アジアで申しますと、スリランカ和平への努力、インドネシアのアチェでの元兵士社会復帰、クメール・ルージュ裁判予算4割負担、東チモールの国づくり、ミンダナオ和平プロセスへの参加、ネパールの国連政治、平和構築ミッションへの参加等、成果はともかくとして、かなりのことをやっております。

これに比べますと、自衛隊の活用を通ずる平和構築努力は法制的な整備の問題が解決していないため、まだまだ不十分であるといわざるを得ません。

8. 日本の平和構築努力は国際政治の上でどのような意義を有するのか？

日本の国際的な平和構築努力のひとつの局面であります国連 PKO への自衛官派遣は、外務省に照会したところでは、2009年3月末現在、国連 PKO 展開17箇所の中で中東ゴラン高原、ネパール（国連政治・平和構築ミッション）、スーダンを含め3箇所、国連 PKO の員数が184カ国から9万2,196人の中で日本人は39人という実績です（このほか国連統計にははまらない自衛隊管理要員15名派遣）。員数の点で世界80位、主要8カ国（G8）の中でも最下位です。国連 PKO などへの派遣人員では、中国の2,146名、韓国の396名に大きく水をあけられています。

ただし、費用分担は米国に次ぐ16.6%で、最もお金を出している国の一つです。日本ほどお金は出すが、徹底して人を出さない国はほかに類例がないといっているでしょう。

PKO 以外では、インド洋での給油活動を継続して行っています。しかし、欧米、ことに米国の関心がアフガン本土への大兵力派遣、経済援助増強に集中しつつある中で、日本の給油活動は、重要ではありませんが、全体から見れば marginal な貢献というしかないでしょう。

ソマリア沖の海賊取締りのための海上自対護衛艦二隻の派遣もやっと実現はしたものの、海賊対処法案が成立しない限り、自国関係船舶保護のためお威嚇射撃しか出来ないのですから、象徴的な意味合いしかありません。

現在 ODA 活用の平和構築の試みはいろいろな場所で行われておりますが、わが国の ODA 供与を通ずる平和構築努力の主要対象国は従来イラク（自衛隊も派遣）、アフガン、スリランカの順番であります。このことは、2004年9月21日に第59回国連総会で行われた小泉首相（当時）の一般討論演説中のわが国平和構築努力対象国としてこれら三カ国がこの順番で特に言及され、また、ODA 供与コミット金額もこの順番であるところからわかるのです。

それでは、ODA 供与による平和構築がうまくいったかといえば、個々のサクセスストーリーはいろいろあるにせよ、これら三カ国における平和構築の状況は芳しいものではありません。

イラクにいる駐留米軍は2011年に完全撤退することになっています。現地の現時点での治安は、スンニ派とシーア派との間での抗争が繰り広げられ多数の犠牲者を出した2006年当時に比べれば大幅に改善されたとはいえ、今年に入ってからアル・カイダ系の武装勢力が活発化し、4月のイラク人死者は355人、米兵の死者は18人に達するなど、昨年9月以来最悪となった模様で、このため、イラク軍将官の言として「米軍なしで治安の維持が担えるか不安」との発言が伝えられている始末です^(注19)。

アフガンの状況は悪化しているからこそ、米国主導で大規模な兵力投入と援助の増強（地方、農業開発、司法、警察の整備を含む）が図られているわけで、隣のパキスタンへの梃子入れもタリバン対策の一環です。

ソマリア沖での国際的的海賊対策のひとつの狙いはアフガンの麻薬がソマリアに流入し、他方、ソマリア経由で武器がアフガンのタリバンの手に渡るルートを断ち切るためだとも言われております。

日本が支援国会議を主催したスリランカの場合、スリランカ政府と反乱側のタミール・イーラム（解放の虎、LTTE）双方に対して多大の援助を餌さに和解をもたらそうという試みであり、新たな試みとして注目されましたが、残念ながら、停戦協定の破棄、政府軍による LTTE の大掛かりな掃討作戦によって頓挫し、現在では政府側への支援のみが行われている状況で、その一部が親政府的なタミール人地域に向けられているに過ぎません。

LTTE 側は北部のごく狭い地域に押し込められており、地域住民5万人を盾に政府軍に抵抗している模様です。政府軍の完勝に終わるのかも知れませんが、政府軍の武力制圧がタミール人に対する公正

な取り扱いをもたらさないのであれば、紛争の火種は残存すると見なければならぬでしょう。

いずれにせよ、スリランカ内戦終結のために ODA 活用により日本がイニシャチブをとり、内乱を話し合いで解決しようという試み自体は失敗に終わったように思われます。もっとも、スリランカ政府側には感謝されていることでしょう。

ODA 活用によるわが国の平和構築努力は以上のように必ずしもはかばかしい成果を収めてはいないのでありますが、何しろ始めてからの歴史が浅く、この政策自体が無意味だというのは早計に過ぎるのではないのでしょうか。少なくとも、ODA を平和構築に活用するようになってから、日本の外交の幅が広くなり、何がしかのイニシャチブ取れるようになったのは、紛れもない事実であります。

紛争は世界中いろいろなところで、いろいろな原因から生じ、石川五右衛門の辞世「石川や浜の真砂は尽きるとも世に盗人の種は尽きまじ」ではありませんが、紛争の種は永久に尽きないのではないかと思われます。

大国間の直接衝突の可能性が極めて限定的になってまいりました現在の国際社会では、二流国、三流国、破綻国家などへの武力行使ないし武力による威嚇を伴う国際的な警察活動が、当該国の制圧、治安維持と合体した形での経済・技術援助とともに今後増加するのではないか、そして其の第一号はアフガンであろうと考えられます。

これを国際政治的に見ますと、小泉内閣か出の ODA の平和構築への活用政策とイラク特措法の成立が米国の日本に対するグローバルな平和構築への負担要求の明確化と時期が重なっている点が興味深いところです。

米国は、現在、仮想敵をアフガンのタリバン、イラン、北朝鮮としつつ、イラクの代替としてのタリバン掃討と穏健派の抱きこみ工作、「尻尾が首を動かす」関係にあるイスラエルのためのイランの核開発抑止に全力を挙げると予想されます。

日本に対しては、日本を自国の核の傘にとどめつつ、日本の核武装には断固反対し、日本の軍事、経済力を米国の政策目的に協力させる政策を追求することでありましょうし、これに協力しなければ何らかの報復措置をとるでしょう。

日本がロシアとの間に北方領土問題を抱え、中国、韓国との間には歴史問題と領土問題を抱えている他、日本が国連安全保障理事会の常任理事国になることに対してこれら二国がなりふりかまわず反対運動を展開したことも、日本がこれらの国々と心からのパートナーになりえない要因であって、米国から見れば、日本が米国以外に頼る国のない状況にあると見えるわけで、米国にとって極めて有利であります。

日本国内の世論も割れていますから、米国は必要に応じてこういう問題に介入し、日本政府を脅すことも出来る立場にあります。

日本の武器輸出禁止政策は国内の武器製造業の生産コスト引き上げ効果を生じ日本の国防経費の非能率的支出に繋がっておりますが、国際的にみますと、米国にとって（フランスや中国のような他の武器輸出国にとっても）こんなに有難いことはありません。

日本人の間に極端な核アレルギーが存在し、周りの国々が皆核武装しても日本一国だけでも非核武装で通すべきだという平和憲法信者が結構おり、日本が核武装に踏み切る可能性が低いのも米国にとって有利です。仮に、日本が核武装の方向に動き出したとしたら、中国と連携して政府や核武装論者をつぶしにかかるでしょう^(注21)。

2007年には中国軍某高官がキーティング米太平洋軍司令官に太平洋東西分割管理案を示唆したとも伝えられており、中国海軍の航空母艦保有意図表明とあわせ、座視することの出来ない動向です。

日本よりもはるかに敏感に反応したのは、労働党政権下のオーストラリアで、5月2日発表の防衛白書において「軍備の近代化は其の不透明さのため、近隣諸国の脅威である」とし、中国が今後20年間で「アジア最強の軍事大国になる」と予測しつつ、潜水艦を12隻に倍増、軍艦に搭載する戦闘ヘリコプター24機の購入、空軍の主力戦闘機にF35を100機導入などの海軍中心の軍備強化計画を公表いたしました。

そのような中国にとって日本の平和憲法信者、極東裁判史観信者は大変な財産です。自分が工作しなくても中国の有利に働くなよように記事、論文を書いてくれる記者、知識人がたくさんおり、子供の教育に当たる日教組系の学校の先生にかなりこの手の人々がいるなどほかの国ではありえない状況が日本では存在いたします。

テポドンが山東半島を越えて飛ばない限り、そして日本の世論を極端に刺激して精神的にも本格的武装に踏み切らせることのないかぎり、中国にとって北朝鮮も米国や日本との関係で脅しのダミーとして役に立ちます。

日本の安全保障が、究極的に米国との安全保障条約に依存している限り、日本としては自国がかなりの程度防衛体制がしっかりしており、その上、米国の安全保障上の役に立つことを絶えず立証しつづける以外にいざ鎌倉のときに米国が日本を助けてくれることを確保するすべはないのです^(注22)。

日本の平和構築、つまり、ODA 供与を通ずる平和構築努力と自衛隊の海外派遣による平和構築努力も、こうしてみると、結局は、米国の世界での軍事的優位保持目的の枠内にある動きであって、大事なところでは米国が決定し、日本が追随するパターンが当面繰り返されることとなりましょう。

けれども、この繰り返しを通じて、日本が不慣れな国際的な警察行動に法制的、実的に適応し^(注20)、その力を増大すれば、そのような実力の上に立って始めて「普通の国」としてそれ相応の戦略的思考が出来るようになり、米国に対しても協調しつつも、何がしかの自主性（米国が何を言おうが、ご無理ごもっともで、最終的には言うことを飲ませる得る、いわば“take for granted”の国であるとの米国人指導層に依然として広汎に残存するやに見える考え方の変化を含め）を回復することが可能になるのではないのでしょうか。

日本が中国や朝鮮半島とほどほどの関係を維持しつつ、このような軍事、経済・技術援助を積極的に展開して国際社会で重きをなすことは、同時に急速に台頭しつつある中国への勢力均衡上の押さえにもなるわけで、これは日本の利益であるとともに米国の利益でもありますから、究極的に日本の安全保障に役立つものであります。

日本外交の地域的、機動的な重点のおき方も以上のような勢力均衡の考え方を念頭において運営されるべきでありましょう。

けれども、このようなことは、国民の自国の歴史や自らのおかれた国際環境についての客観的な認識に基づく世論の支持があって初めて可能になるのであります。冷厳な国際的現実を目を背け、いわゆる「平和憲法」を「不磨の大典」のごとくに信奉し、自衛隊悪者論にこりかたまり、日本の安全保障が究極的には米国の核の傘に依存している状況の中でも集団的自衛権の発動の可能性を否定し、自国の歴史をひたすら卑しめる教育者の多い現状を打破することは、この観点からしても喫緊の重要課題と申せましょう。

追 記

本稿は2009年4月16日及び23日にノースアジア大学で行った2回にわたる政治学講義の内容を骨子として、引用文の挿入、注、文献一覧などをふくめ若干の手を加えたものである。なお、インドネシアの9.30事件前後の状況については当時ジャカルタに政務担当書記官として在勤していた永井重信元ブル

ネイ大使から、また、カンボジャ和平の過程に関しては畏友谷野作太郎元中国大使（当時の外務省アジア極審議官及び局長）および今川幸雄元カンボジャ大使から各々貴重な助言をいただいた。特に付記して感謝の意を表す。2009年5月3日才閣筆。

注1 Nye, Joseph, *An Introduction to Theory and History*, third ed., Pearson Education Inc. 田中明彦・村田晃嗣訳『国際紛争 理論と歴史』有斐閣、2002年、136ページ

注2 2009年1月現在の米国国務省資料によれば、核弾頭は米国5,576にたいしロシアは3,909。START では対象外であった大陸間弾道弾 (ICBM)、潜水艦発射弾道ミサイル (SLBM)、戦略爆撃機では、各々、米国の550基、432基、216機にたいしロシアは469基、268基、77機と、運搬手段ではロシアが可成り劣勢である。ロシア側が運搬手段の削減に熱意があるのは、このような事態を総数制限を通じ挽回しようとの狙いがあるのであろう。

注3 山本草二『国際法』、有斐閣、1999年、428 - 430ページ

注4 ゴ・ディン・ディエム暗殺についてのCIAの関わりについての情報は第二次資料ながら Tim Weiner, *Legacy of Ashes: The History of the CIA*, 藤田博司・山田侑平・佐藤信行訳『CIA 秘録』上巻、文芸春秋、2009年、第20章参照。

注5 Benedit Anderson & Ruth Mcvey, *A Preliminary Analysis of the October 1, 1965, Coup in Indonesia*, Cornell University, 1971

注6 なお、上記 Tim Weiner, 藤田等訳『CIA 秘録』下巻、文藝春秋、2009年、29 - 33ページには、(1) 1964年にスカルノと完全に仲違いし、スハルト大統領のもとで外相となるアダム・マリクがCIAのリクルートした最も高い地位のインドネシア人である、(2) 1965年10月半ば米国大使館上級政務参事官ポップ・マーテンズがマリクの側近にインドネシア共産党指導者67人の名簿を渡した（ただし、共産党新聞記事から拾い上げてまとめたもの）、(3) 米国はCIAを通じてインドネシア陸軍に医薬品を提供（軍はこれを売って現金に変える）し、また、スハルトとマリクの指導する新たな政治運動「キャブ・ゲスタブ」活動（筆者注、反共団体・多数の虐殺に手を貸した）支援のため50万ルピア、すなわち、約1万ドルをマリクに渡した。これらの記述の出所は政府公開文書、公開された関係者口述 (oral history) 等であって、本書398ページの注に詳細が記されている。商品援助（受け取った側は、これを国内で売却して現地通貨による収入を手にしえる）は日本も行っているし、マリクに渡したのが1万ドル程度であれば、関与の度合いはそれほど高くはなさそうである。インドネシア共産党指導者名簿にしても、共産党新聞記事から拾い上げてまとめたもの程度であって、インドネシア軍部がこの程度の情報も持っていなかったとは信じ難い。

注7 鳥潟優子「ドゴールの外交戦略とベトナム和平仲介」、日本国際政治学会編『国際政治』第156号、2009年3月刊、所収

注8 徳富猪一郎『近世日本国民史 豊臣氏時代 戊編（朝鮮役中巻）』、民友社、1922年、第1章(1)「外交拙劣の日本国」

注9 日本が駐兵し、ヴィーシー政権が行政、司法を担当していたベトナムで1944年末から1945年はじめにかけて「クアンチ省から北部にかけて200万人を超えるわが同胞が飢え死にした。」とホ・チーミンが1945年9月2日のベトナム民主共和国独立宣言で述べたのが餓死者200万人節の根拠である。しかし、この数字自体には信頼できる根拠はなく、多分にプロパガンダ的要素も含まれているのではないかと考えられる。

この200万の数字はフランスの共産主義者が著述した論文集「ベトナムの真実」においてフランス行政府の失政の結果として槍玉にあげられている。日本の学者の手になる著作で200万の数字を鵜呑みにして書かれたのではないかと思われる「ベトナム史」もある（例、桜井由身弓雄・石沢良昭『東南アジア現代史』山川出版社、1977年、第2編第1部）。

古田元夫「ベトナムの世界史」、東大出版会、1995、第4章では、「まだ多くの調査が必要な状況にあることを強調しておいたほうがよいだろう」としつつも、「飢饉の被害はどんなに少なくみても数10万、おそらくは100万を超えることは間違いない」と結論している。その数字推計の根拠として上げているのは、(1) 北部の三つの村の45年飢饉当時における死者数 (2) これらの数字が「抗戦烈士」数よりも多い（如何に悲惨な状況であったかが推測される）、(3) 「比較的精度が高いと見られる調査」からする数値（数%から40%以上）を当時の人口との比率で考えた結果としている。

しかし、これらの三つの村の45年当時と「抗戦烈士」が生じた年（おそらく何年かにまたがっているのであろう）についての各々の人口統計は示されていない。

推計の基礎となる村の人口が読者としてはまったく分からない上に、死者が「数%から40%」という極端なバラ付きがある。どうやって、北ベトナムの人口に有意の比率をかけて100万という数字が出て来たのか、少なくともこの記述からは判然としない。

この「計算」とは別に、「旧ナムディン省の21万2218人という記録があるが、これは45年当時の同省の推計人口の約17 - 18%の数字である。」「ナムディン省は飢饉の被害の大きかった省であること、および飢饉発生地域の総人口が約1000万弱であったことからすれば、上述のような推論が成り立つ」云々としているが、旧ナムデン省の記録自体の信憑性の問題の他に、飢饉発生地域の人口が果たして1000万もいたのかという問題、1省だけの推計で全体を推し量れるのか、それを正当化するだけの重みが旧ナムディン省にあったのかというような方法論的問題がある点を指摘せざるを得ない。

もっと調査をしなければ、良く分からない、というのであれば、結論めいた数字を出すのを差し控えるのが研究者としてのあり方ではないだろうか。

尤も、古田教授は、1992年7月にベトナム側研究チームの行ったタイピン省の一村落における餓死者調査を確認するため同年9月に現地ルオンフー部落を訪れ、その結論として(1)右村落の中で比較的恵まれた条件を有していた当該部落の当時総人口を1,379人と推定。(2)死者数(病気などによる者も含む)は594人と推定。(3)人口の約4割が死亡するという大惨事が生じた、としつつ、(4)今回の調査は“200万”という犠牲者数を根拠づけるものでもなければ、否定するものでもない、と結論している(古田元夫『ベトナムの一村落における1945年飢饉の実態 タイピン省ティエンハイ県タイロン村ルオンフー部落における日越合同調査報告』、東京大学教養学部『歴史と文化』XV (『人文科学紀要』第99輯、1943年3月、所収)。

さらに、同教授は、1992年から95年に賭けて日本ベトナム友好協会とベトナム日本友好協会との間で行われたベトナム北部全域23村落の共同調査の結果につき、(1)地方ごとの多様性を持ちつつも、45年飢饉がきわめて広い範囲で、深刻な被害を伴って発生したことを証明した。(2)ベトナム側の責任者ヴァン・タオ教授は餓死者総数は197万を下回らないという仮説を提示した(筆者注、ホー・チー・ミンの200万人に近似)。(3)しかし、本調査についての古田教授の見解では、今回の調査 23村落という「点」の調査 から餓死者総数を断定する結論は得られないし、飢饉の被害を引き起こした原因についても直接に明確な結論を導き得ない、としている。

いずれにせよ、最近のわが国研究者は以前よりもはるかに冷静、客観的で当時現場にいた人々への聞き取りをも含めた研究結果として、(1)北部では天候不順による不作と洪水の影響があいまって飢饉が発生した。(2)しかし、連合国軍の攻撃によって南北を結ぶ輸送網(鉄道、船舶)が寸断されていたため、南部から北部へ米を供給することが出来なかった。(3)餓死者数は(a)200万(ホー・チー・ミンの独立宣言。1945年9月2日)、(b)100万以上(ゴ・ディン・ジエム政権下の南ベトナム政府が日本との賠償交渉時に持ち出したと思われる数値。昭和34年6月22日付け外務省アジア局『ヴェトナム賠償協定及び仏印特別円に関する基本問題についての疑問擬答』 公開文書 の第29問に「国民の餓死による死亡は膨大な数に達し、ヴェトナムは100万人以上と推定している」とあるので、賠償交渉の過程で南ベトナム政府が「100万以上」の数字を持ち出したと推定される)、(c)20-30万(筆者注、日本政府が南ベトナム 北部を含む全ベトナムを代表する正統政府として への賠償協定国会説明では餓死者推定30万として、「鶏三羽」賠償の必要性を述べた。尤も、前記外務省アジア局作成の疑問擬答の劈頭には、「ヴェトナムへの賠償支払いの根拠となった戦争損害」の項目の内容として、「なお、1945年に入ってから、北部及び中部ヴェトナムに100万人前後の飢饉を生じた。その原因は南部から同北方への米の輸送が鉄道及び道路の破壊のため途絶していたところへ、日本軍が自己の食料を確保するため大量の米の徴発備蓄を行ったことであった」との記述があり、当初は南ベトナム政府の主張する数字 これも明確な根拠はない を以て国内的説得のために援用しようとした意図が明白である)諸説があるが「いずれの数字も明確な根拠となる資料にもとづくものではない。」としている(立川京一『第二次世界大戦とフランス領インドシナ “日仏協力”の研究』彩流社、2000年、終章および同章注13参照)。

当時、ハノイに勤務していた商社マン(戸崎誠喜氏。伊藤忠の前身である三興及び大建産業の各ハノイ支店長代理として1942年10月から45年8月までハノイ在住。後に伊藤忠社長、会長、相談役)や外交官(1945年3月9日に日本軍がフランス軍を武力処理したあとでハノイの日本大使府で食料対策を担当していた石川良孝氏。後にアイルランド大使)は筆者の聞き取りに対して多数餓死者の発生自体を否定した。

石川氏はトンキン州での食料不足対策を行い、それが効果的に実施されたと述べ、「(前略)それから今度は、ハノイから南方へ200キロほど離れているピンという町が飢饉がもっともひどいというので、鎌倉領事とってみました。人口5万の町です。ちょうど昼飯時で、食に困っている人たちは道のところどころで、お粥でもない、お湯をわかしてその中に菜っ葉のようなものを入れてススっていました。しかし、数年前から日本で囁かれているような「200万人餓死説」などというものが、もし本当たりの話ならば、そのときでもあたり一面に死体が転がっていなければおかしい。確かに、あのあたりは冬は寒いので、毎年凍死者がでるのです。しかし、私がピンに行った時には二時間ぐらい鎌倉領事と見て回りましたが、餓死者など一人も見ませんでした。」とし、更に「当時、トンキン・デルタ全体の人口は多くみても500万人くらいでしょう。人口の一番多いハノイは15万くらいで、ピンは5万でした。したがって、ハノイとピンが全滅したとしても、20万です。ですから、“200万人が餓死した”というならば、人口の二人に一人ぐらいは餓死したことになります。そんなことは全然なかったから“200万人餓死説”というのは全くの嘘です。」と明言している(石川良孝「駆け出し外交官の戦時体験記 昭和18年9月 昭和21年5月」、『軍事史学』第32巻第2号(通巻126号)、1996年9月刊、所収)。

他方、後に福島大学や立教大学で経済学史を講ずることとなる小林昇氏は『私のなかのヴェトナム』、未来社、で1945年春の北部ナムディンで実見した惨状を記述しているが、餓死者数を推計させる材料は含まれていない。他方、同教授の「地獄 わたくしのヴェトナム」と題する回想録に出てくる「日本の兵隊に身体をまかせて食物にありつこうとするヴェトナム人の女たち」の出没はむしろ牧歌的に描かれてもおり、小林氏が彼女たちが金や食物を受け取れるようにしたとか、帰国のためそこを去る段になると、「知り合い」の女たちが日本兵たちと一緒に歩き、その中の一人は小林氏の荷物を持ってくれた云々とも記述されている(小林昇「地獄 わたくしのヴェトナム」 同人著『帰還兵の散歩』、未来社、1985年、所収)。

なお、1973年7月4日にパリで日本側から北ベトナム側に対し外交関係設立を申し入れ、始まった「日本・北越(ベトナム民主共和国)間国交正常化交渉」は同年9月21日パリで外交関係樹立に関する交換公文及び共同声明に署名の運びとなったが、残る『未解決の問題』解決のための交渉は場所をからラオスの首都ピエンチャンに場所を変えて9回の会合

その後1975年3月6日に駐ラオス菅沼大使とベトナム側レ・バン・ヒエン大使との間でプロセ・ベルバルに署名、同年10月8日にハノイに日本大使館が開設され、ついでハノイで85万ドルの無償資金協力の交換公文署名が行われ、本件の着着を見た。この間、北ベトナム側は公式、非公式の対日交渉においてベトナム人餓死問題について一切触れていない。僅かに、1973年12月27日の次席レベル非公式打ち合わせ会合においてきたベトナムのテイン参事官より「第二次大戦中日本軍がベトナム人民に与えた多大な損害につき、日本側から今日まで一言も如何の意が示されなかったことは奇異なこと」との発言があっただけである。これに対し、交渉者からの意見具申を採り入れた本省の訓令に基づき、1974年3月4日の次席レベル会合で西山健彦参事官から先方に対し「ベトナム国民に迷惑をかけたことを遺憾に思っている」旨の発言を行った。いずれにせよ、餓死問題に関し北ベトナム側からの発言は一切なかった（当時これら一連の交渉に担当書記官ないし臨時代理大使として全て同席した今川幸雄元大使の「メコン地域研究会」筆者が会長を勤めるの2009年6月16日会合における口頭報告および9月15日会合に提出された詳細ペーパーによる）。この問題を持ち出せば、ベトナム側としては故ホー・チー・ミン主席の独立宣言にいう200万人以外のものを提示することは出来ないわけで、これは「独立宣言」に盛り込まれた交渉不可能な数字であろうから、交渉をまとめようとするのであればこれを持ち出さない方が得策と考えたのかも知れない。

筆者の在勤中この問題に絶えず言及していたタック外相（政治局員（副首相）も1990年10月の訪日時（すべての会談に筆者同席）に本件への言及は行わず、1991年の中山外相のハノイ訪問時にもタック外相から本件にかんする言及はなかった模様。

現在、ベトナム側からこの問題を持ち出すことはなくなり、政治問題としては一応休眠状態にあるようにも思われる。しかし、相手が何も言っていないのにこちらから問題を持ち出す日本の政治家がいることも事実である。

例えば、2006年10月19日ベトナムのズン首相が訪日中に国会演説を行ったのに対し河野洋平衆議院議長は「議長挨拶」において「先の大戦において、わが国の軍政下において多数の餓死者を出してしまったことを、私たちは決して忘れてはならないと思います」と述べている。餓死者数の問題を離れても、日本の対仏印政策は、軍の主張により（1）日本は仏印の内政に干渉しない（2）日本は仏印における独立運動を支持しないの二点を骨子とする「静謐保持」を以って金科玉条としていたのであり、日本の軍政が行われるようになったのは、1945年3月の「明号作戦」発動以降である。

それ以前には「日本はフランスの行政を制御しようとしてこなかったし、日本軍の存在も駐屯しているいくつかの町以外では目につかなかった。公共の秩序はわれわれによって維持されていた・・・」と当時の仏印総督府外交部長クロード・ド・ボワサンジェ（Claude de Boisanger）もその回想録『On pouvait éviter la guerre d'Indochine, souvenirs, 1941-1945, Librairie d'Amérique et d'Orient, Paris, 1977』ではっきり述べている通り、仏印はフランスの主権下にあったという根本的な事実を無視した、誤った発言というしかない。

1982年6月、マスコミによる文部省が教科書検定で中国への「侵略」表記を「進出」とた書き換えさせた事実無根の誤報をし、中国、韓国がこの誤報を奇貨として激しく抗議、政府は文部省の抵抗を排して検定を一年早め二年後に「改善する」とし、多くの問題を残した「近隣諸国条項」を含む「宮沢官房長官談話」を発表した。

この後、1993年8月、強制連行を示す証拠がないままに、韓国が選んだ元慰安婦の証言だけを根拠に宮沢内閣の河野洋平官房長官は強制連行を認める談話を発表した。

ベトナムにおける「わが国の軍政下において多数の餓死者を出してしまった」云々の河野発言もこの一連の宮沢 河野の「実績」の脈絡において考えるべきであるとしたら言いすぎであろうか？（なお、河野議長は外務大臣の経歴をも有するが、前記議長挨拶内容は外務省事務局の助言を無視して行われた模様）。

注10 古田元夫『ベトナムの世界史』東京大学出版会、1995年、262ページ

注11 ノロドム・シアヌーク、友田錫・青山保訳『シアヌーク回想録』中央公論社、1980年、162ページ

注12 同書156ページ

注13 今川幸雄『カンボジャと日本』連合出版、2000年、184ページ

注14 2003年8月9日閣議決定の「新大綱」を筆者が整理し、「平和構築と開発」第1部第3図（麗澤大学紀要第77巻、2004年12月所収）にまとめたもの。その後、2004年3月に刊行された外務省「政府開発援助（ODA）白書」2003年版46ページ記載の「平和構築の概念図」は、筆者作成の上記第3図に具体例とODAにより実施される支援を付記したものとなっている。

注15 村田良平（当時の駐米大使）「日本外交再生の方途」（民主党機関紙『民主』第4号、2003年春季号所収）

同『村田良平回顧録』下巻、ミネルヴァ書房、2008年、第9章第2節「湾岸戦争への対応」（1990年8月 - 91年7月）には巨大な財政貢献をしながら米国における対日蔑視を招いた当時の様子が駐米大使として渦中に入った人物の目から記述されている。

注16 このようにしてわが国の政治において「革新」陣営が戦後ながきに渡って支持してきた中立なり中立主義は社会党内部においてすら論議を尽くしたとも思われぬ状況下にあっさり政治的にその意義を喪失した。逆に言えば、社会党自体、非武装中立の実効性を本当には信じていなかったということになるのである。

阿曾村邦昭『Swiss Neutrality in Japan's Politics and Public Opinion, Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies, Vol.13, No.1, March 2005参照。』

注17 自衛隊イラク派遣に対する与党公明党の態度は2003年11月の衆議院総選挙をにらんだマニフェストにおいても「国際平和に貢献する専門家を3年で1万人増加する」というだけで必ずしも明確でなかった。これは、選挙母体たる創価学会婦人

部で派遣反対論が強かったためといわれるが、同党は与党に留まるための考慮もあつてか、結局、派遣賛成に回った。

民主党は同時期のマニフェストにおいて (1) イラク特措法に基づく自衛隊派遣は認めない。(2) 国連の人道支援、紛争予防活動には積極的に貢献する。(3) イラク国民の政府が樹立され、安保理決議があれば憲法の範囲内で PKO、国連平和維持軍 (PKF) で自衛隊の活用も含めた支援をする、と述べ、一定の条件付ではあるが、共産党や社民党のいわば原理主義者の派遣反対とは異なる立場を明らかにした。

他方、2004年1月3日の民主党大会で菅代表 (当時) は、「国連待機部隊」構想 (自衛隊とは別組織の部隊。国連 PKO や国連決議に基づく多国籍軍に参加) を提案。次いで、同年1月21日の代表質問において「イラク派遣が、自衛隊を戦争目的で海外に送らないとした憲法の原則を大きく破るのは疑いない。憲法に違反した命令を出した小泉首相は資格を欠いており、辞任を要求する」と述べるに至って、民主党内からも異論が続出することとなった。これは、寄り合い所帯の民主党が国家の安全保障問題というもっとも基本的な政策に関し意見のまとまりがないことを露呈した例といえよう。

この「国連待機部隊」構想が、注10の海賊対処法案に関する民主党の政府「海賊対処本部」設置案 (海上自衛隊員に本部員の身分を併任させる) に繋がっていく。

注18 2009年4月23日午後、海賊対処法案は衆議院本会議で与党など賛成多数で可決された。民主党は自民党側と政府提出の法案に関する協議を行ったが、民主党の要求する自衛隊派遣の場合の国会事前承認を自民党が拒否し、自衛隊の海賊対策は警察活動なので、政府原案の「国会報告」で十分としつつ、「海賊対処行動について、国会 (衆参両院) が終了すべきことを議決した時は、速やかに対処行動 (護衛艦派遣など) を終了させなければならない」とする案を提示したが、民主党は党内結束 (旧社会党系議員への配慮) と民主党案にすら反対の社民党と国民新党との総選挙に向けての野党共同戦線維持の観点から与党の妥協案を突っぱねたとみられている。

海賊対処への自衛隊派遣は、もとはといえば、2008年10月の委員会質疑で民主党の長島昭久議員が麻生首相に提案したのが発端である。前原誠司民主党副代表は政府案に「基本的に賛成の立場だ」と明言していた。安全保障問題は、右から左まで雑多な要素を抱える民主党の泣き所であることが、海賊対処法案への対応ぶりでも再び露呈されたといえよう。なお、同法案に関する修正協議の要点は下記の通り。

	修正協議のポイント		
	政府案	民主党修正案	与党の回答
海賊行為への対処	海上保安庁が必要な措置を実施。特別な必要があれば防衛相が自衛隊に命令。	主体は海保。困難な場合、国交相が首相に要請し、海賊対処本部を設置。隊員となった自衛官が実施。	対処本部は不要。国交相の要請を受けた防衛相が首相の承認を得て自衛隊に命令。
自衛隊派遣への国会関与	首相が国会報告	国会が事前承認	事前承認は不要
海保の体制整備	条項なし	海保の十分な体制整備。施行3年後見直し。	体制整備、3年後見直しは不要。
沿岸国への協力	条項なし	周辺沿岸国への支援、海上警察の国際連携支援	民主党案を基本に前向きに検討

出所；2009年4月22日付け 秋田さきがけ

注19 2009年5月3日付け読売新聞

注20 法制不備の原因たる法制局解釈とは (1) 日本は自衛権を有している。其の範囲内でのみ武力の行使が可能である。(2) 国際法上、日本は集団的自衛権を持っているが、憲法上その権利行使は出来ない、という内容である。

このため、公海上、近くにいる米国艦船が攻撃された場合に自衛隊艦船は応戦できないとか、米国向けに発射されたミサイルに対し自衛隊は迎撃できない、といった非現実的な解釈が生ずる。海外派遣の自衛隊が近くにいる他国軍隊が攻撃を受けた場合に支援できないというのもこの解釈が原因である。

しかし、日本が署名し、国会の承認を得て、批准した国連憲章、サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約には何れも日本が個別的自衛権のほかに集団的自衛権を有すると明記されている。その大もとになっているのは、国連憲章に規定されている集団的自衛権である。

他方、憲法第98条は「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする。」と規定している。

長い間、憲法との関係で違憲性が争われていない国連憲章、サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約は合憲性のある国際法規として日本において遵守するのが憲法解釈として妥当であろう。よって、集団的自衛権は起源的に個別的自衛権とは異なるものではあるが、日本国憲法が許容する自衛権とは合憲とされている諸条約との関係において集団的自衛権を含むと解される。これは、侵略戦争は行わないとする第9条の趣旨を損なうものではない。

更に、上記の諸条約からは集団的自衛権の行使を妨げる解釈は生じ得ないし、そのような行使を妨げる特定の国内立法も行われていない。

注21 国務省公開資料によれば、米国は1958 - 68年までの間に (1) 日本の少数の重要な親米保守系政治家への資金提供 (2) 穏健派の左翼勢力を野党勢力から切り離す秘密工作のための資金援助 (3) 極左の影響減少のための宣伝と社会行動計画よりの資金提供を行った (FRUS, 1964-68, Vol.XXIX, Part 2 他)。日本語では前記『CIA 秘録』上巻第12章に出所詳細とともに全体の概要が記されている。

なお、冷戦終結後にCIAは経済スパイ工作に関するようになったが、その第一の標的は日本であった。『CIA 秘録』下巻、第46章参照。

注22 茂田宏氏 (元駐イスラエル大使) は、同氏が大使を務めていたころ (1999年秋から2002年初めまで)、クリントン大統領が米・イスラエル安保条約を締結し、米国がイスラエルの安全を保障するとの提案をイスラエルに行ったが、結局、イスラエルは右提議を受け入れなかった。その理由としてイスラエルの某高官は茂田氏の問いに答え、「同盟を結べば、行動の自由を制約される。例えば、イラクのオシラク攻撃のようなことが出来なくなる、また米の安全保障コミットメントは信用できない。」「我々の民族的歴史的経験は他民族の安全保障約束など、信頼できないことを示している」と述べた由 (茂田宏「イスラエル勤務の思い出」(『霞関会会報』、NO.757、社団法人 霞関会、2009年5月1日刊、所収)。日本とは正に対極的な立場である。

(上記注に記した以外の) 参考文献

明石 康 『忍耐と希望 カンボジアの560日間』朝日新聞社、1995年

阿曾村邦昭 「平和構築と開発」(第1部 第5部)『麗澤大学紀要』第77巻、2003年12月刊、等所収

池田 維 『カンボジア和平への道』、都市出版、1996年

今川幸雄 『ベトナムと日本』、連合出版、2002年

同 『カンボジア和平パリ会議二十周年記念にあたり』(『霞関会会報』NO.758、社団法人 霞関会、2009年6月1日刊、所収。本論考は「カンボジア和平に関するパリ会議」研究者にとっての必読文献)

稲田十一編 『紛争と復興支援』、有斐閣、2004年

木村宏恒 『インドネシア現代政治の構造』三一書房、1989年

『外交フォーラム』(特集 平和構築というプロフェッション)、No.220、2006年11月号

河野雅治 『和平工作』岩波書店、1999年

ジェームス・ルエリン 「日本の仲介外交と日英摩擦 マレーシア紛争をめぐる日本外交と日英協議、1963 - 66年」、日本国際政治学会編『国際政治』156号、2009年3月刊、所収

永井重信 『インドネシア現代政治史』(特に第9章10及び第10章)、山川出版社、1986年

同 『日本・インドネシア関係50年史』、日本・インドネシア友好年実行委員会 (連絡先外務省アジア大洋州局南部アジア部東アジア第二課)、2008年12月刊

(財)日本国際フォーラム『国家戦略研究会報告書』、2009年3月刊

(特活)日本紛争予防センター『紛争と開発・JBICの役割』(平和の構築に関する開発援助の理論と手法)、2003年

ノロドム・シアヌーク 友田錫監訳『シアヌーク最後の賭け』、河出書房新社、1988年

孫崎 亨 『日米同盟の正体 迷走する安全保障』、講談社現代新書、2009年

増田与編訳『スカルノの特使 鄒梓模回想録』、中公新書、1971年

“The Tiananmen Papers”, Foreign Affairs, January-February 2001, and Zhannng Liang, Perry and Andrew Nathan, The Tiananmen Papers, Public Affairs (N.Y.), 2001 (張良編、山田耕介・高岡正展訳『天安門文書』、文藝春秋、2001年)

Summary

Japan's Efforts for Peace-Building and Relevant Development Aid Policy a Personal View in the Perspective of International Power Politics

&nbs p ;

&nbs p ; Asomura Kuniaki

&nbs p ; Professor

&nbs p ; Law Faculty. North Asia University

After World War II, Japan's foreign policy was noted for its extremely reserved stance in its involvement in the political arena of the world, especially in the field of peace-building mainly due to the so-called "Peace Constitution" imposed by the U. S. right after Japan's surrender and the pervasive psychological reluctance among the Japanese in general with regard to Japan's involvement in armed conflicts abroad.

Showing Japan's stance in the Vietnam War, the author, a retired diplomat and currently a professor of political science, demonstrates that Japan's post-war development policy, almost the only effective tool left to Japan to influence the world in the absence of the actual (and even potential)

exercise of military power, had no strategic policy for peace-building with peace or war being considered a given condition where Japan should have no hand.

The only exception of Japan's involvement in peace-building seems to have been its efforts to mediate in Sukarno's confrontation policy vis-a-vis the Federation of Malasysia in 1965 mainly in view of Japan's economic interests in Indonesia.

With the growing economic strength and the recovered self-confidence, Japan successfully sponsored the Tokyo Conference on the peace in Cambodia in June, 1990, initiating the accord between Prince Norodom Sihanouk on one hand and Prime Minister Hun Sen on the other. In the author's view this is the very first step Japan has taken in the active contribution to peace-building apart from its own economic interests, which was different from the case with its above-mentioned mediation efforts. Japan's peace-building efforts became more visible when Japan sent its Self-Defence Forces to Cambodia to join the U.N. PKO under UNTAC headed by Mr. Akashi, a Japanese, as its Special Representative.

It was, however, under the Koizumi Administration that a drastic change was brought about in the inclusion of peace-building objectives in the framework of Japan's ODA policy and that the despatch of SDF to Iraq was carried out with far less domestic objection than in the previous case with Cambodia.

It should be noted, however, that although Japan's peace-building efforts through the provision of ODA, pursued by its Government since the Koizumi Administration and mainly concentrated on Iraq, Afghanistan and Sri Lanka, do not seem to have been so successful so far, they have certainly contributed to strengthen strategic means available to Japan's foreign policy in peace-building..

On the other hand, peace-building efforts through the despatch of SDF remain much to be

desired, as is evidenced in the process of parliamentary discussions of a law allowing SDF to protect ships from pirates, partly due to juridical difficulties claimed by the Legislative Office of the Government regarding the exercise of the collective rights of self-defence. When these difficulties get settled, Japan's foreign policy will have another effective means to actively join the international cause for peace, often conducted as an international police action now.

While Japan's recent efforts for peace-building have been by no means insignificant, there is no denying that they have been broadly in line with U.S. interests as well. It might be said as well that a general pattern has been "The U.S. makes a decision only to be followed by Japan". So long as Japan's security depends ultimately on the U.S., Japan has to constantly prove its usefulness to the global interests of the U.S. in order to secure the latter's military intervention in case of emergency. Consequently, at least for the time-being, Japan's efforts for peace-building are expected to follow the above-mentioned conventional pattern.

As Japan gets increasingly experienced in its peace-building contribution and provided if Japan's public opinion should strongly support it, Japan might as well find itself gradually in a position to acquire an independent position to some extent vis-a-vis the U.S., which would be likely to coincide with the desired change in the mind of a number of leading Americans, who have been tended to consider Japan a dependent or a country that the U.S. could always take for granted.

[論文]

利根川下流氾濫原における植物相と 保全上重要な維管束植物の分布

村中孝司

要約

利根川下流の氾濫原の植物相および保全上重要な植物種の分布状況を把握するため、2002年の5月から11月にかけて、河口から12–31kmの範囲に35カ所（各50–2,000m²）の調査地を設定し、その中に出現する維管束植物の種名を記録する方法で植物相調査を実施した。合計340種の維管束植物が記録され、オオクグ *Carex rugulosa*、シオクグ *Carex scabrifolia* の汽水域の氾濫原に生育する2種の植物が広範にみられるなど、合計17種の保全上重要な植物種が分布していることが確認された。35カ所の調査地はヨシ原、水田・水路、造成地の3つに区分された。ヨシ原にはアサマスゲ *Carex lithophila* など、水田・水路にはカワヂシャ *Veronica undulata* などが比較的高い頻度で確認された。また、海水の影響を考慮して、便宜的に下流側（12–15km; 20カ所）と上流側（18–31km; 15カ所）の2つに区分して比較したところ、オオクグ、シオクグの分布にはきわだった傾向は認められなかったが、アサマスゲ、ハナムグラ *Galium tokyoense* など13種が上流側にのみ出現した。なお、セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* など、侵略的な外来植物が広範に定着していることも明らかにされた。

はじめに

水域と陸域の推移帯である水辺の植生は、高い生物多様性を有するとともに、水辺の健全な生態系機能する上で重要な役割を果たしている。また、水辺は増水による攪乱によって時間的・空間的に大きな環境変化が見られる場所であり、それぞれの場所の環境条件に適応した特有な植物種が生育している (e.g. Kalliola and Puhakka 1988; Marston et al. 1995)。しかし、近年、人間によるレクリエーション施設の建設や住宅地化などによって、水湿地の植生が急速に失われ、そこに生育する植物の保全上の重要性が高まっている (e.g. Malanson 1993; Giller and Malmqvist 1998; Middleton 1999)。

日本の河川の下流域の河原においては、シルトや粘土が堆積した氾濫原が広がっており、ヨシ *Phragmites communis* Trin.、カサスゲ *Carex dispalata* Boott、アゼスゲ *Carex thunbergii* Steud. などの多年生のイネ科・カヤツリグサ科草本が優占する植物群落が見られる。また、河口付近では汽水となるため、塩分に対する耐性を持ったオオクグ *Carex rugulosa* Kukenth、シオクグ *Carex scabrifolia* Steud. などの塩性湿地生の植物種が生育している (宮脇・奥田 1990)。これらの植物群落は低層湿原のオギ群集 *Miscanthenum sacchariflori* Miyawaki et Okuda、ハナムグラ オギ群集 *Galio-Miscanthenum sacchariflori* Okuda、セリ クサヨシ群集 *Oenanthero-Phalaridetum arundinaceae* Miyawaki et Okuda、アキノウナギツカミ ヤナギタデ群集 *Polygonetum-sieboldii-*

hydropiperis Okuda、カズノコグサ カワヂシャ群集 Beckmannio-Veronicetum undulatae Miyawaki et Okuda、カサスゲ群集 Caricetum dispalatae Miyawaki et Okuda、チゴザサ アゼスゲ群集 Isachno-Caricetum thunbergii Miyawaki et Okuda、ヨシ群落 Phragmites communis community、塩沼地草原のシオクグ群集 Caricetum scabrifoliae Miyawaki et Okuda などに該当する (宮脇・奥田 1990)。

利根川は群馬県大水上山を水源とし、渡良瀬川、鬼怒川、小貝川などを合流して鹿島灘へと流れる一級河川である。流路延長は322km、流域面積は16,840km²である。江戸時代初期までは東京湾に注ぐ河川であったが、利根川東遷事業によって現在の位置に付け替えられた。下流域の氾濫原には広くヨシ原が見られ、オオクグなどが生育する汽水域には絶滅危惧昆虫ヒヌマイトトンボ *Mortonagrion hirosei* Asahina の生息地が残されている (山根ほか 2004)。本研究では、利根川下流域のうち、特に河口に近い汽水域 (河口からおよそ30kmより下流の範囲) の氾濫原を対象として、植物相を把握するとともに、保全対象となる絶滅危惧植物の分布の実態を明らかにすることを目的とした。

調査地

河口から12～31kmの範囲の氾濫原を調査対象とした。左岸は茨城県、右岸は千葉県となっており、広い範囲にヨシ群落などの低層湿原、河口近くにはシオクグ群集が見られるほか、水田等としての土地利用が行われている。2000年には利根かもめ大橋 (北緯35°46′、東経140°45′) が建設され (河口から約10km)、掘削工事や盛土などによって、著しい人為改変を受けている場所が含まれている。

方法

2002年4月から11月に、調査区 (50～2,000m²) を35カ所 (表1) 設定し、その中に出現する全ての維管束植物の種名を記録する方法で調査を実施した。ヨシ原 (アゼスゲ群落を含む; 20カ所)、水田・水路 (水田畦畔を含む; 9カ所)、造成地 (公園等を含む、概ね乾燥している; 6カ所) の3種類を相観によって区分した。また、河口からの距離に応じて、12～15kmの下流側の範囲 (海水の影響を強く受ける、シオクグ群集を含む; 20調査地点)、18～31kmの上流側の範囲 (海水の影響は比較的小さい; 15調査地点) の2つの区分に便宜的に分類した。なお、これらの区分によって識別された複数の調査地の集まりをグループと呼び、全体もしくは各グループ内での各々の植物種の出現した調査地点数を出現頻度とする。

出現したすべての維管束植物に対して、佐竹ほか (1981, 1982a, b, 1989a, b)、岩槻 (1992)、清水 (2003) などを参照して、一年生草本 (一年草)、多年生草本 (多年草)、木本のいずれか1つに分類した (生活史とする)。なお、短命の多年草、二年草、越年草については、一年草にあてはめるものとした。村中 (2002, 2008, 未発表) を参照して外来植物または在来植物を区別し、在来植物については、環境省 (2007)、千葉県環境生活部自然保護課 (2000)、茨城県生活環境部環境政策課 (1997) のいずれか1つまたは2つ以上に掲載されているものを保全上重要な種と判断した。これを保全上重要な植物とする。また、すべての種に対して、矢野ほか (1983)、宮脇・奥田 (1990, 1994)、等を参照して、水湿地生もしくは陸生のいずれかに分類した。

表 1. 調査地の基礎情報

調査地の河口からのおよその距離、相観区分によるグループ、左岸/右岸、調査面積、および出現した維管束植物の種数を示した。

番号	河口からの距離 (km)	相観区分によるグループ	左岸/右岸	面積 (m ²)	出現種数
1	12.0	造成地 (乾燥)	右岸	200	54
2	12.0	水田・水路	左岸	100	36
3	12.0	水田・水路	左岸	50	17
4	12.5	造成地 (乾燥)	左岸	400	39
5	12.5	ヨシ原	左岸	50	10
6	13.0	造成地 (乾燥)	左岸	100	35
7	13.0	ヨシ原	左岸	200	49
8	13.0	ヨシ原	左岸	200	6
9	13.0	ヨシ原	左岸	200	28
10	13.5	水田・水路	左岸	200	26
11	14.0	水田・水路	左岸	200	69
12	14.0	水田・水路	左岸	200	74
13	14.0	水田・水路	左岸	50	8
14	14.0	ヨシ原	左岸	400	24
15	14.0	ヨシ原	左岸	400	42
16	15.0	造成地 (乾燥)	左岸	400	61
17	15.0	水田・水路	左岸	200	27
18	15.0	ヨシ原	左岸	400	2
19	15.0	ヨシ原	左岸	400	2
20	15.0	ヨシ原	左岸	400	16
21	18.0	ヨシ原	右岸	400	48
22	19.0	造成地 (乾燥)	右岸	300	53
23	23.0	ヨシ原	右岸	300	32
24	23.0	ヨシ原	右岸	300	35
25	27.5	造成地 (乾燥)	左岸	100	72
26	28.0	水田・水路	右岸	2000	33
27	28.0	ヨシ原	左岸	200	42
28	28.0	ヨシ原	左岸	200	11
29	28.0	ヨシ原	右岸	500	66
30	28.0	ヨシ原	右岸	500	41
31	29.0	水田・水路	右岸	600	35
32	29.0	ヨシ原	右岸	1000	60
33	30.0	ヨシ原	左岸	200	60
34	31.0	ヨシ原	右岸	1000	52
35	31.0	ヨシ原	右岸	1000	130

結 果

74科340種の維管束植物が記録された。各々の調査地において出現した維管束植物の種数および確認された維管束植物の種名を表 1、2 に示した。

種数が最も多かった分類群 (科) はイネ科であり、次いでキク科、カヤツリグサ科、タデ科、バラ科、マメ科、ナデシコ科、シソ科の順であった (表 3)。この 8 科で全体の種数の 59% を占めていた。在来

表 2. 出現した維管束植物

科	和名	学名
マツ科	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.
	クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i> Parlatores
クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i> Maxim. var. <i>sachalinensis</i> (Miyabe et Kudo) Kitamura
ヤナギ科	カワヤナギ	<i>Salix gracilistyla</i> Miq.
	イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i> Thunb.
	タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i> Andersson
ニレ科	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> Pers. var. <i>japonica</i> (Planch.) Nakai
クワ科	カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.
	ヤマグワ	<i>Morus bombycis</i> Koidz.
イラクサ科	ミズ	<i>Pilea hamaoi</i> Makino
タデ科	ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i> (L.) Spach
	シロバナサククラタデ	<i>Persicaria japonica</i> (Meisn.) H. Gross
	オオイスタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> (L.) S. F. Gray
	イスタデ	<i>Persicaria longiseta</i> (De Bruyn) Kitag.
	サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai
	イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i> (L.) H. Gross
	アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohki
	ハルタデ	<i>Persicaria vulgaris</i> Webb. et Miq.
	ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> L. var. <i>vegetum</i> Ledeb.
	ミンソバ	<i>Polygonum thunbergii</i> Sieb. et Zucc.
	イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i> Houtt.
	スイバ	<i>Rumex acetosa</i> L.
	アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i> Murray
	ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i> L.
	ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i> Houtt.
	コギシギシ	<i>Rumex nipponicus</i> Franch. et Savat.
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i> L.
スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i> L.
ナデシコ科	ノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> L. var. <i>serpyllifolia</i>
	ネバリノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> L. var. <i>viscida</i> (Loisel.) Aschers.
	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.
	ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> Fries var. <i>hallaisanense</i> (Nakai) Mizushima
	ウシハコベ	<i>Myosoton aquaticum</i> (L.) Moench
	イヌモチナデシコ	<i>Petrorhagia nanteuilii</i> (Burnat) PWBall et Heywood
	ツメクサ	<i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi
	ホザキマンテマ	<i>Silene dichotoma</i> Ehrh.
	マンテマ	<i>Silene gallica</i> L. var. <i>quinquevulnera</i> (L.) Rohrb.
	ウシオハナツメクサ	<i>Spergularia bocconii</i> (Scheele) Foucaud ex Merino
	ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> Grimm var. <i>undulata</i> (Thunb.) Ohwi
	コハコベ	<i>Stellaria media</i> (L.) Villars
	ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i> Weihe
アカザ科	アリタソウ	<i>Ambrina ambrosioides</i> (L.) Spach
	シロザ	<i>Chenopodium album</i> L.
ヒユ科	ヒナタイノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> Bl. var. <i>tomentosa</i> (Honda) Hara
	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i> (Mart.) Griseb.
クスノキ科	タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i> Sieb. et Zucc.
キンボウゲ科	ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i> DC.
	コキツネノボタン	<i>Ranunculus chinensis</i> Bunge
	タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i> L.
	キツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i> Lev.
	ノカラマツ	<i>Thalictrum simplex</i> L. var. <i>brevipes</i> Hara
アケビ科	アケビ	<i>Akebia quinata</i> (Thunb.) Decaisne
	ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> (Thunb.) Koidz.
ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i> (Thunb.) DC.
ドクダミ科	ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i> (Lour.) Baill.
オトギリソウ科	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i> Thunb.
ケシ科	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i> (Thunb.) Pers.
アブラナ科	カラシナ	<i>Brassica juncea</i> (L.) Czern. et Coss.
	タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i> With.
	コタネツケバナ	<i>Cardamine parviflora</i> L.
	マメゲンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i> L.
	オオアラセイトウ	<i>Orychophragmus violaceus</i> O.E.Schulz var. <i>violaceus</i>
	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi
	イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i> (L.) Hiern
	スカシタゴボウ	<i>Rorippa islandica</i> (Oeder) Borbkg
	カキネガラシ	<i>Sisymbrium officinale</i> (L.) Scop. var. <i>officinale</i>
ベンケイソウ科	タコノアシ	<i>Penthorum sedoides</i> L. subsp. <i>chinense</i> (Pursh) S.Y.Li et K.T.Adair
	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i> Makino
	オカタイトゴメ	<i>Sedum oryzifolium</i> Makino form. <i>pumilum</i> H. Ohba
バラ科	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb. var. <i>japonica</i> (Miq.) Nakai
	ヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i> (Sieb. ex Koidz.) H. Ohba
	オオシマザクラ	<i>Cerasus speciosa</i> (Koidz.) H. Ohba
	ソメイヨシノ	<i>Cerasus × yedoensis</i> (Matsum.) A.V.Vassil.
	ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i> (Zoll. et Mor.) Miq.
	コバナキジムシロ	<i>Potentilla amurensis</i> Maxim.

表2. (つづき)

科	和名	学名
	ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i> Bornm.
	オヘビイチゴ	<i>Potentilla sundaica</i> (Bl.) O. Kuntze var. <i>robusta</i> (Franch. et Savat.) Kitag.
	カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> (Thunb.) Decne. var. <i>villosa</i>
	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica</i> (L.) Lindl. ex Ker var. <i>umbellata</i> (Thunb.) H. Ohashi
	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i> Thunb.
	テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i> Crepin
	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i> L.
	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i> L.
	ナガボノシロワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fisch. ex Link var. <i>alba</i> Trautv. et Mey.
	ナガボノアカワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fisch. ex Link var. <i>purpurea</i> Trautv. et Mey.
マメ科	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i> L.
	ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i> L.
	ヌスビトハギ	<i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>oxyphyllum</i> (DC.) Ohashi
	ツルマメ	<i>Glycine max</i> (L.) Merr. subsp. <i>soja</i> (Sieb. et Zucc.) Ohashi
	ハマエンドウ	<i>Lathyrus japonicus</i> Willd. subsp. <i>japonicus</i>
	牡丹ハギ	<i>Lespedeza juncea</i> (L. fil.) Pers. var. <i>subsessilis</i> Miq.
	ウマゴヤシ	<i>Medicago polymorpha</i> L. var. <i>polymorpha</i>
	クズ	<i>Pueraria lobata</i> (Willd.) Ohwi
	クズダマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i> Schreb.
	コマツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i> Sibth.
	ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i> L.
	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i> L.
	ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i> L.
	クサフジ	<i>Vicia cracca</i> L.
	オヨクサフジ	<i>Vicia dasycarpa</i> Ten.
カタバミ科	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> L.
フクロソウ科	ゲンノショウコ	<i>Geranium nepalense</i> Sweet subsp. <i>thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Hara
トウダイグサ科	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i> L.
	ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i> Morr. et Decne.
	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i> (Thunb. ex Murray) Mueller-Arg.
ウルシ科	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> L. var. <i>roxburghii</i> (DC.) Rehd. et Wils.
ニシキギ科	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.
	コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Siebold f. <i>ciliatodentatus</i> (Franch. et Savat.) Hiyama
	マサキ	<i>Euonymus japonicus</i> Thunb.
	マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i> Blume
クロウメモドキ科	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decepiens</i> Maxim.
ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> (Maxim.) Trautv. var. <i>heterophylla</i> (Thunb.) Hara
	ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i> (Thunb.) Gagn.
グミ科	アキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb.
スマレ科	アリアケスマレ	<i>Viola betonicifolia</i> Smith var. <i>albescens</i> (Nakai) F. Mack.
	スマレ	<i>Viola mandshurica</i> W. Becker
	ツボスマレ	<i>Viola verecunda</i> A. Gray
ウリ科	ゴキツル	<i>Actinostemma lobatum</i> Maxim.
ミソハギ科	エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i> L.
アカバナ科	アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i> Franch. et Savat.
	チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim.
	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i> Hill
アリノウグサ科	オオフサモ	<i>Myriophyllum brasiliense</i> Cambess.
セリ科	ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i> Honda
	チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> Lam.
	セリ	<i>Oenanthe javanica</i> DC.
	ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i> (Thunb.) Rydb.
	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i> (Houtt.) DC.
	オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i> (Thunb.) DC.
サクラソウ科	ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i> Maxim.
	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> Thunb.
エゴノキ科	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.
モクセイ科	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.
	イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.
	オオバイボタ	<i>Ligustrum ovalifolium</i> Hassk.
ガガイモ科	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i> (Thunb.) Makino
	オオカモメツル	<i>Tylophora aristolochioides</i> Miq.
アカネ科	ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> L. var. <i>echinospermon</i> (Wallr.) Hayek
	ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i> Makino
	ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i> (Lour.) Merr.
ヒルガオ科	ヒルガオ	<i>Calystegia dahurica</i> (Herb.) Choisy f. <i>anestia</i> (Fernald) H. Hara
	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i> Engelm. var. <i>pentagona</i>
ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i> (Hornem.) Fisch. et C. A. Mey.
	キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i> (Trevir.) Benth.
シソ科	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i> (Benth.) O. Kuntze
	カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> L. subsp. <i>grandis</i> (A. Gray) Hara
	ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i> L.
	ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i> L. var. <i>purpureum</i>
	シロネ	<i>Lycopus lucidus</i> Turcz. ex Benth.
	ヒメサルダヒコ	<i>Lycopus ramosissimus</i> Makino

表2. (つづき)

科	和名	学名
	コシロネ	<i>Lycopus ramosissimus</i> Makino var. <i>japonicus</i> (Matsum. et Kudo) Kitam.
	イヌコウジュ	<i>Mosla punctulata</i> (J. F. Gmel.) Nakai
	ミソコウジュ	<i>Salvia plebeia</i> R.Br.
	イヌゴマ	<i>Stachys riederi</i> Chamisso var. <i>intermedia</i> (Kudo) Kitam.
ナス科	クコ	<i>Lycium chinense</i> Miller
	テリミノイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i> Mill.
	オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i> Mart. et Gal.
	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptycanthum</i> Dunal ex DC.
ゴマノハグサ科	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i> (Burm. fil.) van Steenis
	セイヨウヒキヨモギ	<i>Parentucellia viscosa</i> (L.) Caruel
	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i> (Thunb.) Steud.
	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.
	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i> L.
	タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i> L.
	ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i> L.
	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i> Poir.
	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i> Wall.
キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Rostellularia procumbens</i> (L.) Nees
ハマウツボ科	ヤセウツボ	<i>Orobanche minor</i> Smith
オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> L.
	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i> L.
	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i> L.
スイカズラ科	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> Thunb.
	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i> Thunb.
オミナエシ科	ノヂシャ	<i>Valerianaella locusta</i> (L.) Betcke
キキョウ科	キキョウソウ	<i>Triodanis perfoliata</i> (L.) Nieuwl.
キク科	オオバクサ	<i>Ambrosia trifida</i> L.
	カララニンジン	<i>Artemisia apiacea</i> Hance
	ヒメヨモギ	<i>Artemisia feddei</i> Leveil. et Vaniot
	ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i> Pampan.
	ノコンギク	<i>Aster ovatus</i> (Franch. et Savat.) Mot. Ito et Soejima var. <i>ovatus</i>
	オオホウキギク	<i>Aster exilis</i> Elliot ?
	ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i> Michx. var. <i>ligulatus</i> Shinnars
	ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> Michx. var. <i>sandwicensis</i> (A. Gray) A.G. Jones
	カントウヨメナ	<i>Aster yomena</i> (Kitam.) Honda var. <i>dentatus</i> (Kitam.) Hara
	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i> L.
	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>pilosa</i>
	タウコギ	<i>Bidens tripartita</i> L.
	トキンソウ	<i>Centipeda minima</i> (L.) A. Br. et Aschers.
	ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> DC.
	トネアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>incomptum</i> (Franch. et Savat.) Kitam.
	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i> (Retz.) E. Walker
	アメリカカタカサブドウ	<i>Eclipta alba</i> (L.) Hassk.
	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i> L. var. <i>canadensis</i>
	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i> L. var. <i>philadelphicus</i>
	ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i> T. Kawahara et Yahara
	ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i> D. Don
	タチチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i> Fernald
	チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i> Willd.
	ウスベニチチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i> L.
	ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i> Lam.
	キツネアザミ	<i>Hemistepta lyrata</i> Bunge
	オオジシバリ	<i>Ixeris debilis</i> (Thunb.) A. Gray
	ニガナ	<i>Ixeris dentata</i> (Thunb.) Nakai
	タバコ	<i>Lapsana apogonoides</i> Maxim.
	ヤブタバコ	<i>Lapsana humilis</i> (Thunb.) Makino
	フキ	<i>Petasites japonicus</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.
	ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i> L.
	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i> L.
	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> Aiton var. <i>leiophylla</i> Fernald
	オノゲシ	<i>Sonchus asper</i> (L.) Hill
	ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i> L.
	ヒメジョオン	<i>Stenactis annuus</i> (L.) Cass.
	ニホンタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i> Koidz.
	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i> Weber
	オオオナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> L. var. <i>canadense</i> (Mill.) T. & G.
	オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i> (L.) DC.
オモダカ科	オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i> L.
サルトリイバラ科	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> L.
ユリ科	ノビル	<i>Allium grayi</i> Regel
	ニラ	<i>Allium tuberosum</i> Rottl.
	ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis disticha</i> Donn ex Ker Gawl. var. <i>kwanso</i> (Regel) Nakai
	ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i> Lindl.
ヤマノイモ科	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i> Makino
ミズアオイ科	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack

表2. (つづき)

科	和名	学名
アヤメ科	キシヨウブ	<i>Iris pseudacorus</i> L.
	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i> Bickn.
	オオニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium</i> sp.
イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	<i>Juncus bufonius</i> L.
	イ	<i>Juncus effusus</i> L. var. <i>decepiens</i> Buchen.
	コウガイゼキショウ	<i>Juncus hizenensis</i> Satake
	クサイ	<i>Juncus tenuis</i> Willden.
	コゴメイ	<i>Juncus</i> sp.
	スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i> (Miq.) Miq.
	ヤマスズメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i> Lejeune
ツユクサ科	ツユクサ	<i>Commelina communis</i> L.
	イボクサ	<i>Murdannia keisak</i> (Hassk.) Hand.-Mazz.
	ノハカタカラクサ	<i>Tradescantia flumiensis</i> Vell.
イネ科	アオカモジグサ	<i>Agropyron ciliare</i> (Trin.) Franch. var. <i>minus</i> (Miq.) Ohwi
	カモジグサ	<i>Agropyron tsukushiense</i> (Honda) Ohwi var. <i>transiens</i> (Hack.) Ohwi
	スカボ	<i>Agrostis clavata</i> Trin. var. <i>nukabo</i> Ohwi
	ハナヌカススキ	<i>Aira elegans</i> Willd. ex Kunth subsp. <i>elegans</i>
	スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i> Sobol. var. <i>amurensis</i> (Komar.) Ohwi
	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i> L.
	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i> L.
	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i> (Thunb.) Makino
	アズマネザサ	<i>Arundinaria chino</i> (Franch. et Sav.) Makino
	トダシバ	<i>Arundinella hirta</i> (Thunb.) C. Tanaka
	カズノコグサ	<i>Beckmannia syzigachne</i> (Steud.) Fernald
	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i> L.
	ヤクナガイヌムギ	<i>Bromus carinatus</i> Hook. & Arn.
	イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i> Vahl
	ヒゲナガスズメノチャヒキ	<i>Bromus diandrus</i> Roth
	スズメノチャヒキ	<i>Bromus japonicus</i> Thunb.
	キツネガヤ	<i>Bromus pauciflorus</i> (Thunb.) Hack.
	ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i> (L.) Pers.
	メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i> (Retz.) Koeler
	アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i> Link
	イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) Beauv. var. <i>caudata</i> (Roshev.) Kitag.
	タイヌビエ	<i>Echinochloa oryzicola</i> Vasing.
	オヒシバ	<i>Eleusine indica</i> (L.) Gaertn.
	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i> (Schrad.) Nees
	カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i> (Thunb.) Beauv.
	ヒメアシボン	<i>Microstegium vimineum</i> (Trin.) A. Camus f. <i>willdenowianum</i> (Nees) Osada
	オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i> Sch.
	トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i> Steud.
	ヒロハウシノケグサ	<i>Festuca pratensis</i> Huds.
	ドジョウツナギ	<i>Glyceria ischyronura</i> Steudel
	ウシノシッペイ	<i>Hemarthria sibirica</i> (Gandog.) Ohwi
	チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> (L.) Beauv.
	アシカキ	<i>Leersia japonica</i> Makino
	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i> Lam.
	ホソムギ	<i>Lolium perenne</i> L.
	ササガヤ	<i>Microstegium japonicum</i> (Miq.) Koidz.
	オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i> (Maxim.) Benth.
	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i> Anderss.
	イネ	<i>Oryza sativa</i> L.
	ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.
	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i> Poir.
	キシウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> L. var. <i>distichum</i>
	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> (L.) Spreng.
	クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i> L.
	ヨシ	<i>Phragmites communis</i> Trin.
	ミノイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> Steud.
	タマミノイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> Steud. var. <i>submoniliformis</i> Makino
	スズメノカタビラ	<i>Poa</i> sp.
	ツルスズメノカタビラ	<i>Poa annua</i> L. var. <i>reptans</i> Hauskn.
	イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i> Trin.
	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i> L. subsp. <i>trivialis</i>
	ヒエガエリ	<i>Polypogon fugax</i> Steud.
	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i> Herrm.
	キンエノコロ	<i>Setaria glauca</i> (L.) Beauv.
	エノコログサ	<i>Setaria viridis</i> (L.) Beauv.
	ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i> (Steud.) W. Clayton
	カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i> (Thunb.) Ohwi
	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> (L.) C.C. Gmel. var. <i>myuros</i>
	マコモ	<i>Zizania latifolia</i> Turcz.
	シバ	<i>Zoysia japonica</i> Steud.
サトイモ科	ショウブ	<i>Acorus calamus</i> L.
ウキクサ科	アオウキクサ	<i>Lemna aoukikusa</i> Beppu et Murata

表2. (つづき)

科	和名	学名
ガマ科	ヒメガマ	<i>Typha angustifolia</i> L.
	ガマ	<i>Typha latifolia</i> L.
カヤツリグサ科	コガマ	<i>Typha orientaris</i> Presl
	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus yagara</i> (Ohwi) A.E.Kozhevnik.
	アオスゲ	<i>Carex breviculmis</i> R. Br.
	アゼナルコスゲ	<i>Carex dimorpholepis</i> Steud.
	カサスゲ	<i>Carex dispalata</i> Boott
	ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i> D. Don
	アサマスゲ	<i>Carex lithophila</i> Turcz.
	ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i> Maxim.
	コウボウシバ	<i>Carex pumila</i> Thunb.
	オオクグ	<i>Carex rugulosa</i> Kükenth
	シオクグ	<i>Carex scabrifolia</i> Steud.
	アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i> Steud.
	ヤワラスゲ	<i>Carex transversa</i> Boott
	タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i> L.
	ホンミキンガヤツリ	<i>Cyperus engelmannii</i> Steud.
	コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i> L.
	カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i> Steud.
	カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i> Vahl var. <i>nipponicus</i> Ohwi
	ミズガヤツリ	<i>Cyperus serotinus</i> Rottb.
	マツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> (L.) Roem. et Schult. subsp. <i>yokoscensis</i> (Franch. et Sav.) T.V.Egorova
ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> D.Don var. <i>japonica</i> (Miq.) T.Koyama	
オオヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> Lindb. fil. var. <i>cyclocarpa</i> Kitag.	
メアゼテンツキ	<i>Fimbristylis aestivalis</i> (Retz.) Vahl subsp. <i>squarrosa</i> (Vahl) T.Koyama f. <i>esquarrosa</i> (Makino) T.Koyama	
ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i> (L.) Roem. et Schult.	
テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> (L.) Vahl	
ヒデリコ	<i>Fimbristylis miliacea</i> (L.) Vahl	
イガガヤツリ	<i>Pycnus polystachyos</i> (Rottb.) P.Beauv.	
ホタルイ	<i>Schoenoplectus hotarui</i> (Ohwi) Holub	
フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i> (C.C.Gmel.) Palla	
サンカクイ	<i>Scirpus triquetus</i> L.	
ラン科	ネジバナ	<i>Spiranthes amoena</i> (M.Bieb.) Spreng.
トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i> L.
	トクサ	<i>Equisetum hyemale</i> L.
ハナヤスリ科	ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i> (L.) Sw.
チャセンダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i> Thunberg
ヒメシダ科	ヒメワラビ	<i>Thelypteris torresiana</i> (Gaud.) Alston var. <i>calvata</i> (Bak.) Holtt.
イワデンダ科	コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> L.
アカウキクサ科	オオアカウキクサsp.	<i>Azolla</i> sp.

植物の種数はイネ科、カヤツリグサ科、キク科の順に多かったが、イネ科の86%、キク科の95%の種が陸生の植物であった。一方、カヤツリグサ科の種のうち68%は水湿地生であり、この中に保全上重要な植物が3種含まれていた。外来植物はキク科、イネ科の順に多かった。イネ科、キク科、タデ科、ナデシコ科は各々の科の種数の55%以上が一年草であったのに対し、カヤツリグサ科は55%の種が多年草で占められていた。木本の種は全般的に少なかった。

各々のグループ（相観および河口からの距離の区分）に出現した維管束植物の種数を示したのが表4である。ヨシ原および上流側では種数の6%以上が保全上重要な植物であった。いずれのグループにおいても、外来植物の種数の割合は21%を超えており、造成地では30%に達していた。

保全上重要な植物、それ以外の主な在来植物、主な外来植物の出現頻度を示したのが表5である。保全上重要な植物はオオクグ、シオクグ、カワヂシャ *Veronica undulata* Wall., アサマスゲ *Carex lithophila* Turcz. など17種であった。オオクグ、シオクグはグループにかかわらず、広い範囲で出現していた。一方、カワヂシャは河口からの距離によって区分されたグループの間にはきわだった分布傾向は確認されなかったが、水田・水路グループで高い出現頻度を示した。また、アサマスゲ、ミゾコウジ *Salvia plebeia* R.Br. はヨシ原、コギシギシ *Rumex nipponicus* Franch. et Savat. は造成地において出現頻度が高い傾向が認められた。また、アサマスゲ、ハナムグラ *Galium tokyoense* Makino、コキツネノボタン *Ranunculus chinensis* Bunge などの13種が上流側にのみ出現し、下流側でのみ確

表3. 代表的な科における維管束植物の種数

種数が3種以上の科を掲載した。在来植物、外来植物の種数及び各々の生活史（一年草、多年草、木本）に識別された種数をあわせて示した。在来植物については、保全上重要な種（保全）、水湿地生植物（水湿地）、陸生植物（陸生）をそれぞれ内数で示した。

科	全体	在来植物				外来植物	生活史		
		合計	保全	水湿地	陸生		一年草	多年草	木本
イネ科	60	43		(6)	(37)	17	33	27	0
キク科	41	20		(1)	(19)	21	28	13	0
カヤツリグサ科	29	28	(3)	(19)	(9)	1	13	16	0
タデ科	16	14	(1)	(7)	(7)	2	10	6	0
バラ科	16	15	(2)	(1)	(14)	1	1	8	7
マメ科	15	8		(2)	(6)	7	7	8	0
ナデシコ科	13	7			(7)	6	13	0	0
シソ科	10	9	(1)	(6)	(3)	1	4	6	0
アブラナ科	9	4	(1)	(1)	(3)	5	9	0	0
ゴマノハグサ科	9	5	(2)	(2)	(3)	4	7	1	1
イグサ科	7	6		(3)	(3)	1	1	6	0
セリ科	6	6		(1)	(5)	0	2	4	0
キンボウゲ科	5	5	(2)	(3)	(2)	0	4	1	0
ニシキギ科	4	4			(4)	0	0	0	4
ナス科	4	1			(1)	3	3	0	1
ユリ科	4	4			(4)	0	0	4	0
ヤナギ科	3	3		(3)		0	0	0	3
ベンケイソウ科	3	2	(1)	(1)	(1)	1	1	2	0
トウダイグサ科	3	3	(1)	(1)	(2)	0	1	1	1
スマレ科	3	3	(1)	(2)	(1)	0	0	3	0
アカバナ科	3	2		(2)		1	2	1	0
モクセイ科	3	3		(1)	(2)	0	0	0	3
アカネ科	3	3	(1)	(1)	(2)	0	1	2	0
オオバコ科	3	1			(1)	2	2	1	0
アヤメ科	3	0				3	2	1	0
ツククサ科	3	2		(1)	(1)	1	2	1	0
ガマ科	3	3		(3)		0	0	3	0

表4. 相観および河口からの距離により区分された各グループの調査面積、出現種数

在来植物（保全上重要な植物（保全）、水湿地生植物（水湿地）、陸生植物（陸生）をそれぞれ内数で示す）および外来植物の種数をあわせて示した。

グループ	面積(m ²)	種数	在来植物				外来植物
			合計	保全	水湿地	陸生	
相観区分							
ヨシ原	8,250	258	202	(16)	(62)	(140)	56
水田・水路	3,600	169	131	(7)	(44)	(87)	38
造成地(乾燥)	1,500	178	124	(5)	(28)	(96)	54
河口からの距離による区分							
下流側(12 15km)	4,750	223	173	(4)	(44)	(129)	50
上流側(18 31km)	8,600	258	188	(16)	(61)	(127)	70

表5. 代表的な維管束植物種の出現頻度

(a) 保全上重要な植物 (全種)、(b) その他の在来植物 (出現頻度が10以上)、(c) 外来植物 (出現頻度が5以上) の出現頻度をグループごとに示した。n は調査地数を示す。

表5 (a) 保全上重要な植物

和名	相観			河口からの距離			
	ヨシ原 n = 20	水田・水路 n = 9	造成地(乾燥) n = 6	12 n = 20	15km n = 20	18 n = 15	31km n = 15
オオクグ	10	4	4	12			6
シオクグ	7	4	4	10			5
カワヂシャ	5	4	2	5			6
アサマスケ	6	1	0	0			7
ハナムグラ	5	0	0	0			5
コイヌガラシ	2	1	1	0			4
ミゾコウジュ	4	0	0	0			4
コギシギシ	1	0	2	0			3
コキツネノボタン	3	0	0	0			3
ノカラマツ	2	0	0	0			2
タコノアシ	1	1	0	0			2
ノウルシ	2	0	0	0			2
アリアケスミレ	2	0	0	0			2
ゴマノハグサ	2	0	0	0			2
ナガボノシロワレモコウ	1	0	0	0			1
ナガボノアカワレモコウ	1	0	0	0			1
ミズアオイ	0	1	0	1			0

表5 (b) その他の在来植物

和名	生育環境			河口からの距離			
	ヨシ原 n = 20	水田・水路 n = 9	造成地(乾燥) n = 6	12 n = 20	15km n = 20	18 n = 15	31km n = 15
ヨシ	20	9	5	19			15
ヨモギ	11	8	5	16			8
ノイバラ	14	4	5	9			14
チガヤ	10	5	5	13			7
シロバナサクラタデ	11	4	4	9			10
スギナ	11	4	4	8			11
オギ	12	3	3	6			12
オオジシバリ	9	5	3	11			6
クサヨシ	9	3	5	8			9
ヤハズエンドウ	8	4	4	9			7
クサイ	8	4	4	8			8
スカシタゴボウ	7	5	2	9			5
ヤエムグラ	7	3	4	7			7
ヘクソカズラ	10	2	2	6			8
ヌカボ	7	4	3	10			4
ウキヤガラ	9	2	3	6			8
ヤマグワ	8	3	2	6			7
スイバ	5	4	4	8			5
タネツケバナ	5	6	2	11			2
コモチマンネングサ	7	3	3	9			4
イ	6	2	5	5			8
タガラシ	5	5	2	6			6
オオバコ	4	4	4	8			4
カズノコグサ	7	1	4	5			7
ギシギシ	6	1	4	6			5
ツルマメ	6	3	2	6			5
セリ	7	3	0	3			7
スイカズラ	6	3	1	8			2
スズメノテッポウ	2	5	3	6			4
ススキ	6	2	2	8			2
カサスゲ	8	1	1	0			10

表 5 (c) 外来植物

和名	相観			河口からの距離	
	ヨシ原 n = 20	水田・水路 n = 9	造成地(乾燥) n = 6	12 15km n = 20	18 31km n = 15
セイトカアワダチソウ	18	7	6	16	15
オランダミミナグサ	10	7	5	15	7
タチイヌフグリ	8	2	2	5	7
シロツメクサ	4	2	3	4	5
ハルジオン	6	2	1	3	6
オオニワゼキショウ	5	1	3	3	6
オニノゲシ	4	2	2	2	6
セイヨウタンポポ	3	2	3	3	5
ヒメコバンソウ	5	0	3	1	7
ネズミムギ	2	2	4	3	5
アレチギシギシ	3	2	2	3	4
ノヂシャ	5	0	2	0	7
ナギナタガヤ	3	2	2	1	6
オオアレチノギク	2	3	1	2	4
ホソムギ	3	1	2	0	6
ヒロハホウキギク	2	2	1	1	4
ヒメジョオン	2	0	3	1	4
キショウブ	3	1	1	1	4
ハナヌカススキ	3	0	2	1	4
ヒロハウシノケグサ	2	1	2	2	3

認められたものはミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack の 1 種であった。

その他の在来植物については、分布について特別な傾向はほとんど見いだされなかったが、ヨシ、オギ *Miscanthus sacchariflorus* (Maxim.) Benth.、クサヨシ *Phalaris arundinacea* L.、シロバナサクラタデ *Persicaria japonica* (Meisn.) H. Gross などの水湿地生植物、ノイバラ *Rosa multiflora* Thunb.、チガヤ *Imperata cylindrica* (L.) Beauv. などの陸生植物が比較的高い頻度で確認された。また、ヨモギ *Artemisia princeps* Pampan.、スギナ *Equisetum arvense* L.、ヤハズエンドウ *Vicia angustifolia* L. などの農地雑草も出現した。外来植物についても分布に特別な傾向はほとんど確認されなかったが、セイトカアワダチソウ *Solidago altissima* L.、オランダミミナグサ *Cerastium glomeratum* Thuill.、タチイヌフグリ *Veronica arvensis* L. が広い範囲に侵入していた。

考 察

利根川下流の氾濫原には、現在でもなお 17 種の保全上重要な植物が分布していることが明らかにされた。特に、オオクグ、シオクグの 2 種の汽水域に生育する植物が広範に分布することが示された。

下流側（河口から 12 15km の範囲）では、オオクグ、シオクグ、カワヂシャ、ミズアオイの 4 種が確認されたのに対して、上流側（18 31km）では、オオクグ、シオクグ、カワヂシャに加えてアサマズゲ、ハナムグラ、ミゾコウジュなどの 16 種が確認された。これらの種の多くがヨシ原に出現している傾向が認められた。これらの理由は本研究および既存の資料からは十分に明らかにすることはできなかったが、下流側では海水の流入の影響が少なからず存在していることは可能性の 1 つとして考えられる。

上流側のいくつかの調査地およびその周辺では、河川敷を水田として利用しており、農作業に必要な通路の確保等の目的でヨシ原の草刈りがしばしば行われている。アサマズゲ、ノウルシ、ノカラマツ、コキツネノボタンなどはそのような草刈り等の管理が施されたヨシ原で出現していた。一方、下流側ではそのように管理が頻繁に行われているヨシ原はほとんど確認されなかった。ヨシ原の草刈り管理が適

度な攪乱を与え、それによって保全上重要な植物の生育できる条件となっている可能性が高い。海水の流入による土壌の化学性の変化等の影響や人為的なインパクトについては、さらなる研究によって明らかにする必要がある。

ヨシ、シロバナサクラタデなどの水湿地生植物やノイバラなどの陸生植物が分布していたが、ヨモギ、スギナなどの農地雑草も数多く出現した。これは、調査した範囲の中に水田などの農地が含まれていること、あるいは農地に近く人間による攪乱を頻繁に受けていること、人工的に造成（埋め立て・盛土など）された調査地が含まれており、堤内地等より土砂が持ち込まれた可能性があることなどが理由と推測される。セイタカアワダチソウ、オランダミミナグサなどのいくつかの外来植物の侵入は、これらが原因で河川敷内に侵入・定着したものと推測される。

オオクグやシオクグなどが優占する利根川下流域の氾濫原植生は、比較的健全な状態が残されていると考えられる。ただし、河川の水位変動による攪乱だけでなく、その代償としての草刈り等の人為的攪乱がほとんど失われたヨシ原では、保全上重要な植物はほとんど出現していない。保全上重要な植物の種子の供給源が存在するかどうか、すなわち、保全上重要な植物の種子生産に係る要因や種子散布パターンなどの生活史特性を詳細に明らかにすることが必要である。また、管理放棄等によって群落内部の生育環境が著しく悪化したヨシ原では、種子の供給源が存在していても、保全上重要な植物の実生の定着は期待できない可能性がある。さらに、セイタカアワダチソウなどの侵略的な外来植物が広い範囲に侵入しているが、現在のところ、これらの外来植物の侵入による影響は明らかではない。しかし、外来植物の侵入が継続的に悪影響をもたらす事例は数多く報告されており（e.g. National Research Council 2002; Myers and Bazely 2003; Mooney et al. 2005）、そのふるまいに注意する必要がある。利根川下流では、現在でも残された農地を継続して利用すること、管理が放棄されつつあるヨシ原の健全性を回復させること、また侵入した外来植物が生態系に影響を及ぼしているか否かを明らかにし、及ぼしているとすれば、それに対する適切な防除策を講じることが必要となるであろう。

引用文献

- 茨城県生活環境部環境政策課（1997）茨城における絶滅のおそれのある野生生物 茨城県版レッドデータブック〈植物編〉。茨城県生活環境部環境政策課，水戸
- 岩槻邦男（1992）日本の野生植物 シダ。平凡社，東京
- 環境省（2007）レッドリスト 植物（維管束植物）
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（1981）日本の野生植物 草本 合弁花類。平凡社，東京
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（1982a）日本の野生植物 草本 単子葉類。平凡社，東京
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（1982b）日本の野生植物 草本 離弁花類。平凡社，東京
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫（1989a）日本の野生植物 木本。平凡社，東京
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫（1989b）日本の野生植物 木本。平凡社，東京
- 清水建美（2003）日本の帰化植物。平凡社，東京
- 千葉県環境生活部自然保護課（2000）千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック植物編。千葉県環境生活部自然保護課，千葉
- 宮脇昭・奥田重俊（1990）日本植物群落図説。至文堂，東京
- 宮脇昭・奥田重俊（1994）改訂新版日本植生便覧。至文堂，東京
- 村中孝司（2002）外来種リスト（維管束植物）。日本生態学会編「外来種ハンドブック」pp320-353。地人書館，東京
- 村中孝司（2008）外来植物の侵入年代・原産地とその用途との関連性。保全生態学研究13：89-101
- 矢野悟道・波田善夫・竹中則夫・大川徹（1983）日本の植生図鑑 人里・草原。保育社，大阪
- 山根爽一・小島重次・佐藤新司（2004）利根かもめ大橋（利根川）の建設に伴うヒヌマイトトンボ *Mortonagrion Hirosei*（トンボ目、イトトンボ科）の代替生息地の創成。茨城県自然博物館研究報告（7）45～61
- Giller PS, Malmqvist B（1998）The Biology of streams and rivers. Oxford University Press, Oxford

- Kalliola R, Puhakka M (1988) River dynamics and vegetation mosaicism : a case study of the River Kamajohka, northernmost Finland. *Journal of Biogeography* 15 : 703-709
- Marston RA, Girel J, Pautou G, Piegry H, Bravard JP, Arneson C. (1995) Channel metamorphosis, floodplain disturbance, and vegetation development : Ain River, France. *Geomorphology* 13 : 121-131
- Malanson GP (1993) Riparian landscapes. Cambridge University Press, Cambridge
- Middleton B (1999) Wetland restoration : Flood pulsing and disturbance dynamics. John Wiley & Sons, Inc. New York.
- Mooney HA, Mack RN, McNeely JA, Neville LE, Schei PJ, Waage JK (2005) Invasive alien species. A New Synthesis. Island Press, Washington
- Myers JH, Bazely DR (2003) Ecology and control of introduced plants. Cambridge University Press, Cambridge
- National Research Council (2002) Predicting invasions of nonindigenous plants and plant pests. National Academy Press, Washington

『春日清祓記』の基礎的考察

渡 邊 俊

はじめに

いわゆる社会史研究が日本において本格的に展開する以前の1970年代初頭、石母田正氏が「日本の中世法の基本には未開社会があるのではないか」と指摘し、戦国時代の法典に「日本の固有のもの」をみていたことはよく知られている¹⁾。

その後、石母田氏の指摘どおり、とくに中世法関連の研究において「日本の固有のもの」が中世において隆起するととらえる見方が広がっていった。この見方にもとづく代表的な研究に勝俣鎮夫氏の成果²⁾がある。氏の論考のなかでも「家を焼く」は、現在にいたるまでの刑罰をめぐる研究史のひとつの流れを形作るものとなった。すなわち、荘園世界でおこなわれていた追放や「住宅検断」といった処分の本質を「罪の災気」の除去に求め、そこに固有法秩序の顕現と時代をこえる影響力とをみたのである。上記の勝俣説において、中世社会における追放・「住宅検断」と固有法秩序とを直接に結びつける役割を果たしたのが、法制史研究においても注目されてきた祓であった。以降、勝俣説を継承する中世法秩序に関する研究においては、「穢を祓う」「災気を除去する」などといった様々な祓に関する言説が流布することとなる。それとともに、追放・「住宅検断」を祓と解釈することに批判が集まったこともまた周知のとおりである³⁾。

「住宅検断」が祓を意味するか否かという問題は、たしかに重要である。しかし、そもそも問われなければならないのは、中世における祓が、いかなるものとして当該期の人々に受けとめられていたかという点なのではないか。中世法秩序に関する研究をさらに実りあるものとするためには、何よりも中世社会における祓のもつ機能を実証的に明らかにすることが必要であると考えられる。というのは、このような問題意識から従来の研究、とくにスサノオに関する史料にもとづいて固有法段階における祓の在り方を検討してきた法制史研究を参照すると、勝俣説およびそれを継承した研究が示してきた祓の理解とは少々異なる見解を提示していることに気付くからである。はじめに三浦周行氏の見解をみてみよう⁴⁾。

諸神の尊を放逐せしは、寧ろ其将来の犯罪を防止せんことを目的とせるものにして、これ実に信仰上の觀念に依らざる刑事上の制裁として観るべきものなり。これを要するに、此種の祓に於て祓具は皆罪人の所有財産より没収するものなれば、贖罪の刑と謂つて不可なし。其後世と異なるは唯信仰上の意味に依りて贖物を神に供するものとしたると、一はこの意味なくして官に納むるものとしたるとにあり。既に刑罰の性質を有する以上は、罪の輕重に依りて祓具に多寡あるを免れざりしなり。(中略) 乃ち祓除は神に対して其罪を祓清せんことを祈るものなれども、其祓に要する料物として正しく物品を徴し、若しくはこれに充つべき他の物品を徴するは、これ一種の財産刑たりしなり。而かも其初めは神に対してこれを出だすといへるもの、後には單純なる刑罰となりて、中古以後に於ける贖銅・所領没収・闕所・科料の類と選ばざるも

のとなり、民間には一種の賠償として行はるゝに至れり。(下線は引用者。以下、同じ。)

下線部に記されているように、三浦氏によれば祓とは、すでに固有法段階から財産刑の性格をもつものであり、それは物品を徴収して神にささげ「其罪を祓清せんことを祈る」ものとされている。また、中田薫氏の見解⁵⁾についてもみてみよう。

されば又後世清祓の適用が祭祀法上の犯罪に限らるゝに至りし時代に於ても、重犯は清祓の外別に刑罰を併科すべしとなせり。(中略) 以て我国に於ても刑と祓とは、觀念上は全然別種のものなることを知るべし。然れども我国に於ても亦他の諸民族に於けると同様に、稍や後世に及んでは祓を以て刑に代用せんとするの傾向歴然たるを見る。(中略) 犯罪の清祓が此時代(『日本書紀』の時代・・・引用者註)に於て、已に財産刑の一なるかの如く見做されたることを知るに足るべし、反対に祓禊を棄てて刑罰のみを科するの傾向も亦古るし。(中略) 然れども此外に祓と刑とを併科せる罪ありしことを記憶せざるべからず。

中田氏によれば、後世における祓の適用は、祭祀法上の犯罪に限られるものである。さらに重犯に対しては、祓のほかに刑罰も科される。本来、祓と刑罰とは別個のものなのだが、財産刑の一種とみなされるような性格を祓はもつという。三浦氏と同様、中田氏も祓に財産刑的性格をみているのである。そのほか瀧川政次郎氏や利光三津夫氏の研究においても、祓の方法として、財物を神前に供えて神祇の歡心をかう行為があげられている⁶⁾。

勝俣説をめぐる研究史の祓に対する理解と、従来の法制史研究が示してきた祓に対する理解とのあいだに、やや齟齬が生じていることがわかると思う。祓を穢の除去ととらえて議論を展開する前者に対し、後者は、神への祈謝を祓の機能ととらえる。それとともに後者は、祓に付随する財産刑的性格を指摘するのである。

やはり現在の研究段階において求められている課題は、中世社会における祓の実態についての検証であるといえよう。そこで本稿では、祓のなかでもとくに清祓に着目して考察したいと思う。管見にふれた清祓の専論としては清田義英氏と坂井孝一氏の研究⁷⁾があげられる。この清田氏と坂井氏の研究が現在のところ中世の清祓に関する成果であり、本稿もその多くを両者の研究によっているが、清祓の実態や清祓の対象行為などの点において、まだまだ検討の余地が残されていると思われる。また、実のところ中世社会における清祓の実態を伝える、まとまった史料は、春日社司の日記を収載した『春日社記録』を除けば、これまでほとんど紹介されてこなかった。この点も清祓に関する研究が立ち遅れている要因といえよう⁸⁾。

このような研究状況にあって注目されるのが、鎌倉期春日社における清祓関係記事を豊富に収載している『春日清祓記』である。以下、この『春日清祓記』についての基礎的考察をおこない、また、社司日記を参考にしながら『春日清祓記』にもとづいて当時の清祓の実態とそれをめぐる春日社組織の動向について検討していくこととしたい。

第1章 『春日清祓記』の概要

はじめに『春日清祓記』の概要を把握しておくこととする。現在、その原本を若宮神主子孫の千鳥家が所蔵している『春日清祓記』は、嘉禄2年(1226)から正和2年(1313)までの清祓関係記事を収載

する部類記としての性格をもつ。本稿が底本とするのは、東京大学史料編纂所所蔵影写本『春日清祓記』(請求番号3012 19・1冊)である。ちなみに、影写本奥付に「右春日清祓記、大和国奈良市千鳥祐順氏所蔵明治三十七年十二月採訪、同四十年七月影写了」とあることから、史料編纂所は明治40年(1907)に影写本を作成したことがわかる。

『春日清祓記』の嘉禄2年(1226)から建長2年(1250)までの記述については、『大日本史料』第5編に翻刻されている。しかし、それは『春日清祓記』のごく一部に過ぎず、多くの記述については未だ翻刻されていない状況にある。まして鎌倉期の興福寺・春日社の実態を伝える史料が他の時代と比較して少ない状況にあるので、『春日清祓記』の史料価値は極めて高いものといえるだろう。

『春日清祓記』の全体像については、記事内容を整理してまとめた表を参照していただきたい(後掲)。表に記すとおり、ほとんどの清祓において祭物が提出されていることがわかる。この点は、清祓というものが基本的には祭物を用いた祭祀行為であることを示唆するものである。また、案件によっては春日社内部で自己完結的に処理することができず、寺家や殿下・本所との折衝を経て清祓がおこなわれる。社司評定にもとづいて清祓がなされる場合もあるので、これらの有無も明確になるように表の右側に項目をもうけて示した。なお祭物については、社司等のあいだで配分される。配分沙汰の有無についても同様に表の右側に示した。

さて『春日清祓記』は、「始嘉禄二年 春日清祓記 祐春」とする表紙に始まり、「正和二年四月廿八日」という日付をもって記述が終わる。本文部分は、62丁をかぞえる。弘安3年(1280)9月6日条(表番号43)の直後に「已上、曾祖父祖父并親父社務之時、細々少事祓等也」と記され、続いて「此記、弘安四年之比令=類聚=之、正安三年七月晦日清書之、若宮神主正四位下祐春(花押)」とみえることから、12代若宮神主中臣祐春の自筆本と判断できる。曾祖父・9代祐明(建久4年3月20日補任)、祖父・10代祐定(嘉禄2年12月25日補任)、親父・11代祐賢(康元2年2月補任)の社務関係日記のなかから、祐春が清祓記事を引用して『春日清祓記』を作成したのであろう。

弘安6年(1283)正月18日条(表番号45)の直前には、前年9月28日に祐春が正式に若宮神主に補任されていることもあって「祐春社務之後細々清祓日記」と記されている。以降、清祓記事が編年順に列挙されているが、正和元年(1312)11月9日条(表番号91)の記述を境目として、再び弘安9年(1286)までさかのぼって書き連ねているという特徴がある。その理由については判然としない。

「中臣祐賢記」⁹⁾に、「祓日記」(文永2年7月6日条)・「祓ノ日記ノ櫃」(文永4年3月25日条)・「祓日記ニ在之」(弘安3年10月13日条)とあることから、祐春以前の代においても『春日清祓記』のような清祓に関する部類記が作成されていたものと考えられる。

以上をふまえ、次章では『春日清祓記』によりながら春日社における清祓の実態を明らかにしていきたいと思う。

第2章 清祓の実態とその対象行為

そもそも清祓とは、具体的に何をやるのだろうか。まずは、この点を明確にしておきたい(引用史料の[]内は割注。以下、同じ)。

[史料] 『春日清祓記』嘉禄2年(1226)3月22日条(表番号3)。

一嘉禄二年三月廿二日夜、寺僧延年之間、若宮御殿^{經所敷}北面之雨垂=小童小便破^(浸力)レ石、琳聖都維那下人也、同廿七日出=清祓祭物送文= [主人琳聖都維那沙汰也]、

奉_レ送、春日若宮清祓祭物事、
御幣、散米、膝突、父馬一匹、牛一頭、大刀一筋、
右清祓祭物料、奉_レ送如_レ件、

嘉禄二年三月廿七日

瑠璃王丸

以_二神殿守重春_一遂_二清祓_一了、

[史料] 『春日清祓記』安貞3年(1229)5月12日条(表番号8)。

一安貞三年五月十二日、若宮拜殿未申角少人大便_ス、祐定催_二御祓_一、中小路^(言)已目法師云々、祭物、
白布一段、清_二彼所_一了、

[史料] 『春日清祓記』天福2年(1234)9月6日条(表番号18)。

一天福二年九月六日、拜殿番巫女^{柳本巫也}、所_レ抱三歳許子、手水屋板敷^(小)少便流、任_レ例催_二清祓_一、
祭物、無文紺小袖一、小鏡一面、帯一筋出_二祭物_一、所持錢四文、一升五合、以_レ此宛_二酒直
洗_二彼所_一了、神殿守清春、番国正代清永也、依_二無縁^(之カ)略_レ定也、

いずれも小便・大便といった排泄物が清祓の原因となっている事例である。当事者より祭物が送られ、神殿守や番神人が清祓を担当していることがわかる。汚物のついた場所は酒で洗浄されるが、そのような洗浄行為を史料では「清」と表現している。したがって厳密に言えば清祓とは、穢物を除去ないし汚染場所を洗浄(=「清」)し、祭物を用いた祭祀(=「祓」)をとりおこなうことを意味する。

上記のように厳密に定義しておきたい理由は、先行研究の多くが祓自体について、穢の除去の意まで含んでいると理解してきているからである。それが、祓に論及する先行研究の理解に、やや混乱がみられる要因となっている。たとえば坂井孝一氏は、『清祓』とは、穢を祓い、不浄を清めるために神社等で行なわれた、一種の儀式」とする一方、「穢の除去=祓」としている。この祓の機能を穢の除去に求める考え方は、「住宅検断」を祓とする勝俣氏の研究や、その勝俣説の視角を継承して中世社会の領主による処分を検討してきた研究にも共通してみられる。

しかし従来の法制史研究においては、必ずしも祓をそのようには解釈してこなかったことは本稿冒頭に述べたとおりである。すなわち祓とは、当事者に祓具(祭物)を負担させておこなわれる神への祈謝・贖罪行為なのであり、記紀神話の段階からすでに財産刑の性格をもつものと指摘されていた。祓そのものに財産没収の性格が付随していることは、おおむね認められてきたと思われる。もちろん清田義英氏や坂井孝一氏の論考においても、祓のもつ財産刑的性格は指摘されている。だが、穢や罪の災気の除去を祓に結びつけて論を展開する勝俣説においては、法制史研究が説いてきた祓のもつ祭祀行為としての性格や財産刑的性格については、ほとんどふれられていない。

やはり問題は、祓の理解にある。一体、祓とは、穢を除去する行為なのか、それとも神へ祈謝・贖罪する祭祀行為なのか。結論からいうと、中世に生きた人々が祓自体について、穢を除去する行為としてとらえていたとは考えがたい。なぜなら、次に掲げるような史料¹⁰⁾があるからである。

一弘長二年五月七日、寺僧学澄房^{嚴縁}許_二家二字在_レ之、一字_二三歳子死亡、而四目^{ハカリヲ引テ今}一字ノ家ヨリ八日九日十日三箇日参社、依_レ之社殿触穢畢、言_二上_一殿下并寺家_一了、任_レ例奉_レ止_二御供_一了、任_レ例被_レ行_二御祓_一也、委細年中記在_レ之、
同年六月八日、遂_レ祓 [満州一日也、寺家御沙汰]、
学澄房送文、
奉_レ送、清祓御祭物銭事、

合伍貫文者
右、奉_レ送如_レ件、
弘長二年六月一日
齋縁上

5月8日・9日・10日に学澄房齋縁が参社したことによって、齋縁宅の死穢が社殿にもちこまれ、社殿が触穢するという事態にみまわれた。ただちに氏長者と寺家に報告がなされ、御供の停止が命じられた。下線部に注目したい。祓がとりおこなわれたのは、31日後の6月8日であったのである。もしも、祓が穢の除去を意味するのであれば、そもそも日数など問題になることはない。ただちに祓をおこなえばよいだけの話である。しかし史料は、そのようには伝えていない。社司たちが気にかけているのは、祓をおこなうべき日、すなわち死穢の明ける日なのである。6月1日に祓の祭物が齋縁より送られ、祓がとりおこなわれた8日に祭物5貫文が社司等に分配されている。

社殿触穢の間は、齋縁の祓のみならず別件の祓についても催すことができず、6月7日ないし8日にまとめておこなわれた。社殿宿所において「女犯」した犯人の主人に科された祓は、「此御祓も学澄房社殿触穢之間、今日遂_レ之了」とあるように、祭物が送られてきた6月8日におこなわれた¹¹⁾。若宮社において嘔吐した若宮神人時安は、5月26日に祭物を進上したが、「但、学澄房社殿触穢之間、彼日数卅日之後、来月七日朝可_レ遂_レ御祓_一、此内直垂一具神殿守_二下行_一」とあるように、その祓は6月7日の朝をまっておこなわれたのである¹²⁾。すなわち、齋縁による社殿触穢が影響していることがわかる。祓が社殿触穢によって延引しているのである。

齋縁の例をふまえると、祓とは穢の除去を意味するものではないと判断せざるを得ない。しかも排泄物などの穢と死穢とは、根本的に対応の仕方が異なる。この点の区別を、しっかりしておかなければならない。後者は、日数が一番の問題となるのである。人為的に穢を除去することはできない。「中臣祐賢記」文永9年(1272)2月21日条においても、末社である紀伊社の東に死人の頭が発見された際、「七ヶ日穢也」と認識されている。祓が穢の除去を意味するとすれば、穢が持続する日数など、そもそも問題とされるはずがない。また、祓が穢を忌避するはずもない。日数の問題を考慮に入れないと、清祓の実態を正確にとらえることはできないのである¹³⁾。

このような穢の日数が問題となる例は、死穢のほかに産穢がある。『春日清祓記』永仁4年(1296)10月11日条(表番号57)をみてみよう。

一永仁四年十月十一日朝、若宮經所^{シタ}ノ下_二犬産_一、仍經所并拝殿拝屋_二注連_ヲ引廻之畢、巫等_ハ祇_レ候手水屋_一畢、於_二拝殿并拝屋_一者、雖_レ為_二別屋_一上_一ナル之間、如_レ此引廻了[穢之間、經所御燈不_レ進_レ之、日数以後神殿守遂_二中臣祓_一了]、

若宮經所の下に犬の出産が確認された。經所ならびに拝殿・拝屋に注連がひかれ、巫女等は手水屋に居場所を移すこととなった。犬の産穢の場合も、穢の明ける日をまって祓がおこなわれるのである。そのほか、「中臣祐春記」正応2年(1289)正月11日条には次のような事例が記されている。

八講屋の下に死んだ犬が発見された。社司等による集會が催され、対応が協議された結果、正月15日の節供は19日に延期することが決定した。割注に「十八日_二雖_二日数過_一、為_レ營_二一日延引シテ十九日可_レ進云々_一」とあるように、犬の死穢に関する日数が問題となっていることがわかる。続けて11日条は次のように記している。

此死犬ハエノコ也、件エノコ去年十二月廿余日之比、八講屋ノ下ニウマル、ヲ、神人等無沙汰ニテ、廿九日坎神主ニ常住神殿守被ニ相触ニ之処、已以日数馳過坎、不レ及レカトテ件日、以ニ神殿守等ニ遂ニ中臣被ニ之了ニ々々、此子細於祐春正月二日聞レ之、沙汰次第不レ可レ然坎之由相存候処、如レ此穢出来、神慮令レ然候坎、

そもそも、この死んだ犬は去年の12月20日頃に生まれていたことが神人等によって確認されていたが、そのまま放置されていた。ようやく29日になって常住神殿守を通じて神主の耳に入ったが、「已以日数馳過坎」とあるように産穢が明ける日数はすでに経過していた。本来ならば注連をひいて、犬の産穢期間中は現場を避けるなど相応の対応をとるべきであったが、いまとなっては仕方ないので、29日に中臣被をおこなったというのが事の顛末である。産穢の対応に不手際があり、さらにその犬が死んだことによって一社全体が触穢してしまったことについて祐春は、「神慮令レ然候坎」と嘆くのである。犬の死穢に対しては、その穢の明ける18日に被がとりおこなわれた。「中臣祐春記」同日条は次のように記している。

今日、犬死日数散候間、大社并若宮ニ遂ニ中臣被ニ了 [大社ニ八両常住神殿守、若宮ニ八若宮神殿守利春也]、

以上、掲げてきた各々の史料をみても、被を単純に穢の除去ととらえることはできないことは明白であろう。死穢や産穢は、穢の持続する日数が問題とされ、その期間は、被はおこなわれないのである。被自体が、穢を忌避するのである。

神への謝罪が大被であり、大被は穢・災いと無関係であるとした山本幸司氏の見解¹⁴⁾は、大被だけでなく清被の性格を考えるうえでも重要である。また、三橋正氏が由の被を「神への奉仕を怠ったことに対する謝罪」としていることや、片岡耕平氏が『春日社記録』の検討から導きだした「穢物の片付け(「清目」) 注連による穢の囲い込み 神への謝罪(清被)」といった穢物の処理手続きにおいて果たす清被の役割についての指摘¹⁵⁾も、中世社会における被の機能を正確にとらえるために十分にふまえておかなければならない。

『春日清被記』によれば被とは、祭物を用いた祭祀行為(神への謝罪・贖罪)なのであって、穢の除去までは含意されていないとみるべきなのである。

さて、『春日清被記』の冒頭には、「清被日記 嘉禄以後 細々」という記述に続けて清被の対象行為が目録のような形で列挙されている。それを示すと次のようになる。

鼾 睡

差大刀、小便大便、鼻血、クツチ、嘔吐、放火、牛死土、馬流産、野牛馬等事、女犯、飯室穢、召籠社家使、

以上が『春日清被記』の考える代表的な清被の対象行為であることがわかる。とくに大刀を差したままの参詣は『春日清被記』にみえる代表的な清被の対象行為である。実際、『春日清被記』には、これらの行為に対してなされた清被の記述がある。

しかし、清被の対象行為は上に掲げたものだけではないことは表を一覧すると明らかである。たとえば御節供の新儀も清被の対象となる¹⁶⁾。

一嘉禎三年五月五日、庵治御節供之粽ヲ破テ奉レ備、依ニ新儀之科、同六月十一日、行レ祓之間、出ニ八木二石、配分有ニ其煩、両惣官分取天、神主館ニ天、湯シテ種々事在レ之、両惣官沙汰也、祐定同共ニ奉之、

春日八講において「旧器」を用いたことをとがめられた横田荘民が祓料を進上した例¹⁷⁾をふまえると、庵治荘民が「新儀之科」によって祓料をおさめたものと考えられる。

さらに「中臣祐賢記」弘安2年(1279)4月15日条に「伊賀国ニ住人大中臣氏人能成、為ニ衆徒沙汰ニ被レ解職并可レ被レ行ニ清祓ニ之由被ニ下知ニ畢、其故者、社領ヲ人ニ売買故也」とあるように、社領売買も清祓の対象行為となる。

清祓の対象行為は、排泄物の穢から死穢、そして「新儀之科」や社領売買などにいたるまで、かなり広範囲にわたっている。しかし、いずれも神に対する冒流行為であるにとらえることができるだろう。神に対する冒流行為のなかのひとつとして数えられるのが、穢を神に接触させる行為であると考えられる。「差大刀」や社領売買までもが穢であるとは考えがたいので、祓の要因のすべてを穢にとらえるのではなく、祓の要因となるもののひとつとして穢をとらえた方がよいのではないだろうか。

これまで掲げてきた諸例を勘案して厳密に定義するとすれば、清祓の「祓」とは、神に対する冒流行為が生じた際、当事者に祭物を負担させておこなう祭祀行為(神への謝罪・贖罪)であると考えられる。

第3章 清祓の対象区域

表をみるとわかるように、『春日清祓記』に記述されている清祓のほとんどが、春日社境内でおこった事件をきっかけとしている。清祓がいたるところで無条件におこなわれているわけではない。

清祓がなされるべきか否かの判断は、事件の発生場所や穢物の発見場所によるところが大きかった。境内以外では、たとえば「御山」中でおきた事件が清祓の対象となる。「中臣祐重記」寿永3年(1184)4月20日条によれば、禅師中納言君が殺害・遺棄された場所が「御山之内」であったため、犯人とその縁者から没収した田地・馬・牛を祓料として「大祓」をおこなっている¹⁸⁾。

逆に、「御山」中以外で発生した事件は清祓の対象とはならない。たとえば「中臣祐春記」正応2年(1289)正月27日条に「高仙ノ東ノタウケノ辺ニ死人出現、雖レ然御山ノ内ニ非之間不レ及ニ沙汰ニ也」とあるように、死人が発見された場所が「御山」中ではなかったため、とくに沙汰しなかったというのである。

ただし事件の当事者が神人である場合は、発生場所如何といった条件には拘束されない。この点、すでに清田義英氏が指摘しているが、本稿においても確認しておきたい。「中臣祐賢記」文永9年(1272)2月10日条をみてみよう。

依ニ神人春方刃傷事、昨日、参ニ申 寺家ニ候之處、被レ仰云、清祓之名目者、社頭、若御山内、社領等などにて刃傷殺害事、行ニ清祓ニ之条八先例欤、非ニ其所等ニ而、神人之身ヲ依レ令ニ刃傷ニ、被レ行レ祓ニ之条如何、可レ注ニ進其例ニ之間事、新被レ仰候、彼例定不レ可ニ勝計ニ候欤、但御所見等、面々被レ勘候て、明日御神事之次ニ、可レ定ニ注進状ニ候也、各可下令ニ存知ニ給上候、恐々謹言、

二月十日

神主泰道

謹上 正預殿并殿原御中
追申

若宮神主殿同可_二存知給_一候、謹言、

寺家の認識では、あくまでも清祓の対象は「社頭」・「御山内」・「社領」等での刃傷殺害に限るものとされていた。「社頭」・「御山内」・「社領」以外の場所で神人を刃傷し、清祓におよんだ先例があるならば注進せよと寺家は社家側に伝えてきたのである。そこで上記のような廻文を發し、翌日には先例が集められることとなった。結局、社家側の提出した先例が功を奏し、「清祓事八両刃傷罪科落居之後」に沙汰するとの寺家の仰せが下った¹⁹⁾。神人に対する刃傷も清祓の対象となり得るのである。

さらに春日社境内において清祓の対象となる事件が発生した場合、その発生場所が、清祓を担当する社家組織を決定するうえでの重要な基準となっていた。「中臣祐定記」嘉禎2年(1236)4月19日条を次に掲げる。

今日社司参集便有_二条々評定事_一、

一者、一井上人殺御祓事、大社司可_レ令_二口入_一、且閉門之時、山口守護^三正預并権官少々南口^二可_レ令_二口入_一云々、祐定返答云、自_レ昔南門前之橋已南、香廬谷ノトヲリ已東者、為_二若宮神主之進止_一之由親父申置候キ、其上近年八乙女勢高夫僧刃傷事候之時モ、寺家御尋之時者、若宮神主奉行方候之由被_レ申候キ、今仰無_レ謂候、但所詮令_レ口入_二南_一給者、北^ハ祐定^ヲ令_レ交_レ給^ヘト申之間、如_レ元一向南^ハ祐定進止^ニ成畢、

一者、去年神人貞吉八講屋^ニ天若宮御散米^ヲ引落^天奉_レ穢清祓勤仕事、大社方^ニ天奉_レ穢畢、即可_レ令_二口入_一之由存之處、無音如何云々、返答云、神人春藤自害御祓者、根元若宮手水座沓拔盜故候、仍彼御祓可_レ令_二口入_一之由申之處無_二御承引_一、仍今事隨_レ仰可_レ令_二糺返_一、彼春藤縁舎之祓^ヲモ可_二宛給_一之由申、仍自今以後者両方イリクマムトキハ、大社、若宮相交可_レ致_二沙汰_一之由事切畢、

下線部に注目したい。南門前の橋以南、香廬谷以東に清祓の対象となる事件が発生した場合は若宮方が担当するとしているのである。ちなみに南門前の橋以北は大社方が担当し、事件がいずれにも関係する場合は若宮方・大社方の両方が担当することとした。社家内部で管轄区域に明確な区分があった点は、『春日清祓記』徳治2年(1307)5月6日条(表番号83)からも明らかにすることができる。

一同年五月六日^{戌刻}郷民小五月之内 更(欠字)時、寺僧[権神主時実之子息也、願縁房云々]、若宮經所ノ北向ノ打板^ニ(欠字)女人^ヲケシカウスル間、見物寺僧等可(欠字)由、及_二沙汰_一了、同七日、及_二衆徒之沙汰_一了、

同九日、自_二衆徒_一彼寺僧被_レ処_二重科_一(欠字)彼打板取退之、引_二四目_一了、此祓事、内々大社方^{ヨリ}可_レ綺之由、伺_二衆中_一(欠字)依_レ之^カ、同十四日、自_二衆徒_一以_二中綱定与_一去_二(欠字)社殿穢事、御間橋^ヲ限^テ各沙汰候哉、所詮可_レ被_レ任_二先例_一候云々、祐春以_二返事_一云、御間橋ノ南八若宮御方進止候、北八大社進止候、然者、是八若宮進止之条勿論候之由申云々、

同廿四日、自_二沙汰衆唯躰房_一以_二中綱定与_一、去六日狼藉御祓事、彼願縁房一人之沙汰^ニ可_レ有^カ、六親^ニ被_レ懸事^ハ不_レ可_レ有^也、

同廿六日、彼打板敷替之了、ツカ柱四目取替之了、本ノ板并ツカ柱等祐春取_レ之了、

同廿八日、内々自_二衆徒_一用途^ニ貫文被_レ(欠字)然而返進之了、其後、又一貫^ヲ相副^テ已上^三貫文被_レ送_レ之、衆徒口入之上者免_レ之了、此(欠字)六百文下_二行神人_一、次ナル祓^ニ五(欠字)

不_二下行_一之、(後略)

下線部に着目すると、「御間橋」を基準に、南で事件が発生した場合は若宮方が、北で発生した場合は大社方がそれぞれ清祓を担当する定めであったことがわかる。先にみた南門前の橋とは、「御間橋」のことであろう。大社方・若宮方双方が清祓の担当をめぐる争う理由は、祓料たる祭物の帰属の問題があるからである。

ところで、法成寺においても清祓が問題となることがある。『春日清祓記』弘安5年(1282)5月12条(表番号44)をみてみよう。

一弘安五年五月十二日庚午巳刻、法成寺ノツイカヘノ内^{丑寅角}ニ牛突会テ一頭^ハ死亡了、依_レ之、法成寺一壁穢否事、依_二御尋_一社司氏人等集会種々評定、所詮 殿下仰_二可_レ穢之由治定了、仍自_二今日_一五箇日、可_レ止_二御供并参詣之諸人等_一云々、但於_二今日_一者、已令_二納進_一之上者、面々詣人可_レ給云々、清祓事、能殿所殿共_二可_レ勤仕_一之由被_レ定了、

配分状

弘安五年^{五也}卯月十二日、法成寺牛死清祓祭物用途配分次第、(後略)

一見すると、とくに神とは直接には関係の見出せない場所でおきた事件が清祓の対象となっているかのように思える。だが、このとき法成寺には神木が遷座していた。この点を見落としてはならない。前年の弘安4年10月、春日社の神木が法成寺金堂に遷座し、翌年12月に帰座している²⁰⁾。したがって、牛の死から発生した穢により清祓がなされた理由は、寺内に神木があったからである。法成寺での一件は、その後、「則法成寺_二遷座時^モ牛死去_一一碧皆以穢候了」²¹⁾とあるように先例として回顧されることとなる。

神木の周囲は神の空間となる。当然、神木のある空間は穢を忌避する。穢が接触したと判断された場合は、清祓がおこなわれねばならない。松村和歌子氏が「究極神木を立てることは、そこが神領や神社施設であることを示す」のであり、「春日社の清祓は、神木を接点として社会と大きな関わりを持った」と指摘するとおりである。

かつて「中臣祐定記」嘉禎2年(1236)8月6日条にみえる、衆徒の命により神人等が焼き払った所に神木を立てた行為をめぐる議論となったことがあった。神人等の行為を非難する長者宣が説くように「焼亡所者穢所」なのであるから、住宅焼却を穢の除去(=祓)とみなす勝俣説は成立しがたいとする清田善樹氏の批判が議論のきっかけであった。その後、長者宣と神人等とのあいだの見解の相違は各々が依拠する社会的基盤の相異によるものと山本幸司氏により説明され、この山本説が石井進氏にも受け入れられることとなった²²⁾。つまり「焼亡所」を「穢所」とする長者宣は貴族社会における観念の表れなので、そもそも社会的基盤を異にする神人等とは見解が異なってしまう。だから、「中臣祐定記」の記事は勝俣説に対する有効な反証とはならないとするのである。

はたして、山本幸司氏の説明や石井進氏による清田氏への批判は妥当なものであったのだろうか。稲葉伸道氏が指摘するように、すくなくとも春日社司は長者宣と同様、「焼亡所」を「穢所」とみなしているのであり、社司と長者宣とのあいだでは認識が一致している。社司がその意に反して神人を派遣しているのは、衆徒の圧力に屈しているからである²³⁾。やはり清水克行氏も指摘するとおり、清田氏の勝俣説に対する批判は正当なものであったと考える。春日社にとって「焼亡所」は「穢所」なのであり、神木は穢を忌避するのである。だからこそ法成寺のような一件が、問題として認識され、清祓がおこなわれるのである。

以上みてきたように、春日社境内や「御山」などで発生した事件については清祓の対象となる。また、神人や神木に関わる事件についても清祓の対象となる。逆に、一定の条件を満たさなければ清祓はおこなわれない。このように清祓とは、無条件に中世社会のいたるところでおこなわれるような性質のものではないのである²⁴⁾。

おわりに

かつて三浦周行氏は、中世において広く展開する科料について次のような指摘をしていた。

これ贖罪に関する思想が一層発達して其不正なる財産を是等の功德を修するに費やす事の、罪人のために滅罪の良法と看做されたりしに依るなり。古来仏者の多くが不毛を闢きて道を通じ、橋を架するが如きことを試みたりしを觀れば、斯る所為が衆生の功德として一般に認められ居たりしを推測すべし。江戸時代に於て幕府が科料闕所金を以て公益事業に充てしことある事実の如きも、法制史上より觀察すれば、正に同一系統に属すべし。されば祓の料物即ち袂具、若くは贖物を罪人に科して神祇に祈謝せしことは、科料に就ての思想の発達上よりするも決して度外視すべからざる事と謂はざるべからず。

第三者（超越者である神仏）への贖罪というかたちをとって財産刑が広く展開していくのであり、その点において日本史における祓のもつ意義を強調しているのである。この指摘をさらに具体的に検証していくことはもちろん、財産刑の展開に公権力や公共性が、どのように関係しあっているのかといった問題についても、さらに検討していかなければならない課題である²⁵⁾。

また紙幅の関係から、清田義英氏や坂井孝一氏がふれている清祓のもつ歴史的 성격や法史的意味にまで論及することができなかった。興福寺による検断の在り方と清祓との関係についての検討を含め、別稿を期したいと思う。

注

- 1) 石母田正「歴史学と『日本人論』」(岩波文化講演会、1973年6月28日、金沢市にて講演。『石母田正著作集 第8巻 古代法と中世法』岩波書店、1989年所収)。なお、この点については清水克行『室町社会の騷擾と秩序』(吉川弘文館、2004年)序章に詳しい。
- 2) 勝俣鎮夫 A『戦国法成立史論』(東京大学出版会、1979年)、B「家を焼く」(網野善彦・石井進・笠松宏至・勝俣鎮夫『中世の罪と罰』東京大学出版会、1983年)。以下、勝俣氏の所論についてはBによる。
- 3) 勝俣説をめぐる研究史については、清水克行「室町後期における都市領主の住宅検断」(前掲清水著書所収。以下、清水氏の所論については同論文による)にまとめられている。清水氏の論考以降、「住宅検断」の問題を扱った研究に、三枝暁子「戦国期北野社の闕所」(勝俣鎮夫編『寺院・検断・徳政 戦国時代の寺院史料を読む』山川出版社、2004年)、西山良平「罪と穢れ」(『列島の古代史ひと・もの・こと7 信仰と世界観』岩波書店、2006年)がある。なお拙稿「平安期使庁における追放と財産刑の形成 住宅『壊取』を中心に」(『年報中世史研究』29、2004年)においても、同問題について検討した。
- 4) 三浦周行「信仰と法律」(同氏著『続法制史の研究』岩波書店、1973年所収、初出1925年)。以下、三浦氏の所論については同論文による。
- 5) 中田薫「古法と觸穢」(同氏著『法制史論集』第3巻下、岩波書店、1971年、初出1917年)。
- 6) 瀧川政次郎『日本法制史』(上下全2巻。講談社学術文庫、1985年、初出1928年)、利光三津夫『裁判の歴史 律令裁判を中心に』(至文堂、1964年)。
- 7) 清田義英「清祓考」(同氏著『日本中世寺院法の研究』敬文堂、1987年)、坂井孝一「『清祓』小考」(『創価大学人文論集』4、1992年)。以下、清田氏と坂井氏の所論については同論文による。
- 8) 近年、春日社の清祓に関する重要な史料が、松村和歌子「平安、鎌倉期春日社の清祓史料『永仁四年中臣祐春記』「廻廊諸門

清祓勸例」を中心に」（『国立歴史民俗博物館研究報告』142、2008年）のなかで紹介・翻刻され、清祓の研究に進展のきざしがみえはじめた（以下、松村氏の所論については上記による）。本稿は、松村氏もその存在を紹介している『春日清祓記』の検討を中心にすすめため、松村氏が翻刻した史料やそれに関連してなされた清祓の本質に関わる重要な指摘を十分に検討することができなかった。別稿を期したい。

- 9) 以下、春日社司日記から引用する場合は、すべて『春日社記録』（日記1～3）による。
- 10) 『春日清祓記』弘長2年（1262）5月7日条（表番号34）。
- 11) 『春日清祓記』弘長2年（1262）4月24日条（表番号33）。
- 12) 『春日清祓記』弘長2年（1262）5月22日条（表番号35）。
- 13) 清祓に論及した先行研究は、この日数の問題を、やや等閑に付してきたように思う。なお、松村和歌子氏は、清祓に際し問題となる穢の持続する期間や、清祓のもつ宗教儀礼的性格などを指摘している。
- 14) 山本幸司『穢と大祓』（平凡社、1992年）。
- 15) 三橋正「由の祓について」（同氏著『平安時代の信仰と宗教儀礼』続群書類従完成会、2000年、初出1997年）、片岡耕平「中世の穢観念と神社」（『日本歴史』688、2005年）。
- 16) 『春日清祓記』嘉禎3年（1237）5月5日条（表番号23）。
- 17) 「中臣祐賢記」弘安3年（1280）9月6日条、『春日清祓記』同日条（表番号43）。
- 18) 犯行から9日後の4月22日夜には犯人が処刑されている。だが、「大祓」は即座にはおこなわれず、「六月中旬」にいたってようやくおこなわれた。この点には、とくに注意しておきたい。日数をあけていることに意味がある。すなわち「六月中旬」に「大祓」をおこなった理由は、死穢の明ける日数をまっぴらのごとであると解釈できる。祓に対する本稿の見解の根拠となる事例であることみなせる。
- 19) 「中臣祐賢記」文永9年（1272）3月7日条。
- 20) 『一代要記』弘安4年9月21日、10月4日、10月6日、同5年12月21日条。『勤仲記』弘安5年12月19日、21日、22日条。
- 21) 「中臣祐春記」正応2年（1289）正月11日条。
- 22) 清田善樹「中世の大和における住屋放火」（奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集『文化財論叢』同朋舎、1983年）、山本幸司「貴族社会に於ける穢と秩序」（『日本史研究』287、1986年）、石井進「罪と祓」（『日本の社会史』第5巻 裁判と規範、岩波書店、1987年）。
- 23) 稲葉伸道「興福寺僧集団の形成と発展」（同氏著『中世寺院の権力構造』岩波書店、1997年、初出1988年）。
- 24) 神殿守・神人等のほかに祓をおこなう資格をもつ者として陰陽師があげられる。『春日清祓記』徳治2年（1307）6月24日条（表番号84）に「一童辺道ニ野牛一（欠字）参立、仍番神人取レ之、陰陽師左近将監友安許へ遣レ之了、同日申刻友安彼牛相具テ参テ、一童社ノ前ニテ遂ニ御祓一、牛八友安取レ之、依ニ先例一也 [但、拜殿ノ後行牛八、以レ酒令レ清之例在レ之]」とあるように、陰陽師が当事者となった場合は陰陽師自身が祓をおこなう。
- 25) この問題については、拙稿「寺領支配における追放・没収刑の論理」（『歴史』108、2007年）、「滅罪と安穩」（永井隆之・片岡耕平・渡邊俊編『日本中世のNATION 統合の契機とその構造』岩田書院、2007年）においても論じたが、さらなる検討の必要性を感じている。

『春日清祓記』にみえる清祓記事

番号	丁	西暦	年月日	要因	当事者	場所	祭物負担者	祭物	寺家	配分	殿下	社司
									沙汰	沙汰	本所	評定
1	1	1226	嘉禄2.1.2	差大刀	下法師	若宮拝殿馬道	理趣院僧正御房					
2	2	1226	嘉禄2.2.15	鼻血	西京住人下女	若宮拝殿前	西京住人下女	馬1匹、白帷1、袴1、大ナル釜1口、膝突料、水干1領				
3	2	1226	嘉禄2.3.22	小便	琳聖都維那下人小童	若宮御殿（経所）北面雨垂	琳聖都維那	御幣、散米、膝突、父馬1匹、牛1頭、大刀1筋				
4	3	1227	嘉禄3.4.29	血	神殿守重房	若宮鳥居	神殿守重房	牛1頭、馬1匹				
5	3	1227	嘉禄3.6.8	懸尻	和尼荘宿直人	若宮御殿土居						
6	3	1227	嘉禄3.8.22	小便	中綱有慶娘	若宮経所東	中綱有慶	衣1具、雑紙1束、散米5升、紙1帖				
7	3	1229	安貞3.1.10	差大刀	童	拜殿	童	2間2面屋1宇				
8	4	1229	安貞3.5.12	大便	中小路盲目法師子	若宮拜殿		白布1段				
9	4	1229	安貞3.6.12	差大刀								
10	4	1231	寛喜3.1.11	差大刀	冠者男	若宮御前		銭3貫文				
11	4	1232	寛喜4.6.9	野牛	陰陽助時資	若宮拜屋						
12	5	1232	寛喜4.6.28	小便	拜殿常住撰津女	拜殿	拜殿常住撰津女	紺帷布1端				
13	5	1232	寛喜4.7.7	尻懸、血	氏人時継所従童松石丸	若宮南宮前	時継	白布1段、膝突代ヒキス1段、御幣紙1帖、散米代銭6文				
14	5	1232	寛喜4.9.16	嘔吐	下女	若宮鳥居		白黒帷2				
15	6	1232	寛喜4.11.11	血	拜殿番巫男	若宮	拜殿番巫男	紺帷1領、銭100文、八木1升				

番号	丁	西暦	年月日	要因	当事者	場所	祭物負担者	祭物	寺家沙汰	配分沙汰	殿下本所	社評定
16	6	1233	貞永 2.1.28	鼻血	侍	拝殿手水桶辺						
17	6	1233	貞永 2.2.16	小便	山城国住人	若宮経所前	山城国住人	帷1領、腰刀1、 銭10文				
18	6	1234	天福 2.9.6	小便	拝殿番巫女子	手水屋板敷	拝殿番巫女	無文紺小袖1、小 鏡1面、帯1筋、 銭4文、1升5合 (八木力)				
19	7	1235	文暦 2.7.7	散米引散	右座長貞吉		右座長貞吉	母牛1頭、銭300 文				
20	7	1235	文暦 2.9.14	嘔吐	常住千寿王	拝殿南付近		水干1領				
21	8	1237	嘉禎 3.2.	小便	山城国山田庄住人 源六男(未永)	若宮拝屋北中柱		八木1石、散米、 膝突他				
22	8	1237	嘉禎 3.2.	差大刀	宇都宮入道所従男			1石				
23	8	1237	嘉禎 3.5.5	御節供新儀	庵治庄		庵治庄民?	八木2石				
24	8	1238	嘉禎 4.10.19	嘔吐	拝殿惣一	拝殿南沓抜の下		朽葉生単1領、膝 突有1段、紙1帖、 散米5升				
25	8	1240	仁治元.	葬送	葛上散所神人行時		葛上散所神人行時	銭3貫代馬1匹、 銭300文				
26	9	1246	寛元 4.8.16	牛死	南郷神人春成	吉舌谷の口	南郷神人春成	銭100文				
27	9	1248	宝治 2.8.14	嘔吐	安二郎冠者子息栗 師丸	拝殿まな板の傍		稲8束				
28	9	1249	建長元.9.17	小便	河内国住人小兒	若宮経所打板	宿所東室法師原	銭100文、散米・ 膝突料銭50文				
29	10	1250	建長 2.7.25	差大刀	入道法師	春日社		直垂1具				
30	10	1251	建長 3.1.	嘔吐	侍春房従女	若宮経所・拝殿前	侍春房従女、主人 侍春房	300文				
31	10	1251	建長 3.1.2	小便	散所法師(正直法 師)	迴廊東の雨垂		鸞眼2000文				
32	11	1253	建長 5.5.6	嘔吐	下女	若宮経所雨垂		銭500文、膝突布 1段、散米八木1 斗				
33	11	1262	弘長 2.4.24	女犯	真得法師	正預能継の社殿宿 所	主人但馬雑仕・阿 古雑仕	20貫代、馬1匹、 ナキタ、1エタ、 カタヒラ1両				
34	13	1262	弘長 2.5.7	死穢	寺僧学澄房巖縁の 子	社殿	寺僧学澄房巖縁	5貫文				
35	14	1262	弘長 2.5.22	嘔吐	若宮神人時安	若宮御内南脇	若宮神人時安	小袖1、布1段、 直垂1具、帷1				
36	15	1264	文永元.8.2	小便	童十郎丸	金堂迴廊	童十郎丸	白布1段				
37	15	1266	文永 3.2.16	小便	京内四条四郎子	若宮経所北裏	木辻専俊房	八木1石				
38	15	1273	文永10.	小便	小人	三十八所御前		1貫文、酒1瓶子				
39	15	1273	文永10.10.晦日	嘔吐	宿直人太郎男	拝殿馬道内沓抜の 木		直垂1具				
40	16	1279	弘安 2.11.26	恒例御供餅關 如	餅司		餅司	銭10貫文				
41	17	1280	弘安 3.1.8	火付	石切丸	白血明神西辺	六親(金剛次郎・ 西念・愛徳女)	釜1口、銭300文、 300文				
42	21	1280	弘安 3.2.18	腹巻	清水寺法師	若宮		1貫文、酒1瓶子				
43	21	1280	弘安 3.9.6	御八講違例	横田庄民		横田庄	銭1貫500文				
44	22	1282	弘安 5.5.12	牛死		法成寺		2貫200文				
45	24	1283	弘安 6.1.18	小便	京下物	若宮経所北		1貫、酒1瓶子、 直物				
46	24	1283	弘安 6.1.28	小便		拝殿の西裏		1貫300文				
47	25	1283	弘安 6.8.17	馬流産	唯識会行事筑前守 清賢	着到殿の北裏	唯識会行事筑前守 清賢	銭1結				
48	26	1284	弘安 7.2.16	犬産								
49	26	1292	正応 5.5.6	嘔吐		拝殿の南面石階		1貫文、酒1瓶子				
50	26	1292	正応 5.9.27	小便	福地院伊勢房息女	手水屋東面沓抜	福地院伊勢房息女	1貫文				
51	27	1292	正応 5.12.27	使者召籠	清継		清継	5貫文				
52	27	1293	正応 6.8.9		陰陽師資朝	若宮後						
53	27	1294	永仁 2.9.11	死人		御山						
54	27	1295	永仁 3.閏2.11	血	番巫女	手水屋豊	番巫女	浅黄小袖1				
55	28	1295	永仁 3.8.18	大便	神人春岩	御内	神人春岩	700文				
56	28	1295	永仁 3.11.21	小便	小兒	若宮経所の北の石 橋		小々袖1、銭200 文				
57	28	1296	永仁 4.10.11	犬産		若宮経所の下						
58	28	1298	永仁 6.2.28		小物	若宮拝殿の前		500文				
59	28	1298	永仁 6.9.23	小便	南郷神人成春、若 宮神人国時、北郷 神人重房	移殿	重房、国時	重房1貫文、国時 1貫文				
60	30	1298	永仁 6.10.24		女人	若宮御山	女人	551文				
61	30	1299	永仁 7.2.15	小便	摂津国尼崎住人	若宮経所の丑寅角		200文				

『春日清祓記』の基礎的考察

番号	丁	西暦	年月日	要因	当事者	場所	祭物負担者	祭物	寺沙汰	家沙汰	配分沙汰	殿下本所	社評定
62	31	1299	正安元. 5. 6		見物小物	若宮南柿下		500文					
63	31	1299	正安元. 5. 6	鼻血				500文力					
64	31	1299	正安元. 5. 7	死亡		死亡の路							
65	31	1299	正安元. 5. 10	馬		若宮拝殿・手水屋							
66	32	1299	永仁7. 5. 13	血	若宮宿直人	南脇戸	若宮宿直人	浅黄帷 1					
67	32	1299	永仁7. 11. 1	血	氏人経輔 (経茂次男)	一御殿		2 貫文					
68	32	1300	正安2. 2. 8	小便	東光院力者の子息	若宮経所前		700文					
69	33	1300	正安2. 3. 7	死人 (五躰不具)		紀伊社寺三十八所前							
70	33	1300	正安2. 4. 7	血	神人国時	若宮御内		現銭 1 貫文、狩衣					
71	33	1300	正安2. 8. 6	死人		一ノ井の上の辺り							
72	33	1300	正安2. 6. 26	死人 (殺害)		馬場院	親類	10貫文					
73	36	1302	正安4. 1. 15	節供違例	松本庄		松本庄	1 貫文					
74	38	1304	嘉元2. 1. 26	血	惣一の代官	拝殿							
75	38	1304	嘉元2. 12. 6	嘔吐	無縁者の童	拝殿北の格子の長押							
76	39	1305	嘉元3. 11. 18	小便	田舎男	一童社	田舎男	下品帷 1、布、帯					
77	39	1306	嘉元4. 2. 15	大便	田舎者	拝殿前		銭300文					
78	39	1306	嘉元4. 2. 20	血	他所の巫女	一童社		白帷 1					
79	39	1306	嘉元4. 4. 5	大便		若宮馬道の畳							
80	40	1306	嘉元4. 8. 27	鼻血	法師			200文					
81	40	1306	嘉元4. 11. 27	嘔吐・大便	法華寺下尼	若宮馬道		布 1 段					
82	41	1307	徳治2. 1. 13	小便	菊園栄春房の所従下女子	拝屋の北の雨垂		500文					
83	41	1307	徳治2. 5. 6	女人狼藉	願縁房 (権神主時実の子息)	若宮経所の北向の打板	願縁房 (権神主時実の子息)						
84	42	1307	徳治2. 6. 24	野牛	陰陽師左近将監友安	一童社辺の道							
85	42	1307	徳治2. 12. 30	血	童								
86	43	1309	延慶2. 4. 23	嘔吐		手水屋		1 貫文					
87	43	1309	延慶2. 5. 4	船雑具奪取・神人狼藉	渡部惣官家人		渡部惣官	10貫文					
88	43	1309	延慶2. 5. 7	大便				700文					
89	44	1311	応長1. 12. 12	刃傷・血	丹坂住人 (袈裟衣丸)・法師原二人	御山	袈裟衣丸主人孫太郎男	500文					
90	46	1312	応長2. 1. 8	血	番巫女	拝殿							
91	46	1312	正和元. 11. 9		氏人泰連	法成寺仮殿		10貫文					
92	47	1286	弘安9. 5. 6	血	行憲房所従童	拝屋の南辺	行憲房	1 貫200文、酒 1 瓶子					
93	47	1286	弘安9. 8. 22	大便	小物	若宮経所北面の打板		1 貫300文、酒 1 瓶子					
94	48	1286	弘安9. 9. 23	小便	若狭国住人所従	若宮馬道北脇の柱		1 貫文					
95	48	1286	弘安9. 11. 7		若宮宿直人	拝殿							
96	49	1286	弘安9. 11. 21			拝屋丑寅角の柱							
97	49	1287	弘安10. 1. 24	小便	童	一童社辺		500文					
98	50	1287	弘安10. 5. 6	血	氏人能葛	第二御殿の御階子		2 貫文					
99	50	1287	弘安10. 5. 11	血	春寛房	経所畳		3 貫文					
100	50	1287	弘安10. 6. 6	死人		一ノ井							
101	50	1287	弘安10. 7. 26	野牛	陰陽師晴氏	一童社・大社回廊							
102	51	1287	弘安10. 10. 4	小便	宗春 (神殿守国次子息)	移殿若宮前		1 貫文					
103	51	1288	弘安11. 1. 21	小便	尼	三十八所経所辺							
104	52	1288	弘安11. 2. 15	小便	小物	若宮拝屋雨垂		帷 1					
105	52	1288	弘安11. 2. 18	嘔吐		若宮馬道							
106	52	1288	弘安11. 3. 18	火付	小童 (高畠後家巫女所従松石法師子息)・小児 (寺僧性禅房舎弟)	木寺井の辺		600文					
107	54	1288	弘安11. 3. 28	小便	小物 (京下女房所従)		主人	2 貫文					
108	54	1288	弘安11. 4. 6		番近時守	紀伊社	番近時守	大刀 1 腰・銭 1 貫文					
109	54	1288	弘安11. 4. 23	嘔吐	番巫女代	手水屋	主人瀧女巫・道勝	500文					
110	54	1288	弘安11. 8. 21	年来御供米未進	平野庄		平野庄	18貫					
111	55	1288	弘安11. 9. 11	小便	下女	三十八所北辺		浅黄帷 1					
112	55	1289	正応2. 1. 28	小便	小物	若宮経所北向の妻戸前		1 貫文・酒					
113	55	1289	正応2. 1. 30	小便	京下物	拝殿の南の堀	京下物	700文					
114	56	1289	正応2. 1. 27	血	巫女	拝殿	巫女	1 貫文					
115	56	1289	正応2. 2. 11	嘔吐	番巫女	拝殿の未申角堀		白帷 1					

番号	丁	西暦	年月日	要因	当事者	場所	祭物負担者	祭物	寺家沙汰	配分沙汰	殿下・本所	社司評定
116	56	1289	正応2.4.11	血	百度詣小物	一童社前		錢600文・酒1筒				
117	56	1289	正応2.5.4	飯室乱入	一乘院長洲寄人	守目堂飯室	一乘院長洲寄人	5貫文				
118	56	1289	正応2.5.18	自害		水屋河						
119	57	1289	正応2.7.1	小便	若宮神人宗春	三十八所経所		500文				
120	57	1289	正応2.7.14	血	神人春頭下人・春岩(春近子息)	若宮馬道	春頭・春近	700文				
121	57	1289	正応2.9.6	小便	国物	南御橋北		500文・帷1				
122	57	1289	正応2.11.21	小便	旬送物人夫(隠地住人)	若宮経所戌亥角		炭3荷				
123	58	1290	正応3.3.2	小便	番巫女子			500文				
124	58	1290	正応3.4.20		熊野詣道	南門橋の南		1貫文				
125	58	1290	正応3.4.27	嘔吐	番巫女	手水屋		300文				
126	58	1290	正応3.7.16	大便	番巫女	若宮拝屋の南		白帷1				
127	59	1290	正応3.9.11		吉見庄			23貫				
128	60	1290	正応3.10.11	小便力	沙汰人所従	拝殿西の壇上		1貫文				
129	60	1290	正応3.12.3			一童社の北辺岸		1貫文				
130	60	1291	正応4.1.10	犬死		手水屋西裏						
131	61	1291	正応4.3.11	腹巻	僧	若宮経所	巫鶴主					
132	61	1291	正応4.5.1	小便		拝殿方		300文				
133	61	1291	正応4.8.27	小便		佐良氣社前の道		500文				
134	61	1291	正応4.12.20	犬産		拝殿板敷下						

註：「丁」は、影写本に条文が記載されている箇所を示す。

[付記]

本稿の作成にあたって、千鳥祐寛氏より多大なるご厚意を賜った。心より感謝もうしあげる次第である。また、史料調査にあたり東京大学史料編纂所には大変お世話になった。記して謝意を表したい。

教養・文化研究所所員名簿

教養部

橋 元 志 保 (所長代理)
伊 藤 護 朗 (運営委員)
遠 藤 純 男 (運営委員)
村 中 孝 司 (運営委員)
中 橋 誠 (編集委員)
渡 邊 俊 (編集委員)
高 野 隆 一
花 田 富二夫
ランディ・ケイ・チェケツツ
井 上 伸 良
三 浦 薫
佐 藤 伸 夫

法学部・教養部

福 山 裕 (運営委員)

経済学部・教養部

庄 司 信 (編集委員)

経済学部

小山内 幸 治

法学部

阿曾村 邦 昭
上 村 康 之
佐 藤 寛 稔

執筆 者 紹 介

講 演

- 内 館 牧 子 ノースアジア大学総合研究センター客員教授
岡 田 裕 介 ノースアジア大学総合研究センター客員教授
福 岡 政 行 ノースアジア大学総合研究センター客員教授

論 文

- 阿曾村 邦 昭 ノースアジア大学法学部特任教授
村 中 孝 司 ノースアジア大学教養部講師
渡 邊 俊 ノースアジア大学教養部講師

(掲載順)

教養・文化論集 第5巻 第1号 (通巻第8号)

2010年(平成22年)1月30日印刷・発行

編集・発行 ノースアジア大学 総合研究センター 教養・文化研究所
秋田市下北手桜字守沢46-1
電 話 018-836-6592
FAX 018-836-6530
URL <http://www.nau.ac.jp/center/>

印 刷 秋田活版印刷株式会社
秋田市寺内字三千刈110-1
電 話 018-888-3500(代)

THE BULLETIN OF CULTURAL SCIENCES

Vol.5, No.1 (8) January, 2010

CONTENTS

Lectures

- The Life Cycles (Birth, Sickness, Old Age, Death) as Seen on TV Plays :
The Case of a Novel, "*Age Harassment*" by Makiko UCHIDATE
.....UCHIDATE Makiko
- On the Various Subjects of the FilmsOKADA Yusuke
- A View of the Political Situation in 2009 and the Collapse of Japan
.....FUKUOKA Masayuki
- The Local Self-Government and the Power on the Spot
.....FUKUOKA Masayuki

Articles

- Japan's Efforts for Peace-Building and Relevant Development Aid Policy
a Personal View in the Perspective of International Power Politics
.....ASOMURA Kuniaki
- Flora of the Lower Tone River Floodplain and Distribution
Characteristics of Endangered Vascular PlantsMURANAKA Takashi
- A Fundamental Study on "Kasugakiyomeharaeki"WATANABE Suguru

The Institute of Cultural Sciences
North Asia University, Akita, Japan